

香淳皇后実録 卷七

昭和三十四年（西暦一九五九年）

五十六歳

一月

一日 木曜日 午前九時四十五分より天皇と共に新年祝賀の儀に臨まれる。拝謁の間において皇太子・正仁親王、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子の祝賀をお受けになる。ついで北の間において、内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長等の祝賀をお受けになる。

午後、北の間において、最高裁判所長官・外国交際官等の祝賀をお受けになる。

なお新年祝賀の儀に先立ち、あるいは各祝賀の間に、元皇族・元王族等、宮内庁長官始め部局長等及び側近奉仕者の拝賀を天皇と共にお受けになる。また、正田英三郎・同夫人富美子・同息女美智子の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、儀式録、宮内庁庁報、官報

二日 金曜日 御風気後の御用心のため、新年一般参賀へのお出ましをお取りやめになる。○女官長日

昭和三十四年一月

記、女官日誌、侍従職日誌、業務日誌、稲田周一関係資料

午前、天皇と共に表三の間において、元宮内庁長官及び元側近奉仕者・元部局長の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

三日 土曜日 午前、元始祭につき、女官原田リツに御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、侍従日誌、

侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

天皇と共に拝謁の間において、寛仁親王始め未成年の皇族・元皇族の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

午後、天皇及び皇太子・正仁親王・貴子内親王と共に御文庫において、この誕生日を迎えた宣仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

七日 水曜日 午後、天皇と共に拝謁の間において、元女官等の拝賀をお受けになる。後刻、お一方にて御進講室において、恩師及び御学友・御同級生より祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

夕刻、天皇と共に御文庫において、この日葉山より帰京の正仁親王・貴子内親王と御対面になる。ついで御夕餐を御会食になる。以後、この年も皇太子始め皇族・御親族としばしば御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

八日 木曜日 午前十時、天皇と共に西の間において、講書始の儀に臨まれる。東京女子大学学長高木貞二より「創造の心理」、東京大学教授東畑精一より「農業における科学と技術」、日本学士院会員今村荒男より「結核の予防について」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、内舎人日誌、典式録、儀式録、宮内庁庁報、官報

正午、天皇及び皇太子・正仁親王と共に奥三の間において、来る四月十日の皇太子結婚当日の供膳の儀及び三箇夜餅の儀の道具類を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、稲田周一関係資料

九日 金曜日 天皇と共に北の間において、国賓として来日のオーストリア国首相ユリウス・ラープのため午餐を催される。なお、この度の来日に際し、天皇・皇后より同首相に御紋付銀製花瓶を賜う。また同首相より天皇・皇后に献上があり、皇后には銀製茶器が贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、重要雑録、外交贈答録、宮内庁庁報

元乳母工藤もん去る四日死去につき、思召しをもってお花料を賜う。工藤は乳母のみならず、良子女王付として五歳まで久邇宮家の奥にて奉仕した。○女官長日記、贈賜録

十日 土曜日 午後、御文庫において、伊勢出張する北白川房子の拝謁をお受けになり、暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

十二日 月曜日 午前十時、天皇と共に西の間において、歌会始の儀に臨まれる。この年のお題は「窓」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

皇后宮御歌

皇子とともに部屋窓よりながめけり夕日にはゆる白樺林

儀終了後、天皇と共に内廷庁舎御車寄前において、預選者に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、歌会始録、典式録、宮内庁庁報、官報

十四日 水曜日 皇太子結婚式中納采の儀が行われる。午前、天皇と共に拝謁の間において、宮中三

殿に奉告を終えた皇太子と御対面になり、お礼言上をお受けになる。続いて同所において、正田美智子及び正田英三郎・同夫人富美子の拝謁をお受けになり、お礼言上をお受けになる。その後、お一方にて正田美智子の拝謁をお受けになり、御伝来の指輪をお渡しになる。

午後、天皇と共に拝謁の間において、皇族・元皇族・元王族等の拝賀をお受けになり、続いて宮内庁長官始め総代、女官長始め女官等の拝賀をお受けになる。また、内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、皇太子結婚式綴、宮内庁序報、官報、入江相政日記

納采の儀に際し、この日、オランダ国女王から天皇・皇后に祝電が寄せられる。これに対し答電を發せられる。○外交慶弔録、官報

十六日 金曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時二分御出門、十一時三十九分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓書類、幸啓録、宮内庁序報

二十日 火曜日 午前、東京大学名誉教授寛克彦の進講をお聴きになる。二十三日にも、同人の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、葉山行幸啓書類

午後、御機嫌奉伺に参邸の国分峰元久運宮官務監
督国分三亥夫人・松岡鎮枝国分三
亥の妹の拝謁をお受けになる。以後、この年も随時、元奉仕者の拝謁等がある。○女官長日記、女官日誌、葉山行幸啓書類

二十三日 金曜日 天皇と共に葉山御用邸より還啓のため、午後一時三十二分御出門、三時九分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓書類、幸啓録、

宮内庁序報

二十四日 土曜日 午前、謁見の間において、新任のユーゴスラビア国特命全権大使フランツ・コス及び同夫人、パナマ国特命全権公使ヒルベルト・スクレ及び同夫人、エクアドル国特命全権公使グスターボ・ラレア・コルドバ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、宮内庁序報

午後、御進講室において、正田美智子の着物その他の品々をお選びになる。貴子内親王も同席する。

○女官長日記、女官日誌

二十五日 日曜日 夕刻、義宮御殿にお出ましになり、カルタ会に御参加になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

二十六日 月曜日 天皇と共に表一の間において、この度離任の英国特命全権大使ダニエル・ウイリアム・ラッセルズ、エチオピア国特命全権公使ゴイトム・ペトロス、新任のユーゴスラビア国特命全権大使フランツ・コス及び同夫人、パナマ国特命全権公使ヒルベルト・スクレ及び同夫人のため午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁序報

御成婚満三十五年の記念日に当たるため、午後、天皇と共に奥三の間において、結婚当時の元奉仕者とお茶の席を設けられる。また、天皇と共に御文庫に皇族・御親族等をお招きになり、祝宴を催される。御食後、御一緒に御成婚当日の記録映画等を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、重要雑録、稲田周一関係資料

二十七日 火曜日 邦彦王^御三十年式年祭に当たり、午後二時三十分御出門、豊島岡墓地に行啓され

昭和三十四年一月

る。御到着後、御休所において久邇朝融^{御兄}・同息女英子、大谷光暢・同夫人智子^{御妹}、東伏見慈治^{御弟}・同夫人保子と御対面になる。お手水の後、邦彦王の墓所に御拝礼になる。ついで、久邇侘子^{御母}の墓所に御拝礼になる。久邇朝融よりお礼言上をお受けになった後、三時八分還啓される。なお、この日午前、御使として女官長保科武子を久邇邸に差し遣わされる。また、天皇・皇后より霊殿に菓子をも、墓所に榊をお供えになる。これとは別に皇后より霊殿に果物を、写真に切り花・菓子を、墓所に菓子をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、贈賜録、宮内庁庁報

二十九日 木曜日 午前、拝謁の間において、近く赴任のエルサルバドル国駐箚特命全権公使林不二雄及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宿直勤務控簿、宮内庁庁報

内廷庁舎において、エスター・ビドル・ローズより英語の指導をお受けになる。以後、しばしば同人の指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

午後、内廷庁舎において山口玉糸より絵画の指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

御成婚満三十五年につき、夕刻、天皇と共に花蔭亭において、内宴を催される。侍従職・東宮職の側近職員をお召しになり、皇太子・正仁親王・貴子内親王も同席する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録、宮内庁庁報

三十日 金曜日 午前、孝明天皇例祭につき、女官雪井よし子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

二月

一日 日曜日 この日鷹司信輔鷹司和子の夫平通の父死去につき、御使として侍従入江相政を鷹司邸に差し遣わされ、天皇・皇后より靈前に切り花・野菜等を供えられる。五日には賜物使として入江侍従を同邸に差し遣わされ、天皇・皇后より祭装料を賜う。六日の葬儀には天皇・皇后より榊・菓子・切り花を供えられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、贈賜録

二日 月曜日 午前、拝謁の間において、新侍従小川真三と前侍従小池昌雄の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

四日 水曜日 日本放送協会招聘のイタリア歌劇団による歌劇公演御鑑賞のため、午後五時五十二分御出門、東京宝塚劇場に行啓される。御到着後、故雍仁親王妃勢津子等のお出迎えをお受けになり、観覧席にて「オテロ」を御覧になる。第一幕終了後、御休所において日本放送協会会長野村秀雄及び同夫人の拝謁をお受けになる。ついでイタリア国特命全権大使マウリリオ・コッピニ及び同夫人を御引見になり、イタリア歌劇団員に御握手とお言葉を賜う。第二幕終了後、御休所において野村会長より、イタリア歌劇団招聘の趣旨についてお聞きになる。第三幕終了後、九時六分還啓される。還啓後、天皇と共にテレビにて第四幕を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

五日 木曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、米国の対外軍事援助調査に関する大統領委員会極東派遣団团长ウイリアム・H・ドレーパー元陸軍、次官、同派遣団顧問陸軍大将ジョン・エドウィン・ハル及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報
午後、内廷庁舎において参与松平信子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

九日 月曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午後二時五分御出門、三時四十二分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁報

十二日 木曜日 午後一時三十五分御用邸を御出門、天皇と共に江ノ島水族館に行啓される。五時三分帰邸される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、神奈川新聞

十四日 土曜日 午前及び午後、山口玉糸より絵画の指導をお受けになり、水車の景色を描かれる。○女官長日記、女官日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録

十六日 月曜日 天皇と共に葉山御用邸より還啓のため、午後二時一分御出門、三時四十分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

十八日 水曜日 午後、天皇と共に御文庫において、東宮大夫鈴木菊男・参与小泉信三の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十日 金曜日 天皇と共に北の間において、国賓として来日のニュージーランド国首相ウォルター・ナッシュのため宮中午餐を催される。この度の来日に際し、天皇・皇后より同首相に御紋付銀製花瓶を賜う。首相から天皇・皇后に献上品があり、皇后には宝石入れ箱が献上される。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、典式録、重要雑録、外賓接待録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報、外交記録

天皇及び皇太子と共に拝謁の間において、正田美智子、及び正田英三郎・同夫人富美子の拝謁をお受

けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報、読売新聞

二十一日 土曜日 午前、仁孝天皇例祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、

侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

二十三日 月曜日 午後、宣仁親王妃喜久子・久邇朝融と共に北の間において、イタリア国特命全権大使マウリリオ・コッピニ及び同夫人を御引見になる。ついでイタリア歌劇団員四名の独唱をお聴きになる。謁見所に移られ、大使並びに歌手・ピアノ伴奏者を御引見になり、歌手・ピアノ伴奏者の五名にお品を賜う。ついで東の間において同歌劇団員を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十七日 金曜日 邦彦王三十年式年祭の終了に当たり、御追憶のためお茶会を催される。午後、花蔭亭において、お招きの久邇朝融、梨本伊都子、東久邇聡子、東伏見慈治・同夫人保子、龍田徳彦・同夫人正子、島津斉視・同夫人朝子、久邇通子・同英子と共にお茶をお召し上がりになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、典式録

二十八日 土曜日 午前、内廷庁舎において、善光寺尼僧伏見誓寛の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

三月

二日 月曜日 午前、天皇と共に内廷庁舎において、この日誕生日を迎え成年に達した貴子内親王と御対面になる。ついで天皇及び貴子内親王と共に拝謁の間において、宮内庁長官始め総代、ついで女

昭和三十四年三月

官長始め女官等の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、重要雑録、宮内庁序報

五日 木曜日 正午、天皇と共に御文庫において、鷹司和子と御対面になる。その際、鷹司信輔死去に際してのお仕向けに対するお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

午後、義宮御殿にお出ましになり、正仁親王・貴子内親王・鷹司和子と共に黄心樹歌会弥生歌合に御出席になる。夕刻、天皇も御参加になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

六日 金曜日 満五十六歳のお誕生日を迎えられる。

午前、拝謁の間において、宮内庁長官始め各部署局長等、続いて側近奉仕者の拝賀をお受けになる。ついで西の間において、皇太子始め皇族・元皇族・元王族、続いて内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官等及びその夫人の拝賀をお受けになる。その後、拝謁の間において御縁故者及び元皇太后宮女官等、続いて元宮内庁長官及び元側近奉仕者の拝賀をお受けになり、内廷西玄關前において宮内庁職員・皇宮警察本部職員に御会釈を賜い、皇后御進講室において元皇后宮女官・元女官等の拝賀をお受けになり、内廷通御廊下において元女嬬等に御会釈を賜う。

午後、再び内廷通御廊下において元女嬬等に御会釈を賜い、拝謁の間において正田美智子及び同英三郎・同夫人富美子、続いて元学習院女学部教授佐野正造・元女子学習院教授野口勝枝・同松島彝及び御学友・御同級生七名の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、皇后誕生日、儀

式録、典式録、宮内庁序報

十日 火曜日 元内閣総理大臣鳩山一郎去る七日死去につき、天皇・皇后より勅使及び皇后宮使として侍従小畑忠を鳩山邸に差し遣わされ、祭葬料を賜う。翌十一日の葬儀には、天皇・皇后より同じく侍従徳川義寛を東京体育館に差し遣わされる。○侍従職日誌、贈賜録、宮内庁庁報、官報、鳩山一郎・薫日記

十二日 木曜日 午前、拝謁の間において、新東宮職御用掛牧野純子の拝謁をお受けになる。なお、

牧野は皇太子結婚に際し東宮女官長に任じられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十四日 土曜日 午前、呉竹寮にお出ましになり、貴子内親王が料理の稽古をする様子を御覧になる。

○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

十六日 月曜日 この日、皇太子結婚式中告期の儀が行われる。午前、天皇と共に御文庫において、勅使として正田邸に御差遣の侍従長三谷隆信の拝謁をお受けになる。後刻、天皇と共に内廷庁舎において復命をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従職日誌、皇太子結婚式綴、宮内庁庁報、官報

十九日 木曜日 午前、拝謁の間において、新東宮職御用掛の名和栄子及び佐久間玲子の拝謁をそれぞれお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

午前十一時、宮内庁より、貴子内親王と島津久永の婚約内定が発表される。天皇と共に表御座所において、貴子内親王と御対面になり、お礼言上をお受けになる。続いて天皇と共に拝謁の間において、

島津久永及び同久子久永の母の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、貴子

内親王殿下御婚儀一件

二十日 金曜日 午前、内廷庁舎において御学友・御同級生総代の計二名より、貴子内親王結婚の祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

昭和三十四年三月

二十一日 土曜日 午前、春季皇霊祭及び同神殿祭につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

二十三日 月曜日 午後、内廷庁舎において、書家藤岡保子より絵画の指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

二十四日 火曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、政府の賓客として来日中のオーストラリア外務大臣 R・G・ケーシー及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報、外交記録

拝謁の間において、近く赴任のトルコ国駐箚特命全權大使井上孝治郎及び同夫人、ラオス国駐箚特命全權大使別府節弥及び同夫人の拝謁をそれぞれお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁庁報

ウィーン少年合唱団の公演を御鑑賞のため、午後六時二十一分御出門、産経ホールに行啓される。御到着後、観覧席にお出ましになり、正仁親王・貴子内親王・故雍仁親王妃勢津子と御対面になる。開演後、「闇となりぬ」始め五曲を鑑賞される。御休所において太平洋テレビジョン株式会社取締役社長清水昭、日本教育テレビ取締役社長赤尾好夫、オーストリア国特命全權大使フランツ・ライトナー及び同夫人の拝謁をお受けになり、御休所前廊下にてウィーン少年合唱団団長ウォールター・タウチニツヒ、指揮者フランツ・マイヤー、少年合唱団団員に御会釈を賜う。その後、ハイドン作曲歌劇「歌姫」を鑑賞される。再度の御休憩後、シューベルト作曲「ます」、滝廉太郎作曲「花」など四曲を御鑑賞になる。八時五十九分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

二十五日 水曜日 午後、正田美智子をお召しになり、花蔭亭において貴子内親王と共に御歓談になる。ついで付近を散策される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

二十七日 金曜日 午前、謁見の間において、新任のデンマーク国特命全権大使トーベン・バスク・ニールセン及び同夫人、コロンビア国特命全権大使フリオ・オルテイス・マルケス及び同夫人・息女を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、謁見録、宮内庁庁報

御夕餐後、天皇と共に御文庫において、この夜四国旅行に出発につき挨拶のため参殿した貴子内親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

これより先、フィリピン国特命全権大使を通じ、同国大統領カルロス・P・ガルシア及び同夫人の肖像写真が天皇・皇后に贈られる。これに対し、天皇・皇后は大統領夫妻への謝意伝達を式部官長に仰せ付けられ、この日フィリピン国大使にその旨が通知される。○外交贈答録

二十八日 土曜日 今般竣工した千鳥ヶ淵戦没者墓苑における追悼式に御臨場のため、午前十時二十七分御出門、天皇と共に同墓苑に行啓される。同三十九分還啓される。なお天皇・皇后より生花を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、賜与録、宮内庁庁報、官報、入江相政日記

三十日 月曜日 午前、拝謁の間において、近く赴任のパキスタン国駐劄特命全権大使島津久大及び同夫人、中華民国駐劄特命全権大使井口貞夫及び同夫人の拝謁をそれぞれお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁庁報

今般来日のセイロン国文部大臣ジャヤウエーラ・クルップーを通じ、同国政府及び国民より皇后に銀製宝石箱が献上される。○女官長日記、謁見録

四月

一日 水曜日 第十五回日本医学会総会に御臨席のため、午前十時二十九分御出門、天皇と共に東京体育館に行啓される。十一時三十八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁序報、官報

拝謁の間において、この日付で任命された侍従松平潔ほかの拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

午後、謁見の間において、新任のインド国特命全権大使チャンドレシュワール・プラサド・ナライン・シン、ノルウエー国特命全権大使エイギル・ニーゴルド、英国特命全権大使オスカー・チャールズ・モーランド及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、宮内庁序報

二日 木曜日 正午前、拝謁の間において、近く赴任のオーストラリア国駐劄特命全権大使成田勝四郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録

三日 金曜日 午前、神武天皇祭皇霊殿の儀につき、御拝礼になる。夕刻、皇霊殿御神楽の儀につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁序報

四日 土曜日 午後、内廷庁舎において正田美智子の拝謁をお受けになり、飾り物一式を賜う。夕刻、正田美智子を伴われ義宮御殿にお出ましになり、サクラを御覧になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

五日 日曜日 埼玉県において開催される昭和三十四年度植樹行事に御臨場のため、午前八時十二分御出門、天皇と共に同県に行啓される。原宿駅より寄居駅を経て、植樹行事会場である金尾山植栽地にお着きになる。お野立所において御少憩の後、天皇に続き、国土緑化推進委員会委員長加藤鏝五郎・

国土緑化推進委員会顧問河井弥八・埼玉県知事栗原浩の介添えにてヒノキ三本を植樹される。正午前、植栽地を御出発になり、埼玉県林業試験場に向かわれる。御着後、中庭の苗床に、国土緑化推進委員会副委員長徳川宗敬の介添えにてヒノキの種子をお手播きになる。天皇はスギの種子をお手播きになる。午後、場内の研究室三室を御巡覧になる。四時四十三分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、秩父鉄道株式会社所蔵資料、天皇后兩陛下をお迎えして、寄居町広報、埼玉県林業試験場三十年史、広報埼玉

六日 月曜日 午後二時御出門、東宮仮御所に行啓される。お出迎えの皇太子と御対面の後、和室に並べられた各国元首献上の御成婚のお祝品を御一緒に御覧になる。ついで皇太子の案内にて庭を一巡される。五時五十四分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

七日 火曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、日本聖公会の招待により来日中の英国カンタベリー大主教ジェオフリー・フランシス・フィッシャー及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

正午、呉竹寮にお出ましになる。皇太子・正田美智子に装束が着せられる様子を途中より御覧になる。ついで両人の写真撮影の様子も御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

午後、天皇と共に旧北御車寄門内において、靖国神社春季靈壺奉安祭に各都道府県代表沖繩を含むとして参列した遺族等に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

夕刻、天皇と共に花蔭亭において、皇太子、元皇太子家庭教師エリザベス・グレイ・ヴァイニング、東久邇成子・鷹司和子との茶会に臨まれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

昭和二十四年四月

八日 水曜日 靖国神社臨時大祭につき、午前十時一分御出門、天皇と共に同社に行啓される。御着後、天皇に続き本殿の御拝座にて御拝礼になる。十時五十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、臨時祭祀録、宮内庁庁報、官報、靖国神社所蔵資料、靖国神社百年史

十日 金曜日 この日、皇太子結婚式が行われる。

午後二時より天皇と共に西の間において、皇太子結婚式中朝見の儀に臨まれる。式中、皇太子及び皇太子妃は天皇の御前に進み、皇太子が謝恩の辞を述べた後、天皇よりお言葉がある。ついで皇太子・同妃が皇后の御前に進み、皇后よりお言葉を賜う。終わって表三の間において天皇及び皇太子・同妃と記念写真の撮影をお受けになる。四時より天皇と共に拝謁の間において、宮内庁長官始め総代の拝賀を、ついで女官長始め女官の拝賀を、さらに皇族・元皇族・元王族・御縁故者、内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官の拝賀をそれぞれお受けになる。その後、同所において元女官の拝賀をお受けになる。

なお朝見の儀終了後、天皇と共に三階侍医室より、皇太子・同妃が皇居から儀装馬車にて東宮仮御所に向かつて出発する様子を御覧になり、引き続き皇后宮表御座所においてテレビの実況放送を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮侍従日誌、皇太子結婚式綴、皇太子殿下御婚儀一件、典式録、皇太子明仁親王殿下御結婚記録、宮内庁庁報、官報

この日、皇太子結婚に際し、母子福祉の資に充てるため、天皇・皇后より社会福祉法人恩賜財団母子愛育会に金一封を賜う。○宮内庁庁報、読売新聞

十二日 日曜日 午前、天皇と共に表御座所において、皇太子・同妃、正仁親王・貴子内親王と御対

面になる。その際、皇太子・同妃よりお礼言上をお受けになる。ついで天皇と共に拝謁の間において、

正田英三郎・同夫人富美子、同貞一郎^{英三郎の父}・同巖^{英三郎の子息}の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

天皇及び皇太子・同妃、正仁親王・貴子内親王と共に拝謁の間において、写真撮影をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

正午過ぎより天皇と共に西の間において、皇太子結婚につき催される菊栄親睦会会員等を招いての内宴に臨まれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇太子結婚式綴、宮内庁序報

天皇と共に拝謁の間において、先般貴子内親王との婚約が内定した島津久永、及びその母久子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

この日、大聖寺・宝鏡寺・曇華院・光照院・林丘寺・円照寺・中宮寺・法華寺・三時知恩寺・長福寺・善光寺に、恒例により乾海苔料を賜う。○贈賜録

十三日 月曜日 皇太子結婚式中宮中祝宴の儀第一日に天皇と共に臨まれる。午前十一時五十七分より天皇と共に皇太子・同妃を伴われ、西の間・南の間・東の間に順次お出ましになる。午後零時二十五分、北の間において祝宴に臨まれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇太子結婚式

綴、宮内庁序報、官報

十四日 火曜日 宮中祝宴の儀第二日に天皇と共に臨まれる。祝宴は二回に分けて行われ、第一回は午前十一時四十六分より天皇と共に皇太子・同妃を伴われ、北の間・東の間・南の間・表三の間・西の間・表一の間に順次お出ましになる。第二回には午後四時四十六分より、北の間・東の間・南の

間・西の間・表三の間・表一の間に順次お出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇太子結婚式綴、宮内庁庁報、官報、読売新聞

十五日 水曜日 宮中祝宴の儀第三日に天皇と共に臨まれる。祝宴は二回に分けて行われ、第一回は午前十一時四十六分より天皇と共に皇太子・同妃を伴われ、北の間・東の間・南の間・西の間・表三の間・表一の間に順次お出ましになる。第二回には午後四時四十六分より、再び北の間・東の間・南の間・西の間・表三の間・表一の間に順次お出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇太子結婚式綴、宮内庁庁報、官報、読売新聞

十六日 木曜日 午後、天皇及び貴子内親王と共に御文庫において、宮中祝宴の儀に出席のため上京した元侍従黒田長敬・同小出英経の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

十七日 金曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、この度離任のパキスタン国特命全権大使オマル・ハヤット・マリクを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

御夕餐後、天皇及び貴子内親王、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子、東久邇成子、鷹司和子と共に御文庫において、皇太子結婚当日のカラー記録映画「皇太子殿下世紀のご成婚」を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十日 月曜日 日本赤十字社第九回代議員会に名誉総裁として御出席のため、午前十時十五分御出門、日本赤十字社に行啓される。御到着後、御休所において故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子と御対面になる。ついで参議院議長松野鶴平・最高裁判所長官田中耕太郎・日本赤

十字社社長島津忠承の拝謁をお受けになる。それより式場に臨まれ、金色有功章受章者総代三名・章銀の有功章受章者総代三名・金色特別社員章受章者総代三名・章銀の特別社員章受章者総代二名に各章及び章記を御親授になり、次のお言葉を賜う。

第九回代議員会に臨み、日頃赤十字のために、いろいろ力をつくしている皆さんに、親しく接することができましたことを、まことに嬉しく思います。

日本赤十字社は、創立以来今日に至るまで、長い年月の間、人道と博愛をもととして幾多の有益な事業を行ってきていますが、赤十字の人道的な任務は、今後ますます重要性を加えて来るものと思います。

今年、赤十字の思想が生まれてから、百周年に当り意義深い年ではありますが、この際社員並びに役職員の皆さんは、互に協力して、内は社業の振興を図つて、国民の期待に応えらるゝともに、外は各国の赤十字とていけいして、世界の平和と、人類の福祉に貢献するよう望んでやみません。

ついで島津社長の奉答をお受けになる。式場を退場後、副総裁室において赤十字国際委員会駐日代表ハリリー・C・アングスト及び同夫人、米国赤十字極東本部部长ジャック・ヘンリー及び同夫人、同副部长G・ウエッセリウス及び同夫人、同報道部長ダン・ロメイン及び同夫人、元米国赤十字派遣顧問モティマー・C・クック及び同夫人を御引見になる。前庭において記念写真の撮影をお受けになり、十一時十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

午後、御進講室において、北白川房子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌
御進講室において、今般帰国のエリザベス・グレイ・ヴァイニング^{元皇太子家庭教師}を御引見になる。○女官長日記、

昭和三十四年四月

女官日誌

二十一日 火曜日 天皇と共に表一の間において、この度離任のフランス国特命全権大使アルマン・ペラール及び同夫人、中華民国特命全権大使沈覲鼎及び同夫人、ペルー国特命全権大使フリオ・フェルナンデス・ダヴィイラのため午餐を催される。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

皇太子・同妃主催の夕食会に御出席のため、午後三時三十八分御出門、天皇と共に東宮仮御所に行啓される。御着後、皇太子・同妃のお出迎えをお受けになる。ついで二階に移られ御談話の後、日本間に並べられた各国元首からのお祝品を御一緒に御覧になる。それより皇后は、皇太子妃、及び後から到着の貴子内親王と共に、皇太子妃の着物と帯を御覧になる。ついで正仁親王も交えて御夕食を御会食になり、九時十六分還啓される。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、読売新聞

二十四日 金曜日 午前、天皇と共に旧北御車寄門内において、厚生大臣から表彰された、身体障害者で自立更生し他の模範となる者及び身体障害者の更生援護に功労のあった者等に対し、御会釈を賜う。厚生大臣代理田辺繁雄厚生事務次官の挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

内廷庁舎において、近く赴任のイタリア国駐劄特命全権大使鈴木九万及び同夫人、タイ国駐劄特命全権大使大江晃及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録
天皇と共に表御座所において、皇太子結婚の祝詞言上のため参内した旧堂上会総代徳大寺実厚の拝謁

をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

御夕餐後、天皇と共に御文庫において、日本テレビのカラー実験放送を御覧になる。この日以降、しばしば御覧になる。○女官日誌、侍従日誌

二十六日 日曜日 午前、天皇と共に御文庫において、結婚後初めて参殿の皇太子・同妃と御対面になる。ついで霜錦亭付近を御一緒に御散策になる。その後、正仁親王も交えて御昼餐を御会食になる。

以後、この年は概ね毎週日曜日に行われた定例の参殿を始め、随時、皇太子・同妃と御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報、入江相政日記

二十九日 水曜日 天皇誕生日につき、皇居広庭に天皇及び皇太子・同妃、正仁親王・貴子内親王と合計八回お出ましになり、一般参賀をお受けになる。昨年までは天皇お一方のみお出ましになっていたが、この年から皇后及び皇太子・同妃、正仁親王・貴子内親王もお立ち台にお出ましになり、御一緒に参賀をお受けになる。お出ましに先立ち、あるいは各回の中に、拝謁の間において宮内庁長官始め総代、皇族・元皇族・御縁故者、元女官等の拝賀をお一方にてお受けになる。

正午より御進講室において内宴を催され、皇太子妃・貴子内親王・故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子と御会食になる。途中より皇太子以下も加わり、果物をお召し上がりになる。午後四時、天皇と共に西の間において、天皇誕生日茶会の儀に臨まれる。皇太子・同妃始め皇族が陪席し、外国交際官等が出席する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、儀式録

恒例祭祀録、旧皇族雑録、謁見録、宮内庁庁報

昭和三十四年五月

五月

一日 金曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、ブラジル国元サンパウロ州知事ジャニオ・クアドロス及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報、外交記録、入江相政日記

拝謁の間において、新任の侍医高木顕及び退任の前皇室医務主管侍医長
併任塚原伊勢松の拝謁をお受けになる。ついで表御座所において新任の皇室医務主管侍医長
併任村山浩一の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女

官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、官報

午後、天皇と共に謁見の間において、米国コロンビア放送会社社長フランク・スタントン及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

四日 月曜日 第四回ユニセフ協力募金運動に際し、財団法人日本ユニセフ協会に御奨励金を賜う。

○賜与録、宮内庁庁報

七日 木曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

八日 金曜日 午前、御進講室において、愛媛県知事久松定武・同母貞子島津忠義
の息女・小笠原宜子定武
の姉の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

午前、拝謁の間において、中華民国より帰国の特命全権大使堀内謙介及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁庁報

九日 土曜日 日本赤十字社関東東山静支部連合災害救護演習を御覧になるため、午後一時十分御出門、江戸川水郷自然公園柴又競技場に行啓される。御到着後、雨の中、お野立所に臨まれ、ヘリコプターによる救護班輸送、救護班の活動状況、架設した板橋や舟艇による救護作業、瀘水、炊き出し作業、盲導犬の患者誘導などを御覧になる。隣接する金町浄水場の御休所に御到着後、東京都水道局長佐藤志郎より浄水場の概況説明をお受けになる。三時三十四分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁序報、事業年報（日本赤十字社）

十日 日曜日 午後、内廷西玄関前において、東京都主催の「母の日」大会参会者約五百三十名に御会釈を賜う。代表中野和子より挨拶とカーネーションの花束をお受けになる。ついで次のお言葉を賜う。

母の日の今日、親しく皆さんとお会ひすることができて、誠に喜しく思います。

今日の意義深い日を機会に心を新にして良い母となり、立派な子供を育て、又不幸な子供を助けて健康で楽しいお国となるよう一層はげんで下さい。

又みなさんからの心のこもったお花を有難う。

なおこの日に先立ち、侍従職事務主管より母の日東京都協議会に対し、皇后の思召しとして、例年のカーネーションの献上は量が多く、長持ちせず勿体ないため、本数を減らして余剰費用を気の毒な子供のために使うことを御希望の旨が通知される。また、同じくカーネーションを献上した基督教保育連盟に対しても、同趣旨が通知される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、宣召録、業務日誌、宮内庁序報
皇太子結婚奉祝の彦倪会よしちか 邦彦王・同妃 倪子関係の会に御出席のため、午後一時四十六分御出門、光輪閣に行啓される。

皇太子・同妃、東伏見慈治^幹、龍田正子等のお出迎えをお受けになり、御休所において会員の拝謁をお受けになる。テラスにて記念写真の撮影をお受けになった後、食堂において御会食になる。四時五十四分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、幸啓録、宣召録、宮内庁庁報

十一日 月曜日 午前、拝謁の間において、タイ国より帰国の特命全権大使渋沢信一及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁庁報

十二日 火曜日 東京国際見本市を御覧になるため、午前九時三十五分御出門、天皇と共に中央区晴海町の見本市会場に行啓される。午後零時三十二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

天皇と共に早春亭において、藍綬褒章を授与された文部省関係の教育功労者等に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

十三日 水曜日 天皇と共に表一の間において、新任のデンマーク国特命全権大使トーベン・バスク・ニールセン及び同夫人、コロンビア国特命全権大使フリオ・オルティス・マルケス及び同夫人、インド国特命全権大使チャンドレシユワール・プラサド・ナライン・シンのため午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報、入江相政日記

十五日 金曜日 貴子内親王と島津久永との結婚につき、この日午前、宮中において納采の儀が行われる。天皇及び貴子内親王と共に拝謁の間において、宮内庁長官より島津家の使者の口上をお聞きになり、島津家からの納采の品を御覧になる。儀終了後、天皇及び貴子内親王と共に再び拝謁の間において、皇太子・同妃始め皇族・元皇族・元王族等の拝賀をお受けになる。続いて宮内庁長官始め総代、

女官長始め女官、元奉仕者の拝賀を順次お受けになる。

午後、天皇と共に拝謁の間において、島津久永及びその母久子の拝謁をお受けになり、お礼言上をお受けになる。なお、天皇・皇后より貴子内親王に鮮鯛代料の御贈進があり、貴子内親王より天皇・皇后それぞれに鮮鯛目録のみの献上がある。また、天皇・皇后の御使として侍従徳川義寛を島津邸に差し遣わされ、洋服地・清酒・鮮鯛を賜う。さらに、納采の儀の奉告のため、天皇・皇后の御使として侍従入江相政を多摩陵大正天皇陵並びに多摩東陵貞明皇后陵に差し遣わされ、御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官

日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、慶弔録、貴子内親王殿下御婚儀一件、宮内庁庁報、官報

十七日 日曜日 午前、貞明皇后例祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

十八日 月曜日 午前、拝謁の間において、イタリア国より帰国の特命全権大使太田一郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁庁報

十九日 火曜日 午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、蚕の飼育状況を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

二十日 水曜日 天皇と共に表一の間において、新任のノルウェー国特命全権大使エイギル・ニーゴールド、英国特命全権大使オスカー・チャールズ・モーランド及び同夫人、エクアドル国特命全権公使グスターボ・ラレア・コルドバ及び同夫人のため午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

二十一日 木曜日 午前、内廷庁舎において、近く赴任のオランダ国駐劄特命全権大使宮崎章及び同

昭和三十四年五月

夫人、ウルグアイ国駐劄特命全権公使粕谷孝夫及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁庁報

拝謁の間において、この日退職の前掌典長甘露寺受長及び新任の掌典長室町公藤の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、贈賜録、恩賜録

二十二日 金曜日 財団法人結核予防会創立二十周年記念結核予防全国大会に御出席のため、午前九時五十分御出門、社会事業会館に行啓される。御到着後、御休所において総裁故雍仁親王妃勢津子の挨拶をお受けになり、ついで厚生事務次官田辺繁雄・結核予防会会長島津忠承・副会長勝俣稔・理事長山口正義・常任理事岡田文秀の拝謁をお受けになる。終わって会場に臨まれ、式中、次のお言葉を賜う。

今日この大会に臨み、日ごろ結核予防に尽力している皆さんと親しく接することができたことを嬉しく思います。

結核予防会は、創立以来いろいろな困難に堪えながら、結核予防の仕事に当り、立派な成果をあげてきたことは、誠に喜ばしいことであります。

今後さらに、関係者の皆さんが、互いに協力して、その使命の達成に努め、国民の健康と福祉の増進に貢献するよう心から希望いたします。

ついで島津会長の奉答をお受けになる。十時四十三分還啓される。午後、御文庫において故雍仁親王妃と御対面になり、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報
午後、御風気気味の天皇に代わり賢所通用門脇において、全日本中学校長会第十回総会に参会の各地

区代表約四百二十名に御会釈を賜う。代表者の港区立城南中学校長牛山栄治より挨拶をお受けになり、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、宣召録、典式録

二十五日 月曜日 午前、内廷庁舎において、トルコ国より帰国の特命全権大使結城司郎次及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮内庁庁報

築地本願寺において翌二十六日、物故未帰還者並びにその帰還促進運動に尽力中死去した者の追悼法要が行われるに当たり、この日、天皇・皇后より主催者の留守家族団体全国協議会に生花を賜う。○

女官長日記、賜与録、宮内庁庁報

二十八日 木曜日 午前、天皇と共に早春亭において、白菊遺族会戦争裁判関係死没者遺族の会の代表等に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

常磐会総会に御出席のため、午後一時十八分御出門、椿山荘に行啓される。御着後、御休所において故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子、元皇族と御対面になる。それより、会員による「金剛石」合唱の中、お庭舞台前に出御される。ついで余興の舞囃子「松風」を御覧になる。

懇親会会場に移られ、日本舞踊を御覧になった後、歓談される。その後御散策になり、途中、開山堂にて献茶等がある。四時十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

二十九日 金曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時三分御出門、十一時三十九分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、

宮内庁庁報

三十日 土曜日 錦江会第十三回例会に御出席のため、午前十時三十一分葉山御用邸を御出門、午後

昭和三十四年六月

零時十分皇居に還啓される。御昼餐の後、一時三十分御出門、日本海運倶楽部に行啓される。御休所において皇太子・同妃・貴子内親王、ついで久邇朝融と御対面になり、続いて代表島津忠重及び同夫人の拝謁をお受けになる。御少憩後、広間にお出ましになり、島津代表の挨拶をお受けになる。その後、大講堂において、参集の会員一同との記念写真の撮影をお受けになる。ついで大食堂にて御歓談になる。三時五十九分日本海運倶楽部を御出発、五時三十八分葉山御用邸に到着される。○女官長日記、

女官日誌、内舍人日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

六月

三日 水曜日 天皇と共に葉山御用邸より還啓のため、午前十時二分御出門、十一時四十分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁

庁報

午後五時五分御出門、天皇と共に東久邇邸に行啓され、皇太子・同妃、正仁親王、貴子内親王、東久邇盛厚・同夫人成子及び同子女、鷹司平通・同夫人和子、池田隆政・同夫人厚子と御夕餐を御会食になる。九時四分還啓される。なおこの席は、皇太子の兄弟姉妹が皇太子の結婚をお祝いするために設けられた。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、業務日誌、幸啓録、宮内庁庁報、読売新聞

四日 木曜日 午前、天皇と共に奥二の間において、インドネシア国駐節特命全權大使黃田多喜夫より同国についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、宮内

庁庁報、外交記録

午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌

五日 金曜日 第十七回フローレンス・ナイチンゲール記章授与式に名誉総裁として御臨席のため、午前十時十四分御出門、日本赤十字社本社に行啓される。御休所において名誉副総裁の故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子と御対面になり、衆議院議長加藤鏝五郎・厚生政務次官池田清志^{厚生大臣代理}・社長島津忠承の拝謁をお受けになる。その後、式場に臨まれる。式中、ナイチンゲール記章を大阪赤十字高等看護学院教務主任奥アキ・財団法人体質研究会血液研究所嘱託井丸コト^{元京都大学医学部附属病院総婦長}・元広島赤十字病院看護婦長絹谷オシエに御親授になる。ついで次のお言葉を賜う。

このたび、奥アキ、井丸コト、絹谷オシエの三人の方々が、看護婦として世界最高の名誉であるフローレンス・ナイチンゲール記章を赤十字国際委員会から贈られましたことは、長い間の献身的奉仕の賜でありまして、本人の榮譽はもとより、わが国としても、まことに喜ばしいことでもあります。

どうか今後もお一層この道に尽し、後進の指導に当たるとともに、看護婦の皆さんが、この三人の方々を模範としてその職に励み、広く内外の人々の信頼と感謝を受けるよう心から希望いたします。

来賓の祝辞に続き受章者答辞をお受けになる。式終了後、別室において赤十字国際委員会駐日代表ハリ・C・アングスト及び同夫人、米国赤十字社極東本部長ジャック・ヘンリー及び同夫人、同極東本部報道部長ダン・ロメイン及び同夫人、同極東本部看護課長ムリエル・K・アンドール、同ロレイン・E・メイヤーに御会釈を賜う。十一時十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、

昭和三十四年六月

宮内庁庁報、事業年報（日本赤十字社）

午後、天皇及び故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・池田厚子と共に、生物学御研究所に隣接する水田にお出ましになり、天皇のお田植えの様子を御覧になる。ついで皇后及び両親王妃も田植えをされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

六日 土曜日 午後、花蔭亭において、聖園テレジア及び加藤ユステイチアほか三名の拝謁をお受けになる。加藤ほかより今般渡独の暇乞いの挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、花蔭亭日誌、宿直勤務控簿

七日 日曜日 午後、天皇と共に旧主馬寮馬場にお出ましになり、先着の皇太子・同妃及び正仁親王・貴子内親王と御一緒に皇太子殿下御成婚慶祝東京馬術大会を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

八日 月曜日 午前十時三十五分より、天皇と共に謁見の間において、国賓として来日のインドネシア国大統領スカルノと御会見になる。午後七時三十分より、天皇と共に西の間において、大統領のため宮中晩餐を催される。九時二十分より、天皇と共に北の間において宮中夜会を催される。なお、大統領が入京した六日、同人の誕生日に当たるため、天皇・皇后より生花を贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、外交贈答録、宮内庁庁報、官報

十日 水曜日 インドネシア国大統領スカルノ主催の晩餐会に御出席のため、午後七時十九分御出門、天皇と共に光輪閣に行啓される。九時四十七分還啓される。なお、この度の来日に際し、天皇・皇后より大統領に七宝花瓶舞楽青海波紋が贈られる。また、大統領より天皇・皇后にサラサ裂地・木製彫刻・家具

セツトの御贈進がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、外賓参内録、外交贈答録、重要雑録、宮内庁庁報、官報

十一日 木曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、繭搔きをされる。○女官長日記、女官日誌

十四日 日曜日 午後、天皇及び皇太子・同妃、正仁親王、貴子内親王と共に御文庫において、皇太子成婚の記録映画「世紀の祝典」を御覧になる。終わってお揃いにて紅葉山御養蚕所にお出ましになり、天蚕・繭等を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報

十五日 月曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、国際オリンピック委員会^{IO.C.}総会より帰国した竹田恒徳の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十九日 金曜日 午前十時一分天皇と共に御出門、多摩陵・多摩東陵に行啓される。天皇に続き、両陵に御拝礼になる。午後四時十九分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、臨時祭祀録、宮内庁庁報

二十一日 日曜日 午後、天皇と共に呉竹寮にお出ましになり、この度初めて開催の朝彦会^{朝彦親王の縁故者による親睦会}に御出席になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、業務日誌

二十二日 月曜日 午前、内廷庁舎において、伊勢から帰京した北白川房子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

午後、義宮御殿にお出ましになる。鷹司和子と御対面の後、五島美代子を召されての黄心樹歌会に臨まれる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

元内閣総理大臣芦田均去る二十日死去につき、この日、勅使・皇后宮使として侍従松平潔をその邸に

差し遣わされ、祭叢料及び生花を賜う。○侍従日誌、侍従職日誌、宮内庁庁報、官報

玉堂記念館建設につき、この日、その資金として玉堂会に金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

二十三日 火曜日 天皇と共に表一の間において、この度離任のオランダ国特命全権大使オット・ロイヒリン及び同夫人、ベルギー国特命全権大使レイモン・エルマンズ、新任のキューバ国特命全権大使マリオ・アルスガライ・イ・ラモス・イスキエルド及び同夫人のため午餐を催される。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

午後、御進講室において、参与松平信子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

二十四日 水曜日 午後、天皇と共に御文庫において、東宮侍従戸田康英より野球についての進講をお聴きになる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

二十五日 木曜日 プロフェッショナル・ベースボールを御観戦のため、午後六時四十五分御出門、天皇と共に後樂園スタジアムに行啓される。読売ジャイアンツ対大阪タイガースの試合を、開始から終了まで御覧になる。九時二十一分還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁

庁報、官報、昭和、読売新聞

二十六日 金曜日 御夕食後、山口玉糸をお召しになり、御文庫においてゲツカビジンの開花模様を御覧になる。山口には写生をお許しになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十八日 日曜日 天皇及び皇太子と共に花蔭亭にお出ましになり、皇太子・同妃の結婚後初めて、正仁親王、貴子内親王、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子、東久邇盛厚・同夫人成子、鷹司平通・同夫人和子と御夕食を御会食になる。なお、風気により欠席した皇

太子妃に、皇后よりお見舞いとしてお庭のバラ一束をお贈りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報

二十九日 月曜日 フランス国より寄贈返還された松方コレクションを御覧になるため、午前九時四十八分御出門、天皇と共に国立西洋美術館に行啓される。十一時十二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、産経新聞、読売新聞

天皇と共に御文庫において、北白川房子と御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

七月

一日 水曜日 午前、御進講室において川合真一川合玉堂子息の拝謁をお受けになり、玉堂の三回忌に際し下賜された切り花へのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

二日 木曜日 午後、内廷庁舎において、山口玉糸をお召しになり、団扇の御絵をお描きになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

三日 金曜日 午前、謁見の間において、新任のアルゼンチン国特命全権大使ハビエル・テオドロ・ガリヤック及び同夫人、中華民国特命全権大使張厲生、フランス国特命全権大使ジャン・ダリダンを順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、宮内庁庁報

四日 土曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

昭和二十四年七月

六日 月曜日 午前、紅葉山御養蚕所主任宮崎清及び助手四名の賜謁があり、天皇と共に花蔭亭御門内にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

天皇と共に表一の間において、新任のアルゼンチン国特命全権大使ハビエル・テオドーロ・ガリヤック及び同夫人、中華民国特命全権大使張厲生、フランス国特命全権大使ジャン・ダリダンのため午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁報

午後、御進講室において、正田富美子の拝謁をお受けになる。ついで故雍仁親王妃勢津子と御対面になり、岡山県の池田家の様子についての説明をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

十日 金曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時七分御出門、十一時三十九分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁序報

十四日 火曜日 山口玉糸をお召しになり、午前及び午後、絵画の練習をされる。○女官長日記、女官日誌、葉山行幸啓録

十六日 木曜日 正午過ぎ、天皇と共に、元内閣総理大臣吉田茂・元内大臣木戸幸一の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、葉山行幸啓録

十九日 日曜日 午後、天皇の城ヶ島方面における海洋生物御採集に同行され、海上にお出ましになる。二十一日、二十二日にも同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録

二十日 月曜日 午前、山口玉糸より絵画の指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人供奉日誌、

葉山行幸啓録

二十四日 金曜日 天皇及び貴子内親王^{二十一}と共に、ハワイ旅行に出発の挨拶のため参邸の東久邇盛厚・同夫人成子と御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録、業務日誌、旧皇族録

二十九日 水曜日 天皇と共に葉山御用邸より還啓のため、午後二時二分御出門、三時四十分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

天皇と共に謁見の間において、この度離任のイラン国特命全権大使アバス・アラムを御引見になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、外交贈答録、宮内庁庁報

三十日 木曜日 午前、明治天皇例祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

三十一日 金曜日 午後、内廷庁舎において、近く赴任のガーナ国駐箚特命全権大使大隈信幸及び同夫人、ノルウェー国駐箚特命全権大使板垣修及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁庁報

八月

一日 土曜日 天皇と共に那須御用邸に行啓のため、午前十時一分御出門、原宿駅より先着の貴子内親王を伴われ、黒磯駅を経て、午後一時十九分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報、栃木県庁所蔵資料

昭和二十四年八月

天皇と共に、参邸の島津久永の拝謁をお受けになる。御夕餐は天皇及び貴子内親王・島津久永と御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、贈賜録

二日 日曜日 午前、島津久永の拝謁をお受けになる。その後嚶鳴亭において、天皇及び貴子内親王・島津久永と御昼食を御会食になる。午後は千篠園・鶯谷方面を御一緒に御散策になる。以後、那須御用邸御滞在中、しばしば天皇の植物御調査に同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

三日 月曜日 午後、天皇と共に、この日退邸の島津久永の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌

十五日 土曜日 終戦の日につき、終日お出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌、那須行幸啓録

十八日 火曜日 台風七号により甚大な被害を受けた山梨・長野・静岡各県及び京都府に対し、天皇・皇后より御救恤金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

二十日 木曜日 午前及び午後、参邸の山口玉糸の奉仕にて絵画を描かれる。○女官長日記、女官日誌、那須行幸啓録

アリス・P・グルー 元駐日米国大使ジョセフ・クラーク・グルー夫人 去る十六日死去につき、天皇・皇后から弔意をグルー元大使に

伝えるよう御下命があり、この日、侍従長より同元大使に弔電が送られる。これに対し二十四日、同元大使より侍従長に、天皇・皇后への謝意を表する礼電が寄せられる。○外交慶弔録、毎日新聞

二十一日 金曜日 午前及び午後、仙台行幸啓時に御写生の松島五大堂や長橋の景色等を、山口玉糸の奉仕により描かれる。○女官長日記、女官日誌、那須行幸啓録

二十三日 日曜日 午前、天皇と共に御用邸御車寄前において、宮内記者会会員に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、天皇記者会見、那須御用邸管理事務所日誌、毎日新聞、読売新聞

二十五日 火曜日 午前、天皇と共に御用邸御車寄において、新任の前橋宮林局長秋本正等に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、那須行幸啓録、栃木県庁所蔵資料

二十九日 土曜日 今般豪雨により甚大な被害を受けた石川県に対し、天皇・皇后より御救恤金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

九月

一日 火曜日 関東大震災の日につき、終日、お出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌、那須行幸啓録

二日 水曜日 去る八月三十一日、カンボジア国王妃への献上品に仕掛けられた爆弾により、同国儀典長が死亡する事件が発生する。この事件に際し危難を免れられた同国王ノロドム・スラマリット及び王妃に、この日、天皇・皇后がお見舞電報をお送りになる。これに対し八日、答電をお受けになる。○外交慶弔録、那須行幸啓録、宮内庁庁報、官報

八日 火曜日 那須御用邸から還啓のため、午後零時四十八分天皇及び正仁親王^{八月二十七日参邸}と共に御出門、四時十分皇居に到着される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報、栃木県庁所蔵資料

九日 水曜日 久邇侘子三年式年祭につき、午後四時二分御出門、豊島岡墓地に行啓される。御到着後、久邇朝融始め御親族等のお迎えをお受けになる。久邇侘子墓所に進まれ、御拝礼になる。ついで邦彦王墓所に拝礼される。終わって久邇朝融の挨拶をお受けになる。同三十二分還啓される。

これに先立ち、久邇邸に女官長保科武子を差し遣わされ、霊殿を拝礼させられる。また、天皇・皇后より霊殿に盛菓子・榊を、墓所に榊をお供えになる。これとは別に、皇后より久邇侘子の写真に切り花・果物を、墓所に野菜をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、旧皇族録、贈賜録、宮内庁庁報

十二日 土曜日 天皇と共に御文庫において、近く欧米旅行に出発する東久邇盛厚・同夫人成子のため、送別の御晚餐を催される。皇太子・同妃、正仁親王、貴子内親王も出席する。御会食後、東久邇夫妻が先日のハワイ旅行にて撮影したカラースライドを御一緒に御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録、旧皇族録、宮内庁庁報

十四日 月曜日 午前、拝謁の間において、近く赴任のスウェーデン国駐箚特命全権大使松井明及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、例規録、宮内庁庁報

十五日 火曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、在日朝鮮人の北朝鮮帰還協定の実施に協力するため来日中の赤十字国際委員会副委員長マルセル・ジュノーを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報、読売新聞

十六日 水曜日 午前、皇族たる皇室会議の議員及びその予備議員の互選のため、奥三の間にお出ま

しになる。投票の結果、宣仁親王・故雍仁親王妃勢津子が議員に、崇仁親王・宣仁親王妃喜久子が予備議員にそれぞれ選出される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇室会議皇族議員互選録、宮内庁庁報、官報

天皇と共に旧北御車寄門内において、第十一回保健文化賞受賞者等に御会釈を賜う。厚生大臣渡辺良夫の挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

十八日 金曜日 午前、拝謁の間において、皇太子妃懷妊につき、この度宮内庁御用掛^{東宮職}を委嘱された小林隆^{産科医}の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

二十一日 月曜日 午後、御進講室において、宇佐美江中^{故川合玉堂の弟子}の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十二日 火曜日 第十四回国民体育大会夏季大会水泳競技を御覧になるため、午後一時九分御出門、天皇と共に明治神宮外苑水泳場に行啓される。二時四十八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、産経新聞、読売新聞

二十四日 木曜日 午前、秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、女官原田リツに御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

二十八日 月曜日 午前、謁見の間において、今般夫人が着京したノルウェー国特命全権大使エイギル・ニーゴールド及び同夫人、中華民国特命全権大使張厲生及び同夫人、今般結婚したフランス国特

命全権大使ジャン・ダリダン及び同夫人、新任のメキシコ国特命全権大使アルフォンソ・カストロ・ヴァーリエ及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、謁見録、宮内庁序報

天皇と共に表一の間において、この度離任のインドネシア国特命全権大使R・A・アスマウン及び同夫人、ポルトガル国特命全権大使エミリオ・パトリシオ及び同夫人、新任のパキスタン国特命全権大使モハメッド・アリ及び同夫人、メキシコ国特命全権大使アルフォンソ・カストロ・ヴァーリエ及び同夫人のため午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁序報

午後、御進講室において、宇佐美江中の拝謁をお受けになり、同人持参の白樺の絵を御覧になる。○女官長日記、女官日誌

二十九日 火曜日 午後、御文庫において、宣仁親王妃喜久子と御対面になる。名古屋にて台風十五号伊勢湾
台風に遭遇した同妃より、被害状況をお聞きになる。後刻、天皇もお加わりになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

久邇静子故多嘉
王妃 去る二十七日死去につき、この日、弔問のため、天皇・皇后の御使として京都事務所長石川忠を久邇邸に差し遣わされる。また、天皇・皇后より柩前に菓子を、皇后より盛花をお供えになる。翌三十日にも石川所長を久邇邸に差し遣わされ、柩前に拝礼させられる。また、天皇・皇后より祭資・榊を賜う。十月一日の葬儀にも、御使として石川所長を葬場の久邇洋裁学校講堂に差し遣わされ、天皇・皇后それぞれより玉串を奉奠される。○女官長日記、業務日誌、久邇静子殿葬儀録、重要雑録、墓誌銘録

三十日 水曜日 午後、天皇と共に御文庫において、この日誕生日を迎えた鷹司和子と御対面になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

トルコ国特命全権大使スレイヤ・アンデリマン及び同夫人去る二十八日大使官邸にて死去につき、この日、天皇・皇后より弔問使として侍従入江相政をトルコ国大使館に差し遣わされる。十月一日には天皇・皇后より同国大使館に生花をお供えになる。また、十月八日大使夫妻の遺体が本国へ送還される際には、天皇・皇后より花束を賜う。○侍従職日誌、慶弔録、外交贈答録

来る十月一日から昭和三十四年度国民たすけあい共同募金運動を実施する社会福祉法人中央共同募金会に対し、天皇・皇后より金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

台風十五号伊勢湾
台風により甚大な被害を受けた愛知・三重・岐阜・長野・奈良・山梨の各県に対し、天

皇・皇后より御救恤金を賜う。なお、この台風による被害に鑑み、十月十二日より十六日まで予定されていた京都府及び岐阜・愛知両県下への行幸啓はお取りやめになる。また、十月八日には天皇が園

遊会十一月六日
開催予定の延期をお決めになる。園遊会は、翌年四月十二日に開催される。○賜与録、幸啓録、園遊会録、

宮内庁庁報、毎日新聞、読売新聞

十月

一日 木曜日 午前、天皇と共に旧北御車寄門内において、藍綬褒章を授与された調停委員功労者等に御会釈を賜う。京都地方
家庭裁判所調停委員大西良慶の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日

誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報、官報

昭和三十四年十月

三日 土曜日 午後、天皇と共に御文庫において、翌日より台風十五号の被災地に天皇より御差遣の皇太子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、宮内庁庁報

この日、思召しにより、台風十五号の罹災地に救援物資として送る毛布・衣類等をお下げ渡しになり、日本赤十字社に匿名にて寄付される。以後、二度にわたり衣類等を匿名にて御寄付になる。○女官長日記、贈賜録

六日 火曜日 日本大学創立七十年記念式典に御臨席のため、午前九時四十一分御出門、天皇と共に日本大学講堂に行啓される。十時四十六分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、日本大学百年史、昭和

天皇と共に御文庫において、皇太子より台風十五号による被災状況についての報告をお聞きになる。また被災地の地図・写真・アルバム等を御覧になる。午後もお一方にて皇太子持参の水害地写真集を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報

午後、生物学御研究所に隣接する水田において、天皇が稲刈りをされる御様子を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

七日 水曜日 午前、東宮仮御所において皇太子妃の内着帯の儀が行われ、御帯をお贈りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、徳仁親王殿下御誕生記録、宮内庁庁報

九日 金曜日 午前、拝謁の間において、日本赤十字社長島津忠承より台風十五号による名古屋地方の被害と救援状況等に関する報告をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

台風十五号により神宮の被害甚大につき、天皇・皇后より、皇大神宮及び豊受大神宮に幣帛神饌料を

それぞれ御奉納になる。○女官長日記、女官日誌、重要雑録

十七日 土曜日 午前、神嘗祭につき、女官雪井よし子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官

日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

御風気のため、午後、靖国神社秋季霊璽奉安祭に参列した遺族代表への御会釈をお取りやめになる。

○侍従職日誌、宣召録、典式録

二十日 火曜日 皇太子妃の誕生日につき、午前、天皇と共に拝謁の間において、同妃と御対面になり、お礼言上をお受けになる。ついで天皇と共に同所において、宮内庁長官始め総代の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

二十一日 水曜日 更生保護制度施行十周年記念全国大会に御臨席のため、午前九時五十一分御出門、天皇と共に日比谷公会堂に行啓される。十時三十八分還啓される。なお九月三十日、更生保護制度施行十周年に当たり、更生保護関係者に次の御歌を賜う。

きずつきし心の子らをいだきよする母ともなりていつくしまなむ

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、賜与録、宮内庁庁報、官報

二十二日 木曜日 御夕餐後、天皇と共に御文庫において、昨二十一日神宮祭主北白川房子が持参した、台風十五号による神宮の被害を撮影した記録映画を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

この日、特命全権大使又は同公使の赴任及び帰国時における拝謁について、今後は、まず天皇に、続いて夫人同伴にて皇后に拝謁し、また、場所は拝謁の間とすることが定められる。○例規録

昭和三十四年十月

二十三日 金曜日 午前、拝謁の間において、近く赴任のバチカン国駐劄特命全權大使吉岡範武の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁庁報

二十四日 土曜日 宣仁親王妃喜久子の招待により午後一時四十八分御出門、高松宮邸に行啓される。

御到着後、宣仁親王・同妃、崇仁親王妃百合子と御対面になる。その後、光輪閣に移られ、シルクギャラリーにて開催の沖繩の文化工芸展にお出ましになる。理事長石黒忠篤・元侯爵尚裕及び同夫人ほかの拝謁をお受けになり、ついで尚家所蔵の染織品・刀剣類等を御覧になる。終わって高松宮邸に移られ、宣仁親王妃の案内にて邸内のバラ花壇を御覧になる。四時十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

二十五日 日曜日 第十四回国民体育大会秋季大会開会式に御臨席のため、午後三時十一分御出門、天皇と共に国立競技場に行啓される。六時還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

常磐会にてバザー開催につき、新宿御苑産の切り花を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

二十六日 月曜日 第十四回国民体育大会秋季大会の競技を御覧になるため、午後零時五十一分天皇と共に御出門になる。埼玉県の戸田漕艇場、足立区体育館（バドミントン会場）、中央大学後楽園テニスコートにて

各競技を御覧になり、四時四十一分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十七日 火曜日 第十四回国民体育大会秋季大会の競技を御覧になるため、午後一時一分天皇と共に御出門になる。駒沢総合運動場送球場（ハンドボール競技）、国立競技場（陸上競技）、秩父宮ラグビー場において各競技

を御覧になり、四時三十三分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十八日 水曜日 夕刻、天皇と共に北の間において、関税及び貿易に関する一般協定^{GATT}第十五回東京総会大臣会議に出席する各国代表等のため、茶会を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報、産経新聞

三十一日 土曜日 ラオス国王シサヴァン・ヴォング去る二十九日崩御につき、この日、天皇・皇后より弔問使として侍従徳川義寛を同国大使館に差し遣わされる。後日、摂政の同国皇太子スリ・サヴァン・ワッタナが十一月一日に即位した旨を報じる在日同国大使館よりの口上書^{外務省宛て}が寄せられ、これを御覧になる。○侍従職日誌、業務日誌、外交慶弔録、宮内庁庁報

十一月

二日 月曜日 午前、天皇と共に奥二の間において、エチオピア国駐劄特命全権大使徳永太郎より、今般来日する同国皇太子等についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、宮内庁庁報

午後、謁見の間において、新任のエチオピア国特命全権大使ヨハネス・レダ・エグジ及び同夫人・息女、ベルギー国特命全権大使ユウジェーヌ・デュ・ボワ及び同夫人、ボリビア国特命全権公使ミゲール・アンヘル・セスペデス及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、宮内庁庁報

三日 火曜日 午後、天皇と共に旧北御車寄門内において、社会教育法施行十周年に当たり文部大臣から表彰された社会教育功績者、文化の日に当たり文部大臣から表彰された優良公民館代表等に御会釈を賜う。文部省社会教育局長福田繁の挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

天皇と共に旧北御車寄門内において、全日本健康優良学校児童表彰会朝日新聞社主催にて特選児童に選ばれた健康優良児及び全日本健康優良学校の表彰校代表等に御会釈を賜う。同会長村山長幸朝日新聞社取締役会長の挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典

式録、宮内庁庁報

四日 水曜日 午前、天皇と共に早春亭において、第三回日本学生科学賞全日本科学教育振興委員会主催、読売新聞社後援を受賞した

中学生・高校生等に御会釈を賜う。読売新聞社副社長高橋雄豹の挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報、読売新聞

五日 木曜日 午後、天皇と共に旧北御車寄門内において、黄綬褒章又は藍綬褒章を授与された厚生省関係功労者等に御会釈を賜う。厚生大臣渡辺良夫の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従

日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

二時三十五分より、天皇と共に謁見の間において、国賓として来日のエチオピア国王太子アスファ・ウオセン及び同妃メドフェリアシ・ウォルク・アツベバと御会見になる。七時三十分より、天皇と共に北の間において、同国皇太子・同妃のため宮中晚餐を催される。この度の来日に際し、天皇・皇后

より同国皇太子に屏風岩上二羽の孔雀、四季草花の図刺繍を、同国皇太子妃に裂地モスグリ、若竹柄・紅葉山御養蚕所製の裂地薄藤色地、金牡丹唐

草文を御贈進になる。また、同国皇太子より天皇に、同国皇太子妃より皇后に御贈進の品があり、皇后

には金製腕輪が贈られる。これとは別に皇后より同国皇后に菊切り花新宿御苑産・菊苗を御贈進になる。後

日、同国皇后より十二月八日付にてお礼の親書と共に鳥類剥製標本の御贈進がある。これに対し、十二月二十八日付にて答簡を發せられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、業務日誌、外

賓參内録、外賓接待録、重要雜録、外交贈答録、贈賜録、宮内庁庁報、官報、外交記録

十日 火曜日 午後、吳竹寮にお出ましになり、貴子内親王と御対面になる。続いて御一緒に御仮寓所に移られ、宮内庁総合美術展に出品する内親王の活け花などを御覧になる。○女官長日記、女官日誌、内

舍人日誌

十一日 水曜日 午後、天皇と共に賢所通用門脇において、文部省主催による校長研究協議会に参加中の各都道府県国立・公立・私立学校長等に御会釈を賜う。文部省初等中等教育局長内藤蒼三郎の挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召

録、典式録、宮内庁庁報

天皇と共に拝謁の間において、愛知県知事桑原幹根・岐阜県知事松野幸泰の拝謁をお受けになる。両知事より台風十五号被害に対する御救恤金等のお礼言上をお受けになり、続いて両県の被災及び復興状況についてお聞きになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、重要雜録、読売新聞

十二日 木曜日 午前、天皇と共に表御座所において、今般欧米旅行より帰国した東久邇盛厚の拝謁

昭和三十四年十一月

をお受けになる。後刻、天皇と共に同所において東久邇成子と御対面になり、旅行の話をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

夕刻、貴子内親王を伴われて宮内庁庁舎において、宮内庁職員組合による総合美術展を御覧になる。

同展には御絵を出品される。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、稲田周一関係資料

十五日 日曜日 日本赤十字社中央病院入院中に容体が急変した久邇朝融のお見舞いのため、午前零時三十二分御出門、同病院に行啓される。朝融の意識が少しずつ回復したため、二時二十三分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、久邇朝融殿葬儀録、宮内庁庁報、稲田周一関係資料

御文庫において、元侍医頭八田善之進の拝謁をお受けになる。その際、久邇朝融の病状についての報告をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

日本赤十字社中央病院からの願い出により、午後五時二十七分御出門、久邇朝融のお見舞いのため同病院に行啓される。御到着後、御休所にて病院長都築正男より報告をお受けになり、ついで病室にて約十分間朝融と御対面になる。廊下にて御親族に御会釈を賜い、六時十二分還啓される。なお、この日よりほぼ連日、朝融にお見舞いとしてスープ等を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、久邇朝融殿葬儀録、宮内庁庁報、稲田周一関係資料

十六日 月曜日 午後、御文庫において、この度上京の大谷智子^{御妹}と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十七日 火曜日 天皇と共に表一の間において、先般皇太子教育に関する重要事項への参与を免じられた小泉信三・安倍能成・坪井忠二・松平信子をお招きになり、午餐の御陪食を賜う。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宣召録

十八日 水曜日 久邇朝融をお見舞いのため、午後三時二十一分御出門、天皇と共に日本赤十字社中央病院に行啓される。御到着後、御休所において、大谷智子・東伏見慈治と御対面になり、続いて病院長都築正男より朝融の容体をお聞きになる。ついで病室において約五分間、お一方にて朝融と御対面になる。続いて天皇と共に御対面になる。三時五十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、業務日誌、久邇朝融殿薨去関係書類、幸啓録、久邇朝融殿葬儀録、宮内庁庁報、読売新聞

二十日 金曜日 午後、天皇と共に御文庫において、昨日英国から帰国した久邇邦昭御兄朝融の子息の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、久邇朝融殿葬儀録

二十一日 土曜日 午後、義宮御殿において、黄心樹歌会に臨まれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

二十四日 火曜日 午後、内廷庁舎において、聖園テレジアの拝謁をお受けになり、病氣全快のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

二十五日 水曜日 午前、拝謁の間において、御機嫌奉伺のため参内した京都在住の旧堂上会総代清岡長言の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、典式録

天皇と共に表一の間において、この度離任のオーストラリア国特命全権大使アラン・スチュワート・ワット及び同夫人、新任のエチオピア国特命全権大使ヨハネス・レダ・エグジ及び同夫人、ベルギー国特命全権大使ユウジェーン・デュ・ボワ及び同夫人、ボリビア国特命全権公使ミゲール・アンヘル・セス・ペデス及び同夫人のため午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、

昭和三十四年十二月

謁見録、典式録、外交贈答録、宮内庁庁報

二十六日 木曜日 午後一時三十五分御文庫を御出発、東宮仮御所に行啓され、皇太子・同妃、池田厚子と御歓談になる。三時過ぎ同所を御出発、日本赤十字社中央病院に行啓され、久邇朝融をお見舞いになる。四時十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、久邇朝融殿葬儀録、宮内庁庁報

二十七日 金曜日 午後、天皇と共に拝謁の間において、三重県知事田中覚より台風十五号の被害状況についての報告をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録

二十八日 土曜日 正仁親王の誕生日につき、午前、天皇と共に拝謁の間において、宮内庁長官始め総代、続いて女官長始め女官等の拝賀をお受けになる。ついで元皇子傳育官桑折英三郎の拝賀をお受けになる。午後、お一方にて御文庫において、元奉仕者の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十二月

二日 水曜日 午後二時二十一分御出門、日本赤十字社中央病院に行啓される。御到着後、病室にて久邇朝融とお話しになる。三時二十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、久邇朝融殿葬儀録、宮内庁庁報

三日 木曜日 午後、内廷庁舎において、山口玉糸をお相手に絵を描かれる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

四日 金曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時四分御出門、十一時四十分同邸に御到

着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓書類、幸啓録、宮内庁
庁報

六日 日曜日 夕刻、天皇が侍従次長稲田周一より、久邇朝融の容態が切迫している旨をお聞きになる。これを受け、還幸啓予定日は当初の十一日から翌七日に繰り上げることとされる。○女官長日記、侍

従日誌、侍従職日誌、業務日誌、稲田周一関係資料

七日 月曜日 久邇朝融の病状に鑑み、葉山御用邸御出発の時刻を三十分早め、午前九時三十分天皇と共に御出門、十一時八分皇居に還啓される。朝融危篤の報をお受けになり、同二十一分お一方にて御出門、日本赤十字社中央病院に行啓される。御到着後、病室にて朝融をお見舞いになり、ついで御休所において宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王妃百合子、北白川房子・同祥子ほかと御対面になる。午後二時頃より再び病室に入られる。三時二十分朝融が死去する。その後、御休所にて病院長都築正男の拝謁をお受けになる。同五十九分還啓される。

朝融死去に伴う御服喪の期間は、この日より三十日^{第一期十日、第二期二十日}とされる。

朝融の死去に際し、九日フィリピン国大統領カルロス・P・ガルシア及び同夫人より、十日ベルギー国王ボードワン一世より、天皇・皇后に弔電が寄せられる。これに対し十二日、それぞれ答電を發せられる。また、九日にハイチ国臨時代理大使を通じて同国政府及び同国大使館より哀悼の意が伝えられる。これに対し後日、宮内庁長官より外務大臣に、天皇・皇后の謝意の伝達を依頼する旨の通知がある。

久邇朝融は邦彦王の第一王子として明治三十四年に誕生する。海軍兵学校卒業後、海軍諸職を歴任し、

昭和三十四年十二月

昭和二十年に海軍中将となる。同二十二年皇族の身分を離れ、久邇姓を名乗る。享年五十八。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、業務日誌、葉山行幸啓書類、幸啓録、久邇朝融殿葬儀録、皇親録、外交慶弔録、墓誌銘録、宮内庁庁報、官報、稲田周一関係資料、入江相政日記

八日 火曜日 久邇朝融死去につき、天皇・皇后より盛花・切り花・菓子を、皇后より野菜を霊前にお供えになる。また、皇太子妃より皇后に果物の献上がある。○女官長日記、久邇朝融殿葬去関係書類、久邇朝融殿葬儀録、皇親録

九日 水曜日 久邇朝融去る七日死去につき、天皇・皇后の御使として侍従徳川義寛を久邇邸に差し遣わされ、天皇・皇后より祭資を、皇后より白羽二重・櫛を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、久邇朝融殿葬去関係書類、久邇朝融殿葬儀録、重要雑録

十日 木曜日 故久邇朝融の通夜当日に際し、午後三時十四分御出門、天皇と共に千代田区三番町の宮内庁分室に行啓される。御到着後、御休所において久邇邦昭始めその兄弟、大谷光暢及び同夫人智子・同子女、東伏見慈洽及び同夫人と御対面になる。ついで正寝の間において御拝礼になる。同四十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、久邇朝融殿葬去関係書類、幸啓録、皇親録、宮内庁庁報

十一日 金曜日 久邇朝融本葬の儀につき、午前九時三分御出門、宮内庁分室に行啓される。御到着後、勅使三谷隆信^{侍従}に^長続き、御拝礼になる。皇太子・正仁親王・貴子内親王ほか久邇家の親族等がそれに続く。同二十六分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、幸啓録、皇親録、宮内庁庁報

十二日 土曜日 故久邇朝融墓所に御拝礼のため、午前九時四十七分御出門、豊島岡墓地に行啓され

る。御到着後、御休所において久邇通子・同英子、龍田徳彦・同正子、島津斉祝・同朝子、大谷智子、東伏見慈治と御対面になる。その後、葬儀委員長高橋真男の先導により久邇家墓前のお席に着かれる。ついで御拝座に進まれ、司祭長斉藤英夫の奉仕により、御拝礼になる。終わって、喪主代理龍田徳彦より挨拶をお受けになる。十時二十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、久邇朝融殿葬儀録、幸啓録、皇親録、宮内庁庁報

十七日 木曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、衆議院議員千葉三郎より「アマゾン流域における日本移民について」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、入江相政日記

この日、天皇・皇后より日本赤十字社に、事業御奨励のため金一封を賜う。さらに同社に対し、医療及び児童福祉事業の御補助として金一封を賜う。また皇后より、来る二十一日から五日間にわたり都下各医療施設等の参加を得て歳末無料健康相談を実施する東京都に金一封を、事業御奨励のため財団法人結核予防会に金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報、読売新聞

二十一日 月曜日 午前、御文庫において北白川房子神宮祭主の拝謁をお受けになり、神宮の様子をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

イラン国皇帝モハンマド・レザー・パハラヴィーこの日御結婚につき、天皇・皇后より同国皇帝に祝電を發せられる。これに対し二十七日に答電がある。また、この御結婚に際し、天皇・皇后より同国皇帝・皇后にお祝品として七宝花瓶紫紺地菊文を御贈進になる。○外交慶弔録、外交贈答録、宮内庁庁報、官報、儀礼軌

範

二十三日 水曜日 皇太子の誕生日につき、午前、天皇と共に表御座所において皇太子と御対面になり、お礼言上をお受けになる。その後、天皇と共に拝謁の間において、宮内庁長官始め総代の拝賀、女官長始め女官等の拝賀をお受けになる。御服喪中の皇后も、御日常の行事については平常どおりとする旨の天皇の御意向により、御一緒に拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

内舍人日誌、久邇朝融殿薨去関係書類、宮内庁庁報

二十六日 土曜日 この度『貞明皇后実録』完成につき、天皇・皇后より書陵部長西原英次以下関係員に対し酒肴料を賜う。また西原書陵部長以下六名にお品を賜う。○貞明皇后実録関係実録編修録、恩賜録

二十九日 火曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、故雍仁親王妃勢津子始め皇族・元皇族・元王族等より歳末の祝詞言上をお受けになる。ついで宮内庁長官始め総代及び女官等より祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、稲田周一関係資料

この月 日本赤十字社病院救助收容患者・恩賜財団済生会病院救助收容患者合計八千八百四十五人に対し、手拭い一筋ずつを賜う。○贈賜録

昭和三十五年（西曆一九六〇年） 五十七歳

一月

一日 金曜日 午前、新年祝賀の儀が行われる。昨年十二月七日の久邇朝融^御死去による御服喪中のためお出ましはなく、御進講室において、天皇と共に女官長等の、またお一方にて宮内庁長官始め総代の拝賀のみお受けになる。翌二日の新年一般参賀、三日の未成年皇族・元皇族等の拝賀へのお出ましもお取りやめになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、典式録

三日 日曜日 午後、天皇及び皇太子・同妃・正仁親王・貴子内親王と共に御文庫において、この日誕生日を迎えた宣仁親王と御対面になる。宣仁親王より、万那料拝領のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、贈賜録

四日 月曜日 豊島岡墓地の初拝礼に当たり、女官原田リツを遣わされる。この年より、昨年死去の久邇朝融の墓所も合わせて拝礼させられる。○女官長日記、女官日誌

五日 火曜日 故久邇朝融三十日祭につき、祭典終了後に女官長保科武子を御使として墓所に差し遣わされ、拝礼させられる。なお、墓所に榊を、霊前に菓子をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、久邇朝融殿葬儀録

六日 水曜日 この日、御喪明けとなる。○女官長日記、女官日誌
午後、天皇と共に拝謁の間において、元女官等の拝賀をお受けになる。続いて、お一方にて同所にお

昭和三十五年一月

いて、元女子学習院教授松島彝及び御同級生の拝賀をお受けになる。ついで同所において、故雍仁親王妃勢津子・北白川房子・東久邇聡子より新年の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

八日 金曜日 午前十時、天皇と共に西の間において、講書始の儀に臨まれる。慶応義塾大学教授久松潜一より「藤原俊成と中世の歌論」、日本学士院会員滝川幸辰より「近代的刑法学の開祖フオイエルバッハ」、東京大学学長茅誠司より「磁気研究の最近の進歩」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、講書始録、宮内庁庁報、官報

十日 日曜日 天皇及び皇太子・貴子内親王と共に御文庫において、御昼餐を御会食になる。以後、この年も、日曜日を中心に皇太子・同妃と、また正仁親王始め皇族・御親族としばしば御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

夕刻、義宮御殿におけるカルタ会に臨まれ、皇太子始め皇族・元皇族等と百人一首をされる。その後、お出ましの天皇を交えて御夕餐を御会食になる。御食後、能かるたに興じられる。なお、天皇・皇后より参集の皇族・元皇族等に洋菓子を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録
十二日 火曜日 午前十時、天皇と共に西の間において、歌会始の儀に臨まれる。この年のお題は「光」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

皇后宮御歌

あたらしき力わきくる心地して朝日の光あふぎみるかな

なお、一般の詠進歌が逐年増加傾向にあることなどから、この年より、御製の披講は従前の五反から

三反に、皇后宮御歌の披講は三反から二反に改められる。儀終了後、天皇と共に旧北御車寄門内において、預選者に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、歌会始録、宮内庁庁報、官報、あけぼの集

午後、御進講室において、お召しの元侍医塚原伊勢松の拝謁をお受けになる。以後、この年も随時、元奉仕者の拝謁等がある。○女官日誌

十三日 水曜日 正午過ぎ、拝謁の間において、新任のパラグアイ国特命全権公使ニコラス・デ・バリ・フレーチャ・トールスを御引見になる。引き続き、天皇と共に表一の間において、この度離任のインド国特命全権大使チャンドレシュワール・プラサド・ナライン・シン及び同息女、ローマ法王庁公使大司教マキシミアン・ドウ・フュールステンベルグ、並びにパラグアイ国公使をお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、謁見録、外交贈答録、宮内庁庁報

十四日 木曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時四分御出門、十一時三十九分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、宮内庁庁報

十五日 金曜日 終日、参邸の山口玉糸より絵画の指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、葉山行幸啓録

十七日 日曜日 侍従入江相政を御使として前田青邨邸へ遣わされ、御絵の講評を求められる。以後、この年も随時、前田邸に御使を遣わされ、御絵の講評をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

十九日 火曜日 午後一時三分天皇と共に御用邸を御出門になり、江ノ島マリンランド並びに江ノ島

水族館に行啓される。四時三十九分御帰邸になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録

二十一日 木曜日 午前、エスター・ビドル・ローズの英語の進講をお聴きになる。以後、この年は、

ローズの進講を同人が帰国する四月までお聴きになる。午後、宮内庁御用掛高木多都雄より英語の進講をお聴きになる。以後、しばしば高木をお相手に英語を学ばれる。○女官長日記、女官日誌、葉山行幸啓録

二十二日 金曜日 夕刻、天皇と共に拝謁の間において、海上保安庁長官林坦・同水路部長塚本裕四

郎ほかに御会釈を賜う。その後、林長官が持参した映画昨年七月二十四日に天皇の海上保安庁測量船「拓洋」御乗船の御様子を撮影を御覧になる。○女

官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録

二十三日 土曜日 午前、東宮仮御所において皇太子妃の御帯進献の儀及び着帯の儀が、皇居におい

て賢所皇霊殿神殿に着帯奉告の儀が行われる。皇太子妃着帯に当たり、天皇・皇后より皇太子・同妃にそれぞれ鮮鯛代料を、御帯進献者の宣仁親王に白縮緬・肴料を御贈進になる。また、天皇・皇后に

対し、皇太子・同妃より五種交魚代料・小戴酒添、秩父宮・高松宮・三笠宮より鮮鯛代料、正田英三郎

皇太子妃の父・同夫人富美子より鮮鯛代料の御贈進がある。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、儀式録、臨時祭祀録、徳

仁親王御誕生録、徳仁親王殿下御誕生記録、浩宮殿下御誕生関係書類、葉山行幸啓録

二十五日 月曜日 故久邇朝融五十日祭につき、終日、静かにお過ごしになる。天皇・皇后の御使と

して権舎へ侍従入江相政を、墓所へ同永積寅彦を差し遣わされ、拝礼させられる。また天皇・皇后より霊前に菓子・榊を、墓所に榊をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、葉山行幸啓録、

久邇朝融殿薨去関係書類、久邇朝融殿葬儀録

二十六日 火曜日 午前十時一分、天皇と共に葉山御用邸を御出門、十一時四十分皇居に還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、宮内庁庁報

午後三時四分御出門、豊島岡墓地に行啓される。御着後、久邇英子御兄朝融の息女、東伏見慈治御弟・同夫人保子

等のお出迎えをお受けになり、邦彦王御父墓所を御拝礼になる。ついで久邇侘子御母墓所に御拝礼、さらに

同朝融墓所・知子女王墓所に御拝礼になる。朝融の墓所には玉串のお供えがある。なお、御拝礼の各

墓所に菓子をお供えになる。終わって幄舎において、東伏見慈治よりお礼言上をお受けになる。同四

十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、久邇朝融殿葬儀録、宮内庁庁報

二十八日 木曜日 午後、謁見所において、久邇家顧問の高橋真男・川北禎一・栄木忠常・長崎佐恵

子の拝謁をお受けになり、昨冬の久邇朝融入院以来の尽力につき、労いのお言葉を賜う。○女官長日記、

女官日誌、久邇朝融殿葬儀録

二十九日 金曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、昨年十一月成年に達した北白川肇子故永久王第一王女

及び同祖母房子の拝謁をお受けになる。天皇・皇后より肇子に白羽二重を、皇后より万那料及びお品

を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、賢所諸件

午後、御進講室において、永岡通子御兄朝融の息女の拝謁をお受けになり、結婚昨年十二月六日の報告と故久邇朝融五十

日祭終了去る二十五日についてのお礼を、それぞれお受けになる。通子に装身具料・扇子料等を賜う。○女官長

日記、女官日誌、内舍人日誌、贈賜録

昭和三十五年一月

昭和三十五年二月

三十日 土曜日 午前、孝明天皇例祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮内庁庁報

二月

一日 月曜日 午前、拝謁の間において、この度セイロン国に赴任の特命全権大使勝野康助及び同夫人、並びにハンガリー国へ赴任の特命全権公使小川清四郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、拝謁録、宮内庁庁報

御進講室において侍従次長稲田周一の拝謁をお受けになり、今般帰国する英語進講者エスター・ビドル・ローズの後任に推薦されたメリー・ハル・チャペルについてお聞きになる。○女官日誌、稲田周一関係資料

六日 土曜日 午前、表二の間及び表三の間において、貞明皇后御旧蔵の桂宮遺品の宸翰類を侍従入江相政の説明にて御覧になる。○女官長日記、女官日誌、稲田周一関係資料

八日 月曜日 午前、呉竹寮にお出ましになり、貴子内親王と御対面の後、同内親王の結婚準備品等を御覧になる。午後、呉竹寮にお出ましになり、結婚準備品等を御覧になる。○女官長日記、女官日誌

十四日 日曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時三分御出門、十一時四十分御到着になる。その後、天皇と共に、参邸の貴子内親王及び島津久永の挨拶をお受けになり、ついで御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、宮内

庁庁報

午後、参邸の前田青邨の拝謁をお受けになる。ついで同人制作のソテツ及びウメの絵画を御覧になる。

○女官長日記、女官日記

十六日 火曜日 午後二時一分天皇と共に葉山御用邸を御出門、三時四十分皇居に還啓される。○女官

長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舍人日記、内舍人供奉日記、葉山行幸啓録、宮内庁庁報

十七日 水曜日 午後、天皇と共に呉竹寮にお出ましになり、貴子内親王の説明により結婚準備品を御覧になる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舍人日記

十八日 木曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、中華民国政府の招待に応じ国賓として同国に赴く途中国を訪問した。パナマ国外務大臣ミゲル・ホータ・モレーノ・ジュニア及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舍人日記、謁見録、典式録、宮内庁庁報

十九日 金曜日 貴子内親王の結婚につき、告期の儀が行われる。午前十時、天皇及び同内親王と共に拝謁の間において、島津久永が貴子内親王との結婚の礼を三月十日に行いたいとする旨の島津家使者高倉永輝掌典からの口上を、宮内庁長官よりお聞きになる。ついで長官を通じ御承諾の旨が使者へ伝えられる。

午後、天皇と共に拝謁の間において、貴子内親王結婚の媒酌人を務める坊城俊良元皇太后
宮大夫・同夫人朔子の拝謁を、ついで島津久永及び同母久子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記

誌、内舍人日記、臨時祭祀録、慶弔録、清宮御婚儀録、貴子内親王殿下御婚儀一件

二十日 土曜日 午前、謁見の間において、新任のイラン国特命全権大使ジャワード・サドル及び同夫人、ハイチ国特命全権大使ヴィクトール・ヌヴェール・コンスタン及び同夫人、インドネシア国特

昭和三十五年二月

命全権大使バンバン・スゲン及び同夫人並びに息女を、それぞれ御引見になる。○女官長日記、女官日誌、

内舍人日誌、謁見録、宮内庁庁報

午後、義宮御殿にお出ましになり、鷹司和子と共に黄心樹歌会に臨まれる。後刻、天皇及び貴子内親王も歌会に御参加になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

英国女王エリザベス二世の王子^{アンドリュー}昨十九日誕生につき、この日、天皇・皇后より女王に祝電をお送りになる。これに対し、二月二十三日答電が寄せられる。○外交慶弔録、宮内庁庁報、官報、儀礼軌範

二十一日 日曜日 午前、仁孝天皇例祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、

侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、恒例祭祀録、宮内庁庁報

二十三日 火曜日 午前、御文庫において、天皇より皇孫に賜う御剣等を御覧になる。○女官日誌、徳仁

親王御誕生録

午後四時十五分、皇太子妃が宮内庁病院において親王を出産する。本件は、直ちに当番侍従松平潔より御文庫の天皇・皇后に言上される。天皇・皇后は、お慶びのお言葉を松平を通じ東宮職にお伝えになる。その後、天皇と共に、宮内庁長官の拝謁をお受けになった後、お慶びのため参殿した東久邇盛厚・同夫人成子・同息女文子と御対面になる。ついで皇孫及び皇太子妃との対面を終えて参殿した皇太子と御対面になる。

皇孫誕生に際し、この日、天皇・皇后より皇太子・同妃にそれぞれ五種交魚代料を御贈進になる。また、皇孫に対し、皇后より女官長を御使として差し遣わされ、お品を御贈進になる。○女官長日記、女官

日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、徳仁親王御誕生録、徳仁親王殿下御誕生記録、浩宮殿下御誕生関係書類、宮内

庁序報、官報

二十四日 水曜日 皇孫誕生につき、午前、天皇及び皇太子と共に拝謁の間において、宮内庁長官始め総代、皇族・元皇族等、内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官、島津久永の拝賀を順次お受けになる。ついで天皇と共に、女官長始め女官等、元奉仕者、元女官等の拝賀をお受けになる。その後、お一方にて御学友・御同級生の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日誌、内舍人日誌、徳仁親王御誕生録、浩宮殿下御誕生関係書類、宮内庁序報

侍従職日誌、内舍人日誌、徳仁親王御誕生録、浩宮殿下御誕生関係書類、宮内庁序報

来る三月十日貴子内親王結婚につき、秩父宮・高松宮・三笠宮の招待によるお別れの晩餐に御臨席のため、午後五時四十一分天皇と共に御出門、秩父宮邸に行啓される。貴子内親王及び皇太子・正仁親王、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子が出席する。九時九分還啓される。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、貴子内親王殿下御婚儀一件、宮内庁序報

皇孫誕生につき、天皇・皇后及び皇太子・同妃は、この日午前九時から午後一時まで坂下門外記帳所において、またこの日の午後一時から四時まで、及び翌二十五日の午前九時から正午まで坂下門内丸池付近記帳所において、一般からの記帳をお受けになる。○徳仁親王御誕生録、儀式録

二十五日 木曜日 午前、天皇と共に宮内庁病院にお出ましになり、二階御休所において皇太子と御対面になる。ついで東宮侍医長佐藤久・宮内庁御用掛小林隆東京大
学教授より経過説明をお聞きになる。その後、白衣をお召しになり、御静養室において皇太子妃をお見舞いになり、皇孫と初めて御対面になる。

○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、浩宮殿下御誕生関係書類、宮内庁序報

来る三月十日貴子内親王結婚につき、天皇及び皇太子・正仁親王・貴子内親王・東久邇盛厚・同夫人

昭和三十五年二月

成子・鷹司和子と共に御文庫において、御晚餐を御会食になる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日誌、内舍人日誌

二十六日 金曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、来日中のギリシャ国王族ピーター及び同妃アイアリーと御会見になる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、外賓参内録、宮内庁庁報

来る三月十日貴子内親王結婚につき、天皇と共に西の間において、菊栄親睦会会員をお招きになり、午餐の御陪食を賜う。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宣召録、清宮御婚儀録、貴子内親王殿下御婚儀一件、宮内庁庁報

午後七時二十分御出門、京橋テアトル東京に行啓され、財団法人結核予防会主催特別招待試写会に御臨席になる。同会会長島津忠承の先導にて館内に入られ、総裁故雍仁親王妃勢津子以下の同会役員等のお出迎えをお受けになる。ついで二階観覧席に着席され、皇太子・正仁親王・貴子内親王・故雍仁親王妃・宣仁親王・同妃喜久子・崇仁親王妃百合子ほかと共に、ポリシヨイ・バレエ団出演の映画「白鳥の湖」を御覧になる。終了後、九時八分還啓される。なお、この行啓に当たり、財団法人結核予防会に金一封を賜う。○女官長日記、女官日記、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

二十八日 日曜日 来る三月十日貴子内親王結婚につき、茶会を催される。午後、天皇及び皇太子・正仁親王・貴子内親王と共に花蔭亭にお出ましになる。崇仁親王・同妃百合子のほか皇族・元皇族・御親族等三十三方が出席する。ペランダ西方の階段にお並びになり、記念写真の撮影に応じられた後、御歓談になる。ついで東伏見慈洽のピアノ伴奏にて、東久邇成子ほかによる女声合唱、鷹司平通によ

る独唱が行われた後、一同の希望により、同じく東伏見慈治のピアノ伴奏にて皇后が「アベ・マリア」を独唱される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、清宮御婚儀録、宮内庁庁報

二十九日 月曜日 皇孫誕生七日目に当たり、午前八時五十分、宮内庁病院において浴湯の儀が行われる。十一時、東宮仮御所において命名の儀が行われる。皇孫は、徳仁と命名され、浩宮と称する。

命名の儀とほぼ同時刻、賢所皇靈殿神殿に誕生命名奉告の儀が行われる。また、天皇・皇后の御使として女官長を東宮仮御所に差し遣わされ、皇太子・同妃それぞれに五種交魚代料を、徳仁親王に鮮鯛代料及び御初召一重を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、臨時祭祀録、徳仁親王御誕生録、徳仁親王殿下御誕生記録、浩宮殿下御誕生関係書類、宮内庁庁報、官報

正午前、天皇と共に拝謁の間において、皇太子と御対面になる。ついで皇孫命名につき、宮内庁長官始め総代の祝賀を、続いて衆議院議長・参議院議長の賀詞奉呈を天皇及び皇太子と共に受けになる。正午より、天皇と共に西の間において、内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官及びその配偶者の祝賀を受けになる。夕刻、天皇及び皇太子と共に表三の間において、菊栄親睦会会員等の祝詞をお受けになり、続いて西の間において御晩餐の御陪食を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、徳仁親王御誕生録、浩宮殿下御誕生関係書類、宮内庁庁報

三月

二日 水曜日 貴子内親王の誕生日につき、午前、天皇及び同内親王と共に拝謁の間において、宮内庁長官始め総代の拝賀をお受けになる。ついで御座所において、女官等の拝賀をお受けになる。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

四日 金曜日 午後、宮内庁病院にお出ましになり、皇太子妃をお見舞いになり、吹上御苑産の花等を賜う。徳仁親王と御対面になり、皇太子妃と御対話の後、御文庫にお戻りになる。○女官長日記、女官

日誌、内舎人日誌、幸啓録

六日 日曜日 この日、満五十七歳のお誕生日を迎えられる。

午前、天皇が拝謁の間において宮内庁長官始め総代の拝賀をお受けになった後、天皇と共に内廷庁舎の御座所において、東久邇信彦^{御孫}・同優子^同と御対面になる。その後、皇后お一方にて、拝謁の間において宮内庁長官始め各部長等、続いて側近奉仕者の拝賀をお受けになる。ついで西の間において皇太子始め皇族、元皇族、元王族、御縁故者、続いて内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官等及びその配偶者の拝賀を、拝謁の間において島津久永、元皇太后宮女官等、続いて元宮内庁長官及び元側近奉仕者の拝賀をお受けになり、内廷西玄関前において宮内庁職員・皇宮警察本部職員に御会釈を賜い、皇后御進講室において元皇后宮女官・元女官等の拝賀をお受けになる。

午後、常侍官候所脇階段下において元女孀等に御会釈を賜い、拝謁の間において元学習院女学部教授佐野正造・元女子学習院教授松島彝及び御同級生六名の拝賀をお受けになる。その後、皇族休所において、来る十日に結婚する貴子内親王のかつら合わせの仕上げの様子を御覧になる。○女官長日記、女官

日誌、内舎人日誌、典式録、儀式録

この日、お誕生日につき、ギリシヤ国及びデンマーク国王族ピーター・同妃アイアリンより祝電をお受けになる。これに対し翌七日、答電をお送りになる。○外交慶弔録、典式録、宮内庁報

七日 月曜日 来る十日貴子内親王と島津久永結婚につき、午後、天皇と共に西の間において、朝見の儀に臨まれる。式中、御前に参進した貴子内親王より謝恩の辞をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。ついで天皇・皇后より同内親王にそれぞれ御盃を賜う。儀終了後、天皇と共に御退出になる。なお、朝見の儀に先立ち、午前、同内親王の賢所皇霊殿神殿に謁するの儀が行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、慶弔録、臨時祭祀録、祭典録、清宮御婚儀録、貴子内親王殿下御婚儀一件、宮内庁庁報、官報

八日 火曜日 祐子内親王の命日につき、午前、お出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌、典式録

九日 水曜日 御文庫において、翌十日結婚の貴子内親王送別の御晩餐が催され、天皇と共に貴子内親王及び皇太子・正仁親王・池田厚子と御会食になる。御会食前に、天皇と共に、貴子内親王とお別れの盃を交わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十日 木曜日 貴子内親王と島津久永の結婚につき、午前九時五十分より拝謁の間において、貴子内親王の入第の儀が挙行される。ついで天皇と共に表御座所において、同内親王と御対面になり、お別れの挨拶をお受けになる。終わって十時三十九分天皇と共に御出門、光輪閣に行啓され、結婚式に御参列になる。神前の結婚式後、天皇及び島津久永・貴子と共に報道関係者による写真撮影に応じられる。十一時四十二分還啓される。

午後、天皇と共に拝謁の間において、宮内庁長官始め総代及び侍従職員等の拝賀をお受けになる。ついで伏見朝子始め元皇族・元王族等の拝賀を、続いて内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最

高裁判所長官の拝賀をお受けになり、また、元側近奉仕者の拝賀及び祝詞をお受けになる。御夕餐は、天皇及び皇太子・正仁親王と共に御文庫において、お祝御膳を御会食になる。なお、結婚に伴い貴子内親王は皇族の身分を離れる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、臨時祭祀録、慶弔録、幸啓録、清宮御婚儀録、貴子内親王殿下御婚儀一件、宮内庁庁報、官報

十一日 金曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、島津久永・同夫人貴子と御対面になり、昨日の結婚式御臨席等のお礼をお受けになる。なお、昨日島津久永・貴子の結婚式滞りなく終了につき、御代拝のため天皇・皇后より多摩陵^{大正天}・多摩東陵^{貞明皇}に侍従徳川義寛を御差遣になる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

午後、天皇と共に宮内庁病院にお出ましになり、翌十二日退院予定の皇太子妃をお見舞いになり、また徳仁親王の様子を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録

十二日 土曜日 午後、天皇と共に拝謁の間において、島津久永・同夫人貴子の結婚の媒酌人を務めた坊城俊良・同夫人朔子の拝謁をお受けになり、ついで島津久子の拝謁をお受けになる。引き続き天皇と共に、島津久永・同夫人貴子の結婚を祝して催された、菊栄親睦会会員及び坊城夫妻・島津久子を招いての茶会に臨まれる。表三の間において出席者より挨拶をお受けになり、表一の間においてお茶を供される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、清宮御婚儀録、貴子内親王殿下御婚儀一件、宮

内庁庁報

十四日 月曜日 翌十五日故久邇朝融百日祭につき、午後一時五十三分御出門、久邇邸に行啓される。御着後、霊殿に御拝礼になる。なお、御拝礼に当たり、霊前に菓子をお供えになる。その後、故朝融

の子女御甥・御姪と御対面になり、学習院大学に進学する久邇朝建・同典子、及び学習院高等科に進学する同朝宏にそれぞれお祝いの品を賜う。四時二十二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、幸啓録、贈賜録、宮内庁序報

十五日 火曜日 故久邇朝融の百日祭につき、御文庫にて終日お過ごしになる。天皇・皇后の御使として権舎に侍従松平潔を、墓所に侍従小畑忠を差し遣わされ、拝礼させられる。また、天皇・皇后より権舎に盛菓子・榊を、墓所に榊をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、久邇朝融殿葬去関係書類、久邇朝融殿葬儀録

十六日 水曜日 午後五時五十三分天皇及び正仁親王と共に御出門、鷹司邸に行啓され、島津久永・同夫人貴子の結婚を祝して皇太子始め兄弟姉妹により催された内宴に御臨席になる。島津夫妻、鷹司平通・同夫人和子のほか、皇太子、東久邇盛厚・同夫人成子及び同子女信彦・文子・秀彦・真彦・優子、池田隆政・同夫人厚子が出席する。御一緒に御夕餐を御会食になり、八時四十九分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁序報

十八日 金曜日 天皇と共に表一の間において、この度離任のイスラエル国特命全権公使アミエル・エミール・ナジャール及び同夫人、新任のイラン国特命全権大使ジャワード・サドル及び同夫人、ハイチ国特命全権大使ヴィクトル・ヌヴェール・コンスタン及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、謁見録、宮内庁序報

祐子内親王三十三回忌法要執行の長福寺に、菓子・香料をお供えになる。○女官長日記

二十日 日曜日 午前、春季皇霊祭及び同神殿祭につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

昭和二十五年三月

誌、内舎人日誌、典式録、恒例祭祀録、宮内庁序報

二十三日 水曜日 午前九時五十二分天皇と共に御出門、新宿御苑に行啓される。御着後、大温室内の椰子室・サボテン亜熱帯室・花卉観葉室・蘭室を、それぞれ御巡覧になる。終わって管理事務所において御少憩の後、日本庭園内を御巡覧になり、午後零時一分還啓される。なお、この行幸啓は去る二月二十四日に予定されていたが、皇太子妃の入院のため延期されていた。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁序報、官報、毎日新聞

二十五日 金曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、日本放送協会の招待により来日中の国際連合事務次長ラルフ・J・バンチノーベル平和賞受賞者及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、謁見録、宮内庁序報

午後、天皇と共に拝謁の間において、ドイツ連邦共和国駐劄特命全權大使武内竜次より同国事情についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、稲田周一関係資料

二十六日 土曜日 天皇と共に北の間において、国賓として来日したドイツ連邦共和国首相コンラット・アデナウアーのため、宮中午餐を催される。この度の来訪に際し、同首相に天皇・皇后より御紋付銀製花瓶等を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、外賓接待録、賜与録、外交贈答録、宮内庁序報

二十九日 火曜日 天皇と共に表一の間において、参与の小泉信三・勝沼精蔵をお招きになり、午餐の御陪食を賜う。なお、同じく参与の加藤武男もお招きになるが、風気のため欠席する。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宣召録

三十日 水曜日 日本赤十字社第十回代議員会に同社名誉総裁として御臨席のため、午前十時十二分御出門、同社に行啓される。御着後、総裁室において、名誉副総裁の故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子と御対面になり、東京都知事東竜太郎・日本赤十字社社長島津忠承・同副社長葛西嘉資の拝謁をお受けになる。それより式場に臨まれ、島津社長の開会の辞に続き、金色有功章受章者総代七名、章銀の有功章受章者総代二名、金色特別社員章受章者総代三名、章銀の特別社員章受章者総代一名にそれぞれの記章及び章記を親授される。ついで次のお言葉を賜う。

第十回代議員会に臨み、かねて赤十字のために尽力されている皆さんに、親しく接することのできましたことを、嬉しく思います。

日本赤十字社は、創立以来今日まで、いろいろな事業を通じて人々に奉仕するとともに、国際的な役割を果たしてきましたが、人道と博愛を基調とする赤十字の使命と任務は、ますます重要性を加えて来るものと思えます。

社員並びに役職員の皆さんは、今後とも赤十字の活動を大きく推進してゆくために力を合わせ、内は、国民の期待に応え、外は、各国の赤十字と提携いして、世界の平和と、人類の福祉のために貢献するよう希望します。

島津社長の奉答と厚生大臣の挨拶次官代読の後、退場され、副総裁室において、赤十字国際委員会駐日代表ハリー・C・アングスト及び同夫人ほかに御会釈を賜う。終わって写真場において記念写真の撮影に臨まれ、十一時十七分還啓される。なお、本代議員会において皇太子妃を日本赤十字社名誉副総裁に推戴することが議決され、四月に至り皇后の聴許を得る。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、宮内庁庁報、日本赤

昭和二十五年四月

十字社社史稿

午後五時五十一分御出門、天皇と共に京橋テアトル東京に行啓され、社会福祉法人恩賜財団済生会主催の慈善有料試写会に御臨席になる。米国映画「ベン・ハー」を御覧になり、前半終了後には御休所脇において主演チャールトン・ヘストンほかに御会釈を賜う。十時十三分還啓される。なお行幸啓に際し、天皇・皇后より済生会に金一封を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

昨二十九日皇太子妃のお清めが行われ、この日天皇・皇后より同妃に三種交魚代料を賜う。○女官長日記、浩宮殿下御誕生関係書類

三十一日 木曜日 午前、英語進講者エスター・ビドル・ローズの最終進講をお聴きになる。終わって、近日中に帰国予定のローズを伴われ、紅葉山よりお成道周辺を御散策になる。○女官長日記、女官日誌

拝謁の間において、この度退官の元皇子傳育官竹田倭子・同山川正子、元侍医横手英一ほか四名の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、恩賜録、贈賜録、宮内庁庁報、官報

四月

一日 金曜日 午後、拝謁の間において、この日発令の皇居造営主管高尾亮一・皇室経済主管小畑忠・侍従職事務主管徳川義寛ほか四名の拝謁を天皇と共にお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮内庁庁報、官報

二日 土曜日 女子学習院御卒業後四十年につき、午後、元教員及びあけぼの会会員をお召しになる。北御車寄門内に待ち並ぶ一同より拝謁をお受けになった後、紅葉山からの景観、義宮御殿の庭、賢所脇の桜などを御案内になる。ついで義宮御殿庭口の石段にて記念写真の撮影をお受けになる。その後、奥三の間において、一同にお茶を賜い御談笑になる。その際、「あけぼの」の合唱をお聴きになる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

マラヤ連邦国王トウアंक・アブドウル・ラーマン昨一日崩御につき、この日、天皇・皇后より弔問使として侍従小川真三を同国大使館に差し遣わされる。○侍従日誌、慶弔録、儀礼規範

三日 日曜日 午前、神武天皇祭皇霊殿の儀につき、御拝礼になる。夕刻、皇霊殿御神楽の儀につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、恒例祭祀録、宮内庁庁報

四日 月曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午後三時五分御出門、四時四十分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓書類綴、宮内庁庁報、官報

カンボジア国国王ノロドム・スラマリット昨三日崩御につき、この日、天皇・皇后の弔問使として侍従松平潔を同国大使館に差し遣わされる。○侍従日誌、侍従職日誌、慶弔録、儀礼規範

五日 火曜日 地方事情を御視察のため、天皇と共に東京都大島町に行啓される。午後零時二十分葉山御用邸を御出門になる。横須賀港久里浜日魯漁業岸壁より海上保安庁のお召し船「拓洋」に御乗船になり、大島元村港に御着、五時十分御泊所大島小涌園に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓書類綴、宮内庁庁報、官報、東京都庁所蔵資料

六日 水曜日 午前九時三分天皇と共に御泊所大島小涌園を御出発、三原山外輪山の御神火茶屋に御着になり、三原山中央火口丘を遠望される。ついで気象庁大島測候所、大島西南部に位置する砂浜海岸の断層地帯、波浮港見晴台、東京都水産試験場大島分場を御視察になる。終わって岡田港をお召し船「拓洋」にて御出港、横須賀港長浦岸壁に御着後、午後五時二十五分葉山御用邸に御到着になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓書類綴、宮内庁庁報、官報、天皇皇后両陛下をお迎えして

七日 木曜日 午後、葉山御用邸を御出門、横須賀市秋谷のエスター・ビドル・ローズの別荘に行啓される。二階において、メリー・ハル・チャペルローズの後任の英語進講者の賜謁の後、ローズが採集した貝を御覧になり、また海を眺望される。ついで階下において、ローズ及びチャペルほかとお茶を召し上がり、御用邸に還御される。○女官長日記、女官日誌、葉山行幸啓書類綴

元衆議院議長林譲治去る五日死去につき、天皇・皇后より賜物使並びに枢前使として、侍従入江相政を同人邸に差し遣わされ、祭筵料及び生花を賜い、焼香させられる。○侍従日誌、侍従職日誌、賜与録、宮内庁庁報

九日 土曜日 午後、参邸の前田青邨より、昨八日御使の女官長を通じ御披露の御絵についての講評等をお聞きになり、種々御質問になる。また、前田より画集の献上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、葉山行幸啓書類綴

十日 日曜日 午後三時、天皇と共に葉山御用邸を御出門、四時三十九分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓書類綴、宮内庁庁報

天皇及び皇太子・同妃・正仁親王と共に御文庫において、御夕餐を御会食になる。天皇・皇后より、徳仁親王出産後初めて参殿した皇太子妃に、お品を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職

日誌、内舍人日誌、浩宮殿下御誕生関係書類、宮内庁庁報

十一日 月曜日 午前、謁見の間において、新任のオランダ国特命全権大使ニコラース・アリー・ヨハネス・デ・フォーフト及び同夫人、イラク国特命全権大使ファーデル・ワヒード、チェコスロバキア国特命全権大使ドロミル・イエツチニー及び同夫人、エルサルバドル国特命全権公使ワルテル・ベネケ・メデイーナを順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、謁見録、宮内庁庁報

十二日 火曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、皇太子妃に伴われ初参内した徳仁親王と御対面になる。天皇より親王に御盃を賜い、ついで皇太子妃よりお礼言上をお受けになる。初参内に際し、天皇・皇后より皇太子・同妃に五種交魚代料を、皇太子妃に白絞縮緬等を、親王に白絞縮緬・御台人形代料等を御贈進になる。なお、この日の徳仁親王賢所皇霊殿神殿に謁するの儀に際し、天皇・皇后より親王に御童形服を賜う。この日は親王誕生五十日に当たる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、臨時祭祀録、徳仁親王御誕生録、浩宮殿下御誕生関係書類、宮内庁庁報

午後、天皇と共に皇居広庭において、園遊会を催される。昨年十一月に開催予定であったが、台風十号^{伊勢湾}により、この日に延期された。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、庁規

例規朝儀諸綴、園遊会録

十三日 水曜日 午前、天皇と共に奥二の間において、エチオピア国顧問団長池田純久より、同国の皇室及び宮廷、並びに同国の風土・産業等についての進講をお聴きになる。続いて同国に関する映画

昭和二十五年四月

を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、賜与録

昨日徳仁親王初参内滞りなく終了につき、午後五時三十八分天皇と共に御出門、東宮仮御所に行啓される。御着後、皇太子・同妃と御対面になり、正仁親王も交え御晚餐を御会食になる。八時四十五分、

正仁親王を伴われ還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、浩宮殿下御誕生聞

係書類、宮内庁序報

十四日 木曜日 午前、天皇と共に表三の間において、松栄会宮内省・宮内府・宮内庁元部局長以上の親睦会春季例会の参加者の拝

謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

来る十八日のネパール国王マヘンドラ・ビル・ビクラム・シャー・デーブ及び同王妃御来日に先立ち、午前から午後にかけて、天皇と共に奥二の間において、ネパール国駐劄特命全権大使那須皓より同国事情についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録

英語進講者エスター・ビドル・ローズこの度帰国につき、天皇と共に同人を花蔭亭にお招きになり、

送別の御夕餐を催される。なお、皇后よりローズに御自筆掛軸撫子と
桔梗及び貝葉山
沖産を、天皇・皇后よりお品

を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、典式録、進講録

十六日 土曜日 夕刻、御文庫において、この度皇室経済主管に転出の前侍従小畑忠の拝謁をお受けになる。ついで天皇と共に、小畑及び元皇后宮女官関松と御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、贈賜録

十八日 月曜日 午前、拝謁の間において、去る十六日に任命された侍従重田保夫の拝謁をお受けに

なる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮内庁序報、官報

午後四時三十五分天皇と共に御出門、東京国際空港に行啓され、国賓として御来日のネパール国国王マヘンドラ・ビル・ビクラム・シャー・デーブ及び同王妃をお出迎えになる。空港行事の終了後、王妃と同乗されて空港を御出発、白金迎賓館に御到着になる。天皇と共に国王・王妃と御歓談の後、六時三十分還啓される。この日、国王・王妃の御入京に際し、皇后より王妃に花束をお贈りになる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、外賓参内録、宮内庁庁報、官報

十九日 火曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、ネパール国国王マヘンドラ・ビル・ビクラム・シャー・デーブ及び同王妃と御会見になる。その際に相互儀礼叙勲があり、国王より天皇・皇后に同国オジャスウィ・ラジャニヤ最高勲章^{頸飾}の御贈進がある。

夜、天皇と共に西の間において、ネパール国国王・同王妃をお招きになり宮中晚餐を催される。引き続き、北の間において宮中夜会を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内

録、宮内庁庁報、官報

二十日 水曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、日本政府の招待により来日中のアラブ連合共和国国務大臣アリ・サブリ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人

日誌、典式録、謁見録、宮内庁庁報

天皇と共に表一の間において、この度離任のオーストリア国特命全権大使フランツ・ライトナー及び同夫人・息女二名、新任のインドネシア国特命全権大使バンバン・スゲン及び同夫人、エルサルバドル国特命全権公使ワルテル・ベネケ・メディーナをお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官

日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、外交贈答録、宮内庁庁報

去る二月上旬の貴子内親王の学習院大学退学につき、この日、天皇・皇后より学校法人学習院に金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報、読売新聞

二十一日 木曜日 午前、内廷庁舎において、メリー・ハル・チャペルより英語の進講を初めてお聴きになる。これ以降、チャペルによる英語の進講を木曜日を中心にお聴きになる。進講後、御進講室において、帰国の暇乞いのため参内したエスター・ビドル・ローズの拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

午後七時十九分天皇と共に御出門、光輪閣に行啓され、ネパール国王マヘンドラ・ビル・ビクラム・シャー・デーブ及び同王妃御主催の晩餐会に御臨席になる。御着後、食堂において晩餐会に臨まれ、御会食後、九時四十六分還啓される。この度の御訪日に際し、天皇・皇后より国王に九谷焼色絵更紗文大花瓶を、王妃に西陣織^聚及び紅葉山御養蚕所製の婦人洋服地^{ブロード、水}を、随員の同国第二王子デイレンドラ・ビル・ビクラム・シャー・デーブに写真機^{フィルム}をそれぞれ御贈進になる。また、同国王・王妃より天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后には孔雀置物、パシユパテイ寺院置物、象牙製宝石箱、パスマナ毛布、寢室用ネパール・スリッパが贈られる。翌日には、皇后より第二王子に玩具^{バス、飛行機}を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、外賓参内録、賜与録、

外交贈答録、宮内庁庁報、官報

二十二日 金曜日 午前、天皇と共に旧北御車寄門内において、身体障害者福祉法施行十周年記念身体障害者福祉大会にて厚生大臣から表彰された、身体障害者で自立更生し他の模範となる者、身体障

害者の更生援護に功労のあった者、身体障害者福祉行政に功労のあった者等に御会釈を賜う。厚生事務次官安田巖の挨拶をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮内庁庁報

天皇と共に謁見の間において、旅行中のギリシャ国王族マリー同国王パウロ、スー一の叔母及び同ユーージェニーマリーの息女

同タチアナユーージェニーの息女と御会見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、外賓参内

録、宮内庁庁報

去る三月光輪閣旧高松宮邸本館を島津貴子の結婚式場として使用につき、この日、天皇と共に御文庫に宣仁親

王・同妃喜久子を招待され、御夕餐を御会食になる。御食後、正仁親王も交えて御歓談になる。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十三日 土曜日 午前、謁見所において、あけぼの会会員三名の拝謁をお受けになり、去る二日お

召しのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

二十五日 月曜日 天皇と共に表一の間において、この日御離京のネパール国王マヘンドラ・ピ

ル・ビクラム・シャール・デーブ及び同王妃のため宮中午餐を催される。なお、ネパール国王妃からの

御希望により、後日、皇后よりお写真御署名、御紋付銀製枠を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日

誌、内舎人日誌、外賓参内録、宮内庁庁報、官報

二十六日 火曜日 身体障害者福祉法施行十周年記念「身体障害者福祉展」を御覧になるため、午前

九時四十五分天皇と共に御出門、日本橋三越に行啓される。御着後、会場において、厚生省関係の図

版、補装具展示場におけるそれぞれの展示品、各福祉団体関係の図版を御巡覧になる。最後に盲導犬

昭和二十五年四月

訓練の実演、ピアノの調律等を御視察になり、十一時六分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

午後、旧北御車寄門内において、財団法人結核予防会総裁故雍仁親王妃勢津子より表彰された事業功
労者四十四名及び係員五名に御会釈を賜う。同会理事長山口正義の挨拶をお受けになり、次のお言葉
を賜う。

結核予防事業の推進に立派な業績をあげた市町村として、表彰を受けたことを喜ばしく思いま
す。

結核の予防措置、治療、療養指導を充分に行つて、この病気を撲滅することは、国民保健上欠
くことのできない大切な仕事であると思ひます。

関係の皆さんが、この事業をさらに充実させていくには、いろいろと苦勞もありましようが、
今度とも一層努力して明るい健康な社会が営まれることを望みます。

○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、典式録、宣召録、宮内庁庁報、財団法人結核予防会五十年のあゆみ

二十七日 水曜日 午前、拝謁の間において、この度バラグアイ国へ赴任の特命全権公使山津善衛及
び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に拝謁の間において、昨年九月十二日に結婚した伏見博明^{元皇族}・同夫人和子の拝謁をお
受けになる。天皇・皇后より同夫妻それぞれに万那料・洋服地及びお品を賜う。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

二十九日 金曜日 天皇誕生日につき、午前、拝謁の間において、宮内庁長官始め総代の拝賀をお受

けになる。その後、天皇及び皇太子・同妃・正仁親王と共に皇居広庭にお出ましになり、一般参賀を七回にわたりお受けになる。各参賀の間に、拝謁の間において皇太子始め皇族・元皇族・元王族・御縁故者の、皇后陛下御座所において元女官等の、両陛下御座所において皇太子妃・徳仁親王の拝賀を順次お受けになる。

正午過ぎ、御進講室において内宴を催され、皇太子妃・故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子と御会食になる。午後四時、天皇と共に西の間において、天皇誕生日茶会の儀に臨まれる。皇太子・同妃始め皇族が陪席し、外国交際官等が出席する。その際にお一方にて、新任のヨルダン国特命全権公使サビト・エル・ハリリデイ及び同夫人、ローマ法王庁公使大司教ドメニコ・エンリチを御引見になる。天皇誕生日に当たり、天皇にお祝いの品をお贈りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、謁見録、宮内庁庁報、官報

五月

二日 月曜日 午前、拝謁の間において、新任の女官久保喜美子及び前任の女官雪井よし子去る四月三十日退職ほか一名の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、恩賜録、贈賜録、宮内庁庁報、官報

四日 水曜日 午前、拝謁の間において、この度ギリシャ国に赴任の特命全権大使黒田音四郎及び同夫人、ジュネーブ国際機関日本政府代表部へ赴任の特命全権公使青木盛夫及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、拝謁録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に拝謁の間において、来る十五日島津忠広と結婚の北白川肇子、及び北白川房子・同祥子肇子の母・同道久肇子の兄の拝謁をお受けになる。天皇・皇后より肇子・房子・祥子・道久それぞれに万那料及びお品を賜う。これとは別に道久に鮮鯛代料等を、肇子に扇子代料等を賜う。○女官長日記、女官日記、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

五日 木曜日 徳仁親王初節句につき、天皇・皇后より皇太子・同妃に五種交魚代料を、徳仁親王に五種交魚代料・檜兜代料・粽をそれぞれ御贈進になる。○女官長日記、浩宮殿下御誕生関係書類

六日 金曜日 トルコ古代美術展毎日新聞社主催、外務省・文部省・駐日トルコ大使館・文化財保護委員会・東京国立博物館・日本オリエント学会・日本考古学会後援を御覧になるため、午

前九時三十六分天皇と共に御出門、上野松坂屋に行啓される。御着後、五階会場において、ヒツタイトからオスマントルコ時代までのトルコの美術品を御巡覧になる。十一時六分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、毎日新聞

去る四月一日から十月三十一日まで第五回ユニセフ協力募金運動を実施中の財団法人日本ユニセフ協会に、御奨励金を賜う。○女官長日記、賜与録、宮内庁庁報

英国王女マーガレットこの日結婚につき、天皇・皇后より同国女王に祝電をお送りになる。十二日答電が寄せられる。○外交慶弔録、宮内庁庁報、官報

七日 土曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

八日 日曜日 母の日につき、御文庫において皇太子・同妃と御対面になる。皇太子・同妃より皇后にカーネーションが贈られる。御昼餐を御会食後、内廷西玄関前において、東京都主催の「母の日」

大会参会者に御会釈を賜う。代表者岸クミ東京都母子福祉連合会よりカーネーションの花束をお受けになり、次のお言葉を賜う。

今日の母の日に皆さんにお会いすることが出来て、誠にうれしく思います。

また皆さんの心のこもったお花を有難う。母の日を機会に、なお修養に心がけ、丈夫で立派な母として、次の世を背負う明るく、丈夫な子供を育てるようお願いいたします。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宣召録、宮内庁庁報

九日 月曜日 山形県にて開催される昭和三十五年度植樹行事に御臨場、併せて山形・福島両県内の産業及び社会福祉の施設等を御視察のため、天皇と共に両県に行啓される。午前九時三十五分御出門、原宿駅より米沢駅を経て、上ノ山駅にお着きになり、午後四時三十分御泊所村尾旅館に御到着になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、みどりの山形行幸啓誌

十日 火曜日 午前十時十五分天皇と共に御泊所村尾旅館を御出発、蔵王山麓の植栽地植樹行事並びに国土緑化大会会場、上市市大

宇小倉字大森山にお着きになる。国土緑化推進委員会委員長清瀬一郎衆議院議長・山形県知事安孫子藤吉・国土緑化

推進委員会副委員長大村清一の介添えにて、天皇に続き、シラハタマツ三本を植樹される。終わって山形県立ゆきわり整肢学園を御視察になる。ついで山形県庁を御訪問になる。展示品を御覧になり、県民の歓呼にお応えになる。御昼食後、山形県林業指導所に臨まれ、御播種地において天皇はスギを、皇后は国土緑化推進委員会副委員長徳川宗敬の介添えにてシラハタマツの種子をお播きになる。つい

昭和三十五年五月

でオリエンタルカーペット株式会社を御視察になる。終わって羽前山辺駅より上ノ山駅を経て、午後五時三十五分御泊所村尾旅館にお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、みどりの山形行幸啓誌

十一日 水曜日 午前九時三十分天皇と共に御泊所村尾旅館を御出発、長谷川合名会社を御訪問になり、自動操糸機による繭から糸を紡ぐまでの工程を御覧になり、繭を御手に取られるなど御関心を示される。ついで佐藤織物株式会社を御視察になる。米沢市中央公民館において御昼食の後、株式会社田村電機製作所米沢工場を視察される。続いて猪俣工業有限会社を御視察になり、製品展示室において絹織物に御関心を寄せられ、玉糸の需要事情について種々御下問になる。終わって米沢駅より福島駅を経て、午後四時十五分、福島県飯坂町の御泊所花水館に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、みどりの山形行幸啓誌

十二日 木曜日 午前十時三十分天皇と共に御泊所花水館を御出発、福島県立福島盲学校・福島ろう学校・福島光寮を御視察になる。ついで福島県庁を御訪問になり、県民の奉迎にお応えになる。これをもって山形・福島両県内の御視察日程を終えられ、午後一時四十分福島駅を御出発、黒磯駅を経て、四時三十分那須御用邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報、官報、天皇皇后両陛下をお迎えして

十三日 金曜日 午前、天皇と共に正面玄関において、鯉の献上のため参邸した那須町長山口幸太郎・同町議会議長笹沼賢弥に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌

午前、天皇と共に小深堀にお出ましになり、植物を御調査になり、植物及び茶白山のスケッチ等をさ

れる。十五日にも天皇と共に植物を御調査になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

十六日 月曜日 午後零時五十分天皇と共に那須御用邸を御出門、四時十分皇居に御到着になる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報、官報

十七日 火曜日 午前、貞明皇后例祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮内庁庁報

十八日 水曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、日本銀行総裁の招待にて来日中の元ベルギー国中央銀行総裁モーリス・フレール及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、謁見録、宮内庁庁報

午後五時三十五分天皇と共に御出門、東宮仮御所に行啓される。二階にて皇太子・同妃と御歓談の後、車寄において徳仁親王初節句の鯉のぼりを御覧になり、庭を御散策になる。五月人形が飾られた食堂において御夕餐を御会食の後、二階において徳仁親王と御対面になり、御一緒に写真撮影をお受けになる。八時五十一分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

十九日 木曜日 午後、天皇と共に早春亭において、藍綬褒章を授与された文部省関係の教育功労者等に御会釈を賜う。学校法人京浜学園理事長松本生太京浜女子商業
高等学校長の挨拶をお受けになり、天皇に続いて、

お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮内庁庁報
紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

二十日 金曜日 大相撲五月場所十三日目を御覧になるため、午後三時三十分天皇と共に御出門、初めて蔵前国技館に行啓され、幕内力士の土俵入りから結びの一番まで御覧になる。六時二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十一日 土曜日 午後、御文庫において、侍従入江相政より貞明皇后の御歌集の装幀についての言上をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌

二十二日 日曜日 彦見会邦彦王・同妃
親子関係の会に御臨席になるため、午前十一時十八分御出門、白金迎賓館に行啓される。御着後、皇太子・同妃等のお出迎えをお受けになり、御食堂にお出ましになる。御挨拶の後、お庭を参会者と共に一巡され、それより御会食になる。御食後、皇太子・同妃を伴われ二階に上られ、病氣治療中のため同館滞在中のネパール国王王子をお見舞いになり、御持参のお見舞品をお贈りになる。その後、広芝にて記念写真の撮影をお受けになり、午後三時十六分還啓される。この日の行啓に際し、彦見会に金一封を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、幸啓録、宮内庁庁報

二十三日 月曜日 日本赤十字社中部六県支部連合社員大会に御臨席のため、愛知県に行啓される。午前九時四十五分御出門、原宿駅より名古屋駅を経て、午後三時五十五分御泊所の名古屋観光ホテルに御到着になる。その後、拝謁室において、愛知県知事桑原幹根・同県議会議長橋本繁蔵・名古屋市長小林橘川及び同市会議長大西泰助の拝謁をお受けになる。ついで桑原知事より、台風十五号伊勢湾
台風被害の復旧状況につき説明をお聞きになり、お言葉を賜う。御夕食後、会議室にて伊勢湾台風被害復旧状況の映画を御覧になり、ついで物産展示室にて物産を御覧になった後、五階の一室より名古屋城の夜景を御覧になる。終わって謁見所において、御機嫌奉伺に参上した参与勝沼精蔵の拝謁をお受けに

なる。本行啓は、昨年十月に御予定のところ、伊勢湾台風により延期されていた。○女官長日記、女官日記、愛知県行啓書類綴、幸啓録、宮内庁庁報、官報、愛知県庁所蔵資料

二十四日 火曜日 午前九時三十分御泊所名古屋観光ホテルを御出発、熱田神宮に御到着になる。外玉垣御門内の四尋殿内において御修祓の後、正殿階下の御拝座において御拝礼になる。御参拝に当たり、幣帛料・神饌料をお供えになる。その後、伊勢湾台風災害地を御視察になる。船見町貯木場にて愛知県知事桑原幹根の説明を、白水小学校分校前にて名古屋市長小林橘川の説明を、千鳥橋南詰にて桑原知事の説明をそれぞれお聞きになりつつ、現地を御覧になる。御泊所にお戻りになり、御昼食後、日本赤十字社中部六県支部連合社員大会に同社名誉総裁として御臨席のため、名古屋市公会堂へ向かわれる。御着後、御休所において名誉副総裁宣仁親王妃喜久子と御対面になり、厚生政務次官内藤隆、日本赤十字社社長島津忠承、及び同社愛知県支部長桑原幹根^{愛知県知事}、始め富山・石川・福井・長野・岐阜の各県支部長^{各県知事}の拝謁をお受けになる。ついで会場に御臨場になり、赤十字平和宣言朗読、桑原愛知県支部長の式辞に続き、金色有功章・章銀有功章・特別社員章の記章及び章記を受章者総代十八名に御親授になる。ついで社業功労者への社長特別表彰の後、次のお言葉を賜う。

日本赤十字社の中部六県支部連合社員大会に臨み、日頃、赤十字のために尽している皆さんと、親しく接することができましたことを嬉しく思います。

昨年この地方をおそつた伊勢湾台風では、多くの人が被災し、同情に堪えませんが、赤十字は、直ちにこれらの人々の救護に活躍し、今日の復興に寄与しましたことは、まことに心強いものがあります。

昭和二十五年五月

赤十字の使命と任務は、今後、ますます重要性を加えてまいりますので、関係者一同は、これからもいよいよ力を合わせて、赤十字の事業の発展に努め、国民の期待にさうよう希望いたします。

桑原愛知県支部長の奉答の辞があり、島津社長の挨拶、厚生大臣の挨拶政務次官代読の後、御退場になる。御

休所において御少憩の後、各県支部長より支部概要の言上を聴取され、同所御発、六県支部の茶会に御臨席になる。終了後、午後四時御泊所名古屋観光ホテルに還御される。御座所において宣仁親王妃と御対面になった後、御一緒に会議室において、名古屋常磐会会員の茶会に臨まれる。夜、物産展示を御覧になる。○女官長日記、女官日記、愛知県行啓書類綴、幸啓録、宮内庁庁報、官報、事業年報（日本赤十字社）、熱田神宮社務日誌、愛知県庁所蔵資料

デンマーク国王フレデリック九世・同王妃イングリット御成婚二十五周年につき、天皇・皇后より国王・王妃に祝電をお送りになり、また綴錦額やすらいを御贈進になる。○外交贈答録、賜与録、外交慶弔録、

宮内庁庁報、官報

二十五日 水曜日 御泊所名古屋観光ホテル御出発前、愛知県知事桑原幹根の拝謁をお受けになる。

その際、伊勢湾台風被害の復旧に今後も尽力することを願う旨のお言葉を賜う。午前十時五分御泊所名古屋観光ホテルを御発、名古屋第一赤十字病院を訪問される。三階院長室において、病院長桑原庄三郎より、伊勢湾台風災害における同院の活動状況等につき言上をお受けになる。続いて桑原院長ほかの説明にて院内を巡覧され、同階の病室、産室、一階の病室大部屋、アイソトープ治療室を御視察になる。終了後、十一時名古屋駅を御出発、東京駅を経て、午後四時二十一分皇居に還啓される。○

女官長日記、女官日誌、愛知県行啓書類綴、幸啓録、宮内庁庁報、官報、愛知県庁所蔵資料

二十七日 金曜日 天皇と共に、内閣総理大臣の招待により来日中のインドネシア国大統領スカルノのため宮中午餐を催される。天皇により謁見の間に誘引された大統領と挨拶を交わされた後、北の間において午餐を御会食になる。御食後、東の間において御懇談になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、外賓接待録、外賓参内録、宮内庁庁報

チリ地震津波去る二十四日に発生により甚大な被害を受けた宮城・岩手両県及び北海道に、天皇・皇后より御救恤金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

二十八日 土曜日 午前、天皇と共に皇后御座所前において、来る六月十九日に来日予定の米国大統領ドワイト・デイヴィッド・アイゼンハワー等への御贈品を御覧になる。なお、同大統領の来日は、「日本国とアメリカ合衆国との間の相互協力及び安全保障条約」調印をめぐる社会情勢の緊迫化と治安上の問題により、六月十六日に無期延期が決定された。

常磐会総会に御臨席になるため、午後一時二十分御出門、椿山荘に行啓される。御着後、玄関において理事長伏見朝子・会長松平信子ほかのお出迎えをお受けになる。御休所獅子の間において、崇仁親王妃百合子・島津貴子・北川房子・東久邇聡子と御対面後、ガーデン舞台前にお立ちになり、会員による会歌「はなすみれ」の合唱の中、御着席になる。ついで山本東次郎による狂言「鎌腹」を御覧になる。その後、懇親会会場において御歓談になり、余興として常磐会バレエ教室指導員彭城秀子ほか二十一名のバレエを御覧になる。終わって庭内を御散策になり、第三会場にて冷茶をお召し上がりになる。その際、久邇典子

昭和二十五年六月

との写真撮影をお受けになる。四時十三分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、幸啓録、宮内庁庁報
二十九日 日曜日 午前、天皇と共に御文庫において、今般渡米の暇乞いのため参殿の李垠・同夫人
方子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

午後、天皇と共に呉竹寮にお出ましになり、朝彦会故朝彦親王の縁故者による親睦会に御出席になる。同会開催につき、天

皇・皇后より会費として金一封を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

三十日 月曜日 午前九時五十一分天皇と共に御出門、多摩陵・多摩東陵、併せて農林省林業試験場
浅川実験林に行啓される。陵所御休所に御着後、天皇に続き、両陵を御拝礼になる。御休所において
御昼食の後、高尾山国有林日蔭沢に向かわれる。御着後、天皇の山林地帯への御散策の間、天幕内に
おいて林業試験場長斎藤美鷲より付近の山の木々につき説明をお聞きになる。終わって天皇と御一緒
になり、林業試験場浅川実験林において実験林及び庭先の鉢植えを御覧になる。午後五時還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、臨時祭祀録、宮内庁庁報、多摩森林科学園所蔵資料

三十一日 火曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時御出門、十一時四十分同邸に御到
着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、宮内庁
報

六月

二日 木曜日 大聖寺・宝鏡寺・曇華院・光照院・林丘寺・円照寺・中宮寺・法華寺・三時知恩寺・
長福寺・善光寺に、恒例により乾海苔料を賜う。○女官長日記、贈賜録

三日 金曜日 午前、天皇と共に城ヶ島方面にお出ましになり、写生をされる。城ヶ島湾内にて御昼餐の後、御用邸に戻られる。六日にも天皇と共に城ヶ島方面にお出ましになり、写生等にて過ごされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録

ブラジル国特命全権大使ロベルト・メンデス・ゴンサルヴエス病気につき、天皇・皇后より生花を賜う。この日式部官黒田実が同国大使館に持参する。○女官長日記、賜与録、外交贈答録

七日 火曜日 元東宮傳育官石川岩吉国学院大学
名誉学長 昨六日死去につき、天皇・皇后より祭葬料を賜う。これとは別に天皇・皇后より菓子及び切り花を賜う。○女官長日記、恩賜録、贈賜録

九日 木曜日 午前十時二分天皇と共に葉山御用邸を御出門、十一時三十九分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、宮内庁庁報

御文庫工事吹上御住居
造営工事のため、この日より暫時の間、天皇と共に内廷庁舎二階において起居される。これに伴い、従来の拝謁の間が御書齋に、宮内庁第一期庁舎三階の奥一の間が御進講室に、奥二の間が拝謁の間に、奥三の間が皇族休所に充てられる。○女官長日記、侍従日誌、侍従職日誌、庁規例規朝儀諸綴、吹上御所関係書類、例規録、重要雑録、宮殿造営記録

十日 金曜日 午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、繭搔きをされる。○女官長日記、女官日誌

十三日 月曜日 午前、謁見の間において、新任のトルコ国特命全権大使ケマル・ネジャト・カヴル及び同夫人、ギリシャ国特命全権大使ジョルジュ・クスタス及び同夫人、オーストラリア国特命全権大使ロレンス・ルパート・マッキンタイヤー及び同夫人、イスラエル国特命全権公使ダニエル・レウイン及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、宮内庁庁報

十四日 火曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、日本政府の賓客として来日中のオーストラリア国国家開発大臣W・H・スプーナー及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、謁見録、宮内庁庁報

天皇と共に表一の間において、新任のオランダ国特命全権大使ニコラース・アリー・ヨハネス・デ・フオーフト及び同夫人、イラク国特命全権大使ファーデル・ワヒード、チェコスロバキア国特命全権大使ドブロミル・イエツチニー及び同夫人、ローマ法王庁公使大司教ドメニコ・エンリチをお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、謁見録、宮内庁庁報

十八日 土曜日 この日、皇太子・同妃・徳仁親王が、滞在中の葉山御用邸より大宮御所跡に新宮の東宮御所<sup>四月二十七日
落成式挙行</sup>に移居する。移居に際し、天皇・皇后より皇太子・同妃に万那料及びお品を賜う。

なお去る十四日、宮内庁より、東京都港区元赤坂町一番地に新宮の御殿を皇太子の在所と定め、東宮御所と称する旨が告示される。これに伴い、渋谷区常盤松町百一番地常盤松御用邸内の東宮仮御所は廃止される。また、従前の大宮御所は赤坂御用地と改称される。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、東宮録、例規録、賜与録、贈賜録、宮内庁庁報、官報、皇居造営、東宮御所、濟寧

二十一日 火曜日 午後、天皇と共に御進講室において、昨日伊勢より帰京した北白川房子<sup>神宮
祭主</sup>の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十三日 木曜日 徳仁親王箸初につき、天皇・皇后より皇太子・同妃に七種交魚代料を、徳仁親王に御台人形代料及び鮮鯛代料を賜う。○女官長日記、女官日誌、浩宮殿下御誕生関係書類、宮内庁庁報

二十八日 火曜日 正午過ぎ、拝謁の間において新任のラオス国特命全権大使ウートン・スヴァナ

ヴォン及び同夫人を御引見になる。終わって、天皇と共に西の間において、新任のトルコ国特命全権大使ケマル・ネジャト・カヴル及び同夫人、ギリシャ国特命全権大使ジョルジュ・クスタス及び同夫人、オーストラリア国特命全権大使ローレンス・ルパート・マッキンタイヤー及び同夫人、ラオス国特命全権大使夫妻のため、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、謁見録、宮内庁序報

午後、山口玉糸をお召しになり、御進講室において、絵画指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

七月

一日 金曜日 午後四時二十五分天皇と共に御出門、皇太子の移居後初めて東宮御所に行啓される。御着後、天皇及び皇太子・同妃・徳仁親王と共に庭や御所内を御覧になり、後刻到着の正仁親王も加わり、テラスにおいて皇太子妃手作りの料理を御会食になる。八時四十一分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁序報

二日 土曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

四日 月曜日 午後、天皇と共に旧北御車寄門内において、紅葉山御養蚕所主任宮崎清及び助手四名に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

五日 火曜日 先日来の天皇の御不例により、来る七日より御予定の葉山行幸啓が延期となる。○女官

昭和二十五年七月

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十四日 木曜日 この日暴漢に刺され負傷した内閣総理大臣岸信介に、天皇・皇后よりお尋ねとして果物を賜う。○侍従日誌、贈賜録、読売新聞

二十一日 木曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓される。午前九時五十三分御出門、原宿駅より今般完成の貴賓車を初めて御利用になり、逗子駅にて御降車、十一時十五分御用邸に到着される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、例規録、葉山行幸啓書類綴、宮内庁庁報、お召列車百年

二十二日 金曜日 午前、天皇と共に観音塚出し方面にお出ましになり、海洋生物を採集される。御用邸御滞在中、折に触れ、天皇の海洋生物御採集に同行される。○女官長日記、女官日誌、葉山行幸啓書類綴

前参議院議長河井弥八昨二十一日死去につき、天皇・皇后より侍従永積寅彦を河井邸に差し遣わされ、祭筵料を賜う。またこれとは別に靈前に天皇・皇后より菓子及び野菜^{生物学御研究所産}を、皇后より切り花を賜

う。河井は昭和二年侍従次長兼皇后宮大夫に、五年皇后宮大夫兼侍従次長に任じられ、天皇・皇后の側近として仕えた。また七年には帝室会計審査局長官に就任し、戦後は二十八年五月から三十一年四月まで参議院議長を務めた。○女官長日記、侍従職日誌、賜与録、贈賜録、宮内庁庁報、官報

二十九日 金曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、新任の神奈川県警察本部長曾我部久の拝謁をお受けになる。十時十七分天皇と共に葉山御用邸を御出門、十一時三十八分皇居に還啓される。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓書類綴、宮内庁庁報

夕刻、天皇と共に拝謁の間において、この度離任のコロンビア国特命全權大使フリオ・オルティス・

マルケス及び同夫人・息女を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、謁見録、外交贈答録、宮内庁庁報

三十日 土曜日 午前、明治天皇例祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、恒例祭祀録、宮内庁庁報

来る八月二十五日からイタリア国ローマ市で開催される第十七回オリンピック競技大会に日本代表選手団参加につき、天皇・皇后より財団法人日本体育協会に御奨励金を賜う。○賜与録

八月

一日 月曜日 天皇と共に那須御用邸に行啓のため、午前十時八分御出門、午後零時五十五分御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、那須行幸啓書類綴、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

那須御用邸附属邸に滞在中の皇太子・同妃・徳仁親王参邸につき、天皇と共に御昼餐を御会食になる。その後、天皇及び皇太子妃と共に御用邸敷地内の三沢橋・千篠園新道方面を散策される。以後、那須御用邸御滞在中、しばしば天皇の植物御調査に同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓書類綴、那須御用邸管理事務所日誌

五日 金曜日 正午過ぎ、皇太子参邸につき、天皇と共に御対面になり、帰京の挨拶をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、那須行幸啓書類綴、那須御用邸管理事務所日誌

六日 土曜日 午前、天皇及び皇太子妃と御同車にて御用邸敷地外の広谷地にお出ましになる。お揃

いで湿地のサギソウ等を御覧になった後、植物御調査に向かわれる天皇とお別れになり、皇太子妃と共に御帰邸になる。御帰邸後、広谷地にて御採集のミズオトギリソウ一鉢を、正午の花開く頃に皇太子妃にお届けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓書類綴、那須御用邸管理事務所日誌

八日 月曜日 午前、皇太子妃・徳仁親王参邸につき、天皇と共に御対面になり、帰京の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓書類綴、那須御用邸管理事務所日誌

九日 火曜日 午前、天皇と共に、青木農場主青木重夫^{元貴族院議員}・同夫人及び元帝室林野局技師大久保寛一の拝謁をお受けになる。青木重夫より、同農場生産品の献上がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓書類綴、那須御用邸管理事務所日誌

去る二日からの豪雨により甚大な被害を受けた青森県に対し、天皇・皇后より御救恤金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

十一日 木曜日 午後、天皇と共に、宮内庁長官宇佐美毅より皇太子・同妃の訪米日程等についての説明をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、那須行幸啓書類綴、那須御用邸管理事務所日誌

十二日 金曜日 天皇と共に、今般米国ハワイ州を公式訪問する宣仁親王・同妃喜久子をお招きになり、御昼餐を御会食になる。御食後、天皇・皇后より宣仁親王・同妃それぞれにお品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓書類綴、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報、高松宮宣

仁親王

翌月産経ホールにおいて開催される第八回国際輸血学会、及び日本赤十字社本社において開催される第二回赤十字国際輸血セミナーに先立ち、この日、次の御歌二首が日本赤十字社社長島津忠承に伝

達される。

見るがうちによみがへりゆく肌の色にささげつる血のたふとさを思ふ
数多き人の命をすくふべく血しほいださなきそひたちつ

○あけぼの集、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社社史稿

十五日 月曜日 午後、今般・パナマ国へ赴任の特命全権公使三宅喜二郎及び同夫人、イスラエル国へ赴任の特命全権公使武野義治及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、那須行幸啓書類綴、

拝謁録、典式録、儀式録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報、官報

この日、九段会館において開催される大東亜戦争殉国者顕彰慰霊祭祭典委員会主催の慰霊祭に、天皇・皇后より生花を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

終戦の日に当たり、天皇・皇后より元内大臣木戸幸一、石渡久子元宮内大臣故石渡莊太郎の夫人、鈴木タカ元侍従長故鈴木貴太郎の夫人にそ

れぞれ菓子をお賜う。またこの日、特旨により故正二位鈴木貫太郎が追叙され、従一位が贈られる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、贈賜録、那須御用邸管理事務所日誌、官報

十九日 金曜日 午後、参邸の山口玉糸より絵画指導をお受けになる。翌二十日と二十一日にも山口の指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、那須行幸啓書類綴

この日、天皇の御不例により、来る二十二日・二十三日に予定されていた福島県翁島への行幸啓が取りやめとなる。○侍従日誌、那須行幸啓書類綴、官報

二十日 土曜日 午後、謁見所において、この度メキシコ国に赴任の特命全権大使林馨及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、拝謁録、典式録、那須行幸啓書類綴、那須御用

昭和二十五年九月

邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

三十一日 水曜日 午前、天皇と共に、東京大学教授原寛の説明にて同大学によるヒマラヤ植物調査で撮影されたスライドを御覧になる。天皇の植物御調査に参加中の東京大学名誉教授本田正次ほかを陪覧する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓書類綴

九月

二日 金曜日 午後、鈴木タカ及び子息の^{前侍従}次長 参邸につき、天皇と共に拝謁をお受けになり、去る八月十五日の故鈴木貫太郎への追叙及び菓子^儀の賜りについてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓書類綴、那須御用邸管理事務所日誌、官報

三日 土曜日 マラヤ連邦国王ヒサムディン・アラム・シャー去る一日崩御につき、天皇・皇后の弔問使として、侍従小川真三を同大使館に差し遣わされる。○侍従日誌、侍従職日誌、那須行幸啓書類綴、慶弔録、儀礼軌範

五日 月曜日 天皇と共に、来る七日よりドイツ連邦共和国を訪問する崇仁親王・同妃百合子と御対面になり、暇乞いをお受けになる。引き続き御昼餐を御会食になる。天皇・皇后より親王にお品を、同妃に菓子を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓書類綴、那須御用邸管理事務所日誌、重要雑録、宮内庁庁報

九日 金曜日 久邇侁子祥月命日につき、終日静かにお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌

十六日 金曜日 午前、天皇と共に御散策にお出ましの際、御車寄前において、前橋営林局長藤波良

雄ほか二名に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓書類綴、那須御用邸管理事務所日誌

十九日 月曜日 午後零時五十二分天皇と共に那須御用邸を御出門、三時四十五分皇居に還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓書類綴、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁序報

夕刻、天皇と共に拝謁の間において、皇太子・同妃訪米の随員小泉信三^参・島重信^{外務審議官}・鈴木菊男^{東宮大夫}

ほか七名の拝謁をお受けになる。ついで天皇と共に同所において、宣仁親王の米国ハワイ州訪問に随員として同行した下田武三^{外務大臣官房審議官}ほか一名の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従

職日誌、内舎人日誌、高松宮宣仁親王

二十日 火曜日 午前十時三分御出門、東宮御所に行啓される。御着後、皇太子・同妃及び参邸中の

池田隆政・同夫人厚子と御対面になる。十一時三十七分厚子と共に還啓される。○女官長日記、女官日誌、

幸啓録、宮内庁序報

天皇と共に表一の間において、今般米国へ出発する皇太子・同妃のための送別の御晩餐を催され、皇太子・同妃のほか、正仁親王始め皇族・元皇族等と御会食になる。この度の皇太子・同妃訪米に際し、天皇・皇后より大統領に御贈進の七宝花瓶^{舞楽青、海波文}及び大統領夫人に御贈進の金蒔絵手箱^{金地松に桜}を皇太子

に託される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外交贈答録、宮殿行事録、宮内庁序報

二十二日 木曜日 皇太子・同妃この日米国へ出発につき、お見送りのため、天皇・皇后の御使とし

昭和三十五年九月

て侍従長三谷隆信を東京国際空港に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、空港行事録

二十三日 金曜日 午前、秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従

日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮内庁庁報

二十六日 月曜日 午前、仮宮殿において、この度イラン国へ赴任の特命全権大使千葉皓及び同夫人

の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、拝謁録、例規録、宮内庁

庁報、官報

御進講室において、昨二十五日伊勢より帰京した北白川房子神宮祭主の拝謁をお受けになる。○女官長日記、

女官日誌

二十七日 火曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、イタリア国ローマ市で開催された第十七回

オリンピック大会より帰国のオリンピック東京大会組織委員会副会長竹田恒徳の拝謁をお受けにな

る。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、菊と星と五輪、読売新聞

午後、参殿者休所に陳列された書家藤岡保子皇太子妃の書を指導の作品を御覧になる。二十九日午後には藤岡をお

召しになり、制作上の苦心談をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、贈賜録、毎日新聞

二十八日 水曜日 午後、天皇と共に旧北御車寄門内において、第十二回保健文化賞第一生命保険相互会社主催、厚生省・朝日新聞厚

生文化事業団後援の受賞者等に御会釈を賜い、厚生大臣中山マサの挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従

日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宣召録、宮内庁庁報

二十九日 木曜日 第四十九回列国議会同盟会議開会式に御臨席になるため、午前九時四十八分天皇

と共に御出門、初めて国会議事堂に行啓される。御着後、便殿において衆議院議長清瀬一郎・参議院議長松野鶴平・衆議院副議長中村高一・参議院副議長平井太郎の拝謁をお受けになり、ついで列国議会同盟評議員会議長、ジュセツペ・コダチ・ピサネリ、列国議会同盟事務総長アンドレ・ド・ブローネーを御引見になる。続いて、参議院議場において開催の開会式に臨まれる。十時五十四分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

夕刻、天皇と共に表御座所において、この日ドイツ連邦共和国より帰国の崇仁親王と御対面になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

来る十月一日から昭和三十五年国民たすけあい共同募金運動を実施する社会福祉法人中央共同募金会に対し、天皇・皇后より金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

三十日 金曜日 午前、謁見の間において、新任のガーナ国特命全権大使ウイリアム・ベイドウ・アレンサー及び同夫人、ハンガリー国特命全権公使カーロイ・チャトルダイ及び同夫人、インド国特命全権大使ラルジ・メロトラ及び同夫人、パナマ国特命全権公使ホセ・A・カハール・エスカラを、順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、典式録、謁見録、宮内庁庁報

天皇と共に、この日誕生日を迎えた鷹司和子と御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

午後、天皇と共に拝謁の間において、この度の崇仁親王ドイツ連邦共和国訪問に随員として同行した式部官黒田実、この度米国から日本に戻った李垠及び同夫人方子、この度英国から帰国の久邇邦昭^{御兄朝融}及び同夫人正子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

昭和二十五年十月

十月

一日 土曜日 午後、天皇と共に皇居広庭において、第四十九回列国議会同盟会議に列席の議員その他をお招きになり、園遊会を催される。参集諸員の奉迎の中を一巡された後、各国の議員団代表や大公使等を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、園遊会録、宮内庁庁報

三日 月曜日 天皇及び宣仁親王・同妃・崇仁親王・同妃百合子と共に拝謁の間において、先般宣仁親王・同妃喜久子米國ハワイ州より帰国、崇仁親王ドイツ連邦共和国より帰国につき、御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

四日 火曜日 午前九時四十五分天皇と共に御出門、日本橋三越に行啓され、文化財保護法施行十周年記念事業及び列国議会同盟会議協力事業として開催中の第七回日本伝統工芸展文化財保護委員会・東京都教育委員会・日本放送協会・朝日新聞社・社団法人を御覧になる。

七階の会場内において陶芸、漆芸、金工、染織、人形、木竹工・漆芸の展示品を御覧になる。十一時二十三分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

六日 木曜日 午前、拝謁の間において、今般ユーゴスラビア国より帰国の特命全権大使加瀬俊一及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮内庁庁報

小林古径遺作展国立近代美術館・小林古径遺作展委員会主催、日本美術院・朝日新聞社・毎日新聞社後援を御覧になるため、午後一時二十四分御出門、国立近代美術館に行啓される。御着後、館長稲田清助より前田青邨ほかの紹介をお受けになる。その後、業務課長河北倫明の説明により、一階にて肖像写真等を、二階にて「竹取物語」を始めとする明治より

大正、大正より昭和の各作品を、中三階にて昭和初期の作品を、三階にて額装小品などの昭和十年代より二十年代の各作品をそれぞれ御覧になる。また、御巡覧の途次、稲田館長より朝日新聞社社長村山長挙・毎日新聞社社長本田親男の紹介をお受けになる。終わって四階の御休所において、文部大臣荒木万寿夫・稲田館長・小林古径遺作展委員会会長細川護立の拝謁をお受けになり、前田青邨の説明にて遺作画帖等を御覧になる。三時二十四分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁序報、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞

七日 金曜日 午後、天皇と共に表御座所において、この日米国より帰国の皇太子・同妃と御対面になる。なお、皇太子・同妃の帰国に際し、侍従長三谷隆信を東京国際空港に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁序報

この日、横浜チャペルセンターにおいてモティマー・C・クック去る四日死去の葬儀が執行されるに際し、日本赤十字社名誉総裁の御縁故をもって、特に霊前に切り花を賜う。同人は昭和二十一年米国赤十字社国際部部长として来日、その後日本赤十字社顧問に就任して同三十年まで日本赤十字社輸血研究所の設立を始め社業の諸分野に多大の貢献をなし、この間数次にわたり天皇・皇后に謁見した。○女官長日記、贈賜録

八日 土曜日 常磐会主催の救らい慈善演奏会国際文化交流協会・朝日厚生事業団後援を御鑑賞になるため、午後一時四十五分御出門、文京公会堂に行啓される。御着後、玄関前において同会理事長伏見朝子・文京区長井形卓三の、玄関内において同会会長松平信子及び理事の、観覧席入口前において故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子のお出迎えをそれぞれお受けになる。御着席後、斎藤秀雄の指揮、

昭和三十五年十月

江藤俊哉^{ヴァイオリン}・同夫人アンジェラ^同、及び桐朋学園オーケストラの演奏によるモーツァルト作曲の歌劇「魔笛」序曲及びディヴェルティメントK・一三六、バッハ作曲「二つのヴァイオリンのための協奏曲」をお聴きになる。演奏後、御休所において江藤夫妻、及び井口基成^{桐朋学園音楽部門の創設者}・斎藤秀雄^同の拝謁をお受けになった後、観覧席に戻られ、ベートーヴェン作曲ヴァイオリン協奏曲ニ長調をお聴きになる。演奏終了後、四時六分還啓される。この日、行啓に当たり、常磐会に金一封を賜う。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、宮内庁庁報

九日 日曜日 天皇と共に表一の間において、皇太子・同妃去る七日米国より帰国につき、お祝いの御晚餐を催される。皇太子・同妃のほか、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子、鷹司平通・同夫人和子が出席する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮殿行事録、宮内庁庁報

十日 月曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、日本政府の賓客として来日中のインドネシア国家治安大臣兼陸軍参謀長アブドル・ハリス・ナスチオン及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

天皇と共に表一の間において、新任のガーナ国特命全権大使ウイリアム・ベイドウ・アンサー及び同夫人、イスラエル国特命全権公使ダニエル・レウイン及び同夫人、ハンガリー国特命全権公使カローイ・チャトルダイ及び同夫人、パナマ国特命全権公使ホセ・A・カハール・エスカーラをお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に拝謁の間において、この度の皇太子・同妃米国訪問の随員小泉信三^参・島重信^{外務審、}

鈴木菊男^{東宮}ほか十二名の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内

庁庁報

十一日 火曜日 午後より御風気味にて御静養になる。以降、十七日まで断続的に御仮床に就かれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

十六日 日曜日 午前十一時一分天皇と共に御出門、白金迎賓館に行啓され、菊栄親睦会に御出席になる。この日の会は、皇太子の結婚、貴子内親王の結婚、及び伏見博明の結婚の祝賀のため開催される。会員との記念撮影に応じられ、午餐を御会食になり、余興・映画を御覧になる。午後二時一分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、菊栄親睦会録、宮内庁庁報

十七日 月曜日 午前、神嘗祭につき、女官今城誼子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮内庁庁報

十八日 火曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、外務省の賓客として来日中のイタリア国ジェノア駐在日本国名誉総領事リオネツロ・カナーリ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、外交贈答録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に旧北御車寄門内において、靖国神社秋季霊璽奉安祭に各都道府県代表<sup>沖繩を
含む</sup>として参列した遺族等に御会釈を賜う。天皇に続き、遺族等にお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宣召録、宮内庁庁報、靖国神社社務日誌

昭和二十五年十月

十九日 水曜日 「世界バラまつり」日本バラ会主催、読売新聞社後援を御覧になるため、午前九時四十六分御出門、銀座

松坂屋に行啓される。御着後、七階会場にお出ましになり、日本バラ会理事長武田寛一の先導・説明にてバラを御覧になる。同会場には特別出品として、天皇・皇后御出品のバラのほか、日本バラ会会長吉田茂元内閣総理大臣・前内閣総理大臣岸信介等出品のバラ、及び水彩画家松本慎三制作のバラの絵画も展示される。ついで銀座松坂屋専務淵上義夫・杉山光雄の説明にて、四階の呉服売場及び二階の特選雑貨売場を御覧になる。終わって、十一時十四分還啓される。なお、これに先立ち、去る十一日、日本バラ会にバラを賜う。○女官長日記、女官日記、内舍人日記、幸啓録、宮内庁庁報、読売新聞

午後、天皇と共に謁見の間において、第二回アジア鉄道首脳者懇談会に出席のため来日中のサウジアラビア国交通大臣スルタン・イブン・アブドウル・アジーズ同国王弟及び同妃を御引見になる。○女官長日記、

女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舍人日記、謁見録、典式録、宮内庁庁報

二十日 木曜日 皇太子妃の誕生日につき、午前、天皇と共に拝謁の間において、同妃と御対面になり、お祝品拝領についてのお礼言上をお受けになる。ついで宮内庁長官始め総代、続いて女官長始め女官等の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舍人日記、宮内庁庁報

正午過ぎ、今般香港へ旅行の東久邇成子参内につき、天皇と共に御対面になり、暇乞いの挨拶をお受けになる。ついで御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舍人日記

御進講室において、昨十九日伊勢より帰京の北白川房子神宮祭主の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日

誌、侍従日記、内舍人日記

二十一日 金曜日 第十五回国民体育大会秋季大会に御臨場のため、天皇と共に熊本県に行啓される。
午前九時五十五分御出門、東京国際空港より初めてジェット旅客機に搭乗される。板付空港に着陸後、
午後零時四十分博多帝国ホテルに御到着になる。御昼食後、同ホテルを御出発になり、博多駅より新
造のお召し列車に乘車され、熊本駅に御着車、四時五十五分御泊所熊本ホテルキャッスルに御到着に
なる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、火の国に競
う

二十二日 土曜日 午前九時五十八分、天皇と共に御泊所熊本ホテルキャッスルを御出発、熊本城を
訪問され、ついで社会福祉法人熊本市社会福祉協会熊本洋裁授産場・熊本乳児院・双葉保育園を御視察になる。御泊所に戻られ
御昼食の後、井関農機株式会社熊本工場、熊本大学を御視察になる。午後三時五十一分、御泊所熊本
ホテルキャッスルにお戻りになる。その後、お一方にて、故後閑菊野大正七年より宮内省御用掛として良子女王の御教育を担当の息女二名
の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、社会福祉法人
熊本市社会福祉協会所蔵資料、火の国に競う

二十三日 日曜日 午前十時二十八分、天皇と共に御泊所熊本ホテルキャッスルを御出発、熊本市営
水前寺陸上競技場における第十五回国民体育大会秋季大会開会式に臨まれる。ついで井関農機株式会
社寮江津荘において御昼餐、海苔に関する展示品を御覧になった後、熊本市営水前寺体育館において
国体体操競技等第十七回夏季オリンピックローマ大会出場の体操選手による模範演技を含むを、熊本大学庭球コートにおいて国体庭球競技をそれぞれ御
覧になる。午後三時五十九分御泊所熊本ホテルキャッスルにお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従

昭和二十五年十月

日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、火の国に競う

二十四日 月曜日 午前九時三十分、天皇と共に御泊所熊本ホテルキャッスルを御出発、熊本県農業試験場、小川町農作業場を御視察になる。八代市の松井邸において御昼食の後、八代市立第一中学校にて国体剣道競技を、熊本市営北岡弓道場にて国体弓道競技を、藤崎台県営野球場にて国体野球競技をそれぞれ御覧になる。終わって御泊所へ還御の途中、熊本県護国神社にお立ち寄りになり、参道に進まれ、御拝礼になる。午後四時十八分御泊所熊本ホテルキャッスルにお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、火の国に競う

二十五日 火曜日 午前九時五分、天皇と共に御泊所熊本ホテルキャッスルを御出発、北部村立北部中学校にて国体フェンシング競技を、玉名市立玉名中学校にて国体レスリング競技を御覧になる。終わって、玉名駅より博多駅を経て、板付空港にお着きになる。午後一時三十分、同空港を御出発になり、東京国際空港を経て、三時四十分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、火の国に競う

二十七日 木曜日 午前、拝謁の間において、今般ユーゴスラビア国へ赴任の特命全権大使高橋通敏及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁庁報

二十八日 金曜日 午後、天皇と共に謁見の間において、経済団体連合会の招待により来日中の米国ラジオ・コーポレーション・オブ・アメリカ^{A R C}会長ダヴィッド・サーノフ及び同夫人を御引見にする。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

この日、常磐会主催のバザー開催につき、切り花^{キクとバラ}を同会に賜う。○女官長日記、贈賜録

三十一日 月曜日 日本国宝展東京国立博物館主催を御覧になるため、午後一時十九分御出門、東京国立博物館に行啓される。御着後、御休所において、館長浅野長武の拝謁をお受けになる。ついで浅野館長の説明にて黒田家の金印漢委奴国王印及び近江神宮の崇福寺塔心礎納置品を御覧になる。その後、建築室長奥平英雄絵巻・工芸課長蔵田蔵・絵画室長飯島勇・書跡室長堀江知彦・彫刻室長千沢楨治の説明にて、各室の展専門示品「鳥獣人物戯画」「源氏物語絵巻」を始め日本・中国の絵画、考古資料、金工・陶磁、刀剣・刀装、漆工、書跡、仏像等二百六十余点を巡覧される。三時二十八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、東京国立博物館百年史、読売新聞、朝日新聞

十一月

一日 火曜日 午後、拝謁の間において、本日付で女官に任じられた松園英子の拝謁をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮内庁庁報

イラン国皇帝モハンマド・レザー・パハラヴィーの皇子昨日誕生につき、この日、天皇・皇后より同国皇帝及び皇后に祝電をお送りになる。これに対し六日、答電が寄せられる。○外交慶弔録、宮内庁庁報、

官報、儀礼軌範

二日 水曜日 午後、天皇と共に賢所通用門脇において、文部省主催の校長研究協議会に参加した各都道府県の国立・公立・私立学校長等に御会釈を賜い、文部省初等中等教育局長内藤誉三郎の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宣召録、宮内庁庁報

三日 木曜日 午後、天皇と共に旧北御車寄門内において、全日本健康優良学校児童表彰会朝日新聞社主催、文部省・厚生省後援

昭和三十五年十一月

で特選児童に選ばれた健康優良児及び全日本健康優良学校の表彰校代表等に御会釈を賜う。同会長村

山長^{朝日新聞}の挨拶をお受けになり、天皇に続き、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職

日誌、内舍人日誌、典式録、宣召録、宮内庁庁報

四日 金曜日 明治神宮鎮座四十年につき、午前九時五十一分天皇と共に御出門、同神宮に行啓される。御着後、天皇の御拝礼に続き、御拝座に進まれ御拝礼になる。御休所において宮司甘露寺受長・権宮司伊達巽の拝謁をお受けになった後、十一時還啓される。この度の行幸啓に際し、天皇・皇后より同神宮に幣帛料及び神饌料を御奉納になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓

録、宮内庁庁報、官報

天皇と共に旧北御車寄門内において、第四回日本学生科学賞^{全日本科学教育振興委員会主催、読売新聞社後援}を受賞した中学生・高校

生等に御会釈を賜う。読売新聞社代表取締役副社長高橋雄豹の挨拶をお受けになり、天皇に続き、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮内庁庁報、読売新聞

午後、天皇と共に皇居広庭において、園遊会を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、典式

録、庁規例規朝儀諸綴、園遊会録、謁見録、宮内庁庁報

六日 日曜日 午前十一時二十分天皇と共に御出門、光輪閣に行啓され、錦江会^{島津家関係者の親睦会}の会合に御出

席になる。会員と御会食になり、余興を御覧になる。午後三時三十九分還啓される。○女官長日記、女官

日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

七日 月曜日 午後、天皇と共に拝謁の間において、皇太子・同妃のイラン国始め四箇国訪問の随員

渋沢信一<sup>外務省研
修所長</sup>・鈴木菊男<sup>東宮
大夫</sup>ほか九名の拝謁をお受けになり、天皇に続き、お言葉を賜う。ついで皇

太子・同妃のイラン国始め四箇国訪問につき、天皇と共に北の間において、内閣総理大臣池田勇人以下の関係員夫妻、エチオピア国特命全権大使ヨハネス・レダ・エグジ及び同夫人、イラン国特命全権大使ジャワード・サドル及び同夫人、インド国特命全権大使ラルジ・メロトラ及び同夫人、また渋沢以下の随員をお招きになり、午餐の御陪食を賜う。皇太子・同妃が陪席する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮内庁序報

九日 水曜日 午後、天皇と共に旧北御車寄門内において、藍綬褒章又は黄綬褒章を授与された厚生省関係の功労者等に御会釈を賜う。厚生大臣中山マサの挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宣召録、宮内庁序報

夕刻、天皇と共に両陛下御座所において、去る七日香港より帰国した東久邇成子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

この度皇太子・同妃イラン国始め四箇国訪問につき、天皇と共に表一の間において、御晚餐を催される。皇太子・同妃のほか正仁親王、故雍仁親王妃勢津子、崇仁親王・同妃百合子、東久邇盛厚・同夫人成子、鷹司平通・同夫人和子、島津久永・同夫人貴子が出席する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮殿行事録、宮内庁序報

十日 木曜日 午前、拝謁の間において、この日掌典長を拝命の徳大寺実厚の拝謁をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十一日 金曜日 午後、天皇と共に表御座所において、翌十二日よりイラン国・エチオピア国・イン

ド国・ネパール国訪問に出発の皇太子・同妃と御対面になる。四箇国訪問に当たり、皇太子を通じて、
天皇・皇后より、イラン国皇帝に刺繡屏風の図桜に鳩を、同皇后に七宝花瓶とまり木に及び裂地竜村シルク、ゴーを、

エチオピア国皇帝に壁掛赤地鴛鴦を、同皇后に七宝花瓶游鯉を、インド国大統領に料紙硯箱金地嵐山保を、同

夫人に七宝花瓶流釉鳳を、ネパール国国王に刺繡掛軸老松にを、同王妃に銀製宝石簞笥をそれぞれ御贈進

になる。なお、翌日の出発に際し、天皇・皇后より御使として侍従長三谷隆信を東京国際空港に差し

遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、空港行事録、外交贈答録、宮内庁庁報、官報

十二日 土曜日 午後、義宮御殿にお出ましになり、風気にて静養中の正仁親王をお見舞いになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

東久邇成子昨十一日国立東京第一病院に入院につき、女官今城誼子を同病院に差し遣わされる。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、皇女照宮

十四日 月曜日 夕刻、天皇と共に北の間において、東京にて開催のコロンボ計画協議委員会第十二

回年次会議に出席の各国首席代表者及び同夫人、会議関係の外国大公使及び同夫人、外務大臣以下関

係国務大臣及び同夫人ほかをお招きになり、宮中茶会を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職

日誌、内舍人日誌、典式録、外賓接待録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十五日 火曜日 午前、拝謁の間において、この度スイス国より帰国の特命全権大使奥村勝蔵及び同

夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、拝謁録、宮内庁庁報

内廷庁舎御車寄において、皇居勤勞奉仕のため山口県婦人会を引率して参内の毛利誠子を特に召され、

拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

十六日 水曜日 午前、天皇と共に北の間において、宮内庁職員組合による文化祭美術展を御覧になる。御出品の絵画「そてつ」「おおぼしようま」「さわぎきょう」のほか、職員等の作品を御覧になる。

御夕餐後、お一方にて再度お出ましになり、展示品を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、文化

十七日 木曜日 午前、天皇と共に旧北御車寄門内において、第八回オリンピック冬季競技大会スコーパー大会並びに第十七回オリンピック夏季競技大会ローマ大会において六位以上に入賞した各種目の選手等四十五

名に御会釈を賜う。第十七回オリンピック夏季競技大会日本選手団团长春日弘よりお礼及び両大会の概要についての言上があり、天皇に続き、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍

人日誌、典式録、宣召録、宮内庁序報

御進講室に前田青邨をお召しになり、熊本県行幸啓より御帰京の際、機上より写生された富士山の御絵を披露される。○女官長日記、女官日誌

午後一時一分御出門、島津久永邸に行啓される。御着後、島津貴子・同久子久永の母のお出迎えをお受けになり、貴子の案内にて邸内を御巡覧になる。四時還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、幸啓録、

宮内庁序報

十八日 金曜日 午前、御進講室において、東伏見慈治の拝謁をお受けになる。過日の朝彦親王・久邇静子・久邇朝融の各法要執行に際してのお仕向けについてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、

昭和三十五年十一月

女官日誌、内舎人日誌、贈賜録

午後、天皇と共に謁見の間において、ネパール国王弟妃ヘレン・シャートと御会見になる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、外賓参内録、宮殿行事録

十九日 土曜日 午前、御文庫において、北白川房子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

翌月二日鷹司光子^{鷹司平通の妹}結婚につき、この日、女官長を差し遣わされ、お祝品を賜う。○女官長日記

二十一日 月曜日 午前、仮宮殿において、この度アラブ連合共和国より帰国の特命全権大使土田豊の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、拝謁録

二十二日 火曜日 午前、天皇と共に御進講室において、錦江会会長島津忠重・同夫人伊楚子の拝謁をお受けになる。その際、兩名が持参した去る六日の錦江会行幸啓時の写真を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

二十五日 金曜日 午前、天皇と共に東の間において、外務省の招客として来日中の米国ハワイ州知事ウイリアム・F・クイン及び同夫人、ハワイ州上院議長ウイリアム・H・ヒル及び同夫人、ハワイ州検事総長柏至朗及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

午後、御進講室において、近日結婚につきお祝品を拝領したお礼言上のため参内の鷹司光子及び同母綏子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

二十八日 月曜日 全国未亡人団体協議会創立十周年記念全国母子福祉大会^{厚生省・財団法人全国未亡人団体協議会・社会福祉法人全国社会福祉協議会}

主に御臨席になるため、午前九時五十一分御出門、日比谷公会堂に行啓される。御着後、御休所において故雍仁親王妃勢津子と御対面になり、ついで内閣総理大臣池田勇人・厚生大臣中山マサ・全国社会福祉協議会会長灘尾弘吉・全国未亡人団体協議会会長中村発子^{大会}の拝謁をお受けになる。続いて式場に御臨場になる。会員による「生き抜く白百合」の斉唱、中村会長の挨拶、中山厚相による式辞及び全国未亡人団体協議会副会長堀内八重野への表彰、中村会長による朝日新聞厚生文化事業団^{団体}代表・徳島県未亡人会連合会会長万野ハツエ^{個人}代表への感謝状贈呈を御覧になった後、次のお言葉を賜う。

今日、この大会に臨んで、皆さんに接することができましたことを嬉しく思います。

健全な次の世代を養育することは、母親の貴い任務であります。母子家庭の皆さんが、多くの困難な事情のもとに、よくこの任務を果たし、社会に大きく寄与してきたことは、まことに喜ばしいことでもあります。また、わが国の母子福祉事業は、公私の関係者の努力により、年々充実してきましたが、母子家庭の生活安定のためには、なお、いろいろの問題があると思います。

今後、さらに関係者一同が力を合わせて、明るい母子家庭の建設に努めるとともに、母子福祉事業の推進をはかつて、その実をあげるよう、心から希望いたします。

中村会長の奉答の辞をお受けになり、式場を御退場になる。十時五十九分還啓される。○女官長日記、女

官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

正仁親王の誕生日につき、天皇と共に拝謁の間において、宮内庁長官始め総代、続いて元侍従武官桑折英三郎、女官長保科武子始め女官等の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

昭和三十五年十二月

内舎人日誌

この日、国立東京第一病院に入院加療中の東久邇成子に対し、天皇・皇后より果物・鉢物を賜う。○

女官長日記、贈賜録

十二月

一日 木曜日 午後、御進講室において、山口玉糸の指導にて御絵月下美人をお描きになる。○女官長日記、

女官日誌、内舎人日誌

二日 金曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、この度離任の。パナマ国特命全権公使ホセ・A・

カハール・エスカーラを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式

録、外交贈答録、宮内庁庁報

三日 土曜日 午後、天皇と共に賢所通用門脇において、全国動員学徒戦没者慰霊祭に参列の各都道

府県遺族代表等に御会釈を賜う。天皇に続き、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

内舎人日誌、典式録、宣召録、宮内庁庁報

七日 水曜日 故久邇朝融一周年祭につき、午後二時四十八分御出門、豊島岡墓地に行啓される。御

着後、久邇邦昭及び同夫人ほかのお出迎えをお受けになる。その後、書陵部長の先導にて邦彦王墓所・

久邇倪子墓所を御拝礼になる。ついで葬儀委員長の先導にて久邇朝融墓所を御拝礼になる。続いて書

陵部長の先導にて、知子女王墓所を御拝礼になる。邦彦王・久邇倪子・知子女王の各墓所に菓子を、

また朝融墓所に野菜をお供えになる。終わって幄舎において、久邇邦昭よりお礼の挨拶をお受けにな

る。三時二十四分還啓される。なお、行啓に先立ち、天皇・皇后より権舎祭に侍従重田保夫を、墓所祭に同入江相政を、それぞれ差し遣わされ、拝礼させられる。また、天皇・皇后より権舎に盛菓子・榊を、墓所に榊をそれぞれお供えになる。さらに皇后より邦彦王・久邇侃子・知子女王の各墓所にそれぞれ菓子を、朝融の写真に切り花・果物を、朝融墓所に野菜をお供えになり、朝融墓所に灯籠一對を御寄進になる。これ以降毎年、朝融の命日には、久邇邸と豊島岡墓地に御使を差し遣わされ、拝礼させられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、重要雑録、久邇朝融殿葬儀録、宮内庁序報

八日 木曜日 午後、拝謁の間において、昨七日故久邇朝融一周年祭終了につき久邇邦昭・大谷智子ほか久邇家御親族総勢十六名をお招きになり、茶会を催される。参列者と共に茶菓をお召し上がりの後、隣室に移動され、去る十一月青蓮院において執行された朝彦親王七十回忌五日、執行、及び久邇静子・同朝融一周忌六日、執行法要のスライドを、東伏見慈洽の説明にて御覧になる。参会者にアルバムをそれぞれ賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、重要雑録

九日 金曜日 この日午前、イラン国始め四箇国訪問より皇太子・同妃帰国につき、お出迎えのため、天皇・皇后より御使として侍従長三谷隆信を東京国際空港に差し遣わされる。午後、天皇と共に表御座所において、還啓の皇太子・同妃と御対面になり、皇太子より帰国の報告をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

来る十二日のパキスタン国大統領モハマッド・アユブ・カーンの来日に先立ち、天皇と共に拝謁の間において、パキスタン国駐劬特命全権大使島津久大より同国事情に関する進講をお聴きになる。○女官

日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録

十日 土曜日 午前、内廷庁舎の廊下において、仮宮殿に飾る杉山寧社団法人日の展評議員の絵画後に新宮殿の連翠に飾られた「奏」を御

覧になる。○女官日誌

午後、御文庫において、北白川房子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

十三日 火曜日 午前十時三十五分より天皇と共に謁見の間において、国賓として来日中のパキスタン国大統領モハマッド・アユブ・カーンと御会見になる。その際、大統領から皇后にサリー・銀製箱の御贈進がある。

天皇と共に、パキスタン国大統領のため、宮中晚餐及び宮中夜会を催される。午後七時三十分より西の間において宮中晚餐を催される。御食後、南の間において御歓談になる。その際、天皇・皇后より

の御贈進品が披露され、大統領に九谷焼色絵更紗文大花瓶を、大統領夫人に紙塑人形東天及び裂地獅子

様、正絹を御贈進になる。ついで九時二十分より北の間において宮中夜会を催される。○女官長日記、女官

ロケード日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報、官報

十四日 水曜日 入院加療中の東久邇成子をお見舞いになるため、午前十時五十四分御出門、国立東京第一病院に行啓される。御着後、御休所において、院長栗山重信の拝謁をお受けになる。ついで四階に向かわれ、病室前廊下において栗山院長より内科・外科医師四名、看護婦長一名の紹介をお受けになる。その後、病室に入られ、翌日手術予定の成子をお見舞いになる。十一時四十七分還啓される。この日、行啓に当たり、切り花・リンゴを成子に賜う。なお、翌日夕刻、天皇と共に侍医杉村昌雄よ

り術後の説明をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、読売新聞、稲田周一関係資料

十五日 木曜日 夕刻、賢所御神楽につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、

恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

ベルギー国国王ボードワン一世この日御結婚につき、天皇・皇后より同国王・王妃ファビオラに祝電をお送りになる。これに対し、三十一日答電が寄せられる。なお、去る十一月二十四日には、天皇・皇后より国王にお祝品として七宝花瓶^{梅花}の^図を御贈進になる。○外交贈答録、外交慶弔録、宮内庁庁報、官報

十六日 金曜日 午前、天皇と共に表御座所において、東久邇盛厚の拝謁をお受けになり、国立東京第一病院にて手術を受けた同夫人成子の病状をお聞きになる。お尋ねとして成子に切り花を賜う。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、皇女照宮

拝謁の間において、歳末につき御機嫌奉伺のため参内した京都在住の旧堂上会総代冷泉為安の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

この日、来る十九日から五日間にわたり都下各医療施設等の参加を得て歳末無料健康相談を実施する
東京都に金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

十七日 土曜日 午後七時二十四分天皇と共に御出門、光輪閣に行啓され、パキスタン国大統領モハマッド・アユブ・カーン主催の晩餐会に御出席になる。九時五十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、外賓参内録、宮内庁庁報、官報

病氣入院中の東久邇成子に対し、お見舞いとしてスープ・牛乳を賜う。また、ソテツの御絵を賜う。

以後、当分の間、お見舞いの御贈進がある。○女官長日記、女官日誌

十九日 月曜日 天皇と共に表一の間において、皇太子・同妃イラン国始め四箇国訪問から去る九日帰国につき、御晚餐を催される。皇太子・同妃のほか正仁親王、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子、鷹司平通・同夫人和子が出席する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報

二十日 火曜日 事業御奨励のため、財団法人結核予防会に金一封を賜う。またこの月、日本赤十字社病院救助収容患者・恩賜財団済生会病院救助収容患者合計九千二百二十九人に手拭い一筋ずつを賜う。これとは別に天皇・皇后より日本赤十字社に事業御奨励金及び御補助金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報、日本赤十字社社史稿

二十一日 水曜日 午前、天皇と共に内廷庁舎において、正仁親王、ついで皇太子・同妃と御対面になる。続いて、天皇と共に表一の間において、菊栄親睦会会員に午餐の御陪食を賜う。御食後、表三の間において御歓談になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宣召録、菊栄親睦会録、宮内庁庁報

午後、聖園テレジアの拝謁をお受けになり、先頃同人病気の折の賜品についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

二十二日 木曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、皇太子・同妃のイラン国始め四箇国訪問の随員及び随行員の拝謁をお受けになる。天皇に続き、外務省
修所長 始め随員・随行員にお言葉を賜

う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

午後、山口玉糸の指導にて、御絵^{月下美人}をお描きになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

二十三日 金曜日 皇太子の誕生日につき、午前、天皇と共に表御座所において、皇太子と御対面になり、お礼言上をお受けになる。ついで天皇と共に拝謁の間において、宮内庁長官始め総代、続いて女官長始め女官等、元女官の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、
宮内庁庁報

二十四日 土曜日 議会開設七十年記念式典に御臨席になるため、午前十時四十分天皇と共に御出門、国会議事堂に行啓される。御着後、参議院議場にお出ましになり、式に臨まれる。式後、議会開設七十年記念議会政治展示会場<sup>参議院予
算委員室</sup>に移動され、五箇条御誓文・議事院規則草案・民撰議院設立建白書等の展示品を御巡覧になる。ついで御休所において、永年在職表彰議員十一名の拝謁をお受けになる。

午後零時二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十五日 日曜日 午前、大正天皇祭皇霊殿の儀につき、御拝礼になる。夕刻、同御神楽の儀につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、恒例祭祀録、宮内庁庁報

二十六日 月曜日 午後、お一方にて義宮御殿にお出ましになり、正仁親王を中心とする黄心樹歌会を御覧になる。途中より天皇も参加される。終わって、参会者と御夕餐を御会食になる。○女官長日記、
女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十七日 火曜日 午後二時六分御出門、国立東京第一病院に行啓され、入院加療中の東久邇成子をお見舞いになる。成子の病室において、東久邇文子を交えて御談話になる。三時八分還啓される。○
女官長日記、女官日誌、侍従日誌、幸啓録、宮内庁庁報

昭和三十五年十二月

二十八日 水曜日 天皇と共に拝謁の間において、東久邇成子入院につきお慰めのため東久邇信彦・同文子・同秀彦・同真彦・同優子をお招きになり、御昼餐を御会食になる。夕刻、天皇と共に両陛下御座所において、子女を迎えに参内した東久邇盛厚の拝謁をお受けになる。なお、この日より毎日、

成子入院中の病院に女官を御差遣になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十九日 木曜日 歳末につき、午前、天皇と共に拝謁の間において、皇族・元皇族・元王族の祝詞言上をお受けになる。その後、宮内庁長官始め総代の祝詞言上を、ついで女官長始め女官の祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

昭和三十六年（西曆一九六一年） 五十八歳

一月

一日 日曜日 午前九時四十五分より新年祝賀の儀に臨まれる。天皇と共に御進講室において、皇太子・同妃、正仁親王、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子の祝賀をお受けになる。北の間において、内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長等の、午後は最高裁判所長官・外国交際官等の祝賀をお受けになる。また新年祝賀の儀に先立ち、あるいは各祝賀の間に、元皇族・元王族・御縁故者、宮内庁長官始め部局長及び側近奉仕者等の拝賀を天皇と共に受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、典式録、宮内庁庁報、官報

二日 月曜日 新年一般参賀につき、午前三回と午後六回の計九回、天皇と共に皇居広庭のお立台にお出ましになり、参集の一般参賀者に御会釈を賜う。午前中は正仁親王を伴われ、午後からは皇太子・同妃も加わる。各お出ましの後に、天皇と共に表三の間において、元側近奉仕者・元部局長の拝賀をお受けになる。また、天皇と共に徳仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内

舍人日誌、典式録、宮内庁庁報

三日 火曜日 午前、元始祭につき、賢所・皇靈殿・神殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

新年につき、天皇と共に拝謁の間において、寛仁親王始め未成年の皇族・元皇族等より拝賀をお受け

昭和三十六年一月

になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

六日 金曜日 午前、拝謁の間において、近く赴任のビルマ国駐節特命全権大使矢口麓蔵及び同夫人、ベルギー国駐節特命全権大使下田武三及び同夫人、オーストリア国駐節特命全権大使内田藤雄及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁庁報、

官報

午後、国立東京第一病院に入院中の東久邇成子参内につき、天皇と共に両陛下御座所において、約二時間にわたり御対面になる。御対面中、成子は長椅子を使用する。なお、成子は同病院外科部長小原辰三元侍医・元皇太后宮侍医を伴い参内した。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

七日 土曜日 午後、天皇と共に拝謁の間において、元女官等より新年の拝賀をお受けになる。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

御進講室において、御学友及び御同級生の拝賀をお受けになる。ついで昨年御制作の絵画「おおぼしうま」等を御一緒に御覧になる。○女官長日記、女官日誌、香淳皇后の御絵と画伯たち

九日 月曜日 午前十時、天皇と共に西の間において、講書始の儀に臨まれる。京都大学名誉教授梅原末治より「古鏡より観たる日本上古」、慶応義塾大学教授奥井復太郎より「現代大都市の経済・社会的性格」、日本学士院会員鳥養利三郎より「半導体について」と題する進講をお聴きになる。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮侍従日誌、儀式録、講書始録、宮内庁庁報

天皇と共に、皇太子・同妃・正仁親王と御昼餐を御会食になる。午後はお一方にて御進講室において故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子と御対面になる。この年も、概ね日曜日

に行われた定例の参殿を始め、随時、皇太子・同妃と御対面・御会食になる。また、その他の皇族・御親族ともしばしば御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、東宮侍従日誌

十日 火曜日 天皇と共に表一の間において、この度離任のアルゼンチン国特命全権大使ハビエル・テオドロ・ガリヤック及び同夫人、新任のポルトガル国特命全権大使エドワード・アルベルト・バセラル・マツシャード、ニカラグア国特命全権公使ウンベルト・アルグエーリョ・テフェル及び同夫人のため、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内序序報

午後、山口玉糸をお召しになり、御進講室において書き初め宝珠の玉をされる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

十二日 木曜日 午前十時、天皇と共に西の間において、歌会始の儀に臨まれる。この年のお題は「若」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

皇后宮御歌

上野毛のわこのにひやに訪ひくればやぬちことごと若さみちみつ

例年は儀式の後に、預選者に御会釈を賜うところ、この度は天皇・皇后共に御風気によりお取りやめとなる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮侍従日誌、儀式録、典式録、歌会始録、宮内序序報

官報、入江相政日記

ノルウェー国王女アストリドこの日結婚につき、天皇・皇后より同国王オラフ五世に祝電を発せられる。これに対し、十八日答電がある。○外交慶弔録、宮内序序報、官報

昭和三十六年一月

十五日 日曜日 成人の日に当たり、昨昭和三十五年中に成年に達した久邇朝建御兄朝融の子息及び竹田恒正

恒徳王の王子にそれぞれ天皇・皇后より白羽二重を賜う。天皇・皇后は御風気による御静養中のため拝謁はお

取りやめとなる。○女官長日記、侍従職日誌、贈賜録

十六日 月曜日 入院中の東久邇成子をお見舞いのため、午後一時十九分御出門、国立東京第一病院

に行啓される。同人にお見舞いの品を賜い、御会話になる。二時五十二分還啓される。○女官長日記、女

官日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

十七日 火曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前九時五十三分御出門、十一時十五分同邸

に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、

宮内庁庁報

午後、国分峰元久邇宮宮務監督国分三亥夫人・松岡鎮枝国分三亥の妹参邸につき、拝謁をお受けになる。国分三亥・峰夫妻はこの

年ダイヤモンド婚に当たるため、皇后の思召しにより賜物がある。以後、この年も随時、元奉仕者の

拝謁等がある。○女官長日記、女官日誌、葉山行幸啓録

十九日 木曜日 午前、先般書家の藤岡保子より御借用の『源氏物語絵巻』の写しの御制作に着手さ

れる。午後もお続けになる。以後、この作品を十二月まで継続的に制作される。○女官長日記、女官日誌

二十一日 土曜日 正午、天皇と共に、元内閣総理大臣吉田茂・元内大臣木戸幸一・侍従職御用掛小

泉信三参与・参与加藤武男・学習院長安倍能成・元宮内庁長官田島道治の拝謁をお受けになる。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、葉山行幸啓録

午後、山口玉糸より絵画の指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、葉山行幸啓録

二十五日 水曜日 午後二時十五分天皇と共に葉山御用邸を御出門、三時四十分皇居に還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁序報

二十六日 木曜日 午前、津田塾大学教授メリー・ハル・チャペルより英語の進講をお聴きになる。

この年は同人が七月帰国につき、五月まで随時進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

なでしこ会主催のインドネシアガメラン楽団慈善公演会インドネシア大使館・朝日新聞社後援に御臨席のため、午後二時二

十三分御出門、神田共立講堂に行啓される。御到着後、なでしこ会会長宣仁親王妃喜久子ほか会員のお出迎えをお受けになり、お席において故雍仁親王妃勢津子・崇仁親王妃百合子と御対面になる。ついでインドネシア各地の音楽・舞踊からなる公演を御覧になる。途中、十五分間の休憩中、駐日インドネシア国特命全権大使バンバン・スゲン及び同夫人、楽団団長ステジャヤ夫人を御引見になり、団員の少女二名より花束と献上品をお受けになる。茶菓をお召しの後、再び舞踊を御覧になり、四時三十分還啓される。なお、この慈善公演会は癌研究援助のためになでしこ会が主催するものにて、この度の行啓に際し、なでしこ会に金一封を賜う。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁序報

二十九日 日曜日 夕刻、義宮御殿において催されるカルタ会に御臨席のため、天皇と共に同御殿にお出ましになり、皇太子・正仁親王・故雍仁親王妃勢津子・崇仁親王・東久邇盛厚等と百人一首等々される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、東宮侍従日誌

三十日 月曜日 午前、孝明天皇例祭につき、女官今城誼子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁序報

昭和三十六年二月

二月

一日 水曜日 午後、御進講室において、東宮女官長牧野純子・東宮女官今村淑子・同名和栄子の拝謁をお受けになる。牧野以下は昨年の皇太子・同妃の訪米及びイラン国・エチオピア国・ネパール国・インド国への天皇御名代派遣に供奉につき、同人等より旅行の話をお聞きになる。○女官長日記、女

官日誌、内舎人日誌

三日 金曜日 午後、天皇と共に両陛下御座所において、東久邇成子と約二時間三十分^にわたり御対面になる。成子は、昨年十一月より国立東京第一病院に入院中のところ、翌四日退院する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

六日 月曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、ボリビア国副大統領ファン・レチン・オケンド及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁序報、

外交記録

七日 火曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前九時五十四分御出門、十一時十五分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内

庁序報

十三日 月曜日 午後一時、葉山御用邸を御出門、天皇と共に江ノ島水族館に行啓される。四時四十分御帰邸になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録

十五日 水曜日 午後二時十五分、天皇と共に葉山御用邸を御出門、三時四十分皇居に還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁序報

二十一日 火曜日 午前、仁孝天皇例祭につき、女官原田リツに御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

前田青邨に梅の御絵を御披露のため、御使を北鎌倉の同人邸に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌
二十二日 水曜日 午前、謁見の間において、新任のサウジアラビア国特命全権大使シェイク・アハメッド・アブドル・ジャツバル、ブラジル国特命全権大使デシオ・オノラート・デ・モーラ及び同夫人、ブルガリア国特命全権公使フリスト・ボエフ及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、謁見録、宮内庁庁報

天皇と共に西の間において、この度離任の米国特命全権大使ダグラス・マッカーサー二世及び同夫人、スイス国特命全権大使マクス・トレンドレ及び同夫人、新任のブラジル国特命全権大使デシオ・オノラート・デ・モーラ及び同夫人、ブルガリア国特命全権公使フリスト・ボエフ及び同夫人のため、午餐を催される。なお、皇后より米国大使夫人及びスイス国大使夫人に、それぞれ御紋付銀製花瓶を賜う。後日、米国大使より天皇・皇后への謝意を伝える天皇宛ての礼状^{三月一日付}が、スイス国大使よりは天皇・皇后への謝意の奏上を願う宮内庁長官宛ての礼状^{三月二日付}が寄せられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、外交贈答録、宮内庁庁報

二十三日 木曜日 午前、天皇と共に表御座所において、この日満一歳の誕生日を迎えた徳仁親王、及び皇太子妃と御対面になる。天皇・皇后より皇太子・同妃に五種交魚代料を、皇太子に鮮鯛及び御台人形代料を、正田家に五種交魚代料をそれぞれ賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人

日誌、東宮侍従日誌、宮内庁庁報

昭和三十六年三月

二十四日 金曜日 午前、拝謁の間において、近く赴任のペルー国駐箚特命全權大使三浦文夫及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁庁報

官報

午後、アジア・アフリカ法律諮問委員会東京会議に出席の各国委員夫妻のため、天皇と共に西の間において、茶会を催される。ビルマ国始め九箇国の委員夫妻及び関係員等が出席する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

夕刻、天皇と共に表御座所において、この度侍従を免じられた戸田康英の拝謁をお受けになる。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

二十七日 月曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、世界一周の途次に来日した米国タイム・ライフ社取締役会長アンドリュー・ヘイスケル及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

三月

二日 木曜日 天皇と共に表一の間において、この日誕生日を迎えた島津貴子と御昼餐を御会食にする。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

三日 金曜日 午後、御進講室において久邇邦昭御兄朝融の子息・同朝建邦昭の弟の拝謁をお受けになり、朝建成年のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

六日 月曜日 満五十八歳のお誕生日を迎えられる。

午前、御進講室において、宮内庁長官始め各部長等、続いて側近奉仕者の拝賀をお受けになる。ついで西の間において、皇太子・同妃始め皇族・元皇族・元王族・御縁故者、続いて内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官等及びその配偶者の拝賀をお受けになる。その後、御進講室において元皇太后宮女官等、続いて元宮内庁長官及び元側近奉仕者、滝野繁尾元久邇宮侍女の拝賀をお受けになり、内廷西玄関前において宮内庁職員・皇宮警察本部職員に御会釈を賜い、再び御進講室において元皇后宮女官・元女官等の拝賀をお受けになる。

午後、常侍官候所脇階段下において元女孀等に御会釈を賜い、御進講室において元学習院女学部教授佐野正造・元女子学習院教授今井熊太郎・同松島彝及び御学友・御同級生七名の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮侍従日誌、儀式録、典式録

七日 火曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、政府の賓客として来日中のインドネシア国国務大臣兼国家企画審議会議長モハメッド・ヤミン及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

九日 木曜日 昨日来日のベルギー国前国王レオポルド三世のため、天皇と共に北の間において、宮中午餐を催される。この度の来日に際し、天皇・皇后より前国王に濁手四方割花瓶草花模様、十二代酒井田柿右衛門作を、同

夫人リリアンに婦人洋服地薄藤色地小桜紋緞子地、紅葉山御養蚕所製を御贈進になる。この度の御来訪は非公式ではあるが、皇

室において国賓に準じて接遇することとされた。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東

宮侍従日誌、外賓参内録、外交贈答録、宮内庁庁報

十日 金曜日 午後、藤岡保子より箔の置き方の指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌
十三日 月曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前九時五十一分御出門、十一時十五分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録、宮内庁報

十五日 水曜日 今般火災事故により多数の死者を出した福岡県の上清炭^鈦業^{権者上田}の罹災者合同葬^{鈦業株式会社}が翌十六日に執行されるに当たり、この日、天皇・皇后よりお花料として金一封を賜う。○賜与録、宮内庁序報

十七日 金曜日 御夕餐後、天皇と共に、長野県の養蚕農家を取り上げた映画「ひとりの母の記録」等を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録

十八日 土曜日 午前、天皇の笠島方面における海洋生物御採集に同行され、海上にお出ましになる。立石茶屋にて御昼餐後、御帰邸になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録

二十日 月曜日 午前、梅・桃の御絵を御披露のため、前田青邨の許に侍従入江相政を遣わされる。

○女官長日記、女官日誌

午後二時十五分、天皇と共に葉山御用邸を御出門、三時三十九分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁序報

二十一日 火曜日 午前、春季皇霊祭及び同神殿祭につき、女官今城誼子に御代拝を仰せ付けられる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁序報

二十二日 水曜日 午前、拝謁の間において、近く赴任のドイツ連邦共和国駐劄特命全權大使成田勝

四郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁
庁報、官報

二十七日 月曜日 午前、拝謁の間において、近く赴任のフィリピン国駐節特命全権大使土屋隼及び
同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁庁報、官報
天皇と共に謁見の間において、イラン国商務大臣アリ・アシユガル・プールホマユン及び同夫人を御
引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

午後一時三十二分御出門、高松宮邸に行啓される。御到着後、お庭伝いに光輪閣にお出ましになり、
飾られた雛人形を御覧になる。続いて錦江会会員によるディオールのファッションショーを御覧にな
る。終わってそれぞれの洋服やアクセサリを御覧になった後、御食堂においてお茶の席に臨まれる。

四時五十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、宮内庁庁報

二十八日 火曜日 「パキスタン古代文化展」を御覧になるため、午前九時四十三分御出門、天皇と
共に上野松坂屋に行啓される。十一時十二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎
人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、毎日新聞

御夕食後、天皇と共に両陛下御座所において、八丈島旅行を終えた正仁親王と御対面になる。○女官長
日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

二十九日 水曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、イラン国最高経済会議事務局長ハッサン・
アリ・マンストール及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見
録、典式録、宮内庁庁報

天皇と共に謁見の間において、ドイツ連邦共和国ドイツ銀行理事長ヘルマン・ヨゼフ・アプス及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に御進講室において東久邇聡子の拝謁をお受けになり、東久邇成子入院中のことにつきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

御進講室において、フランス留学から昨日帰国の大谷暢順御妹大谷智子の子息及び大賀美都子大谷暢順の姉・同子息二名の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

三十一日 金曜日 正午過ぎ、拝謁の間において、この度退職の前掌典長室町公藤の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、贈賜録

表二の間において、新任のアルゼンチン国特命全権大使アレハンドロ・オルフィーラ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に表一の間において、この度離任のアラブ連合共和国特命全権大使ムースタファ・ユーセフ及び同夫人・息女、新任のサウジアラビア国特命全権大使シェイク・アハメッド・アブドル・ジャッパール、アルゼンチン国特命全権大使アレハンドロ・オルフィーラ及び同夫人のため、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

四月

二日 日曜日 夕刻、天皇及び皇太子・同妃・正仁親王と共に拝謁の間において、和田英作が描いた関東大震災時の山本内閣親任式の絵画を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

誌、東宮侍従日誌、宮内庁庁報

三日 月曜日 午前、神武天皇祭皇霊殿の儀につき、女官原田リツに御代拝を仰せ付けられる。夕刻、皇霊殿御神楽の儀につき、同女官に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日記、臨時祭祀録、典式録、宮内庁庁報

四日 火曜日 夕刻、天皇と共に、侍医長村山浩一より、この日午後宮内庁病院に入院した東久邇成子の容体についてお聞きになる。○女官長日記、女官日誌

五日 水曜日 「シツキム・ヒマラヤ展」を御覧になるため、午前九時四十二分御出門、天皇と共に日本橋高島屋に行啓される。十一時二十分還啓される。なお同展御鑑賞に先立ち、会場隣において開催中の生花展にお立ち寄りになり、出品されている鷹司和子・島津貴子の作品を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

天皇と共に拝謁の間において、東久邇成子の子女文子・秀彦・真彦・優子と御昼餐を御会食になる。

この日、優子に、小学校入学につき天皇・皇后が万那材料及びお品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、皇女照宮

七日 金曜日 午前、拝謁の間において、新任の皇宮警察本部長小杉平一及び前皇宮警察本部長井上康夫の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

宮内庁病院に入院中の東久邇成子をお見舞いのため、天皇と共に同病院にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録

八日 土曜日 正午前、宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。御夕餐後は、天皇と共に正仁親

王を伴われてお見舞いになる。病室において、成子の子女たちが志賀高原にてスキーに興じる様子を撮影した八ミリ映画及びスライドを御一緒に御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

九日 日曜日 御夕餐後、天皇と共に宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十一日 火曜日 夕刻、天皇と共に宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十二日 水曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、来る十七日に結婚する伏見章子^{博義王第三王女}及びその母朝子の拝謁をお受けになる。天皇・皇后より朝子及び章子にそれぞれ白縮緬ほかを賜う。また

結婚に当たり天皇・皇后より伏見博明^{博義王第一王子}に清酒及び鮮鯛代料を、章子に扇子代料及び紅白羽二重を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

御進講室において、賜物お札に参内の安藤幸^{ヴァイオリニスト}の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、宿直勤務控簿

御進講室において、北白川房子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、宿直勤務控簿
夜、当直侍従より、元皇后宮大夫広幡忠隆死去の報を天皇と共にお聞きになる。十四日には天皇・皇后の御使として侍従入江相政を広幡邸に差し遣わされ、祭料を賜う。これとは別に天皇・皇后より霊前に菓子・野菜を、皇后より切り花を賜う。○侍従日誌、侍従職日誌、恩賜録、贈賜録

十三日 木曜日 御夕餐後、天皇と共に宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

十五日 土曜日 午後、御進講室において久邇邦昭及び同夫人正子・同子息朝尊と御対面になる。久邇朝尊初参内につき、お品及び万那料等を賜う。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、贈賜録

御夕餐後、天皇と共に宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十七日 月曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、外務省及び日本細菌学会の招客として来日したオーストラリア国メルボルン大学教授フランク・マックファーレン・バーネット及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

夕刻、宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌

十八日 火曜日 夜、天皇と共に宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

十九日 水曜日 地方事情御視察のため、天皇と共に佐賀・長崎両県に行啓される。午前十時五分御出門、東京国際空港より福岡県の板付空港に向かわれる。御到着後、佐賀県の社会福祉法人寿楽園を御訪問になる。居室を御慰問後、園長鹿毛よし子より、昭和三十四年に東伏見慈治^{御弟}が来園した旨をお聞きになる。基山駅より佐賀駅を経て、午後二時五十五分御泊所の佐賀県知事公舎に到着される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、社会福祉法人寿楽園所蔵資料、行幸啓誌、館報きやま

二十日 木曜日 午前九時三十分、天皇と共に御泊所佐賀県知事公舎を御出発になる。佐賀県護国神社にお立ち寄りになり、拝殿前にて御拝礼になる。ついで社会福祉法人佐賀整肢学園を御訪問になる。

次に戸上電機製作所を視察される。終わって佐賀県庁に御到着になる。特産品を御覧になった際、佐賀錦の織元古賀八千代に対し、御下問と労りのお言葉を賜う。御昼食後、佐賀駅より唐津駅を経て、玄海国定公園内の鏡山山頂に臨まれ、周囲を御展望になる。説明者の唐津市助役佐伯政見が唐津港整備や臨海工業地帯の造成について触れた際、皇后は誘致した工場の煙が松原に与える影響に関し御質問になる。午後三時五十五分、御泊所の唐津市長邸に御到着になる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、内

舍人供奉日記、幸啓録、宮内庁庁報、官報、佐賀整肢学園所蔵資料、唐津市役所所蔵資料、行幸啓誌、天皇皇后両陛下御来社記念誌、

佐賀整肢学園三十年のあゆみ

二十一日 金曜日 午前九時十五分、雨の中、天皇と共に御泊所唐津市長邸を御出発になり、株式会社唐津鉄工所に向かわれる。途中明神台において下車され、唐津くんちの山笠を御覧になる。唐津鉄工所に御到着後は所内の組立工場・機械工場等を御視察になる。唐津駅より肥前白石駅を経て、国営有明干拓地にお着きになり、特設展望台より同地を御覧になる。午後一時三十三分、御泊所和多屋別荘に御到着になる。御昼食の後、天皇と共に重要無形文化財の郷土民芸^{面浮立・小浮立・荒踊り}を御覧になる。○女官

長日記、女官日記、侍従日記、内舍人供奉日記、幸啓録、宮内庁庁報、官報、行幸啓誌

二十二日 土曜日 午前九時二十分、小雨の中、御泊所和多屋別荘を天皇と共に御出発、深川製磁株式会社を御視察になる。次に香蘭合名会社に到着される。陳列品を御覧になった折、皇后は桃花尽くしの湯呑みの前で立ち止まられる。作者の十二代今泉今右衛門より、昭和十三年に宮内省の用命で上

納した揃い食器の内の湯呑みと同じ作品である旨をお聞きになり、今でも大事に使っているとお答えになる。次に伊万里市立大坪小学校を御訪問になる。特殊学級を御視察の際、皇后は児童を指導する講師山口愛に対し、指導の苦勞及び児童への効果などについて御質問になる。伊万里駅より長崎県の佐世保駅を経て、佐世保船舶工業株式会社佐世保造船所に御到着、建造中のタンカー等を御覧になる。次に佐世保市産業会館において特産品を御覧になる。午後四時三十二分、御泊所山水楼に到着される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、株式会社香蘭社所蔵資料、伊万里市役所所蔵資料、伊万里市立図書館所蔵資料、佐世保重工業株式会社佐世保造船所所蔵資料、行幸啓誌、伊万里市史、天皇陛下皇后陛下を長崎県にお迎えして、みゆきの道、いまり

二十三日 日曜日 午前九時二十二分、霧雨の中、天皇と共に御泊所山水楼を御出発になり、有料道路西海橋を御視察になる。次に川棚町立川棚授産場を御視察になる。ついで大村市の九州電力株式会社大村発電所にお着きになり、御昼食の後、視察される。大村駅より長崎駅を経て、長崎国際文化会館に到着される。屋上より原子爆弾被災地中心付近の復興状況を御展望になり、また館内の原爆資料展示室ほかを御覧になる。長崎県庁お立ち寄りの後、午後四時五十分、御泊所矢太楼に御到着になる。

玄関前広場にて催された郷土民芸等を、二階より御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、官報、佐世保市役所所蔵資料、九州電力株式会社大村発電所所蔵資料、電気と九州、天皇陛下皇后陛下を長崎県にお迎えして、みゆきの道、広報かわたな

二十四日 月曜日 午前九時三十分、天皇と共に御泊所矢太楼を御出発、長崎魚市場を御視察になる。次に日本赤十字社長崎原爆病院を御訪問になる。入院患者を御慰問後、看護婦代表にお言葉を賜う。

昭和三十六年四月

なお、この訪問に際し、天皇・皇后より入院患者一同にお見舞いとして切り花を賜う。次に長崎観光開発株式会社長崎水族館を御視察になる。終わって諫早市役所にお立ち寄りになり、御昼食後、屋上より昭和三十二年水害後の復旧状況を展望される。ついで愛野展望台に臨まれ、御眺望になる。午後三時五十一分、天皇と共に御泊所雲仙観光ホテルに御到着になる。夕刻、宮内記者会会員の拝謁をお受けになる。雲仙の印象については、とてもきれいで以前から楽しみにしていた旨をお答えになる。

また、天皇の還暦祝いの内容については、秘密である旨をお答えになり、天皇とお顔を見合わせてお笑いになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、日本赤十字社長崎原爆病院所蔵資料、天皇陛下皇后陛下を長崎県にお迎えして、みゆきの道、諫早水害誌、陛下お尋ね申し上げます、朝日新聞、毎日新聞

二十五日 火曜日 この日は公式日程はなく御静養日につき、午前十時五分天皇と共に御泊所雲仙観光ホテルを御出発、雲仙天草国立公園内を御散策になる。午後零時三十分御泊所に戻られる。午後も同じく御泊所付近の名所や原生沼付近を御散策になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、雲仙観光ホテル所蔵資料、島原新聞

二十六日 水曜日 午前九時十五分、雨の中、天皇と共に御泊所雲仙観光ホテルを御出発、島原市立島原第三小学校を御視察になる。多比良港より熊本県長洲港まで自動車航送船第二有明丸に御乗船になる。御上陸後、長洲駅より博多駅を経て板付空港に到着される。お召し機に御搭乗、東京国際空港に向かわれる。午後五時、皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、天皇陛下皇后陛下を長崎県にお迎えして、長崎新聞

御夕食後、宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

二十七日 木曜日 御夕餐後、天皇と共に宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十八日 金曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、新任のニカラグア国特派大使アナスタシオ・ソモサ・デバイレ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報、外交記録

夕刻、宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

二十九日 土曜日 天皇誕生日につき、皇居広庭に天皇及び皇太子・同妃・正仁親王と共にお出ましになり、午前三回・午後四回の計七回にわたり、天皇誕生日の一般参賀をお受けになる。各お出ましの間に、御進講室において皇族・元皇族・御縁故者、宮内庁長官始め総代、元女官等の拝賀をお受けになる。

正午、御進講室において内宴を催され、皇太子妃・故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子と御会食になる。午後四時、天皇と共に西の間において、天皇誕生日茶会の儀に臨まれる。

皇太子・同妃始め皇族が陪席し、外国交際官等及びその配偶者が出席する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、典式録、旧皇族雑録、宮内庁庁報

三十日 日曜日 午後、天皇と共に宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。その際、チューリップ一束を贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

この月 大聖寺・宝鏡寺・曇華院・光照院・林丘寺・円照寺・中宮寺・法華寺・三時知恩寺・長福寺・善光寺に、恒例により乾海苔料を賜う。○贈賜録

五月

一日 月曜日 午前、拝謁の間において、近く赴任のオーストラリア国駐節特命全權大使太田三郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁庁報、官報

ギリシヤ国特命全權大使ジョルジュ・クスタス病気に付き、この日、大使夫人へお尋ねとして切り花を賜う。○女官長日記、贈賜録、外交贈答録

二日 火曜日 御夕餐後、天皇と共に宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。約一時間にわたり御歓談になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

三日 水曜日 夕刻、天皇と共に宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

四日 木曜日 読売新聞社主催「インカ帝国黄金展」を御覧になるため、午前九時四十二分御出門、天皇と共に上野松坂屋に行啓される。十一時十二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、読売新聞

午後、両陛下御座所において、池田厚子と御対面になる。夕刻には御一緒に宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

五日 金曜日 夕刻、天皇と共に宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

六日 土曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。○女官長日記、女官

日誌、内舎人日誌

この日、第六回ユニセフ協力募金運動を実施中の財団法人日本ユニセフ協会に御奨励金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

七日 日曜日 午後、表一の間において、天皇の御還暦奉祝会を主催される。天皇及び皇太子始め皇族・元皇族、並びに宮内庁長官・側近奉仕者等が出席する。このうち入院中の東久邇成子は寝椅子にて出席する。会は島津貴子の司会により進められ、余興のうち、皇后は女官一同の合唱「花」に参加され、また独唱「アベ・マリア」を御披露になる。ほかに故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子・北白川房子・東久邇聡子による謡曲「猩々」にもお加わりになる。ついで表三の間に移られ、崇仁親王の指導のもとに行われた出席者一同によるフォークダンスに御参加になる。その後、西の間においてビュッフェ形式にて御会食、御歓談になる。なお、皇后より天皇にお祝いの品をお贈りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮侍従日誌、典式録、宮内庁庁報、菊と葵のものがたり、皇女照宮、朝日新聞、毎日新聞

八日 月曜日 来る十日のペルー国大統領マヌエル・プラード及び同夫人の来日に先立ち、午前、天皇と共に拝謁の間において、同国駐劄特命全權大使三浦文夫より同国事情についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮侍従日誌、進講録、宮内庁庁報、外交記録

午後、宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌
秩父宮・高松宮・三笠宮の催しによる天皇御還暦祝賀の晩餐会に御臨席のため、五時三分御出門、天皇と共に光輪閣に行啓される。皇太子・同妃、正仁親王、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久

昭和二十六年五月

子、崇仁親王・同妃百合子が出席する。八時五十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮侍従日誌、幸啓録、宮内庁庁報

九日 火曜日 午後、元奉仕者及び木曜会宮内庁幹部職員・掌典長及び掌典・皇宮警察幹部職員の会共催の天皇還暦のお祝い会に御臨席のため、天皇及び皇太子・同妃・正仁親王と共に呉竹寮にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮侍従日誌、宮内庁庁報

十日 水曜日 国賓として来日するペルー国大統領マヌエル・プラード及び同夫人を天皇と共にお出迎のため、午前九時三十一分御出門になり、東京国際空港に行啓される。到着の大統領夫妻をお迎えになり、天皇は大統領と、皇后は大統領夫人と宿舎の白金迎賓館まで同車される。十一時二十五分皇居に還啓される。なお大統領夫妻の来日に際し、皇后より大統領夫人に花束を贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮侍従日誌、外賓参内録、幸啓録、外交贈答録、宮内庁庁報、官報、外交記録

午後、天皇と共に旧北御車寄門内において、身体障害者福祉法施行十一周年記念大会において厚生大臣から表彰された、身体障害者で自立更生し他の模範となる者及び身体障害者の更生援護に功労のあつた者等に御会釈を賜う。厚生大臣古井喜実より挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

天皇と共に旧北御車寄門内において、藍綬褒章を授与された文部省関係の教育功労者等に御会釈を賜う。受章者広池千英学校法人広池学園理事長、麗沢大学長より挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

夕刻、宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。その際、東久邇盛厚の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

十一日 木曜日 午前十時三十五分より天皇と共に謁見の間において、昨日国賓として来日のペルー国大統領マヌエル・プラード及び同夫人と御会見になる。その際、相互儀礼叙勲があり、皇后にエル・ソル・デル・ペルー勲章大綬章ペルー太陽勲章大綬章が贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、

東宮侍従日誌、外賓参内録、宮内庁庁報、官報

夕刻、宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌

午後七時三十分、天皇と共に西の間において、ペルー国大統領夫妻のための宮中晚餐を催される。ついで北の間において宮中夜会を催される。なおこの度の来日に際し、天皇・皇后より大統領へ刺繡屏風梅におしどりを、同夫人へ紅葉山御養蚕所製婦人服地金茶地藤文様緞子を御贈進になる。また皇后より大統領息女ローサ・プラードへ紹訪問着鉄仙文様を、大統領夫人妹ルシーラ・マラーガへ小紋縮緬菊文様を贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮侍従日誌、外賓参内録、外交贈答録、宮内庁庁報、官報、外交記録

十三日 土曜日 午前、宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

十四日 日曜日 午前、天皇と共に宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

母の日につき、午後、内廷西玄関において、東京都主催の「母の日」大会に参加した者約八百六十名に御会釈を賜う。代表の片山花子よりカーネーションの花束をお受けになり、次のお言葉を賜う。

昭和二十六年五月

母の日に皆さんにお会いすることができて、本当にうれしく思います。

また皆さんから心のこもった花を有難う。

今日の母の日を機会に、更に教養を高め、慈愛深い母となるよう心がけ、次の時代を背負う子供たちを、明るく、丈夫に育てるよう努めて下さい。

どうか皆さんお元気で。

なお、皇后が花束を小さくし、その余剰費用を社会事業に用いるようにとの思召しを示されたため、これまでより小型の花束に変更される。また、皇太子・同妃・正仁親王より皇后にカーネーションが贈られる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報、毎日新聞

大相撲五月場所八日目を御覧になるため、午後二時五十七分御出門、天皇と共に蔵前国技館に行啓される。五時五十三分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、

官報

十五日 月曜日 午後、宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。その際、バラの切り花等を贈られる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

ペルー国大統領マヌエル・ブラード主催の晩餐会に御臨席のため、午後七時十八分御出門、天皇と共に光輪閣に行啓される。十時五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮

侍従日誌、幸啓録、外賓参内録、宮内庁庁報、官報、外交記録

十六日 火曜日 天皇と共に西の間において、この度離任のキューバ国特命全権大使マリオ・アルス・ガライ・イ・ラモス・イスキエルド及び同夫人、レバノン国特命全権公使マホームード・パンナ及び同

夫人、新任のスイス国特命全權大使ジャン・ドウ・ラーム及び同夫人、パナマ国特命全權公使セサル・アウグスト・ギリエン・マルクツシ及び同夫人のため、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮侍従日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁序報

夕刻、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌

十七日 水曜日 午前、貞明皇后十年式年祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、臨時祭祀録、典式録、宮内庁序報

貞明皇后の命日につき、午後、天皇と共に旧北御車寄門内において、元皇太后宮大夫大谷正男始め貞明皇后元奉仕者に御会釈を賜う。また、貞明皇后追悼のため、天皇と共に表一の間において御晩餐を催され、皇太子・正仁親王・故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王・同妃喜久子・崇仁親王・同妃百合子・北白川房子・東久邇聡子・鷹司平通・同夫人和子・島津貴子と御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

十八日 木曜日 ペルー国大統領マヌエル・プラード及び同夫人をお見送りのため、午前九時三分御出門、天皇と共に東京国際空港に行啓される。十時四十一分還啓される。後日、大統領夫人クロリンダ・エメ・デ・プラードより皇后へ日本滞在中に受けた款待に対する礼状^{六月十日付}が寄せられ、七月二十

二日付にて答簡を發せられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮侍従日誌、幸啓録、外賓参内録、外賓接待録、宮内庁序報、官報、外交記録

午後、拝謁の間において、日本赤十字社社長島津忠承の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

昭和二十六年五月

夕刻、宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

十九日 金曜日 午前九時五十七分、天皇と共に御出門、原宿駅より皇太子・同妃と御同車になり、

高尾駅を経て多摩陵^{大正天皇}・多摩東陵^{貞明皇后}に行啓される。御到着後、天皇に続いて両陵を御拝礼になる。

ついで皇太子・同妃の拝礼がある。終わって同所を御発、原宿駅において皇太子・同妃とお別れになり、午後二時五十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮侍従日誌、幸啓

録、臨時祭祀録、宮内庁庁報

夕刻、宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

二十日 土曜日 午前、拝謁の間において、近く国際連合日本政府代表部に部長として赴任する特命全権大使岡崎勝男及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、

典式録、宮内庁庁報、官報、儀礼軌範

謁見の間において、元東北学院教員メリー・エンマ・ゲルハートを御引見になる。同人は明治三十八年来日以來、我が国の英語教育に尽力し昭和十六年帰国する。今般東北学院創立七十五周年記念式典に当たり来日した。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、宮内庁庁報、朝日新聞

午後、宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになり、バラの切り花を贈られる。○女官長日記、女官日誌、内

舎人日誌

二十一日 日曜日 夕刻、宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

二十二日 月曜日 午後、天皇と共に宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

二十三日 火曜日 昭和三十六年度植樹行事に御臨場、併せて地方事情等を御視察のため、天皇と共に北海道に行啓される。午前十時四十五分御出門、東京国際空港より千歳飛行場を経て、午後一時五十分御泊所支笏湖王子クラブに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍

人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、北海道行幸啓誌

二十四日 水曜日 植樹行事に御臨場のため、午前十一時十八分天皇と共に御泊所支笏湖王子クラブを御出発、支笏湖畔の植栽地モーラップ山麓にお着きになる。同所において天皇に続き、北海道知事町村金五・国土緑化推進委員会委員長清瀬一郎・同副委員長徳川宗敬の介添えにより、アカエゾマツ三本をお手植えになる。午後零時二十八分御泊所にお戻りになる。御昼食の後、天皇と共に苫小牧営林署第十四林班の水明郷原生林内を御散策になる。その際、皇后はシラネアオイを写生される。御泊所にお戻りの後も、採集された植物を御写生になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓

録、宮内庁庁報、官報、北海道行幸啓誌、北海道新聞

二十五日 木曜日 午前九時十分天皇と共に御泊所支笏湖王子クラブを御出発、札幌市の農林省林業試験場北海道支場にお着きになる。御播種地に臨まれ、天皇は札幌営林局長榎田徳一の介添えにより、皇后は北海道山林種苗協同組合顧問三国重四郎の介添えによりトドマツの種子をお手蒔きになる。ついで同場庁舎にて御少憩後、標本館を御視察になる。午後零時五分、御泊所札幌グランドホテルに御到着になる。その際、故雍仁親王妃勢津子のお出迎えをお受けになる。御昼食後、御泊所を御出発、札幌神社に立ち寄られ、拝殿の御拝座において、天皇に続いて御拝礼になる。次に北海道体育祭会場に充てられた円山総合グラウンドに臨まれ、故雍仁親王妃も同席にてダンス等の演技を御覧になる。

昭和二十六年五月

二時五十五分御泊所にお戻りになる。

日本赤十字社北海道支部社員大会並びに御親授式に名誉総裁として御臨席のため、三時四十分お一方にて御泊所を御出発、札幌市民会館に行啓される。御到着後、御休所において名誉副総裁の故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子と御対面になる。それより式場に臨まれ、金色有功章・章銀有功章・特別社員章を各総代に御親授になる。また、次のお言葉を賜う。

日本赤十字社の北海道支部社員大会に臨み、皆さんと親しく接することができましたことをまことに嬉しく思います。

当支部の事業が、皆さんの熱心な尽力により、年とともに発展を見えていますことは感謝にたえません。

赤十字の使命と任務とは、国の内外を通じいよいよ重要性を加えていますので、関係者一同は、さらに道民の深い理解と支援とを得て、一そう協力して赤十字の事業の進展に努めるよう望んでやみません。

北海道支部長の奉答をお受けになる。閉式後、御休所にて御少憩になり、会館出口ホールにおいて社会福祉事業功労者に御会釈を賜う。四時五十分御泊所札幌グランドホテルに戻られる。その後、故雍仁親王妃・宣仁親王妃と天皇と共に御歓談になる。御夕餐は天皇及び故雍仁親王妃と御会食になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、神宮及神社諸件、宮内庁序報、官報、札幌市役所所蔵資料、北海道神宮所蔵資料、事業年報（日本赤十字社）、北海道行幸啓誌、北海道新聞

二十六日 金曜日 午前九時二十五分天皇と共に御泊所札幌グランドホテルを御出発、北海道庁に御

到着になり、展示室にて「北海道開発の歩み」の展示品等を御覧になる。次に北海道大学クラーク会館を視察され、ついで同大学農学部附属植物園を御巡覧になる。途中、南極から帰国の樺太犬タロを御覧になる。札幌駅より栗山駅を経て、夕張郡の王子製紙株式会社栗山林木育種研究所に向かわれる。なお車中では広大な北海道の光景を写生される。同所に御到着後、御昼食を取られ、所内を御巡覧になる。栗山駅より登別駅を経て、午後四時五十五分御泊所登別グランドホテルに到着される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、王子製紙株式会社林木育種研究所蔵資料、栗山町広報、栗山町史、北海道行幸啓誌

二十七日 土曜日 午前九時四十分天皇と共に御泊所登別グランドホテルを御出発、苫小牧市立ひまわり保育所を御視察になる。保育室・乳児室・遊戯室を御覧になる。次に建設途上の苫小牧工業港を視察され、お野立所より同港を御展望になる。ついで苫小牧市役所に御到着になる。御昼食後、展示された開発機械や工業港完成模型を御覧になる。終わって還啓の途に就かれる。午後一時五十分、千歳飛行場を御出発になり、東京国際空港を経て、四時皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、苫小牧教育史、北海道行幸啓誌

御夕食後、宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌
この日、元掌典九条道秀死去につき、天皇・皇后より霊前に菓子をお供え、皇后より霊前に切り花をお供えになる。○侍従日誌、侍従職日誌、恩賜録

二十八日 日曜日 常磐会総会に御出席のため、午後一時十九分御出門、椿山荘に行啓される。玄関において常磐会理事長伏見朝子のお出迎えをお受けになり、玄関内にて崇仁親王妃百合子・北白川房

昭和二十六年五月

子・東久邇聡子・梨本伊都子等のお出迎えをお受けになる。御休所において皇族・元皇族と御対面の後、懇親会場に向かわれる。会員による「金剛石」の合唱の中を御着席になる。皇后御歌「あけぼの」を始め様々な合唱をお聴きになり、ついで二階会場に移られ、会員等の花道・書道・盆石・染物・佐賀錦・瀬戸物等の習作展を御覧になる。再び懇親会場にお出ましになり、会員と歓談され、太田秋亭の席画を御覧になる。四時十二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、東京新聞

御夕餐後、天皇及び正仁親王と共に、宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十九日 月曜日 第五十二回国際ロータリー年次大会開会式に御臨席のため、午前九時五十一分御出門、天皇と共に東京国際貿易センター二号館に行啓される。十一時八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

午後、御進講室において、メリー・ハル・チャペルより英語の進講をお聴きになる。近く同人が帰国につき、この日が終講となる。同人に賜金がある。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、贈賜録

夕刻、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、蚕を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

三十日 火曜日 御夕餐後、天皇と共に宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

三十一日 水曜日 午前、拝謁の間において、カンボジア国より帰国の特命全権大使大橋忠一、アフガニスタン国より帰国の特命全権大使仲内憲治及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

誌、侍従日誌、内舎人日誌、拜謁録、典式録、宮内庁庁報

天皇と共に表一の間において、この度離任のセイロン国特命全権大使デーパル・スサンタ・デ・フォンセカ、マラヤ連邦特命全権大使リー・ティアン・ケン及び同夫人、また新任のコロンビア国特命全権大使ラファエル・ナヴァス・パルド及び同夫人、米国特命全権大使エドウィン・オールドファザー・ライシャワー及び同夫人のため、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

六月

一日 木曜日 午後、宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

二日 金曜日 天皇と共に北の間において、日本政府の賓客として来日したイタリア国外務大臣アントニオ・セーニ^{元首}及び同夫人のため、宮中午餐を催される。この度の来日に際し、大臣より天皇・皇后に献上があり、皇后にはワニ皮製ハンドバッグが贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、外交雑録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報、外交記録

御夕食後、天皇と共に宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

三日 土曜日 午前、宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになり、成子の昼食のお世話をされる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

この度の台風四号により青森県八戸市及び岩手県下閉伊郡田老町において甚大な被害発生につき、こ

の日天皇・皇后より両県に対し御救恤金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

四日 日曜日 午前、天皇と共に宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

午後、パレス乗馬倶楽部主催の東京馬術大会を御覧になるため、天皇及び正仁親王と共に皇居内の馬場にお出ましになる。御着後、少年少女馬場馬術・婦人部班馬術・母衣引など五種目を御覧になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録

島津久永・同夫人貴子来る六日よりヨーロッパ旅行に出発につき、御送別のため、天皇と共に拝謁の間において、御夕餐を御会食になる。島津夫妻のほか、皇太子・同妃、正仁親王、東久邇盛厚が出席する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮侍従日誌、宮内庁庁報

五日 月曜日 メリー・ハル・チャペル今般帰国につき、午後、御送別のため御進講室においてお茶の席を設けられる。同時に帰国する同人妹コンスタンス・チャペルも招かれる。姉妹それぞれに賜物がある。また、七月の帰国の際にはメリー・ハル・チャペルに切り花を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、典式録、贈賜録

七日 水曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、メキシコ国特派大使マヌエル・モレーノ・サンチエス^{同国上院議長}及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

八日 木曜日 午後、宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。それより書陵部にお出ましになる。

修補室において職員による裏打ち作業や、虫損のある卷子・綴本等の修補作業を御覧になる。○女官長

日記、女官日誌、内舎人日誌、重要雑録

九日 金曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、繭掻きをされる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

午後、山口玉糸をお召しになり、御進講室において北海道行啓時のスケッチから絵を描かれる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、宿直勤務控簿

十日 土曜日 午前、御進講室において、北白川房子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌
過日来日されたネパール国皇太后カンティ・ラジャ・ラクシュミ・デヴィ・シャー及び同皇太后イス
ブワリ・ラジャ・ラクシュミ・デヴィ・シャーこの日御帰国につき、御使として式部副長後藤鎰尾を
東京国際空港に差し遣わされ、それぞれに花束を御贈進になる。なお、ネパール国皇太后お二方より
天皇に金色台水晶置物、皇后に白檀製木箱^{宝石箱}の御贈進がある。○女官長日記、贈賜録、外賓接待録

十一日 日曜日 午後、天皇と共に宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十三日 火曜日 午後、宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

十四日 水曜日 午後、宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

十六日 金曜日 午前、宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

十七日 土曜日 午後、安藤幸をお召しになり、御進講室においてヴァイオリンの練習をされる。○

女官長日記、女官日誌

十八日 日曜日 午前、池田厚子去る十四日
日上海を伴われ、天皇と共に宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いに

なる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十日 火曜日 天皇と共に表一の間において、菊栄親睦会会員の皇太子・同妃始め皇族・元皇族等に午餐の御陪食を賜う。続いて表三の間においてお茶の席を設けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宣召録、菊栄親睦会録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十一日 水曜日 午前九時三十一分御出門、明治神宮に行啓される。貴賓館御休所においてお手水の後、自動車にて南神門前に御到着になる。それより御拝座にて御拝礼になり、玉串を奉奠される。

終わって貴賓館御休所において宮司甘露寺受長・権宮司伊達巽の拝謁をお受けになる。ついで御苑北門内より先着の池田厚子を伴われ、技師田阪美徳の説明により花菖蒲園を散策される。十一時三十分還啓される。この度の御参拝に際し、幣帛料・神饌料をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、

幸啓録、宮内庁庁報、朝日新聞、毎日新聞、東京新聞

午後、宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

四時三十七分御出門、天皇と共に東宮御所に行啓される。皇太子・同妃・徳仁親王及び先着の池田厚子と御対面になり、ついで御一緒にお庭を散策される。正仁親王も参集し、御夕餐を御会食になる。

八時四十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、東宮侍従日誌、幸啓録、宮内庁庁報

二十二日 木曜日 午前、拝謁の間において、ブラジル国より帰国の特命全権大使安東義良及び同夫人、インド国より帰国の特命全権大使那須皓及び同夫人、近くソビエト連邦へ赴任の特命全権大使山田久就の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁庁報、官報

池田厚子を伴われ、宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

来る昭和三十九年に開催予定の東京オリンピックの資金募集を目的とした映画会に御臨席のため、午後六時三分御出門、天皇と共に東京文化会館に行啓される。御到着後、イタリア・オリンピック組織委員会製作の記録映画「ローマ・オリンピック一九六〇」を御覧になる。八時五十七分還啓される。

なお天皇・皇后より財団法人日本体育協会に金一封を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十三日 金曜日 午前十時十一分御出門、天皇と共に東京国際貿易センター二号館に行啓され、機械工業躍進記念大会に御臨席になる。御退席後、展示館に進まれ、電子顕微鏡・見本船・工業用赤外線テレビ・農業機械を御覧になる。十一時五十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に内廷庁舎御車寄において、新御料車のロールスロイスを御覧になる。ついで御試乗になり、内苑門より外庭東門を経て還御される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十四日 土曜日 午前、宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌
午後、御進講室において、安藤幸よりヴァイオリンの指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

昭和三十六年六月

二十五日 日曜日 午前、天皇と共に宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十六日 月曜日 午後、御進講室において元学習院女学部教授木内成及び御学友加藤貞の拝謁をお受けになり、御歓談になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

二十七日 火曜日 来る八月二十七日の斉明天皇千三百年式年祭に先立ち、午前、天皇と共に拝謁の間において、東京大学助教授井上光貞より斉明天皇の御事蹟についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮侍従日誌、進講録、宮内庁庁報

午後三時より天皇と共に東の間において、来日中のインドネシア国大統領スカルノと御会見になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮侍従日誌、外賓参内録、外賓接待録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十八日 水曜日 午後、宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになり、御一緒に茶菓をお召し上がりになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

御夕餐後、天皇及び正仁親王と共に拝謁の間において、去る五月七日に行われた皇后御主催の天皇御還曆奉祝会の記録映画を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

三十日 金曜日 午後、宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになり、バラの切り花を贈られる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

御夕餐前、天皇と共に正仁親王と御対面になり、今夕奄美大島方面への旅行に出発につき、挨拶をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌

七月

一日 土曜日 午後、御進講室において、安藤幸よりヴァイオリンの指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

二日 日曜日 夕刻、宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

三日 月曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

四日 火曜日 午前九時四十四分天皇と共に御出門、東京都立江東ろう学校、ついで株式会社第二精工舎を視察される。十一時五十六分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、東京都所蔵資料

午後、天皇と共に旧北御車寄門内において、紅葉山御養蚕所主任宮崎清及び助手四名に御会釈を賜う。

○女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

天皇と共に拝謁の間において、竹田恒徳の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

書陵部にお出ましになる。職員の手により御自身の掛物の表装の仕上げを御覧になる。その折、崇仁親王が来部したため、庁舎三階の同親王研究室に御一緒に入られ、暫時お話しになる。それより宮内庁病院に向かわれ、先着の島津貴子と御一緒に東久邇成子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

五日 水曜日 午前、拝謁の間において、イタリア国より帰国の特命全権大使鈴木九万及び同夫人、

昭和二十六年七月

近くブラジル国へ赴任の特命全権大使田付景一及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁庁報、官報

正午過ぎ、表二の間において、新任のキューバ国特命全権大使セグンド・セバーリヨス・パレッツハを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮内庁庁報

天皇と共に表一の間において、この度離任のドイツ連邦共和国特命全権大使ウイルヘルム・ハース及び同夫人、新任のキューバ国特命全権大使セグンド・セバーリヨス・パレッツハのため、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に拝謁の間において、国立東京第一病院外科部長小原辰三の拝謁をお受けになり、東久邇成子の病状についてお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

去る六月下旬に発生した集中豪雨により甚大な被害を受けた長野県・神奈川県・静岡県・兵庫県に対し、天皇・皇后より御救恤金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

六日 木曜日 午後、宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。成子に桃を贈られる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

七日 金曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、神宮大宮司坊城俊良の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従職日誌

午後、拝謁の間において、日本赤十字社社長島津忠承の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

天皇と共に宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従職日誌、内舎人

日誌

八日 土曜日 午後、安藤幸をお召しになり、ヴァイオリンの指導をお受けになる。○女官長日記、女官

日誌、内舎人日誌

島津久永・同夫人貴子去る六月十五日欧州旅行より帰国につき、天皇と共に拝謁の間において、皇太子・同妃・東久邇盛厚・鷹司和子・島津夫妻と御夕餐を御会食になる。その後、島津夫妻欧州旅行時のスライド、及び天皇還暦をお祝いする会の記録映画を御一緒に御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報

九日 日曜日 夕刻、宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

十日 月曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、ブラジル国駐箚特命全權大使田付景一より前任

地デンマーク国王室等についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人

日誌、進講録

十一日 火曜日 午前、拝謁の間において、近く赴任のイラク国駐箚特命全權大使八木正男及び同夫

人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁庁報、官報

御夕餐後、天皇と共に映画「安寿と厨子王丸」を御覧になる。同作品は去る六日、財団法人結核予防

会による特別試写会にて上映された。○女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、財団法人結核予防会五十年のあゆみ

十二日 水曜日 午前、御進講室において、中元につき御機嫌奉伺に参内の正田富美子の拝謁をお受

けになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

午後、この日上京の池田厚子を伴われ、天皇と共に宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。同所

昭和三十六年七月

にて東久邇盛厚・同信彦・同文子とも御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十三日 木曜日 午後、天皇と共に、宮内庁病院に東久邇成子を見舞うため参内の鷹司和子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十四日 金曜日 午前、拝謁の間において池田満枝内閣総理大臣
池田勇人夫人の拝謁をお受けになり、渡米時の話などをお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

夕刻、池田厚子を伴われ、天皇と共に宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十五日 土曜日 午後、今晝奄美大島より帰京の正仁親王と御対面になる。正仁親王は十八日に帰京予定のところ、東久邇成子の容体が急変したことにより、予定を繰り上げて帰京した。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

午後、池田厚子を伴われ、宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

十六日 日曜日 御夕餐後、天皇及び正仁親王・池田厚子と共に旧侍医寮屋上にお出ましになり、去る四月十日皇居前に完成した皇太子・同妃御成婚記念大噴水を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十七日 月曜日 午後、池田厚子を伴われ、宮内庁病院にお出ましになる。先着の正仁親王も交えて東久邇成子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

この日より予定されていた葉山御用邸への行幸啓はお取りやめとなる。○幸啓録

十八日 火曜日 午後、鷹司和子を伴われ、宮内庁病院にお出ましになる。先着の正仁親王も交えて東久邇成子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

十九日 水曜日 午後、天皇及び池田厚子と共に宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。後刻、正仁親王も加わる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十日 木曜日 午後、宮内庁病院の東久邇成子をお見舞いになる。島津貴子・正仁親王・池田厚子も来院する。終わって正仁親王・池田厚子・東久邇秀彦・同真彦と御一緒に還御される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

二十一日 金曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、忌明けのお礼言上のため参内の九条道弘故九条道

秀の及び成子道弘のの拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十二日 土曜日 この日早朝より東久邇成子の容体悪化につき、お見舞いのため、午前九時二十分天皇及び正仁親王と共に宮内庁病院にお出ましになる。天皇及び皇太子・同妃・正仁親王と共に一旦内廷庁舎に戻られ、御昼食後、午後零時五十分、天皇及び皇太子・同妃・正仁親王と共に再び宮内庁病院にお出ましになり、深夜に至るまで病室において成子の容体を見守られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮侍従日誌、幸啓録、入江相政日記、皇女照宮

二十三日 日曜日 天皇と共に昨日より宮内庁病院にて東久邇成子をお見舞いのところ、午前一時五十分、控室の皇族・御親族、及び成子の子女五名を病室に招き入れられる。三時十五分、成子が死去する。天皇と共に一旦病院内の御休所に入られ、宮内庁長官宇佐美毅より職員を代表しての弔意言上をお受けになる。続いて東久邇盛厚、女官長保科武子以下女官等、東久邇稔彦・同夫人聡子及び成子

昭和三十六年七月

の子女五名の拝謁をお受けになる。皇后お手ずから、あるいは御指示により成子の化粧直しが施された後、天皇と共に再び病室へ入られ、御永訣になる。続いて皇太子・同妃以下皇族・御親族が永訣する。四時四十七分同所をお発ちになり、内廷庁舎にお戻りになる。

昭和天皇の第一皇女である東久邇成子は、大正十四年十二月六日に誕生、名を成子、照宮の称号を下賜される。昭和十八年、盛厚王^{東久邇宮}と結婚する。同二十二年皇族の身分を離れ、東久邇姓となる。盛厚

との間に信彦・文子・秀彦・真彦・優子の三男二女をもうける。昨三十五年十一月、病により国立東京第一病院に入院して手術を受け、この年二月に一旦退院するが、四月再び宮内庁病院に入院、その後治療に努めるも、この日死去する。享年三十五。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、

東宮侍従日誌、東久邇成子葬儀録、皇親録、墓誌銘録、皇女照宮

東久邇成子死去につき、午後二時二分、天皇と共に宮内庁病院にお出ましになる。先着の皇太子等と御対面の後、二階の遺体安置室に入られ、成子の遺骸と御対面になる。同四十二分内廷庁舎にお戻りになる。この後遺骸は、東久邇邸工事中のため、千代田区三番町の宮内庁分室に移される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮侍従日誌、幸啓録、宮内庁庁報

故東久邇成子御舟入の儀につき、午後七時二十五分御出門、天皇と共に宮内庁分室に行啓される。儀に臨まれた後、一旦御休所にお戻りになり、続いて近親者による通夜に御臨席になる。八時四十三分還啓される。なお天皇・皇后より霊前に切り花・盛菓子を、これとは別に盛花・果物・野菜をお供えになる。皇后よりも霊前に果物・野菜をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人

日誌、幸啓録、皇親録、宮内庁庁報

東久邇成子死去につき、天皇はこの日より七日、皇后は三十日第一期七日、第二期二十三日服喪される。○女官長日記、女

官日誌、内舍人日誌、皇親録、賢所諸件、庁規例規朝儀諸綴、宮内庁庁報、官報

東久邇成子死去につき、三十一日にベルギー国前国王レオポルド三世から天皇・皇后に弔電が寄せられる。これに対し天皇・皇后から八月二日答電を発せられる。○外交慶弔録、宮内庁庁報、官報

二十四日 月曜日 東久邇成子死去につき、御拝訣のため、午前九時五十六分御出門、天皇と共に宮内庁分室に行啓される。御寝の間にて御拝訣になり、十時二十二分還啓される。この日、賜物使として侍従永積寅彦を同分室に差し遣わされ、天皇・皇后より祭資並びに神饌・幣物を賜う。皇后よりは白羽二重・櫛を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、東久邇成子葬儀録、皇親録、

宮内庁庁報

午後、御進講室において、大谷光暢・同夫人智子御妹、同息女の大賀美都子及びその子息の拝謁をお受

けになる。夕刻、島津貴子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌

二十五日 火曜日 故東久邇成子の通夜に御臨席のため、午後四時五十五分御出門、天皇と共に宮内庁分室に行啓される。通夜に臨まれ、御拝礼になる。ついで東久邇盛厚の拝謁をお受けになり、五時三十四分還啓される。なお通夜に先立ち移靈祭が執り行われるに際し、天皇・皇后より靈前に盛菓子を、皇后より切り花をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、皇親録、

宮内庁庁報

二十六日 水曜日 青山斎場において故東久邇成子の本葬祭の儀執行につき、午前九時三十一分御出門、天皇と共に同場に行啓される。御着後、直ちに御休所に入られ、ついで式場にお出ましになる。

昭和三十六年七月

天皇に続き、玉串を奉奠され御拝礼になる。十時六分還啓される。なお、天皇は皇族・御親族の葬儀には御参列にならない慣例のところ、この度は従来の例に依らず特に御参列になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、皇親録、宮内庁庁報、皇女照宮

午後、天皇と共に、過去に東久邇成子が出演したラジオ文化放送「おたよりありがとう」の再放送をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、朝日新聞

夕刻、天皇と共に拝謁の間において、鷹司平通・同夫人和子、池田隆政・同夫人厚子、島津久永・同夫人貴子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

二十七日 木曜日 故東久邇成子の霊前に御拝礼のため、午後三時五分御出門、天皇及び正仁親王と共に宮内庁分室に行啓される。霊前において御拝礼になり、同二十四分還啓される。なお天皇・皇后より霊前に果物をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、皇親録、宮内

庁庁報

二十八日 金曜日 午前、御進講室において、東伏見慈治^{御弟}と御対面になり、御機嫌奉伺をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

午後三時三十五分御出門、宮内庁分室に行啓される。御着後、奉安室にて御拝礼になる。ついで東久邇聡子・同盛厚・同子息と御談話になる。同五十五分還啓される。なお行啓に際し、皇后より東久邇成子の霊前及び写真に菓子をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、幸啓録、東久邇成子殿
薨去関係書類、宮内庁庁報

御夕餐後、天皇及び正仁親王・鷹司和子・池田厚子・島津貴子と共に、過去に東久邇成子が出演した

ラジオ文化放送「おたよりありがとう」の録音テープをお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、朝日新聞

二十九日 土曜日 午後三時四分御出門、宮内庁分室に行啓される。御着後、東久邇聡子・同盛厚ほかのお出迎えをお受けになった後、先着の正仁親王・故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子・東伏見慈洽と御対面になる。ついで霊前に御拝礼になり着席される。東伏見慈洽等の読経の後、御焼香になる。御休所において一同とお茶を共にされ、正仁親王と共に同所を御出発、同五十六分皇居に還啓される。なお、皇后より東久邇成子の霊前に菓子をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

三十日 日曜日 天皇と共に拝謁の間において、正仁親王・池田厚子、並びに東久邇信彦始め五方と御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

三十一日 月曜日 午前、拝謁の間において、ベトナム共和国より帰国の特命全権大使久保田貫一郎及び同夫人、レバノン国より帰国の特命全権大使河野達一及び同夫人、近くエチオピア国へ赴任の特命全権大使根岸国義及び同夫人、近くベトナム共和国へ赴任の特命全権大使高野藤吉及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁庁報、官報

昨三十日天皇の御喪明け、及び皇后の第一期御喪明けにつき、天皇と共に拝謁の間において、御機嫌奉伺に参内の故雍仁親王妃勢津子・崇仁親王妃百合子・北白川房子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

今般豪雨により甚大な被害を受けた北海道に、天皇・皇后より御救恤金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

昭和三十六年八月

八月

一日 火曜日 この日故東久邇成子十日祭相当につき、午後三時六分御出門、天皇及び正仁親王と共に宮内庁分室に行啓される。御到着後、御拝礼になり、ついで遺品を御覧になる。同五十八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁序報

二日 水曜日 午後三時五分御出門、正仁親王と共に宮内庁分室に行啓される。御到着後、御拝礼になり、同三十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁序報

三日 木曜日 翌四日の故東久邇成子斂葬の儀に先立ち、午後三時九分御出門、天皇及び正仁親王と共に宮内庁分室に行啓される。御到着後、御拝礼になる。また成子の墓所にお納めになる遺品等を御持参になる。四時二十四分還啓される。なお天皇・皇后より霊前及び写真に果物をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、東久邇成子殿薨去関係書類、宮内庁序報

四日 金曜日 この日、故東久邇成子斂葬の儀及び墓所祭の儀が行われる。墓所祭の儀に御参列のため、午後四時二十七分御出門、天皇と共に豊島岡墓地に行啓される。天皇に続き、東久邇家墓所前において玉串を奉奠され御拝礼になる。同五十八分還啓される。同祭に際し、天皇・皇后より榊及び盛菓子をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、皇親録、東久邇成子葬儀録、宮内庁序報

五日 土曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、東久邇盛厚・同信彦の拝謁を、その後東久邇稔彦及び同夫人聡子の拝謁をお受けになり、それぞれより昨日の故東久邇成子斂葬の儀及び墓所祭の儀に対するお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

午後、天皇と共に、この日岡山県に帰る池田厚子と御対面になり、暇乞いの挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

六日 日曜日 午後三時三十一分御出門、豊島岡墓地に行啓される。東久邇成子墓所前において東久邇聡子・同盛厚・同信彦のお迎えをお受けになり、ついで墓前に参進され御拝礼になる。四時二分還啓される。なお行啓に際し、東久邇成子の墓所に果物をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、幸啓録、東久邇成子殿薨去関係書類、宮内庁庁報

七日 月曜日 那須御用邸に行啓のため、午前十時六分天皇と共に御出門、原宿駅より皇太子・同妃・徳仁親王と御同車になり、黒磯駅を経て、午後一時同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

八日 火曜日 午前、天皇の清水沢方面における植物御調査に同行される。以後、那須御用邸御滞在中、しばしば天皇の植物御調査に同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録
十日 木曜日 午前、御散策にお出ましの際、天皇と共に御車寄脇において、那須町長山口幸太郎及び同町議会議員等に御会釈を賜う。以後、この年も那須御用邸御滞在中、栃木県関係者等に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録

十一日 金曜日 故東久邇成子二十日祭相当につき、お出ましをお控えになる。また天皇・皇后より霊前に果物を、墓所に盛菓子をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、那須行幸啓録、東久邇成子殿薨去関係書類

去る五日の集中豪雨により甚大な被害を受けた新潟県に対し、天皇・皇后より御救恤金を賜う。○賜与

録、宮内庁序報

十五日 火曜日 終戦の日に当たるため、お出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌

十九日 土曜日 御夕餐後、天皇及び皇太子並びに後刻参集の皇太子妃と共に、東久邇成子が過去に出演した日本放送協会放映の「私の秘密」昭和三十三年一月二日放送等を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内

舎人供奉日誌、東宮侍従日誌、那須行幸啓録

二十一日 月曜日 故東久邇成子墓所三十日祭の儀に御参列のため、皇太子・同妃・徳仁親王と共に午前九時五十四分那須御用邸を御出門、黒磯駅を経て原宿駅に御到着、同駅にて皇太子一家とお別れになり、午後零時四十五分、お一方にて皇居に還啓される。

午後二時二十七分御出門、豊島岡墓地に行啓される。御到着後、東久邇成子の墓所にて御拝礼になる。同五十六分還啓される。同祭に際し、天皇・皇后より霊前に菓子を、墓所に榊をお供えになる。

再び那須御用邸にお戻りのため、三時五十五分御出門、六時五十分御用邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、東宮侍従日誌、那須行幸啓録、幸啓録、東久邇成子葬儀録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁序報

二十二日 火曜日 御喪明けにつき、午前、故東久邇成子の写真に果物を供えられ、御拝礼になる。ついで女官長ほかより御機嫌奉伺をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

日本赤十字社副社長葛西嘉資先般退職につき、この日御紋付木盃小一組を賜う。○賜与録、宮内庁序報

二十三日 水曜日 故東久邇成子初月命日につき、午前、成子の写真に果物を供えられ、御拝礼になる。また、この日天皇・皇后より女官今城誼子に豊島岡墓地の墓所の拝礼を仰せ付けられる。○女官長

日記、女官日誌、侍従職日誌、典式録

二十六日 土曜日 一時御帰京のため、午後零時五十二分天皇と共に那須御用邸を御出門、三時四十分五分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

二十七日 日曜日 午前、齊明天皇千三百年式年祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、臨時祭祀録、宮内庁庁報

天皇と共に那須御用邸に行啓のため、午後一時二十七分御出門、四時二十分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

三十一日 木曜日 東久邇成子死去後四十日につき、外出をお控えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、那須行幸啓録

九月

一日 金曜日 関東大震災の日に当たるため、邸外へのお出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、那須行幸啓録

五日 火曜日 午後、近く赴任のフランス国駐劄特命全權大使萩原徹及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、拝謁録、那須行幸啓録、典式録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報、官報

六日 水曜日 この日より福島県磐梯吾妻方面へ天皇と共に行啓される。午前八時五十五分那須御用邸を御出門、黒磯駅より翁島駅を経て、午後零時十分、耶麻郡猪苗代町の御泊所福島県迎賓館に御到着になる。この地は天皇・皇后が大正十三年の御結婚後、八月五日より三十日まで滞在されており、お庭を御散策になりつつ、往事につき天皇と御会話になる。御昼食後、会津若松市の赤井谷地に向かわれる。途中、徐行する車中から安積疏水の十六橋を御覧になる。御到着後、皇后は女官に秋の草について御説明になる。ついで天皇と共に湿地の植物を御覧になる。四時二十分御泊所福島県迎賓館にお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須行幸啓録、那須御邸管理事務所日誌、宮内庁庁報、官報、鈴木寅雄手記、会津会々報

七日 木曜日 午前九時四十分、天皇と共に御泊所福島県迎賓館を御出発になる。檜原湖、ついで毘沙門沼を御展望になる。土湯峠の日本道路公団分室において御少憩の後、磐梯吾妻道路を通られ、湖見峠より展望される。浄土平の吾妻小富士荘にて御昼食の後、浄土平展望所より磐梯吾妻道路及び付近の景観を御覧になる。次に不動沢橋に移られ、昭和三十四年に架設の同橋と谷底からそびえ立つ岩山等の景観を御覧になる。終わって福島駅より黒磯駅を経て、午後六時九分那須御用邸に御帰邸になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須行幸啓録、那須御邸管理事務所日誌、宮内庁庁報、官報

八日 金曜日 午後零時五十四分天皇及び正仁親王と共に那須御用邸を御出門、四時十分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

九日 土曜日 久邇倪子御母五年式年祭に当たるため、夕刻までお慎みになる。○女官日誌

午後四時二分御出門、豊島岡墓地に行啓される。御到着後、久邇邦昭ほかのお出迎えをお受けになつた後、久邇倪子の墓所に御拝礼になる。ついで邦彦王御父墓所に御拝礼になる。同三十三分還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

十日 日曜日 故東久邇成子墓所五十日祭の儀に御参列のため、午後二時三十分御出門、天皇と共に豊島岡墓地に行啓される。天皇に続き、東久邇家墓所前より墓前の御拝座に進まれ、玉串を奉奠され、御拝礼になる。同五十九分還啓される。なお、天皇・皇后より権舎に盛菓子・榊を、墓所に榊をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、東久邇成子葬儀録、宮内庁庁報

故東久邇成子五十日祭終了につき、天皇と共に表一の間において、皇太子・同妃始め皇族・御縁故者と御夕餐を御会食になる。御食後、表三の間においてお茶の席を設けられ、故東久邇成子の思い出等をお話しになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮侍従日誌、宮殿行事録、宮内庁庁報

十二日 火曜日 午前、御進講室において元女官七名の拝謁をお受けになり、故東久邇成子五十日祭終了の御機嫌奉伺をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

十五日 金曜日 午前、拝謁の間において、フランス国より帰国の特命全権大使古垣鉄郎及び同夫人、エチオピア国より帰国の特命全権大使徳永太郎及び同夫人、近くデンマーク国へ赴任の特命全権大使近藤晋一及び同夫人、ウルグアイ国へ赴任の特命全権公使高橋明及び同夫人、フィンランド国へ赴任の特命全権公使小島太作及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内

舎人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁庁報、官報

昭和三十六年九月

昨年九月の坑内出水事故により多数の死者を出した福岡県の豊州炭鉱の合同葬上尊鉱業株式会社主催が来る十七日執行につき、この日天皇・皇后よりお花料を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

十六日 土曜日 午前、台風十八号接近のため、翌十七日より御予定の那須御用邸行幸啓はお取りやめになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、那須行幸啓録、幸啓録

午後、天皇と共に早春亭において、第十三回保健文化賞第一生命保険相互会社主催、厚生省・朝日新聞厚生文化事業団後援の受賞者等に御会釈を賜う。厚生大臣灘尾弘吉より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

十七日 日曜日 御夕餐後、天皇と共に内廷庁舎において、第十六回国民体育大会夏季大会を視察

し福島県・宮城県より帰京した正仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

十九日 火曜日 午後、天皇と共に東の間において、インドネシア国大統領スカルノと御会見になる。

その際、お茶を供される。なお大統領は、ユーゴスラビア国にて開催の中立国首脳会議に出席後、米
国經由で帰国の途次、日本に立ち寄った。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮侍従日誌、外賓参内録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十日 水曜日 台風十八号第一室 戸台風により甚大な被害を受けた大阪府・和歌山県・鹿児島県・新潟県・

京都府・滋賀県・奈良県・岐阜県・兵庫県・徳島県に、天皇・皇后より御救恤金を賜う。二十三日には思召しにより、罹災者への御救恤品として衣類を日本赤十字社に賜う。○女官長日記、女官日誌、賜与録、

贈賜録、宮内庁庁報

二十三日 土曜日 午前、秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従

職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁序報

天皇と共に拝謁の間において、東久邇盛厚及びその子女信彦・文子・秀彦・真彦・優子と御昼餐を御会食になる。なお、この日は故東久邇成子の月命日に当たる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

内舎人日誌

二十六日 火曜日 第十八回フローレンス・ナイチンゲール記章授与式に名誉総裁として御臨席のため、午前十時十三分御出門、日本赤十字社に行啓される。御到着後、御休所において名誉副総裁の皇太子妃・故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子と御対面になり、衆議院議長清瀬一郎・参議院副議長長平井太郎・日本赤十字社長島津忠承の拝謁をお受けになる。ついで式場に臨まれる。式中、武蔵野赤十字病院看護部長篠崎ハル・鳥取赤十字病院看護部長山崎秀子・財団法人神山復生病院総婦長井深八重の三名に章記を御親授になり、続いて三人の左胸に記章をお手ずからお付けになる。ついで次のお言葉を賜う。

このたび、篠崎ハル、山崎秀子、井深八重の三人の方々が、看護婦として、最高の名誉であるフローレンス・ナイチンゲール記章を赤十字国際委員会から贈られましたことは、長い間の献身的奉仕の賜でありまして、本人の榮譽はもとより、わが国としても、まことに喜ばしいことでもあります。

受章の方々は、今後もお一層この道に尽し、後進の指導に当たるとともに、他の看護婦の皆さんは、これを模範として、その職に励み、広く内外の人々の信頼と感謝を受けるよう希望してや

昭和三十六年十月

みません。

衆議院議長・赤十字国際委員会駐日代表・日本看護協会会長ほかの祝辞の後、御休所に戻られる。隣室において国際赤十字関係外国人十三名の謁見をお受けになり、十一時二十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、事業年報（日本赤十字社）

天皇と共に北の間において、政府の賓客として来日の元ブラジル国大統領ジュセリーノ・クビチエツク・デ・オリヴェイラ及び同夫人サラのため、宮中晩餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、外交記録

二十八日 木曜日 来る十月一日から昭和三十六年度国民たすけあい共同募金運動を実施する社会福祉法人中央共同募金会に対し、天皇・皇后より金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

三十日 土曜日 天皇と共に、この日誕生日を迎えた鷹司和子と御昼食を御会食になる。午後、鷹司和子と共に覆馬場にお出ましになり、東久邇信彦ほかの乗馬練習の様子を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、東京新聞

十月

二日 月曜日 調停制度施行四十周年・日本調停協会連合会創立十周年記念式典に御臨席のため、午前十時三十六分御出門、天皇と共に歌舞伎座に行啓される。十一時二十一分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

午後、天皇と共に早春亭において、藍綬褒章を授与された調停委員・司法委員・参与員等に御会釈を

賜う。東京地方裁判所司法委員兼調停委員永井甚右衛門より挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

三日 火曜日 日本蛾類学会創立十周年記念「世界の蝶蛾展」を御覧になるため、午前九時四十一分御出門、天皇と共に日本橋白木屋に行啓される。御巡覧の際、故東久邇成子が同学会員として採集したスズメガ標本を御覧になる。十一時二十一分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

正午過ぎ、表二の間において、新任のレバノン国特命全権大使エミール・マタール及び同夫人を御引見になる。○女官日誌、内舍人日誌、謁見録、宮内庁庁報

天皇と共に表一の間において、この度離任のボリビア国特命全権公使ミゲール・アンヘル・セスペデス及び同夫人、新任のレバノン国特命全権大使エミール・マタール及び同夫人のため、午餐を催される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

四日 水曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、政府の賓客として来日中のマラヤ連邦副首相兼国防相ラザック及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報、外交記録

鹿児島市が去る二日の火災により甚大な被害を受けたため、天皇・皇后より鹿児島県に御救恤金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

六日 金曜日 秋田県において開催の第十六回国民体育大会秋季大会に御臨場、併せて県内の産業及び社会福祉の諸施設等を御視察のため、天皇と共に山形・秋田・青森・岩手各県下に行啓される。午

昭和三十六年十月

前九時三十分御出門、原宿駅より山形県の温海駅を経て、午後五時二十五分御泊所橋屋旅館に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、温海町史、県民のあゆみ

七日 土曜日 午前十時四十分天皇と共に御泊所橋屋旅館を御出発、温海駅より秋田県の羽後本荘駅を経て、本荘市立南中学校グラウンドに御到着になり、文部省・日本体育協会・秋田県主催「スポーツの日」制定記念第一回中央大会本荘市民スポーツの日の集いを御覧になる。ついで、羽後本荘駅より秋田駅を経て秋

田県庁に御到着、物産展示を御巡覧になる。次に帝国石油株式会社秋田鉱業所を御視察になる。終わって午後四時三十五分御泊所アキタニューグランドホテルに到着される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、秋田県庁所蔵資料、両陛下をお迎えして、八橋油田のあゆみ、秋田魁新報

八日 日曜日 午前九時三十五分天皇と共に御泊所アキタニューグランドホテルを御出発、秋田県立太平洋療育園の病室等を御慰問になり、また秋田県身体障害者更生指導所を御視察になる。次に秋田大学構内の鉱業博物館を御巡覧になる。一旦御泊所に戻られ、御昼食の後、秋田市営八橋陸上競技場において第十六回国民体育大会秋季大会開会式に臨まれる。なお、秋田国体に寄せて次の御歌がある。

ファンファアレの響のなかに鳩は舞ふ入場式のはじまらむとして

午後四時十分御泊所アキタニューグランドホテルにお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、秋田県庁所蔵資料、両陛下をお迎えして、秋田市史、あけぼの集、秋田魁新報

九日 月曜日 午前九時三十分天皇と共に御泊所アキタニューグランドホテルを御出発になり、秋田駅より湯沢駅を経て、湯沢市営前森公園相撲場に御到着になり、国体相撲競技を御覧になる。ついで

湯沢市役所にて市民の奉迎に応えられ、同所において御昼食の後、山本果樹園を御視察になる。次に六郷町自転車競技場にて国体自転車競技を御覧になる。大曲駅より秋田駅を経て、午後四時五十分御泊所アキタニューグランドホテルにお戻りになる。その後、国体視察のため来訪の崇仁親王妃百合子と天皇と共に御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、秋田県庁所蔵資料、両陛下をお迎えして、横手郷土史資料、秋田魁新報

十日 火曜日 台風二十四号の影響による降雨のため、この日予定されていた寒風山からの御展望はお取りやめとなる。午前十時五十分天皇と共に御泊所アキタニューグランドホテルを御出発、秋田駅より船川駅を経て、男鹿市の日鉾クラブに御到着になる。御昼食後、農林省八郎潟干拓事務所長村山屯より八郎潟干拓計画の概要をお聞きになる。ついで男鹿市立厚生年金保険体育館において国体柔道競技を御覧になる。船川駅より秋田駅を経て、午後三時三十分御泊所アキタニューグランドホテルにお戻りになる。夕刻、国体視察のため来訪の故雍仁親王妃勢津子と天皇と共に御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、秋田県庁所蔵資料、両陛下をお迎えして、船川製油所五

十年のあゆみ、続回顧録、秋田魁新報

十一日 水曜日 午前九時二十分天皇と共に御泊所アキタニューグランドホテルを御出発、秋田駅より東能代駅を経て、能代市営球場に御到着になり、国体軟式野球競技を御覧になる。次に東能代駅より鷹ノ巣駅を経て、鷹巣町立鷹巣中学校を訪問される。御昼食後、国体バレーボール競技を御観戦になる。ついで秋田県立大館鳳鳴高等学校にお着きになり、国体バスケットボール競技を御観戦される。続いて国の天然記念物に指定の声良鶏・秋田犬を御覧になる。それより東大館駅より湯瀬駅を経て、

昭和三十六年十月

午後四時四十五分御泊所湯瀬ホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、秋田県庁所蔵資料、能代市役所所蔵資料、両陛下をお迎えして、能代市史稿、秋田魁新報

十二日 木曜日 午前九時五十分天皇と共に御泊所湯瀬ホテルを御出発、十和田町役場にお立ち寄りその後、発荷峠の展望所より眼下に広がる十和田湖を御遠望になる。ついで十和田湖ふ化場を御視察になる。次に和井内棧橋岸壁より御乗船になり、湖上を御遊覧、また御昼食をお召し上がりになる。青森県側の子ノ口棧橋に御到着、奥入瀬溪流沿いを移動され、石ヶ戸において周囲の景色を御展望になる。東北電力株式会社十和田発電所において御少憩の後、再び奥入瀬溪流に沿って移動され、阿修羅の流れを御覧になり、また瞰湖台において十和田湖を展望される。午後四時十五分秋田県の御泊所十和田ホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、秋田県庁所蔵資料、青森県庁所蔵資料、小坂町史、両陛下をお迎えして、秋田魁新報

十三日 金曜日 午前十時三十五分天皇と共に御泊所十和田ホテルを御出発、十和田南駅より岩手県の花巻駅を経て、午後三時三十分御泊所松雲閣に御到着になる。天皇と共に本館庭先において、郷土芸能の鹿踊り等を御覧になった後、御泊所庭園内のバラ園・高山植物園を御散策になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、秋田県庁所蔵資料、岩手県庁所蔵資料、両陛下をお迎えして、

河北新報、岩手日報

十四日 土曜日 午前九時天皇と共に御泊所松雲閣を御出発、花巻駅より原宿駅を経て、午後六時三十四分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、岩手県庁所蔵資料

十七日 火曜日 午前、神嘗祭につき、旧北御車寄の御遙拝所において、神宮を御遙拝になる。ついで賢所において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

十八日 水曜日 午前、謁見の間において、宮城学院女子大学名誉教授ケート・インゲンバーク・ハルセン、同リデア・アルマイラ・リンゼーを御引見になる。兩人は長く我が国の女子教育に尽力し、昭和二十六年定年により帰米退職する。今般宮城学院創立七十五周年記念式典に当たり来日した。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

天皇と共に御進講室において、李方子の拝謁をお受けになり、その夫君李垠及び自身への病氣お見舞いに対するお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

午後、天皇と共に旧北御車寄門内において、靖国神社靈璽奉安祭に各都道府県沖縄を含む代表として参列した遺族等に御会釈を賜い、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報、靖国神社社務日誌

十九日 木曜日 午前、拝謁の間において、近く赴任のポルトガル国駐劔特命全権大使吉田賢吉及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮内庁庁報、官報
日本赤十字社関東東山静支部連合社員大会に名誉総裁として御臨席のため、午後零時二十六分御出門、歌舞伎座に行啓される。御到着後、御休所において名誉副総裁の故雍仁親王妃勢津子・崇仁親王妃百合子と御対面になり、日本赤十字社社長島津忠承・同副社長田辺繁雄・神奈川県支部長内山岩太郎・茨城県支部長岩上二郎の拝謁をお受けになる。ついで各支部長より言上をお受けになる。会場に出御

昭和三十六年十月

され、金色有功章受章者総代九名に有功章・章記を御親授になり、また次のお言葉を賜う。

日本赤十字社関東及び山梨、静岡の支部連合社員大会に臨み、日頃、赤十字の事業に熱心に尽力している皆さんに接することができましたのを、まことに、うれしく思います。

日本赤十字社は、創立以来の長い年月、博愛と人道とをもとにして、いろいろな事業を行つて来ました。

今後も社会の人々の深い理解と支援とを得て、ますます、その基礎を固め、事業を伸ばしてゆかねばならないと思います。

この際、関係者の一段の工夫と努力とにより、社会のために一層尽すよう希望します。

大会代表の内山神奈川県支部長より奉答の辞をお受けになる。御休所にて御少憩の後、二階のお席において歌舞伎の舟弁慶を、御少憩後は歌舞伎歴史図絵を御鑑賞になる。五時還啓される。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、事業年報（日本赤十字社）

二十日 金曜日 皇太子妃の誕生日につき、午前、天皇と共に拝謁の間において、同妃と御対面になり、お礼言上をお受けになる。ついで天皇と共に同所において、宮内庁長官始め総代、続いて女官長始め女官の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮侍従日誌、宮内庁

庁報

二十一日 土曜日 午前、謁見の間において、サウジアラビア国特命全権大使シェイク・アハメッド・アブドル・ジャッパール及び今般到着の夫人、新任のマラヤ連邦特命全権大使トウアン・サイド・シェフ・ビン・サイド・アブドラー・シャハブディン及び同夫人、オーストリア国特命全権大使フ

リードリツヒ・ハルトルマイル、ルーマニア国特命全権公使イオン・オブラドヴィチ及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

二十三日 月曜日 午後、天皇と共に旧北御車寄門内において、黄綬褒章又は藍綬褒章を授与された厚生省関係功労者等に御会釈を賜う。厚生大臣灘尾弘吉より挨拶をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

拝謁の間において、前田青邨の拝謁をお受けになる。前田の説明により、先般展覧会に出品した前田の作品の内十点を御覧になる。ついで御進講室においてクズの花の絵を前田に披露される。なお、前田がこの年喜寿のため、同人にお祝いの品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十四日 火曜日 天皇と共に表一の間において、この度離任のニュージールランド国特命全権大使ジョン・スタンホープ・リード及び同夫人、新任のマラヤ連邦特命全権大使トゥアン・サイド・シェフ・ビン・サイド・アブララー・シャハブデイン及び同夫人、ルーマニア国特命全権公使イオン・オブラドヴィチ及び同夫人のため、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

がん研究と社会福祉のためのイタリア歌劇団特別演奏会（なでしこ会・日本放送協会・NHK厚生文化事業団・NHKサービスマスター主催）に御臨席のため、午後六時十五分御出門、東京文化会館に行啓される。御到着後、なでしこ会会長宣仁親王妃喜久子のお出迎えをお受けになる。二階のお席に着かれ、故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王・同妃と御一緒に、第一部のヴェルディ作曲歌劇「ナブッコ」序曲、プッチーニ作曲歌劇「トゥーランドット」より「誰も寝てはならぬ」等を御鑑賞になる。終わって御休所において、日本放送協会会長阿部真之助及び同

夫人・専務理事前田義徳の拝謁をお受けになり、イタリア国特命全権大使マウリリオ・コッピニを御引見になる。ついで歌劇団員を御引見の後、再び会場にお出ましになり、第二部のロッシーニ作曲歌劇「セヴィリアの理髪師」より「かげ口はそよ風のように」、同作曲歌劇「ウイリアム・テル」序曲などを御鑑賞になる。九時四十一分還啓される。なおこの度の行啓に際し、主催者の日本放送協会・NHK厚生文化事業団・NHKサービスセンター・なでしこ会に金一封を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁序報

二十五日 水曜日 小河内貯水池及び玉堂美術館を御視察のため、午前九時三十七分天皇と共に御出門になる。原宿駅より御嶽駅を経て小河内貯水池に御到着、ダムの内부를御視察になる。御昼食の後、玉堂美術館に向かわれる。御到着後、故川合玉堂の息子真一・同修二等のお出迎えをお受けになる。館内に進まれ、修二及び画家児玉希望の説明により横山大観・川端龍子・川合玉堂の絵画を御覧になる。また、財団法人玉堂会常任理事吉田五十八の説明により建物を見学される。終わって御嶽駅より原宿駅を経て、午後四時三十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁序報、官報

二十六日 木曜日 カナダ国首相ジョン・ジョージ・ディーフェンベーカー及び同夫人が国賓として来日につき、天皇・皇后の御使として式部官長原田健を白金迎賓館に差し遣わされる。○外賓接待録

二十七日 金曜日 午前、天皇と共に表三の間において、松栄会会員の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

午後、天皇と共に北の間において、国賓として来日のカナダ国首相ジョン・ジョージ・ディーフェン

ベイカー及び同夫人のため、宮中午餐を催される。なお後日、首相夫妻より天皇・皇后にカナダ国国章入り銀盆の、首相夫人より皇后にカナダ製夜会用ハンドバッグの献上があり、天皇・皇后は謝意を首相夫妻に伝えるよう式部官長に仰せ付けられる。また、カナダ国首相より日本滞在中に受けた款待に対する謝意を天皇・皇后に言上するよう願う式部官長宛ての礼状十一月六日付がある。これに対し、式部官長名をもつて答謝十二月七日付を發せられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、外賓接待録、典式録、外交贈答録、宮内庁庁報、外交記録

天皇と共に講堂において、全国社会福祉大会において厚生大臣から表彰された社会福祉事業功労者等に御会釈を賜う。厚生政務次官森田重次郎より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

二十八日 土曜日 常磐会にてバザー開催につき、キク・バラを賜う。○女官長日記

北海道茅部郡森町において火災のため甚大な被害発生につき、天皇・皇后より北海道に御救恤金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

三十日 月曜日 故東久邇成子の百日祭に当たるため、午前中は天皇と共に静かにお過ごしになる。

○女官日誌

故東久邇成子墓所百日祭の儀に御参列のため、午後二時二十四分御出門、天皇と共に豊島岡墓地に行啓される。東久邇家墓所に臨まれ、天皇に続き、玉串を奉奠され御拝礼になる。三時還啓される。なお天皇・皇后より権舎に盛菓子・榊を、墓所に榊をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、東久邇成子葬儀録、宮内庁庁報

三十一日 火曜日 第四回NHK全国図画コンクール入選作品展及び秋の日本バラ会展を御覧になるため、午前九時四十五分御出門、銀座松坂屋に行啓される。御到着後、図画展会場に生まれ、日本放送協会教育局長浅沼博よりテーマ説明をお聞きになり、審査員森田元子の説明により作品を御巡覧になる。ついで隣接のバラ展会場に移られ、日本バラ会理事長武田寛一の説明により、今般天皇と御一緒に出品したバラの花ヘレントローベルなどを御覧になる。十一時二十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、産経新聞、読売新聞

午後、拝謁の間において、外務省中近東アフリカ部長心得杉浦徳より、アフリカの独立国及び地理文化等に関する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

十一月

一日 水曜日 午後、天皇と共に皇居広庭において、園遊会を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、園遊会録、典式録、宮内庁庁報

去る十月下旬の集中豪雨により甚大な被害を受けた大分県に対し、この日、天皇・皇后より御救恤金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

二日 木曜日 フランス美術展を御覧になるため、午前九時四十七分御出門、天皇と共に東京国立博物館に行啓される。十一時四十一分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、東京国立博物館百年史

午後、天皇と共に賢所通用門脇において、文部省主催の昭和三十六年度校長研究協議会に参加した各

都道府県の国立・公立・私立学校長代表等に御会釈を賜う。文部省初等中等教育局長内藤誉三郎より挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

三日 金曜日 午後、天皇と共に旧北御車寄門内において、全日本健康優良学校児童表彰会朝日新聞社主催に

おいて特選児童に選ばれた健康優良児童並びに全日本健康優良学校の表彰校代表等に御会釈を賜う。

同会長村山長挙朝日新聞社社長の挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報、朝日新聞

四日 土曜日 午前、天皇と共に旧北御車寄門内において、藍綬褒章又は黄綬褒章を授与された文部省関係功績者等に御会釈を賜う。藍綬褒章受章者香山蕃より挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

天皇と共に旧北御車寄門内において、第五回日本学生科学賞全日本科学教育振興委員会主催、読売新聞社後援を受賞した中学生・高校生等に御会釈を賜う。読売新聞社代表取締役副社長高橋雄豹より挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

六日 月曜日 午前九時五十六分天皇と共に御出門、国立国会図書館新庁舎第一期工事が竣工、去る一日開館に行啓される。館内各室を御巡覧の後、十時五十八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

七日 火曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、ライオンズ・インターナショナル会長ペア・グ

昭和三十六年十一月

スタッフ・スタイル及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

九日 木曜日 日本赤十字社有功章並びに特別社員章の御親授式に名誉総裁として御臨席のため、午前十時十五分御出門、日本赤十字社に行啓される。御到着後、御休所において名誉副総裁の故雍仁親王妃勢津子・崇仁親王妃百合子と御対面になる。続いて衆議院議長清瀬一郎・厚生大臣灘尾弘吉・日本赤十字社社長島津忠承・同副社長田辺繁雄の拝謁をお受けになる。それより式場に臨まれる。式中、金色有功章・章銀の有功章・金色特別社員章・章銀の特別社員章と各章記を受章者総代に御親授になり、次のお言葉を賜う。

本日は、日頃から赤十字の事業に熱心に尽力し、功労のあつた皆さんに接し、日本赤十字社有功章並びに特別社員章を授与できましたことを、まことに嬉しく思います。

日本赤十字社は、創立以来今日まで、人道と博愛をもととして、各方面の深い理解と支援を得て、いろいろな事業を行なつてきていますが、赤十字の使命と任務は今後ますます重要性を加えてくると思います。

皆さんは、今後とも互いに協力して、赤十字の活動を大いに推進し、国民の期待にそうよう望んでやみません。

島津社長の奉答をお受けになる。御退場後、御休所隣室において国際赤十字関係外国人十名に御会釈を賜う。御少憩後、写真撮影場に移られ、記念写真の撮影をお受けになる。十一時十九分還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、事業年報（日本赤十字社）

十二日 日曜日 天皇の還暦奉祝のための菊栄親睦会大会に御臨席のため、午前十時二十六分御出門、天皇と共に三井俱樂部に行啓される。梨本伊都子が会員一同を代表して天皇の還暦お祝いの挨拶をした後、余興等を御覧になる。午後二時四十一分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内

舎人日誌、幸啓録、菊栄親睦会録、宮内庁庁報

十三日 月曜日 午前、拝謁の間において、このたび善光寺住職を退任の大宮智栄及び新任の一条智光の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

十五日 水曜日 午前十時三十五分より天皇と共に謁見の間において、国賓の英国王女アレキサンドラと御会見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、宮内庁庁報、官報、朝日新聞

午後、天皇と共に両陛下御座所において、皇太子妃と御対面になり、去る九日祖父正田貞一郎が死去したことに伴う第一期喪明けの挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、東宮侍従

日誌、宮内庁庁報

天皇と共に北の間において、英国王女アレキサンドラのため、宮中晩餐を催される。なお、この度の来日に際し、天皇・皇后より王女に吹墨色絵梅樹文大皿加藤土師萌作を、皇后より銀鼠地梅紋緞子地紅葉山御養蚕所製品を御贈進になる。また王女より天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后には音楽辞典十巻が贈られる。これとは別に、十四日の入京の際には、皇后より王女に花束を贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舎人日誌、東宮侍従日誌、外賓参内録、外交贈答録、宮内庁庁報、官報、産経新聞

十六日 木曜日 午前、御進講室において、ヘンリー・N・ラ・クロア夫人より英語の進講をお聴き

昭和三十六年十一月

になる。同人による英語の進講はこの日より始まり、以後、概ね木曜日に指導をお受けになる。○女官

長日記、女官日誌、内舎人日誌

十七日 金曜日 午前、拝謁の間において、近く赴任のパナマ国駐節特命全権公使丸山侷及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁庁報、官

報

二十一日 火曜日 午後、天皇及び皇太子・同妃・正仁親王と共に、昨二十日工事が完了した吹上の新住居を御覧になる。

御住居の造営工事は株式会社大林組が請け負い、昭和三十五年七月に着工、昨十一月二十日に完了する。御住居は鉄筋コンクリート造り、洋風二階建、延べ床面積約千三百五十平方メートルの規模で、改修を施した御文庫と連接される。また前庭には花壇・バラ園も設けられる。二十七日、落成式が行われ、「吹上御所」と称される。これに伴い、従来の花蔭亭通用門は「吹上正門」と改称される。天皇・皇后は十二月八日より吹上御所に御入居になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日

誌、東宮侍従日誌、吹上御所関係書類、例規録、宮内庁庁報、宮殿造営記録、濟寧、吹上御所の造営

二十二日 水曜日 天皇と共に表一の間において、この度離任のフランス国特命全権大使ジャン・ダリダン及び同夫人、新任のオーストリア国特命全権大使フリードリッヒ・ハルトルマイル及び同夫人のため、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、

宮内庁庁報

二十四日 金曜日 午後、天皇と共に謁見の間において、参議院議長の招客として来日中のチリ国上

院議長エルナン・ヴィデーラ・リーラ及び同夫人を御引見になる。○侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

二十五日 土曜日 午前、天皇と共に、この日着帯を終えお札言上のため参内した島津貴子と御対面になり、御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、稲田周一関係資料

二十六日 日曜日 天皇と共に表一の間において、去る五月七日の天皇御還曆奉祝会に参会の皇太子始め皇族・元皇族等をお招きになり、御晩餐を催される。ついで皇族休所において御還曆奉祝会の映画等を御覧になり、拝謁の間において御歓談になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮侍従日誌、典式録、宮内庁庁報

二十七日 月曜日 社会福祉法人恩賜財団済生会主催の慈善有料試写会に御臨席のため、午後六時二十四分御出門、天皇と共に京橋テアトル東京に行啓される。映画「キング・オブ・キングス」を御覧になり、九時四十五分還啓される。なおこの度の行幸啓に際し、天皇・皇后より済生会に金一封を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十八日 火曜日 正仁親王の誕生日につき、午前、天皇と共に拝謁の間において、宮内庁長官始め総代、女官長始め女官、元女官等の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十九日 水曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時十四分御出門、十一時三十五分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、

宮内庁庁報

十二月

八日 金曜日 午後二時十六分、天皇と共に葉山御用邸を御出門、三時四十分皇居に還啓される。直ちに新築の吹上御所にお入りになる。御入居に際し、天皇と共に吹上御所において宮内庁長官宇佐美毅の拝謁をお受けになる。以後、宮内庁庁舎三階の「御進講室」が「奥一の間」、「拝謁の間」が「奥二の間」、「皇族休所」が「奥三の間」、内廷庁舎二階の「御書齋」が「拝謁の間」となる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、吹上御所関係書類、宮内庁庁報

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

夕刻、天皇と共に吹上御所において、正仁親王と御対面になる。また天皇及び皇太子と御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

十一日 月曜日 午後、天皇と共に吹上正門外において、学校給食十五周年に当たり文部大臣から表彰された学校給食功労者等に御会釈を賜う。被表彰者を代表して東北大学名誉教授近藤正二より挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

十二日 火曜日 午前、天皇と共に奥二の間において、アルゼンチン国駐劄特命全権大使津田正夫より同国の現状についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、宮内庁庁報

拝謁の間において、御機嫌奉伺のため参内した京都在住旧堂上会総代葉室直躬の拝謁をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

午後、天皇と共に拝謁の間において、翌日国賓として来日するアルゼンチン国大統領の接伴委員長井沢実の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外交記録

十三日 水曜日 午前、内廷庁舎において、アルゼンチン国大統領の接伴委員長夫人井沢悦子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

国賓として来日するアルゼンチン国大統領アルツロー・フロンディシ及び同夫人をお出迎えるため、午後二時十五分御出門、天皇と共に東京国際空港に行啓される。空港行事の後、皇后は大統領夫人と宿舎の白金迎賓館まで御同車になる。四時十分還啓される。なお、入京に際し、皇后より大統領夫人に切り花を贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、外賓参内録、外交贈答録、宮内庁庁報、官報、外交記録

アフガニスタン国皇太子アーマッド・シャー去る十一月二十三日結婚につき、天皇・皇后から刺繍額椽に孔雀を御贈進になる。併せて天皇・皇后から祝意を同国王・王妃に伝えるよう御下命があり、この日、宮内庁長官より外務大臣にこの旨が通知される。後日、同国皇太子より天皇に礼状翌年二月一日付が送られる。

○外交贈答録、外交慶弔録、儀礼軌範

この日、来る十八日から五日間にわたり歳末無料健康相談を実施する東京都に金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

十四日 木曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、アルゼンチン国大統領アルツロー・フロンディシ及び同夫人と御会見になる。その際、相互儀礼叙勲があり、皇后にはサンマルティーン一等勲章が贈

られる。なおこの度の来日に際し、大統領より天皇・皇后に御贈進品があり、皇后にはワナコ茶色毛皮製膝掛け毛布が贈られる。また天皇・皇后より大統領に九谷焼色絵小紋地松竹梅大花瓶を、同夫人に輪島塗器局雉の蒔絵を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、外交贈答録、宮内庁庁報、官報、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞

天皇と共に講堂において、宮内庁職員組合総合美術展を御覧になる。同展には絵画紅梅、葛、黒崎三点を御出品になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞

天皇と共に西の間において、アルゼンチン国大統領アルツロー・フロンディシ及び同夫人のため、宮中晩餐を催される。ついで北の間において宮中夜会を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、宮内庁庁報、官報

十五日 金曜日 夕刻、賢所御神楽につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

この日、天皇・皇后より日本赤十字社に医療及び児童福祉事業の御補助、並びに事業御奨励のため金一封を賜う。さらに事業御奨励のため、皇后より財団法人結核予防会に金一封を賜う。また、この月、歳末につき日本赤十字社病院救助収容患者及び恩賜財団済生会病院救助収容患者合計八千七百九人に手拭い一筋ずつを賜う。向陽会に対しても恒例の賜金がある。○賜与録、贈賜録、宮内庁庁報、事業年報（日本赤十字社）

十七日 日曜日 吹上御所新築につき、天皇と共に吹上御所において御晩餐を催される。皇太子・同

妃、正仁親王、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子、東久邇聡子・同盛厚、鷹司平通・同夫人和子、島津久永・同夫人貴子、大谷智子、東伏見慈洽・同夫人保子が出席する。御食後、皇后の御絵「おおばしようま」「葛」等が披露される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報、香淳皇后の御絵と画伯たち

十九日 火曜日 午後、奥一の間において、元日本赤十字社副社長中川望の拝謁をお受けになる。中川より先般の喪中お尋ねに対するお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、典式録、稲田周一関係資料

二十日 水曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、御機嫌奉伺のため参内の柳原博光^{柳原家当主}の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

アルゼンチン国大統領アルツロー・フロンデイシ及び同夫人主催の晩餐会に御臨席のため、午後七時御出門、天皇と共に光輪閣に行啓される。九時三十三分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、外賓参内録、宮内庁庁報、官報

二十一日 木曜日 アルゼンチン国大統領アルツロー・フロンデイシ及び同夫人をお見送りのため、午前九時二分御出門、天皇と共に東京国際空港に行啓される。空港行事の後、十時三十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、外賓参内録、宮内庁庁報、官報

二十三日 土曜日 皇太子の誕生日につき、午前、天皇と共に拝謁の間において、皇太子と御対面になる。ついで同所において、宮内庁長官始め総代、女官長始め女官等の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮侍従日誌、宮内庁庁報

昭和三十六年十二月

二十五日 月曜日 午前、大正天皇祭皇靈殿の儀につき、御拝礼になる。夕刻、同御神楽の儀につき

皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

二十七日 水曜日 午前、拝謁の間において、御機嫌奉伺に参内の御学友・御同級生三名の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

二十八日 木曜日 午前、この年一月十九日より概ね一年かけて制作され、昨日描き終えられた源氏物語絵巻全部を御覧になり、女官にも拝観をお許しになる。これまで御借用中の絵巻は、この日藤岡保子に返却される。○女官長日記、女官日誌

二十九日 金曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、故雍仁親王妃勢津子始め皇族・元皇族・御縁故者より歳末の祝詞言上をお受けになる。ついで同所において宮内庁長官始め総代及び女官長始め女官等より祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

この年 故東久邇成子を偲び、次の御歌がある。

はりつめし心もゆるびいささかの言の葉にもまた涙こぼれて

母と呼ぶ声のきこゆる心地して笑顔の姫のうつし絵を見る

○産経新聞、東京新聞、毎日新聞

昭和三十七年（西曆一九六二年）

五十九歳

一月

一日 月曜日 午前九時四十五分より新年祝賀の儀に臨まれる。天皇と共に拝謁の間において、皇太子・同妃、正仁親王、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子の祝賀をお受けになり、引き続き北の間において、内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官・各国大使等の祝賀をお受けになる。なお、新年祝賀の儀に先立ち、あるいは各祝賀の間に、元皇族・元王族・御縁故者、宮内庁長官始め部局長及び側近奉仕者等の拝賀を天皇と共に受けになる。○女官

日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、宮内庁庁報、官報

二日 火曜日 午前、新年一般参賀に先立ち、天皇と共に表三の間において、元宮内庁長官及び元側近奉仕者・元部局長の拝賀をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録

新年一般参賀につき、天皇及び皇太子・同妃・正仁親王と共に、午前三回と午後五回の計八回、皇居広庭お立台にお出ましになり、参集した一般参賀者に御会釈を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、宮内庁庁報

六回目と七回目の一般参賀のお出ましの間に、天皇と共に徳仁親王と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

三日 水曜日 午前、元始祭につき、賢所・皇霊殿・神殿において御拝礼になる。○女官日誌、侍従職日誌

昭和三十七年一月

昭和二十七年一月

誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、儀式録、宮内庁序報

天皇と共に拝謁の間において、寛仁親王始め未成年の皇族・元皇族等より新年の拝賀をお受けになる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録

午後、天皇及び正仁親王と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた宣仁親王と御対面になる。

○女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

四日 木曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、東久邇盛厚及び同子女の拝謁をお受けになり、

ついで御一緒にお庭を御散策になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

七日 日曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、元皇后宮女官・元女官等より新年の拝賀をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・正仁親王と御夕餐を御会食になる。以後、この年は概ね毎週日曜日に行われた定例の参殿を始め、随時、皇太子一家と御対面・御会食になる。また、その他の皇族・御親族ともしばしば御対面・御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

八日 月曜日 午前十時、天皇と共に西の間において、講書始の儀に臨まれる。日本学士院会員土居光知より「英国詩人ラーフ・ホジソンの鳥の詩について」、同高木八尺より「民主主義の原理について」、同塩入松三郎より「土壌の分類について」と題する進講をお聴きになる。なお、この度より初めて儀式の様子が宮内庁嘱託カメラマンにより撮影されるとともに録音され、ラジオ放送が行われる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、講書始録、典式録、年末年始諸行事、例規録、宮内庁序報、官報

午後、拝謁の間において御学友等の拝賀をお受けになる。○女官日誌

十日 水曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、皇太子・同妃のパキスタン国・インドネシア国・フィリピン国訪問の首席随員原田健^{式部}以下随員の拝謁をお受けになる。また、天皇と共に北の間において、関係各国大使夫妻及び関係員をお招きになり、午餐を催される。なお、皇太子は、パキスタン国・インドネシア国・フィリピン国の各大統領来日に対する答訪のため、天皇の御名代として皇太子妃を伴い、三箇国を訪問する。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報
午後、天皇と共に奥二の間において、天皇・皇后より皇太子・同妃訪問国の元首夫妻に御贈進の品を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、外交贈答録

十一日 木曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、この度離任のハンガリー国特命全権公使カーロイ・チャトルダイを御引見になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報
天皇と共に謁見の間において、元米国國務長官ディーン・G・アチソン及び同夫人を御引見になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報
十二日 金曜日 午前十時、天皇と共に北の間において、歌会始の儀に臨まれる。この年のお題は「土」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

皇后宮御歌

春ごとに山辺の土にしたりめり苗を植ゑつつ種をまきつつ

儀終了後、天皇と共に奥二の間において召人・選者・諸役に、内廷庁舎御車寄前において預選者にそれぞれ御会釈を賜う。この年はテレビ中継、召人・選者・諸役への御会釈などが初めて行われたほか、陪聴者の増員により式場が北の間に移された。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、歌会始録、

典式録、年末年始諸行事、宮内庁庁報、官報、入江相政日記

この年百歳の高齢に達した国分三亥元久運宮
宮務監督にお祝いの品を賜う。○贈賜録

十五日 月曜日 成人の日に当たり、午前、天皇と共に拝謁の間において、昨年中に成年に達した久

邇典子御兄朝融
の息女及び朝香富久子字彦王第
一王女の拝謁をお受けになる。天皇・皇后よりそれぞれに白羽二重を賜う。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

十七日 水曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、北白川房子・東久邇聡子の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十八日 木曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、李方子及び韓国より来日の朴賛珠故李鐫
公妃・李淙贊珠
の子の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

内廷庁舎において、ヘンリー・N・ラ・クロア夫人より英語の進講をお聴きになる。以後、しばしば同人より英語の指導をお受けになる。○女官日誌、内舍人日誌、贈賜録

吹上御所に皇太子・同妃をお招きになり、天皇と共に御晩餐を催される。正仁親王・故雍仁親王妃勢津子・崇仁親王妃百合子・鷹司平通・同夫人和子・島津貴子・東久邇盛厚が出席する。この度の御晩餐は、来る二十二日より皇太子・同妃がパキスタン国・インドネシア国・フィリピン国を訪問するに当たり催される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十九日 金曜日 午前、拝謁の間において、今般アフガニスタン国へ赴任する特命全権大使広瀬節男及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁庁報

天皇と共に謁見の間において、イスラエル国外務大臣ゴルダ・メイエルを御引見になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

午後、御進講室において、山口玉糸の指導により新年の書き初めをされる。○女官日誌

二十日 土曜日 午後、拝謁の間において、新任の侍従白戸厚及び前任の侍従小川真三の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

安藤幸^{ヴァイオリニスト}をお召しになり、内廷庁舎においてヴァイオリンの初稽古をされる。以後、しばしば同人よりヴァイオリンの指導をお受けになる。○女官日誌、内舎人日誌、贈賜録

二十一日 日曜日 天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・正仁親王と御昼餐を御会食になる。御食事後、翌日よりパキスタン国・インドネシア国・フィリピン国を訪問する皇太子・同妃より暇乞いの挨拶をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十二日 月曜日 午前、パキスタン国・インドネシア国・フィリピン国を訪問する皇太子・同妃が東京国際空港を出発するに当たり、天皇・皇后の御使として侍従次長稲田周一を同空港に差し遣わされる。○女官日誌、侍従日誌、稲田周一関係資料

午後、吹上御所において島津忠重^{御母兄子の弟}の拝謁をお受けになる。ついで新御所を案内される。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十三日 火曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時十分御出門になり、十一時三十四分同邸に御到着になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

昭和二十七年一月

午後、国分峰^{元久運宮宮務監}・松岡鎮枝^{国分三亥の妹}の拝謁をお受けになる。兩人は先般の国分三亥百寿に対する

賜物お礼のため参邸した。○女官日誌、葉山行幸啓録

二十六日 金曜日 午後、天皇と共に、御機嫌奉伺に参邸した元女官小倉満子の拝謁をお受けになる。

以後、この年も随時、元奉仕者の拝謁等がある。○女官日誌、葉山行幸啓録

二十七日 土曜日 邦彦王^{御父}の祥月命日につき、終日お静かにお過ごしになる。○女官日誌、葉山行幸啓録

二十九日 月曜日 天皇と共に葉山御用邸から還啓のため、午前十時十五分御出門、十一時四十分皇

居に御到着になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

天皇と共に表一の間において、この度離任のフリピン国特命全権大使マニエル・A・アディヴァ

及び同夫人・息女、パキスタン国特命全権大使モハメッド・アリ及び同夫人、新任のニュージール

ド国特命全権大使エドワード・ビックモア・エリソン・テイラー及び同夫人のため午餐を催され

る。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に吹上御所において、池田厚子・島津久永・同夫人貴子と御夕餐を御会食になる。島津久永

は病氣入院中のところ、先般退院する。退院に際し、天皇・皇后より久永に万那料等を賜う。この日、

島津夫妻はそのお礼のために参殿した。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

三十日 火曜日 午前、孝明天皇例祭につき、女官今城誼子に御代拝を仰せ付けられる。○女官日誌、侍

従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、宮内庁庁報

葉山御用邸に天皇と共に行啓のため、午後三時十分御出門、四時三十五分同邸に御到着になる。○女官

日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

この月 大聖寺・宝鏡寺・曇華院・光照院・林丘寺・円照寺・中宮寺・法華寺・三時知恩寺・長福寺・善光寺に、恒例により乾海苔料を賜う。○贈賜録

二月

二日 金曜日 正午、天皇と共に、元内閣総理大臣吉田茂・元内大臣木戸幸一・侍従職御用掛小泉信三^参・参与加藤武男・元宮内庁長官田島道治の拝謁をそれぞれお受けになる。後刻、皇后は吉田茂の拝謁をお一方にてお受けになり、同人に白羽二重等を賜う。○女官日誌、侍従日誌、葉山行幸啓録、入江相政日記

四日 日曜日 御風気味につき御仮床に就かれる。○女官日誌

八日 木曜日 夕刻、皇太子・同妃のインドネシア国滞在に関するテレビ放送を天皇と共に御覧になる。なお、インドネシア国を訪問中の皇太子が同国バリ島において発熱し、予定されていた皇太子・同妃のフィリピン国訪問は無期延期となり、皇太子はバリ島において静養し、快癒次第帰国することとなる。○女官日誌、侍従日誌

十日 土曜日 天皇と共に葉山御用邸から還啓のため、午後二時十五分御出門、三時四十分皇居に御到着になる。当初還幸啓は七日の御予定のところ、皇后の御風気によりこの日に延期される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

この日帰国の皇太子・同妃をお出迎えのため、天皇・皇后の御使として侍従長三谷隆信を東京国際空港に差し遣わされる。○侍従日誌、侍従職日誌、空港行事録

十二日 月曜日 御風気のため、この日予定されていた、近くラオス国へ赴任の特命全権大使蓮見幸

雄及び同夫人、モロッコ国へ赴任の特命全権大使須山達夫及び同夫人、ドレオポルドヴィール国へ赴任の特命全権大使佐藤崎人の拝謁はお取りやめとなる。また、十五日に予定されていた皇太子・同妃のパキスタン国・インドネシア国訪問の首席随員原田健以下随員・随行員の拝謁及び元スイス国大統領マックス・プティピエール夫妻の御引見にはお出ましにならず、いずれも天皇お一方が出御される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、謁見録

十六日 金曜日 エチオピア国皇后メネン昨十五日崩御につき、天皇・皇后より弔問使として侍従入江相政を同国大使館に差し遣わされる。また、天皇・皇后より同国皇帝ハイレ・セラシエ一世に弔電を発せられる。これに対し二十日答電がある。○侍従日誌、侍従職日誌、外交慶弔録、宮内庁序報、官報、儀礼軌範
十八日 日曜日 午前、御仮床にあるも、吹上御所において、パキスタン国・インドネシア国より帰国した皇太子・同妃と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

二十一日 水曜日 午前、仁孝天皇例祭につき、女官原田リツに御代拝を仰せ付けられる。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁序報

二十三日 金曜日 御仮床にある中、午前、吹上御所において、この日誕生日を迎えた徳仁親王、及び皇太子・同妃と御対面になる。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

三月

一日 木曜日 この日より御離床になる。○女官日誌

イラン国皇弟ゴーラム・レザー・パハラヴィーが来る三月八日結婚につき、天皇・皇后の御下命によ

り、この日、宮内庁長官は天皇・皇后の祝意を同皇弟に伝達するよう外務大臣に通知する。後日、同皇弟より礼電^{天皇宛て}が寄せられる。○外交慶弔録

二日 金曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた島津貴子と御対面になる。

貴子より、昨一日の着帯、及びこの日の誕生日の御贈進品についてのお礼言上をお受けになる。○女官

日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

六日 火曜日 満五十九歳のお誕生日を迎えられる。

午前、拝謁の間において、宮内庁長官始め各部署局長等、続いて側近奉仕者の拝賀をお受けになる。ついで西の間において、皇太子・同妃始め皇族・元皇族・元王族・御縁故者、続いて衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官等及びその配偶者の拝賀をお受けになる。その後、拝謁の間において元皇太后宮女官等、続いて元宮内庁長官及び元側近奉仕者の拝賀をお受けになり、内廷西玄関前において宮内庁職員・皇宮警察本部職員に御会釈を賜い、再び拝謁の間において元皇后宮女官・元女官等の拝賀をお受けになり、常侍官候所脇階段下において元女孀等に御会釈を賜う。

午後、拝謁の間において、元学習院女学部教授佐野正造・元女子学習院教授今井熊太郎・同松島彝及び御学友・御同級生七名の拝賀をお受けになる。夕刻、天皇と共に吹上御所において、正仁親王、東久邇盛厚、鷹司和子と御晚餐を御会食になる。お誕生日に行われる皇族・御親族との御晚餐御会食はこの年から始められ、昭和六十二年まで続けられる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、典式録、宮

内庁序報

七日 水曜日 午後、天皇と共に謁見の間において、ハプスブルク家当主オットー・フォン・ハプ

昭和二十七年三月

スブルク及び同夫人を御引見になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報
九日 金曜日 午後、天皇と共に謁見の間において、米國チエース・マンハッタン銀行社長デイヴィッド・ロックフェラー及び同夫人を御引見になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、

宮内庁庁報、外交記録

十二日 月曜日 午前、天皇と共に表御座所において、皇太子・同妃、パキスタン国・インドネシア国訪問の首席随員原田健式部官長より、両国訪問時の話をお聞きになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

天皇と共に吹上御所において、パキスタン国・インドネシア国訪問より帰国の皇太子・同妃をお招きになり、御晩餐を催される。正仁親王、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子、東久邇盛厚、島津久永・同夫人貴子が出席する。ついで皇太子・同妃の説明により、この度の両国訪問のスライドを御覧になり、御歓談になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁

庁報

十五日 木曜日 午後、奥一の間において、元日本赤十字社副社長中川望の拝謁をお受けになる。○

女官日誌、内舎人日誌

十七日 土曜日 病氣入院中の北白川祥子去る九日退院につき、この日天皇・皇后より果物及び万那料を賜う。これより先、昨年十月二十四日にも入院中の祥子に天皇・皇后より果物を賜う。○贈賜録

十八日 日曜日 夕刻、吹上御所において東伏見慈治御弟・同夫人保子及びその息女邦子と御対面になる。邦子より大学卒業の挨拶をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十九日 月曜日 崇仁親王妃百合子主催のプリンセス会に御臨席のため、午後一時三十一分御出門、光輪閣に行啓される。御到着後、崇仁親王妃・北白川房子・東久邇聡子・梨本伊都子・李方子ほかと御歓談になる。シルクギャラリーを御覧になった後、四時十三分還啓される。○女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁序報

二十日 火曜日 恩賜上野動物園の開園八十周年記念日に際し、午後一時三十一分天皇と共に御出門になり、同園に行啓される。三時二十八分還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁序報、官報、東京都庁所蔵資料、上野動物園百年史

二十一日 水曜日 午前、春季皇霊祭及び同神殿祭につき、御拝礼になる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁序報

夕刻、東久邇盛厚がこの日卒業式を終えた同文子・同秀彦を伴いお礼のため参殿につき、吹上御所において天皇と共に拝謁をお受けになる。また四月四日には、天皇と共に東久邇文子・同秀彦・同真彦・同優子と御昼餐を御会食になり、この度高等学校に進学の文子並びに中学校に進学の秀彦に、それぞれ天皇・皇后よりお品料・万那料を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

二十三日 金曜日 午前、拝謁の間において、近く赴任のバチカン国駐劄特命全權大使別府節弥及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録

二十六日 月曜日 午後、吹上御所において山口玉糸より絵画の指導をお受けになる。○女官日誌、内舎人日誌

二十九日 木曜日 日本電波塔株式会社東京タワー及びソニー株式会社を御視察のため、午前九時四十六分

昭和二十七年四月

御出門になり、天皇と共に両社に行啓される。午後零時十九分還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職

日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、東京都庁所蔵資料

三十一日 土曜日 午後一時四十八分御出門になり、東宮御所に行啓される。御到着後、皇太子・同妃・崇仁親王妃百合子・東久邇聡子・梨本伊都子・鷹司和子ほかと御一緒にお庭を御散策になる。ついで御所内にてお茶をお召し上がりになる。四時五十三分皇居に還啓される。○女官日誌、内舍人日誌、幸

啓録、宮内庁庁報

四月

二日 月曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、政府の賓客として来日した英国原子力公社総裁ロジャー・メーキンス及び同夫人を御引見になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典

録、宮内庁庁報

午後、吹上御所において久邇邦昭^{御兄朝融の子息}・同夫人正子始め御親族をお招きになり、お茶の席を設けら

れる。ついで新御所内を案内される。なお、この度のお招きは吹上御所完成に際し久邇家よりお祝いの品が献上されたことを受けて行われた。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

三日 火曜日 午前、神武天皇祭皇霊殿の儀につき、御拝礼になる。夕刻、皇霊殿御神楽の儀につき、

御拝礼になる。○女官日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

六日 金曜日 夕刻、天皇と共に北の間において、アジア地域ユネスコ加盟国文部大臣会議に出席のため来日中の各国首席代表夫妻等のため茶会を催される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見

録、典式録、宮内庁序報

七日 土曜日 天皇と共に吹上御所において、昨日大阪府行啓を終え帰京の皇太子と御夕餐を御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁序報

九日 月曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、米国ブルックリン工科大学高分子研究所長ヘルマン・フランシス・マーク及び同夫人を御引見になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁序報

吹上御所において、山口玉糸より絵画の指導をお受けになる。○女官日誌、内舎人日誌

十日 火曜日 午後、表二の間において、新任のクウェート国特命全権大使スレイマン・アル・モハマッド・アル・サネ及び同夫人、フランス国特命全権大使エティエンヌ・ロラン・デンヌリ及び同夫人、ドイツ連邦共和国特命全権大使ヘルベルト・ディットマンを順次御引見になる。ついで天皇と共に表一の間において、大使等のため午餐を催される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁序報

去る五日第一子を出産の島津貴子をお見舞いのため、午後三時五分御出門、山王病院に行啓される。

御到着後、島津久子島津貴子の義母のお出迎えをお受けになり、御休所において病院長長谷和三及び貴子の主治医の拝謁をお受けになる。それより病室に入られ貴子及び誕生の男子と御対面になる。先着の鷹司和子等と御会話の後、三時五十三分皇居に還啓される。○女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁序報

十二日 木曜日 園芸文化協会会長主催の第四回花の文化展を御覧になるため、午前九時四十分御出門、日本橋三越本店に行啓される。御到着後、同会会長島津忠重等のお出迎えをお受けになる。つい

昭和二十七年四月

で同常務理事加藤光治の説明により、第一会場・第二会場を廻られ、宮内庁・新宿御苑を含む四十団体から出品された花を御覧になる。十時三十三分皇居に還啓される。○女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、読売新聞

十五日 日曜日 朝彦会故朝彦親王の縁故者による親睦会に御臨席のため、午後一時三十二分御出門になり、天皇と共に白金迎賓館に行啓される。四時二十五分還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内

庁庁報

十六日 月曜日 午前、謁見の間において、新任のギリシヤ国特命全権大使アレキシス・S・リアティス及び同夫人、フィリピン国特命全権大使マウロ・メンデス及び同夫人・息女、ウルグアイ国特命全権大使アルベルト・ミラス及び同夫人、ボリビア国特命全権大使アルトゥーロ・フォルトゥン・サンヒネス及び同夫人を順次御引見になる。○女官日誌、内舎人日誌、謁見録、宮内庁庁報

十七日 火曜日 午後、北御車寄門内において、結核予防事業について財団法人結核予防会故雅仁親王妃勢津子より表彰された者五十名に御会釈を賜う。同会専務理事青木秀夫より挨拶をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、宣召録、宮内庁庁報

二十日 金曜日 福井県において行われる昭和三十七年度植樹行事に御臨場、併せて地方事情御視察のため、天皇と共に福井県及び京都府に行啓される。午前八時五十二分御出門になり、原宿駅より福井県の金津駅を経て、午後五時五十五分坂井郡芦原町の御泊所開花亭に御到着になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、女形谷の空は晴れて

二十一日 土曜日 午前十時十五分天皇と共に御泊所開花亭を御出発になり、国土緑化大会及び植樹行事会場である坂井郡丸岡町女形谷の植栽地へ向かわれる。御着後、お手植え地に進まれ、天皇の御植樹の後、福井県知事北栄造・国土緑化推進委員会委員長清瀬一郎・同副委員長徳川宗敬の介添えによりアカマツ三本をお手植えになる。次に吉田郡森田町の福井県立あさぐも学園を御訪問になる。同施設は知的障害児を収容し、自立に必要な教育指導を行っており、皇后は縫工室における女子児童の実習の様子を熱心に御覧になる。ついで福井県庁において御昼食をお取りになった後、足羽郡足羽町の福井県立林業試験場に向かわれる。御到着後、御播種地に進まれ、皇后は林業功労者山崎正一の介添えによりアカマツの種をお播きになる。天皇はスギの種をお播きになる。次に福井市体育館にお着きになり、同所において開催の「れいめい福井博覧会」に展示された県物産を御覧になる。その際、皇后はガラス繊維の製品等に興味を示されたほか、合成繊維と羽二重の肌触りの違いについて御質問になる。午後五時五分、御泊所開花亭にお戻りになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、福井県庁所蔵資料、あけゆく福井、広報まるおか、女形谷の空は晴れて、丸岡町史、朝日新聞、福井新聞

二十二日 日曜日 午前十時天皇と共に御泊所開花亭を御出発になり、福井市の福井県護国神社にお立ち寄りになる。参道を第二鳥居付近まで進まれ、天皇とお揃いにて御拝礼になる。ついで酒伊繊維工業株式会社福井工場を視察される。その際、皇后は製品展示室にて緑色のテトロン地をお手に取って御覧になり、輸出の有無を御質問になる。次に福井精練加工株式会社において織物等の染色加工工程等を御視察になる。次に福井市役所に立ち寄られ、御昼食の後、武生市の株式会社福井村田製作所武生工場を視察される。終わって武生駅より小浜駅を経て、午後五時二十分、小浜市の御泊所青浜館

昭和二十七年四月

に御到着になる。その後、天皇と共に、御泊所御座所より県無形文化財「雲浜獅子」を御覧になる。

○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、福井県護国神社所蔵資料、酒伊織維工業株式会社所蔵資料、株式会社福井村田製作所所蔵資料、酒伊織維三十年の歩み、セーレン百年史、女形谷の空は晴れて、福井県護国神社略誌、靖国、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞

二十三日 月曜日 午前九時五十分天皇と共に御泊所青浜館を御出発になり、小浜漁港よりお召し船「すずつき」に御乗船になる。湾内を御巡航になり、養魚場でフグ・ハマチの餌付け等を御覧になった後、小浜漁港にお戻りになる。次に株式会社芝浦製作所小浜工場を御視察になる。皇后は電気洗濯機等をお手を触れつつ御覧になる。ついで小浜駅より京都府の宮津駅を経て、文珠第二棧橋よりお召し船「第五橋立丸」に御乗船、天橋立等を御覧になる。その際、皇后は天橋立も日本の他の海岸のように浸食されているのか、また、マツは昔の状態を維持しているのか御下問になる。一宮棧橋に御到着、府中駅より傘松駅までケーブルカーにお乗りになり、傘松展望所において天橋立を御展望になる。次に与謝郡岩滝町の小吉株式会社を視察され、丹後ちりめんの製造過程や丹後織物の製品展示を御覧になる。皇后は金閣を紋様化した縫取縮緬・裾模様訪問着・一越縮緬振袖友禅訪問着に目を止められる。午後四時二十分宮津市の御泊所玄妙庵に御到着になる。その後、皇后は天橋立を写生される。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、岩滝町役場所蔵資料、あけゆく福井、宮津市政日より、丹後織物組合日より、女形谷の空は晴れて、丹後産業新聞、朝日新聞、毎日新聞、北陸中日新聞

二十四日 火曜日 午前九時十五分天皇と共に御泊所玄妙庵を御出発になり、天橋立駅より京都駅を経て、午後零時四十五分御泊所京都大宮御所に御到着になる。その後、天皇と共に旧堂上華族・門跡

寺院住職等に御会釈を賜う。二時一分お一方にて御泊所京都大宮御所を御出発、竜安寺に向かわれる。

御到着後、勅使門より後朱雀天皇陵・後冷泉天皇陵・後三条天皇陵を御遙拝になる。ついで竜安寺住職松倉紹英の説明により石庭を鑑賞される。次に東本願寺に御到着になる。黒書院において法主大谷

光暢・裏方の智子御妹ほかの拝謁をお受けになる。大寝殿にて竹内栖鳳の障壁画を、桜下亭にて円山応

挙の松竹梅の障壁画を御覧になった後、お茶の席にて歓談される。終わって青蓮院にお着きになる。

門跡の東伏見慈洽及び同夫人保子のお迎えをお受けになり、宸殿において久邇家の位牌に御拝礼になる。叢華殿に飾られた尊融親王朝彦親王の軸を御覧になり、お茶を召された後、慈洽の案内にてお庭を一

巡される。途中、花園天皇陵を御遙拝になる。五時二十四分御泊所京都大宮御所に還御される。○女官

日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、入江相政日記、福井新聞、読売新聞

二十五日 水曜日 御泊所京都大宮御所御出発に先立ち、天皇と共に渋谷・大谷・東伏見各家一同の

拝謁をお受けになる。午前九時二十五分天皇と共に御泊所京都大宮御所を御出発になり、京都駅より原宿駅を経て、午後四時四十四分皇居に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供

奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

元宗秩寮総裁武者小路公共去る二十一日死去につき、天皇・皇后より御使として侍従永積寅彦を同人邸に差し遣わされ、祭糒料を賜う。これとは別に、天皇・皇后より菓子を、皇后より野菜を賜う。○

侍従日誌、侍従職日誌、恩賜録、贈賜録、宮内庁庁報

エチオピア国第三皇子サーレ・セラシエ去る二十三日薨去につき、天皇・皇后より同国皇帝ハイレ・セラシエ一世に弔電を發せられる。これに対し二十六日答電がある。○外交慶弔録、宮内庁庁報、官報

二十六日 木曜日 午前、第十二回身体障害者福祉大会に当たり、厚生大臣から表彰された身体障害者で自立更生し他の模範となる者及び身体障害者の更生援護に功労のあつた者等に、天皇と共に早春亭において御会釈を賜う。厚生事務次官太宰博邦の挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

二十七日 金曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、政府の賓客として来日した英国商務大臣フレデリック・J・エロル及び同夫人を御引見になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報、外交記録

二十九日 日曜日 天皇誕生日につき、皇居広庭にお出ましになり、天皇及び皇太子・同妃・正仁親王と共に天皇誕生日の一般参賀を、午前三回・午後四回の計七回にわたりお受けになる。お出ましに先立ち、あるいは各参賀の間に、拝謁の間において宮内庁長官始め総代、皇族・元皇族・元王族・御縁故者、元皇后宮女官・元女官・元皇太后宮女官等の拝賀をお一方にて順次お受けになる。

正午過ぎ、拝謁の間において、皇太子妃・故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子と内宴を催される。午後四時、天皇と共に西の間において、天皇誕生日茶会の儀に臨まれる。皇太子始め皇族が陪席し、各国大使等が出席する。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、典式録、謁見録、宮内庁庁報、官報

この日、生物学御研究所編『那須の植物』が三省堂より刊行される。本書は、天皇が大正十五年八月から昭和三十六年十二月までに那須御用邸付近を中心とした地域において御採集・御観察になつた高等植物の記録にて、巻頭には皇后の描かれたサワギキョウ^{日本画}が掲載される。○那須の植物

三十日 月曜日 オランダ国女王ユリアナ及び王配ベルンハルトの御結婚二十五年の祝賀が同女王のお誕生日に行われるに当たり、天皇・皇后より同女王・王配に祝電を發せられる。これに対し、五月二日に答電がある。○外交慶弔録、宮内庁庁報、官報

五月

二日 水曜日 午後、『那須の植物』御出版を記念した祝賀茶会をお催しになる。東京大学名誉教授本田正次始め植物学研究者五名及び宮内庁長官宇佐美毅始め関係者が出席する。始めに天皇と共に表三の間において、宮内庁長官よりの祝詞言上をお受けになる。ついで表一の間において茶会を開かれる。各テーブル代表者の祝詞言上の後、皇后より一同にお言葉を賜う。なお表三の間には皇后御直筆のサワギキョウの御絵が飾られる。また皇后より天皇に記念としてお品が贈られる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、入江相政日記、北村四郎選集

四日 金曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

六日 日曜日 この日、去る一日死去の元久邇宮宮務監督国分三亥<sup>元錦鶏
間祓候</sup>の葬儀につき、女官原田リツを差し遣わされる。また三亥の死去に際し、天皇・皇后より祭糒料を、皇后より切り花・菓子を賜う。

○女官日誌、贈賜録、恩賜録

七日 月曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、政府の賓客として来日したベルギー国経済使節団団長同国王弟アルベールと御会見になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓參内録、典式録、

昭和二十七年五月

宮殿行事録

午後、吹上御所において松平信子の拝謁をお受けになる。信子に御所の拝見をお許しになる。○女官日誌、内舍人日誌

この日、第七回ユニセフ協力募金運動を実施中の財団法人日本ユニセフ協会に、御奨励のため金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

九日 水曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、養蚕の様子を御覧になる。○女官日誌

十日 木曜日 日本鳥学会創立五十周年記念「世界の鳥展」を御覧になるため、午前九時四十分御出門になり、天皇と共に日本橋三越本店に行啓される。十時五十五分還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍

従日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

午後、吹上御所において、大谷光暢及び同夫人智子、近く結婚する息女須美子の拝謁をお受けになる。

なお、須美子にお祝いの品を賜う。○女官日誌、内舍人日誌、贈賜録

十三日 日曜日 午後、内廷西玄関前において、東京都主催「母の日」大会に参会した者千百三十七名に御会釈を賜う。総代小野田鈴江より挨拶と花束をお受けになり、次のようなお言葉を賜う。

母の日に皆さんにお会いすることができて本当にうれしく思います。

また、皆さんからの心のこもったお花を有難う。

母の日を機会に、更に教養を高めるよう心がけ、慈愛深い母となり、子供たちを明るく丈夫に育てるよう努めて下さい。

どうか皆さんお元気で。

この日、地方行啓中の皇太子・同妃より祝電があり、またカーネーションの花束が贈られる。○女官日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

大相撲五月場所八日目を御覧になるため、午後三時八分御出門、天皇と共に蔵前国技館に行啓される。

五時四十四分還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

元侍従武官長畑俊六去る十日死去につき、天皇・皇后より菓子及び切り花を賜う。畑は昭和十四年五月、侍従武官長に補され、ついで阿部・米内両内閣の陸軍大臣に就任する。十九年には元帥府に列せられ、元帥の称号を賜る。○贈賜録、賜与録

十四日 月曜日 午前、拝謁の間において、新任の皇宮警察本部長曾我部久、及び前皇宮警察本部長小杉平一の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

天皇と共に謁見の間において、外務省の賓客として来日した、ラグアイ国外務大臣ラウル・サペナ・パストール及び同夫人を御引見になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

天皇と共に表一の間において、新任のギリシャ国特命全権大使アレキシス・S・リアティス及び同夫人、フィリピン国特命全権大使マウロ・メンデス及び同夫人、ウルグアイ国特命全権大使アルベルト・ミラス及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報、宮内庁庁報

午後、藍綬褒章を授与された文部省関係教育事業功労者、及び紫綬褒章を授与された消防庁関係で音楽を通じて社会に貢献した者等に、天皇と共に旧北御車寄門内において御会釈を賜う。藍綬褒章受章

昭和二十七年五月

者佐藤瑞彦自由学園初等部主事より挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録

十五日 火曜日 千代田区立錦華小学校創立九十年記念式典に御臨席のため、午前十時御出門になり、天皇と共に同校に行啓される。十一時七分還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、東京都庁所蔵資料

夕刻、天皇と共に吹上御所において、宮崎・鹿児島・熊本各県より還啓の皇太子・同妃と御対面になり、引き続き御夕餐を御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

昨十四日インドネシア国において同国大統領スカルノの暗殺未遂事件発生につき、この日天皇・皇后より同大統領にお見舞電報を発せられる。これに対し二十六日答電がある。○外交慶弔録、宮内庁庁報、官報、儀礼軌範

去る三日常磐線三河島駅において発生した列車衝突事故による犠牲者の合同慰霊法要が、翌十六日、築地本願寺において営まれるに当たり、天皇・皇后より施主の日本国有鉄道総裁十河信二に生花を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

十六日 水曜日 日本赤十字社創立八十五周年記念関東山静支部連合災害救護演習を御覧になるため、午後零時四十七分御出門、神奈川県川崎市新丸子の多摩川丸子橋河畔に名誉総裁として行啓される。演習地に御到着後、お野立所テント内御座所に入られ、名誉副総裁の皇太子妃・故雍仁親王妃勢津子・崇仁親王妃百合子と御対面になる。日本赤十字社社長島津忠承東京都知事・演習統監東竜太郎の説明により演習状況を御覧になる。東演習統監の先導にて演習地を巡視され、各支部救護所の炊き出し状況

等を御覧になる。米国赤十字救護班を御巡視の後、再びお野立所に戻られ、盲導犬の患者誘導・ヘリコプターによる患者吊り上げ救助等を御覧になる。三時二十八分皇居に還啓される。○女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、事業年報（日本赤十字社）

十七日 木曜日 午前、貞明皇后例祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

十九日 土曜日 神宮御参拝、併せて地方事情を御視察のため、天皇と共に三重県・和歌山県・岐阜県に行啓される。午前八時五十分御出門、原宿駅より伊勢市駅を経て、午後四時三十五分、御泊所内宮齋館に御到着になる。その後、天皇と共に御泊所において神宮祭主北白川房子の拝謁をお受けになる。ついで大宮司坊城俊良より昭和三十四年九月の伊勢湾台風^{台風十}_{五号}による神宮の被害と復旧状況についてお聞きになる。御夕餐後も北白川房子と御歓談になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内

舎人供奉日誌、幸啓録、三重和歌山岐阜三県下行幸啓録、宮内庁庁報、官報、奉迎のよるこび、月刊観光紀州

二十日 日曜日 午前九時三十分天皇と共に御泊所内宮齋館を御出発、豊受大神宮を天皇に続いて御拝礼になり、玉串を奉奠される。午後は皇大神宮を天皇に続いて御拝礼になり、玉串を奉奠される。なお神宮御参拝に際して、天皇・皇后より皇大神宮・豊受大神宮・両宮別宮十四所にそれぞれ幣帛料及び神饌料を御奉納になり、また別に伊勢湾台風による宮域林被害復旧費として神宮に金員を賜う。神宮御参拝に寄せて次の御歌をお詠みになる。

神ぞののしじまやぶりてにはとりはひと声長くなきにけるかも

御泊所のある賢島へ向かわれる途上、鳥羽市立加茂小学校にて御少憩の後、午後五時十五分御泊所の

志摩観光ホテルに御到着になる。御夕食後、天皇と共に伊勢湾台風の災害と復興状況についての映画を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、三重和歌山岐阜三県下行幸啓録、臨時祭祀録、宮内庁庁報、

官報、神宮司庁所蔵資料、あけぼの集、奉迎のよろこび、神宮・明治百年史補遺、月刊観光紀州、晴好雨奇

二十一日 月曜日 午前九時四十五分天皇と共に御泊所志摩観光ホテルを御出発、鳥羽駅より熊野市駅を経て、波蝕洞窟として知られる天然記念物鬼ヶ城に御到着になる。千畳敷に設けられたお野立所において、三重県知事田中覚より伊勢湾台風による高潮被害の復旧状況をお聞きになり、引き続き付近の景観を御展望になる。次に伊弉冉尊いさなのみことが葬られたと伝えられる花の窟にお着きになり、同所の前方に広がる七里御浜海岸に設けられたお野立所において田中知事より高潮対策工事の状況について、熊野市長坪田誠より花の窟の由来及び付近の景観についてそれぞれ説明をお聞きになる。ついで熊野市駅より和歌山県の新宮駅を経て新宮市の熊野速玉大社にお着きになる。参道を進まれ、天皇に続き本殿階下の御座において御拝礼になる。午後五時東牟婁郡那智勝浦町の御泊所越の湯に御到着になる。

その後、天皇と共に御泊所において、郷土民芸「かい踊り」を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、三重和歌山岐阜三県下行幸啓録、宮内庁庁報、官報、熊野市役所所蔵資料、奉迎のよろこび、行幸啓誌紀州路のよろこび、熊野のみゆき、月刊観光紀州

二十二日 火曜日 午前十時十五分天皇と共に御泊所越の湯を御出発、飛滝神社にお着きになる。御神体である那智の滝に天皇とお揃いにて御拝礼になる。那智駅より串本駅を経て、西牟婁郡串本町の串本漁業協同組合にお着きになる。御昼食後、潮岬灯台を御視察になり、次に潮岬観光タワー株式会社にお着きになり、タワー屋上より周囲の景観を御展望になる。ついで一階玄関に特設されたお席よ

り串本町民による「串本節踊り」を御覧になる。終わって串本駅より白浜口駅を経て、午後四時五十分西牟婁郡白浜町の御泊所古賀乃井に御到着になる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、三重和歌山岐阜三県下行幸啓録、宮内庁庁報、官報、行幸啓誌紀州路のよるこび、那智叢書、月刊観光紀州

二十三日 水曜日 この日は公式日程はなく、御静養日に充てられる。午前十時四十分天皇と共に御泊所古賀乃井を御出発、京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所に御到着になり、水族館旧館及び同新館をそれぞれ御巡覧になる。御昼食後、雨の中お一方にて同実験所をお発ちになる。当初予定の三段壁御覧は雨天によりお取りやめとなり、直接先月開園した観葉植物園に向かわれる。御到着の後、白浜観葉植物生産協同組合専務高橋敬二の説明により、温室内の熱帯植物などを御覧になる。その際、折良く満開のクジャクサボテンの赤い花を特に熱心に御覧になる。また温室の温度等について御質問になる。それより平草原にお着きになる。白浜開発株式会社のハウス二階で御少憩後、白浜町長南和七の説明により水墨画のように煙る周囲の景観を展望され、また、スケッチブックに御写生になる。終わって堅田漁業組合の本館に御到着になり、組合長堅田輝昭の説明にて真珠の核入れ作業・真珠貝X線透視装置等を御覧になる。その際、良い珠と悪い珠の差はプランクトンによるものか質問される。工具による真珠の指輪・ネックレス・ブローチの製作状況も御覧になり、午後二時五十分御泊所古賀乃井に還御される。なお、堅田漁業組合御視察後に臨海実験所裏の海岸で貝の御採集が予定されていたが、雨天のためお取りやめとなる。夕刻より天皇と共に随行の宮内記者会会員の拝謁をお受けになる。その際、皇后は天皇の御著書『那須の植物』に協力されたのか問われたのに対し、協力と呼べるほどのことはしなかったが、天皇及び関係者の校正が夜遅くまでかかっていたため、大変な作業があ

ることを初めて知った旨をお答えになる。吹上御所の日本間で絵画を描かれているのか問われ、まだ座って描く時間がとれていないが、落ち着いた良い部屋である旨を御回答になる。その他、島津貴子が出産した男子、島津禎久のことなども話題になる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、三重和歌山岐阜三県

下行幸啓録、宮内庁庁報、官報、京都大学所蔵資料、行幸啓誌紀州路のよろこび、月刊観光紀州、朝日新聞、産経新聞、毎日新聞、読売新聞

二十四日 木曜日 午前九時二十五分天皇と共に御泊所古賀乃井を御出発、白浜口駅より下津駅を経て、海草郡下津町の丸善石油株式会社下津製油所にお着きになる。御昼食後、工場を御巡覧になる。

ついで加茂郷駅より東和歌山駅を経て、和歌山市の和歌山県経済センターに御到着、県物産品を御巡覧になる。ついで和歌山県護国神社にお立ち寄りになり、鳥居内に進まれ天皇とお揃いにて御拝礼になる。次に光陽産業株式会社において皮革製品の展示や製品の生産過程を御覧になる。その際、皇后はロウケツ染めのハンドバッグやローヒールの靴に目を止められる。また、堅い革を柔らかくする工程を御見学の際には、実際に革に触れてお確かめになる。次に和歌山市立砂山保育所を御訪問になり、幼児の遊戯や砂遊びの様様を御覧になる。それより雑賀崎のお野立所に移動され、海岸等の景観を御眺望になる。午後四時二十分御泊所新和歌浦東邦荘に御到着になる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、

幸啓録、三重和歌山岐阜三県下行幸啓録、宮内庁庁報、官報、和歌山史要、行幸啓誌紀州路のよろこび、行幸啓記念写真集、月刊観光紀州、皮革ひとすじ、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、和歌山新聞

二十五日 金曜日 午前九時天皇と共に御泊所新和歌浦東邦荘を御出発、南海電鉄和歌山市駅より岐阜駅を経て、岐阜県庁に御到着になる。同所において映画「伸びゆく郷土」を御覧になり、午後四時

十分御泊所万松館に御到着になる。夕刻、御泊所に展示された同県に生息する魚類、及び化石の標本等を御覧になる。その際、皇后は水槽の中の鮎を御写生になる。七時二十五分御泊所を天皇と共に御発、長良川の古津乗船場より御乗船になり、鵜飼による鮎を御覧になる。皇后はその様子を写生される。九時二十五分御泊所万松館にお戻りになる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、三重和歌山岐阜三県下行幸啓録、宮内庁庁報、官報、天皇皇后両陛下をお迎えして

二十六日 土曜日 午前十時三十五分天皇と共に御泊所万松館を御出発、岐阜護国神社にお立ち寄りになり、鳥居内に進まれ、天皇とお揃いにて御拝礼になる。終わって岐阜駅より原宿駅を経て、午後四時四十五分皇居に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、三重和歌山岐阜三県下行幸啓録、宮内庁庁報、官報、岐阜日日新聞

二十八日 月曜日 午前、拝謁の間において、バチカン国から帰国の特命全権大使吉岡範武、フィリピン国へ赴任の特命全権大使板垣修及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録

常磐会第九十八回総会に御臨席のため、午後一時十八分御出門、椿山荘に行啓される。御到着後、御休所において皇族・元皇族と御対面になる。ついで会員一同が「花すみれ」の合唱でお迎えする中、懇親会場にお出ましになる。御着席後、花柳桃輔（会員佐藤信子）による日本舞踊の余興を御覧になる。終わって余興出演者に御会釈の後、お庭を散策される。開山堂にてジンギスカン料理を御試食の後、第二会場御休所において御同級生と御歓談になる。四時十六分還啓される。○女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁

昭和二十七年六月

三十日 水曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官日誌

三十一日 木曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、近く離任するユーゴスラビア国特命全權大使フランツ・コス及び同夫人を御引見になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、

宮内庁序報

午後一時五十分御出発、秩父宮邸に行啓される。御到着後、御休所において故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子と御対面になる。ついでお庭のバラを御覧になる。その後宣仁親王妃が運転する自動車にて御苑内を廻られる。四時三十八分、吹上御所に還啓される。○女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁序報

六月

四日 月曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、島津久子・同貴子・同禎久と御対面になり、御昼食を御会食になる。去る四月五日に誕生した禎久はこの日初参内につき、天皇・皇后より久子に三種交魚代料、島津久永及び同夫人貴子に五種交魚代料、禎久に鮮鯛代料・御台人形代料を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

五日 火曜日 天皇と共に表一の間において、この度離任のフィンランド国特命全權公使ラグナー・スメーツルンド及び同夫人、新任のポルビア国特命全權大使アルトウーロ・フォルトウン・サンヒネス及び同夫人、オートヴォルタ国特命全權大使ドウグコール・アンリ・ウアッタラ及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内

庁序報

六日 水曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、今般韓国を訪問する李方子の拝謁をお受けになる。なお天皇・皇后より方子にお品料を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、梨本伊都子日記

午後、吹上御所において山口玉糸より絵画の指導をお受けになり、花蔭亭を望む景色の下絵を描かれる。○女官日誌、内舍人日誌

八日 金曜日 天皇と共に那須御用邸に行啓のため、午前十時十五分御出門になり、午後一時十分同邸に御到着になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁序報

九日 土曜日 午前、天皇と共に一ツ樅付近にお出ましになり、アヤメ類を御覧になる。以後、しばしば天皇と共に御散策になる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

十一日 月曜日 午後、栃木県那須郡塩原町において療養中の元侍女鈴木タカカ参邸につき、天皇と共に拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

十五日 金曜日 午後零時五十分、天皇と共に那須御用邸を御出門になり、三時四十五分皇居に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁序報

十六日 土曜日 午後、吹上御所において、大谷光暢及び同夫人智子、今般結婚の夏川須美子^{旧姓}大谷^{大谷}夫妻の拝謁をお受けになる。結婚後初参内につき、皇后より大谷智子及び夏川夫妻にそれぞれお品及び万

昭和二十七年六月

那料を賜う。○女官日誌、贈賜録

十九日 火曜日 午前、天皇と共に義宮御殿前庭において、皇居造営主管高尾亮一及び宮殿造営に關する設計を委嘱された東京芸術大学教授吉村順三より新宮殿の造営計画についての説明をお聞きになり、造営現場を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮殿造営記録

ベルギー国王弟アルベール^{リエー}に、去る五日王女アストリッドが誕生する。この日、天皇・皇后より

同王弟及び同妃バオラに対する祝意が、式部官長より同国特命全權大使に伝達される。○外交慶弔録

二十日 水曜日 午前、拝謁の間において、ハンガリー国から帰国の特命全權公使小川清四郎並びに同国へ赴任の特命全權公使吉田健一郎及び同夫人の拝謁をそれぞれお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録

天皇と共に表一の間において、菊栄親睦会会員に午餐の御陪食を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、菊栄親睦会録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十二日 金曜日 午前、天皇と共に奥二の間において、来る八月三十一日の桃園天皇二百年式年祭

に先立ち、元東京帝国大学教授中村孝也より桃園天皇の御事蹟についての進講をお聴きになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、宮内庁庁報

二十五日 月曜日 午後、吹上御所において松平信子の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十六日 火曜日 正午過ぎ、表二の間において、新任のハンガリー国特命全權公使アンドラス・ザルカを御引見になる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、謁見録、宮内庁庁報

この度離任のベルギー国特命全権大使ユウジェーヌ・デュ・ボワ及び同夫人、アルゼンチン国特命全権大使アレハンドロ・オルフィーラ及び同夫人、新任のハンガリー国特命全権公使アンドラス・ザルカをお招きになり、表一の間において天皇と共に午餐を催される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁序報

二十九日 金曜日 午後、吹上御所において、先般韓国より戻った李方子の拝謁を天皇と共にお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

天皇と共に吹上御所において、元侍女鈴木タカ及び同子息^{前侍従次長}の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

七月

二日 月曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。○女官日誌、内舎人日誌

午後一時四十七分御出門、高松宮邸に行啓される。四時四十五分還啓される。後刻、吹上御所において宣仁親王妃喜久子よりお礼言上をお受けになる。○女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁序報
御夕餐後、日本赤十字社による災害救護演習に行啓の模様を撮影した映画等を、天皇と共に御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

三日 火曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、来る二十一日より英国及びスウェーデン国を訪問する故雍仁親王妃勢津子と御対面になる。午後は拝謁の間において、同妃随員の吉川重^{式部副長}・麻生

昭和二十七年七月

和子の拝謁を天皇に続きお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀礼軌範

五日 木曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、今般英国及びスウェーデン国を訪問する故雍仁親王妃勢津子と御対面になる。ついで皇太子・同妃、正仁親王、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子をお招きになり、故雍仁親王妃送別の御晩餐を催される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

六日 金曜日 午前、天皇と共に花蔭亭東側において、紅葉山御養蚕所に奉仕の主任宮崎清及び助手四名に御会釈を賜う。○女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

九日 月曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時十分御出門になり、十一時三十五分同邸に御到着になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

十日 火曜日 午前、御用邸前の砂浜にお出ましになり、ウミガメが産んだ卵を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、葉山行幸啓録

十一日 水曜日 午後、元内閣総理大臣吉田茂の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、葉山行幸啓録
社会福祉功績者森村市左衛門^{第七代} 去る五日死去につき、生前多年にわたり社会福祉及び保健衛生の向上発展に尽力した功績により、天皇より特に祭料を賜う。また天皇・皇后のゴルフ御練習のお相手を務めた廉により、天皇・皇后より霊前に果物をお供えになる。○賜与録、贈賜録

十三日 金曜日 午前、侍従入江相政をお召しになり、御使として前田青邨に御絵を届けるよう仰せ付けられる。午後、帰邸した入江より復命をお受けになる。○女官日誌

去る七日・八日の集中豪雨により甚大な被害を受けた佐賀県に対し、天皇・皇后より御救恤金を賜う。

○賜与録、宮内庁庁報

十四日 土曜日 午後、天皇と共に、先般結婚した九条道弘^{貞明皇后の兄}の拝謁をお受けになる。これよ

り先、同人の結婚に当たり、天皇・皇后より万那料及びお品を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内

舎人供奉日誌、葉山行幸啓録、贈賜録

十七日 火曜日 午前、天皇と共に海上にお出ましになり、荒崎海岸に御到着になる。皇后は磯にお

いて海中や周囲の景観を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録

元学習院教授板沢武雄<sup>法政大
学教授</sup>去る十五日死去につき、この日天皇・皇后より祭糒料を賜う。また皇后よ

り切り花・菓子を賜う。板沢は昭和十三年より十九年まで皇后に国史を進講し、その数は合計百五回

に及ぶ。○恩賜録、贈賜録

十八日 水曜日 一時御帰京のため、午前十時、天皇と共に葉山御用邸を御出門になり、十一時四十

分皇居に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録

夕刻、天皇と共に吹上御所において、来る二十一日より英国及びスウェーデン国を訪問する故雍仁親

王妃勢津子より出発の挨拶をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十九日 木曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時御出門になり、十一時四十分同邸に

御到着になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録

二十日 金曜日 正午より天皇と共に海上にお出ましになり、黒崎海岸にお着きになる。皇后は砂浜

にて貝拾い等を行われる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録

二十一日 土曜日 一時御帰京のため、午前十時十五分天皇と共に葉山御用邸を御出門になり、十一

昭和二十七年七月

昭和二十七年七月

時四十分皇居に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、

宮内庁序報

二十三日 月曜日 故東久邇成子一周年祭^{墓所}につき、午後二時二十二分天皇と共に御出門になり、豊

島岡墓地に行啓される。御着後、天皇に続いて東久邇家の墓所を御拝礼になる。三時還啓される。なお、昨日には東久邇成子の霊前に女官小川梅子を差し遣わされ、皇后の御歌の短冊、成子が天皇に献上した貝の名前目録等をお供えになる。これに対し、東久邇盛厚より追悼文集『紅梅』二冊の献上がある。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁序報

天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃、正仁親王、東久邇盛厚・同信彦、鷹司平通・同夫人和子、池田隆政・同夫人厚子、島津久永・同夫人貴子と御夕餐を御会食になる。終わって故東久邇成子を偲ぶ映画を御覧になり、また入院中の成子の独唱を録音したテープをお聴きになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、入江相政日記

二十四日 火曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午後三時十分御出門になり、四時三十五分同邸に御到着になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁序報

二十七日 金曜日 女官小川梅子を前田青邨に差し遣わされ、御絵「那智の滝」をお見せになる。○

女官日誌、桃苑画集

二十八日 土曜日 午前十時十五分、天皇と共に葉山御用邸を御出門になり、十一時四十分皇居に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁序報

三十日 月曜日 午前、明治天皇五十年式年祭皇靈殿の儀につき、御拝礼になる。また、陵所において同祭山陵に奉幣の儀が行われ、京都事務所長石川忠に御代拝を仰せ付けられる。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、臨時祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

三十一日 火曜日 明治神宮において明治天皇五十年祭執行につき、午前九時五十分御出門になり、天皇と共に同神宮に行啓される。御到着後、天皇に続いて御拝座に進まれ御拝礼になる。十一時還啓される。五十年祭に際し、天皇・皇后より同社に幣帛料・神饌料を御奉納になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

午後、書陵部にお出ましになり、遠藤諦之輔書陵部 図
書課 技官による「源氏物語絵巻」御
絵の表装の仕上げを御覧になる。○女官日誌、内舍人日誌

八月

一日 水曜日 天皇と共に那須御用邸に行啓のため、午前十時十五分御出門になり、午後一時十分同邸に御到着になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓書類綴、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

天皇と共に附属邸周辺を御散策になる。以後、那須御用邸御滞在中、しばしば天皇の植物御調査に同行される。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓書類綴

四日 土曜日 この日ラオス国王第一王子ヴォン・サヴァンの結婚式につき、天皇・皇后より同国駐劄特命全権大使を通じ、国王・王妃に祝意を伝達させられ、また王子に九谷焼金欄手壺瑞祥
文を御贈進

昭和二十七年八月

になる。後日、国王より天皇に謝意を表する親書^{九月十日付}が、王子よりも天皇に謝意を表する書簡^{九月一日付}が寄せられる。○外交贈答録、外交慶弔録、儀礼軌範

七日 火曜日 午後零時五十分、国会開会式に御臨席のため皇居に還幸される天皇をお見送りになる。

天皇は翌日午後三時五十五分、再び那須御用邸に御到着になる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、那須行幸啓書類綴、那須御用邸管理事務所日誌

八日 水曜日 先般の台風九号に伴う集中豪雨により甚大な被害を受けた北海道に対し、天皇・皇后より御救恤金を賜う。○賜与録

十五日 水曜日 終戦の日に当たるため、お出ましを控えられる。○女官日誌、侍従日誌、那須行幸啓書類綴
夕刻、去る九日に英国及びスウェーデン国より帰国した故雍仁親王妃勢津子参邸につき、天皇と共に御対面になり、報告をお聞きになる。また参邸の宣仁親王妃喜久子、及び那須に滞在中の池田厚子も加わり、御一緒に御夕餐を御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓書類綴、那須御用邸管理事務所日誌

十六日 木曜日 午前、池田厚子と共に那須ゴルフ場にお出ましになる。○女官日誌、那須行幸啓書類綴

インドネシア国ジャカルタ市で開催される第四回アジア大会に日本国代表選手団が参加するため、財団法人日本体育協会に天皇・皇后より御奨励のため金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

二十四日 金曜日 午前の御散策にお出かけの際、天皇及び池田厚子と共に正門付近において、那須町長山口幸太郎その他に車中より御会釈を賜う。○女官日誌、侍従日誌、那須行幸啓書類綴

二十八日 火曜日 午前十時五分那須御用邸を御出門になり、天皇と共に栃木県日光方面に行啓され

る。黒磯駅より日光駅を経て、日光市の古河アルミニウム工業株式会社日光工場に御到着になり、御昼食後に工場を視察される。次に華厳の滝を御覧になり、ついで中禅寺湖をお召し船にて遊覧される。途中、お召し船より下船され、阿世瀉及び千手ヶ浜にて植物御調査をされる。午後五時十二分御泊所日光観光ホテルに御到着になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓書類綴、幸啓録、栃

木県日光行幸啓録、宮内庁庁報、官報、古河電気工業株式会社所蔵資料、日光市史、古河電工社報、下野新聞

二十九日 水曜日 午前十時天皇と共に御泊所日光観光ホテルを御出発になり、戦場ヶ原開拓地に向かわれる。御到着の後、天皇に続き開拓組合員等に励ましのお言葉を賜う。ついで天皇が植物御調査をされる間、皇后は男体山等を御写生になる。天皇と合流されて湯滝を御覧になった後、御昼食のため御泊所にお戻りになる。午後一時三十分天皇と共に御泊所をお発ちになり、水産庁日光養魚場を視察される。次に小田代原・湯川河畔を御散策になる。四時十分御泊所日光観光ホテルにお戻りになる。

○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、栃木県日光行幸啓録、宮内庁庁報、官報、入江相政日記、下野新聞

翌三十日、千代田区の千鳥ヶ淵戦没者墓苑において厚生省が主催する「ソ連関係地域死没者追悼式」挙行につき、この日、天皇・皇后より厚生大臣に生花を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

三十日 木曜日 午前十時天皇と共に御泊所日光観光ホテルを御出発になり、東京大学理学部附属植物園日光分園において園内を御巡覧になる。日光駅より原宿駅を経て、午後三時三十五分皇居に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、栃木県日光行幸啓録、宮内庁庁報、官報
夕刻、天皇と共に奥二の間において、故雍仁親王妃勢津子の英国及びスウェーデン国訪問における随員吉川重国^{式部副長}及び同麻生和子の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

昭和二十七年九月

三十一日 金曜日 午前、桃園天皇二百年式年祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、臨時祭祀録、典式録、宮内庁庁報

那須御用邸に行啓のため、午後零時五十五分、天皇及び正仁親王と共に御出門になり、三時五十五分同邸に到着される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓書類綴、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

九月

一日 土曜日 関東大震災の日に当たるため、お出ましを控えられる。○女官日誌、侍従日誌

山口玉糸をお召しになり、花蔭亭の絵画を描かれる。○女官日誌、那須行幸啓書類綴、那須御用邸管理事務所日誌

二日 日曜日 午前、山口玉糸の指導により、花蔭亭の絵画を完成される。○女官日誌、那須行幸啓書類綴、

那須御用邸管理事務所日誌

五日 水曜日 去る八月二十四日の三宅島雄山の噴火により甚大な被害発生につき、天皇・皇后より

東京都に御救恤金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報、東京都庁所蔵資料

九日 日曜日 久邇侁子の祥月命日につき、お出ましを控えられる。○女官日誌、侍従日誌

十三日 木曜日 天皇と共に那須御用邸より還啓のため、午後零時五十分御出門、三時四十五分皇居に御到着になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓書類綴、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

夕刻、天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃と御対面になり、来る十五日から岡山県行啓につ

き挨拶をお受けになる。ついで徳仁親王・正仁親王も交え、御夕餐を御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁序報

十四日 金曜日 「未来と神秘をさぐる海洋の科学展」を御覧になるため、午前九時四十二分御出門、天皇と共に上野松坂屋に行啓される。同展の海洋生物展示には、天皇より御採集品等が貸し下げられる。十一時十分還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁序報、官報

十八日 火曜日 午後、表二の間において、新任のパキスタン国特命全権大使ハーリド・マスウド・シェイク及び同夫人を御引見になる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報

天皇と共に表一の間において、この度離任のドミニカ共和国特命全権大使レオンテ・グスマン・サンチェス及び同夫人、メキシコ国特命全権大使アルフォンソ・カストロ・ヴァーリエ及び同夫人、トルコ国特命全権大使ケマル・ネジヤト・カウル及び同夫人、新任のパキスタン国特命全権大使ハーリド・マスウド・シェイク及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁序報

十九日 水曜日 午前、厚生大臣から表彰された第十四回保健文化賞^{第一}生命保険相互会社主催、厚生省・朝日新聞厚生文化事業団・NHK厚生文化事業団後援を受賞した者等に、天皇と共に旧北御車寄門内において御会食を賜う。厚生大臣西村英一より挨拶をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、宮内庁序報

吹上御所において天皇と共に皇太子・同妃と御対面になり、昨日岡山県行啓より帰京につき挨拶をお受けになり、御昼餐を御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁序報

二十日 木曜日 天皇と共に吹上御所において、先般英国及びスウェーデン国より帰国の故雍仁親王

妃勢津子をお招きになり、御晩餐を催される。皇太子・同妃、正仁親王、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王が出席する。ついで御一緒に故雍仁親王妃が持参した訪英の記録映画を御覧になる。また、皇后は那須にて御写生のヤマユリの御絵を御披露になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

二十二日 土曜日 「近代の屏風絵展」を御覧になるため、午前十時十分御出門、国立近代美術館に行啓される。御到着後、事業課長河北倫明の説明により、各展示室において川合玉堂・横山大観・竹内栖鳳・安田靫彦・前田青邨などの作品を御覧になる。その間、前田青邨が同道する。御休所において館長稲田清助の拝謁をお受けになる。十一時四十九分、皇居に還啓される。○女官日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に吹上御所において、元侍女鈴木タカの拝謁をお受けになる。後刻、皇后は同人が持参したポタンの絵六十枚を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十三日 日曜日 午前、秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、御拝礼になる。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

吹上御所において、天皇及び皇太子・同妃・徳仁親王と御夕餐を御会食になる。なお定例となつてゐる日曜日の皇太子・同妃の参殿は、これまで御昼餐を中心とする時間帯に行われてきたが、七月から徳仁親王も御会食に同席するようになったことに伴い、以後は徳仁親王の午睡時間との関係から、御夕餐を中心とする時間帯に改められる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、例規録

二十四日 月曜日 午前、謁見の間において、故前ニカラグア国大統領夫人サルヴァドラ・デバイレ・

デ・ソモサを天皇と共に御引見になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、外交記録

二十八日 金曜日 日本遺族会創立十五周年記念式典に御臨席のため、午前十一時二十六分御出門になり、天皇と共に九段会館に行啓される。午後零時十六分還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

去る二十六日に長崎県福江市において発生した火災により甚大な被害が生じたため、天皇・皇后より長崎県に御救恤金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

二十九日 土曜日 来る十月一日から昭和三十七年度国民たすけあい共同募金運動を実施する社会福祉法人中央共同募金会に対し、天皇・皇后より金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

三十日 日曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた鷹司和子と御対面になる。その際、贈賜に対するお礼言上をお受けになる。ついで御昼餐を御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

午後一時十分御出門になり、この年一月に新築の目黒区柿ノ木坂の東久邇盛厚邸に天皇と共に行啓される。御着後、故東久邇成子の写真に御拝礼になり、盛厚及び同子女の案内により、子女が飾り付けた各部屋を巡覧される。終わって御一緒に御歓談になる。四時五十分還啓される。なお行幸啓に際し、皇后より自ら描かれた紅梅故東久邇成子のお印の日本画を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、読売新聞

十月

一日 月曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、インドネシア国首席大臣ジュアンダ及び同夫人を御引見になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二日 火曜日 午後、天皇と共に旧北御車寄門内において、藍綬褒章を授与された調停委員・司法委員・参与員等に御会釈を賜う。東京家庭裁判所調停委員三根谷実蔵の挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

六日 土曜日 午後、義宮御殿にお出ましになる。以後、毎週土曜日に同所にお出ましになる。○女官日誌、内舍人日誌

八日 月曜日 来る十一日の国賓メキシコ国大統領アドルフ・ロペス・マテオスの来日に先立ち、午前、天皇と共に奥二の間において、同国駐劄特命全権大使林馨よりメキシコ国に関する進講をお聴きになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、宮内庁庁報

午後、謁見の間において、ドイツ連邦共和国特命全権大使ヘルベルト・デイトマン及び今般着京の同夫人、新任のフィンランド国特命全権大使ヴィルヨ・ヤーッコ・アホカス及び同夫人、ソビエト連邦特命全権大使ウラジミール・ミハイロヴィチ・ヴィノグラードフ及び同夫人、メキシコ国特命全権大使ラファエル・デ・ラ・コリーナを順次御引見になる。○女官日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁

庁報

九日 火曜日 多摩陵^{大正天皇}・多摩東陵^{貞明皇后}を御参拝のため、午前九時五十五分御出門になり、天皇と共に陵所に行啓される。御着後、天皇に続いて多摩陵、ついで多摩東陵を御拝礼になる。午後四時十

五分還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

十一日 木曜日 国賓として来日するメキシコ国大統領アドルフ・ロペス・マテオス及び同夫人・息女をお出迎えのため、午後零時二十一分御出門になり、天皇と共に東京国際空港に行啓される。空港行事の後、天皇は大統領と、皇后は大統領夫人・息女と白金迎賓館まで御同乗になる。二時二十六分還啓される。なお、大統領夫妻入京の際、皇后より大統領夫人に花束が贈られる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、幸啓録、宮内庁庁報、官報、外交記録

十二日 金曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、国賓のメキシコ国大統領アドルフ・ロペス・マテオス及び同夫人エバと御会見になる。その際、相互儀礼叙勲があり、皇后にアギラ・アステカ勲章一級大綬章が贈られる。午後七時三十分より天皇と共に西の間においてメキシコ国大統領夫妻のため宮中晩餐を催され、九時二十分より北の間において宮中夜会を催される。

なおこの度の来日に際し、天皇・皇后より大統領に花車刺繡屏風を、同夫人に平目地菊蒔絵金蒔絵手箱及び青海波紅葉散文洋服地^{紅葉山御養蚕所製品}を、御会見に同席の同息女アベシタに撫子武蔵野文様洋服地^{紅葉山御養蚕所製品}を御贈進になる。大統領夫妻より天皇・皇后にも御贈進があり、皇后には銀製ティーサービスセットが贈られる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、重要雑録、外交贈答録、宮内庁庁報、官報、外交記録

十三日 土曜日 メキシコ国大統領アドルフ・ロペス・マテオス主催の晩餐会に御出席のため、午後七時十分御出門になり、天皇と共にホテルオークラに行啓される。九時四十二分還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、外賓参内録、重要雑録、宮内庁庁報、官報、外交記録

昭和二十七年十月

十四日 日曜日 メキシコ国大統領アドルフォ・ロペス・マテオス及び同夫人・息女をお見送りのため、午後一時二分御出門になり、天皇と共に東京国際空港に行啓される。二時四十一分還啓される。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、外賓参内録、重要雑録、外交贈答録、宮内庁庁報、官報、外交記録

十五日 月曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、衆議院の招客として来日したチリ国下院議長ハコボ・シャウルソン及び同夫人を御引見になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

正午過ぎ、表二の間において、新任のアルゼンチン国特命全権大使アドルフォ・アルフレド・ボリニ及び同夫人を御引見になる。○女官日誌、内舎人日誌、謁見録、宮内庁庁報

天皇と共に西の間において、この度離任のスウェーデン国特命全権大使ターゲ・ホルム・フレデリク・グリーオンヴァル及び同夫人、新任のアルゼンチン国特命全権大使アドルフォ・アルフレド・ボリニ及び同夫人、並びにフィリピン国特命全権大使マウロ・メンデス及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録

十六日 火曜日 午前、謁見の間において、近く赴任のキューバ国駐劔特命全権大使矢口麓蔵及び同夫人、ビルマ国駐劔特命全権大使小田部謙一及び同夫人、ドミニカ共和国駐劔特命全権大使小沢武夫及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮内庁庁報、官報

財団法人日本傷痍軍人会創立十周年記念全国大会に御臨席のため、午前十一時十三分御出門になり、天皇と共に東京体育館に行啓される。十一時五十六分還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人

日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

午後、天皇と共に謁見の間において、政府の賓客として来日したノルウェー国外務大臣ハルヴァルド・M・ランゲ及び同夫人を御引見になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、外交記録

十七日 水曜日 午前、神嘗祭につき、吹上御所ベランダより神宮を御遙拝になる。ついで賢所において御拝礼になる。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

十八日 木曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、英国東南アジア総弁務官ジョージ・ダグラス・ハミルトンセルカー及び同夫人を御引見になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮

殿行事録、宮内庁庁報、外交記録

午後、天皇と共に旧北御車寄門内において、靖国神社靈璽奉安祭に各都道府県代表沖繩を含むとして参列の

遺族に御会釈を賜う。千葉県代表森川武利より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官

日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報、靖国神社社務日誌

翌十九日より京都・岡山・愛知三府県行幸啓につき、この日夕刻、吹上御所において天皇と共に、皇太子・同妃・徳仁親王より挨拶をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

十九日 金曜日 岡山県において開催される第十七回国民体育大会秋季大会に御臨場、併せて地方事情御視察のため、天皇と共に京都府・岡山県・愛知県に行啓される。午前八時四十五分御出門になり、原宿駅より京都駅を経て午後四時二十分御泊所京都大宮御所に御到着になる。その後、大谷光暢・同夫人智子並びに九条道弘の拝謁をお受けになり、続いて旧堂上華族・尼門跡・職員その他に御会釈を賜う。ついで京都御所内に進まれ、昭和二十九年に一部焼失し、三十三年に再建された小御所を御覧

昭和二十七年十月

になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十日 土曜日 御朝餐前、お一方にて仙洞御所のお庭を散策される。明治天皇陵・昭憲皇太后陵を御参拝のため、午前九時三十分天皇と共に御泊所京都大宮御所を御出発になり、両陵に行啓される。御着後、天皇に続いて明治天皇陵・昭憲皇太后陵の順に御拝礼になる。御参拝に寄せて次の御歌がある。

みささぎ
陵にぬかづきて思ふわれもはや君のよはひにちかづけること

午後零時二十分京都駅より御乗車、岡山駅を経て岡山県庁に御到着になる。県特産品を御覧になった後、県庁舎屋上に昇られ、知事の説明により市内を御展望になる。四時五十分、岡山市後楽園内の御泊所延養亭に御到着になる。御夕餐後、天皇と共に同所において、池田厚子と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、あけぼの集

二十一日 日曜日 午前十時二十五分天皇と共に御泊所延養亭を御出発、岡山市内の社会福祉法人旭川荘を御訪問になる。御視察中、滑り台で頭を打った幼児が声を上げた際、既に別室に進まっていた皇后は急ぎ後戻りされ、その幼児の頭をお撫でになる。終わって御泊所に戻られて御昼食の後、第十七回国民体育大会秋季大会開会式に御臨場のため、岡山県営陸上競技場に向かわれる。御着後、お出迎えの宣仁親王妃喜久子と御対面になる。ついで開会式に臨まれる。この大会に寄せて次の御歌がある。

日の丸の旗とならびて国体旗空たかくなびく岡山の秋

午後四時二十七分御泊所延養亭にお戻りになる。その後、天皇と共に同所において宣仁親王妃・池田

隆政・同夫人厚子と御対面になり、隣接する鶴鳴館において御夕食を御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、社会福祉法人旭川荘所蔵資料、朝日新聞、毎日新聞、山陽新聞

二十二日 月曜日 午前十時三十分天皇と共に御泊所延養亭を御出発になり、岡山市内の国立岡山病院を御視察になる。未熟児センターを御視察の際、皇后は終始看護婦に労いのお言葉を賜う。次に国体馬術競技会場である岡山大学馬場に移動され、馬術競技を御覧になる。ついで法界院駅より津山駅を経て、岡山県酪農試験場に御到着、各施設を御覧になる。次に国体蹴球競技会場である津山市宮グラウンドにお着きになり、蹴球競技を御覧になる。津山駅より岡山駅を経て、午後四時五十七分御泊所延養亭にお戻りになる。御夕食後、天皇は岡山大学教授川口四郎よりタマノミドリガイを中心とした進講をお聴きになる。後刻皇后も参加され、スライドを御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、岡山県総合畜産センター所蔵資料、朝日新聞、毎日新聞、山陽新聞

二十三日 火曜日 午前九時三十五分天皇と共に御泊所延養亭を御出発、岡山県護国神社にお立寄りになり、社前に進まれ御拝礼になる。ついで岡山市営野球場において国体軟式野球競技を、西大寺市の西大寺中学校体育館において国体卓球競技を御覧になる。次に日本エクスラン工業株式会社西大寺工場を視察される。同所御休所において御昼食後、岡山駅より宇野駅を経て児島市宮クレ射撃場に御到着、国体クレ射撃競技を御覧になる。終わって鷺羽山展望所に向かわれる。御着後、瀬戸内海の風光を御展望になる。午後四時五十分、御泊所下電ホテルに御到着になる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、社報エクスラン、靖国、山陽新聞

二十四日 水曜日 午前九時三十分天皇と共に御泊所下電ホテルを御出発になり、倉敷市の中国電力

昭和二十七年十月

株式会社水島火力発電所を御視察になり、ついで屋上に昇られ、水島工業地帯を御展望になる。次に日本鋳業株式会社水島製油所、続いて三菱石油株式会社水島製油所新三菱重工工業株式会社水島自動車製作所を御視察になる。倉敷青陵高等学校において御昼食の後、同校体育館において国体バドミントン競技を御覧になる。ついで倉敷駅より鴨方駅を経て、東京大学東天文台岡山天体物理観測所を視察される。終わって鴨方駅より岡山駅を経て、午後四時四十七分、御泊所延養亭に御到着になる。その後、同所において天皇と共に池田隆政・同夫人厚子と御対面になり、鶴鳴館において御夕食を御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、中国電力株式会社水島発電所所蔵資料、国立

天文台岡山天体物理観測所所蔵資料

二十五日 木曜日 午前九時御泊所天皇と共に延養亭を御出発、池田邸において池田隆政・同夫人厚子と御歓談になる。ついで岡山駅より名古屋駅を経て、午後三時四十八分、御泊所名古屋観光ホテルに御到着になる。御夕食後、天皇と共に愛知県製作の映画「大いなる愛知へ」を御覧になり、ついで展示室において県特産品等を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十六日 金曜日 午前八時五十分天皇と共に御泊所名古屋観光ホテルを御出発になり、熱田神宮に御到着になる。天皇の御拝礼に続いて本殿階下の御座に進まれ御拝礼になり、玉串を奉奠される。この度の御参拝に際し、天皇・皇后より幣帛料・神饌料をお供えになる。それより名古屋観光ホテルに戻られ御少憩の後、愛知県護国神社に立ち寄られ、拝殿前所定の位置において天皇とお揃いにて御拝礼になる。ついで名古屋城に御到着、昭和三十四年に再建された天守閣を御覧になった後、天守閣の七階展望室に昇られ市内を御展望になる。ついで三階において名古屋市指定文化財の展示を、地階に

て銃模型等を御覧になる。名古屋駅より原宿駅を経て、午後四時五十分皇居に還啓される。○女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、愛知県庁所蔵資料、名古屋市役所所蔵資料、愛知県護国神社所蔵資料、あつた、あいち護国

二十八日 日曜日 常磐会にて恒例のバザー開催につき、切り花を賜う。○贈賜録

二十九日 月曜日 午後、天皇と共に拝謁の間において、皇太子・同妃のフィリピン国訪問の首席随員原田健^{式部} ^{官長}始め随員の拝謁をお受けになる。なお、皇太子は天皇の御名代としてこの年二月パキスタ

ン国・インドネシア国と共に同国を訪問する予定であったが、インドネシア国滞在中に発病したため延期となり、この度改めて御名代として皇太子妃を伴い同国を訪問することとなった。○女官日誌、侍従

日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報、官報

この日有楽座において、社会福祉法人恩賜財団済生会主催の慈善有料試写会が開催につき、天皇・皇后は入場券をお買上げになる。○贈賜録

三十日 火曜日 午前、拝謁の間において、ドミニカ共和国より帰国の特命全権大使小長谷綽及び同夫人、近く赴任のパキスタン国駐節特命全権大使柿坪正義の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に皇居広庭において、園遊会を催される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、園遊

会録、典式録、重要雑録、宮内庁庁報

十一月

一日 木曜日 天皇と共に吹上御所において、来る五日よりフィリピン国訪問の皇太子・同妃をお招きになり、御晩餐を催される。正仁親王、故雍仁親王妃勢津子、崇仁親王・同妃百合子、東久邇盛厚、鷹司平通・同夫人和子、島津久永・同夫人貴子が出席する。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁序報

二日 金曜日 午前、天皇と共に旧北御車寄門内において、第六回日本学生科学賞全日本科学教育振興委員会主催、読売新聞社後援

受賞した中学生・高校生等に御会釈を賜う。読売新聞社副社長高橋雄毅より挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、宮内庁序報、読売新聞

午後、天皇と共に賢所通用門脇において、文部省が主催する昭和三十七年度校長研究協議会に参会の国立・公立・私立学校長代表等に御会釈を賜う。文部省初等中等教育局長福田繁より挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、宮内庁序報

三日 土曜日 午後、天皇と共に早春亭において、全日本健康優良学校児童表彰会朝日新聞社主催で特選児童

に選ばれた健康優良児及び全日本健康優良学校の被表彰校代表等に御会釈を賜う。同会長村山長挙

朝日新聞社社長より挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮内庁序報、朝日新聞

四日 日曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃及び徳仁親王と御対面になる。ついで正仁親王も加わり御昼餐を御会食になる。御食事後、皇太子・同妃より、翌日フィリピン国訪問

へ出発の挨拶をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

五日 月曜日 午前、フィリピン国訪問へ出発する皇太子・同妃をお見送りのため、天皇・皇后の御使として侍従長三谷隆信を東京国際空港に差し遣わされる。午後は天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃が東京国際空港を出発する様子をテレビ中継放送にて御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、官報
午後、天皇と共に旧北御車寄門内において、藍綬褒章又は黄綬褒章を授与された厚生省関係功労者等に御会釈を賜う。厚生大臣西村英一より挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。○女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

六日 火曜日 午前、謁見の間において、学校法人宮城学院理事マーガレット・シュネーダー・アンケニーを御引見になる。同人は大正四年宮城女学校教員に就任以来、我が国の女子教育を始め、社会福祉事業等にも力を尽くし、この年退職帰国する。○女官日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に謁見の間において、前カリフォルニア大学総長ロバート・ゴードン・スプラウル及び同夫人を御引見になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

七日 水曜日 学制九十年記念式典に御臨席のため、午前九時四十八分御出門になり、天皇と共に東京文化会館に行啓される。十時四十九分還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、

宮内庁庁報、官報

八日 木曜日 東京都立青鳥養護学校創立十五周年記念式典に御臨席のため、午前九時五十五分御出門、同校に行啓される。御到着後、御休所において東京都知事東竜太郎・東京都教育委員会委員長木下一雄・校長小宮山倭の拝謁をお受けになる。小宮山校長より学校の歴史と現状についての奏上をお

昭和二十七年十一月

聞きになった後、教室における中学部の授業を御巡覧になる。御休所にお戻りの後、式場に臨まれる。式中、次のお言葉を賜う。

今日の式典に臨んで、親しく皆さんに接することができましたことを大変うれしく思います。本校が、特殊な生徒の教育を行なうため、開設以来今日まで、いろいろの困難にうちかちつて、その指導育成に力を尽くし、社会に貢献していることは、まことに喜ばしく思います。

特殊教育は、大へん重要であり、困難も多い事業ではありますが、関係者一同が互いに協力して、ますます、その成果を高めるよう努力することを希望します。

小宮山校長の奉答をお受けになる。十一時四十三分還啓される。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

九日 金曜日 日本赤十字社有功章並びに特別社員章の御親授式に御臨席のため、午前十時十三分御出門、名誉総裁として同社講堂に行啓される。御到着後、御休所において名誉副総裁の故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子と御対面になり、日本赤十字社社長島津忠承・副社長田辺繁雄の拝謁をお受けになる。ついで式場に臨まれる。式中、金色有功章受章者総代八名、章銀の有功章受章者総代二名、金色特別社員章受章者総代一名、章銀の特別社員章受章者総代一名に、各章及び章記を御親授になる。ついで次のお言葉を賜う。

本日ここに、赤十字の事業に貢献し、功労のあつた皆さんに接し、日本赤十字社有功章並びに特別社員章を授与できましたことを大へんうれしく思います。

日本赤十字社は、創立以来八十五年の永きにわたり、各方面の深い理解と支援を得て、国内の

みならず国際的にも数多くの有益な事業を行ない、常に人道的任務を果たすため努力してきましたが、その使命は、将来ますます重要性を増してくるものと思えます。皆さんは、今後とも互いに力を合わせて、赤十字活動を更に大きく推進し、一層の成果をあげて望んでやみません。

島津社長の奉答をお受けになる。式場退場後、御休所隣室^{副総裁室}において国際赤十字関係外国人十名に御会釈を賜う。写真撮影場にて記念写真の撮影をお受けになり、十一時十八分還啓される。○女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、事業年報（日本赤十字社）

十日 土曜日 午後、フィリピン国より帰国の皇太子・同妃をお出迎えのため、天皇・皇后の御使として侍従長三谷隆信を東京国際空港に差し遣わされる。また、皇后は皇太子・同妃の帰国の様子をテレビの実況放送にて御覧になる。夕刻、天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃と御対面になり、帰国の挨拶をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報

十二日 月曜日 第四次日本産業巡航見本市の専用船「さくら丸」を御覧になるため、午前十時十一分御出門、天皇と共に東京港晴海埠頭に行啓される。十一時三十七分還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

十三日 火曜日 午前、拝謁の間において、近く赴任のインドネシア国駐箚特命全権大使古内広雄及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録

午後、天皇及び鷹司和子と共に奥二の間において、侍従職御用掛富山一郎よりボルネオ島サラワクの事情についての進講をお聴きになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録

十四日 水曜日 第五回日本美術展覧会を御覧になるため、午前九時十八分御出門になり、天皇と共に

昭和二十七年十一月

に東京都美術館に行啓される。十時五十一分還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

午後、天皇と共に表御座所において、宮内庁長官宇佐美毅・皇居造営主管高尾亮一・侍従職事務主管徳川義寛の拝謁をお受けになる。ついで新宮殿の千分の一模型を天皇と共に御覧になり、高尾より基本設計の説明をお聞きになる。○女官日誌、侍従日誌、宮殿造営記録

十五日 木曜日 天皇と共に北の間において、去る四日来日のインドネシア国大統領スカルノのため宮中午餐を催される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、外交記録

十六日 金曜日 午前、天皇と共に表三の間において、松栄会会員及び同夫人に御会釈を賜う。代表の元掌典長甘露寺受長より挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

天皇と共に拝謁の間において、皇太子・同妃のフィリピン国訪問の首席随員原田健式部官長始め随員・随行員の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

午後、秋季演奏会に御臨席のため、楽部にお出ましになる。ヴァイオリン独奏・フルート独奏・管弦楽四重奏・ヴァイオリン合奏等をお聴きになる。○女官日誌

十七日 土曜日 午前、謁見の間において、英国人オレーヴ・ベーデンパウエルを御引見になる。同人はガール・ガイド運動のワールド・チーフ・ガイドを務め、今般来日した。○女官日誌、謁見録、宮殿行

事録、宮内庁庁報

十九日 月曜日 天皇と共に表一の間において、この度離任のローマ法王庁公使ドメニコ・エンリチ大司教、及び新任のフィンランド国特命全權大使ヴィルヨ・ヤーツコ・アホカス及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に謁見の間において、ダホメ国外務大臣エミール・デルリン・ザンスー及び同夫人を御引見になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十日 火曜日 日本服飾美術展を御覧になるため、午前九時四十七分御出門、東京国立博物館に行啓される。御到着後、工芸課染織室長山辺知行の説明にて、各室を御巡覧になる。正午前に還啓される。なお、本展では法隆寺献納御物を含め、古代から明治時代に至るまでの服飾美術品が展示される。

○女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

天皇と共に吹上御所において、フィリピン国より帰国の皇太子・同妃をお招きになり、御晚餐を催される。正仁親王・故雍仁親王妃勢津子・崇仁親王妃百合子・東久邇盛厚・鷹司和子・島津久永・同夫人貴子が出席する。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報

二十二日 木曜日 来る二十五日、沖縄那覇市の琉球大学体育館において、南方同胞援護会・日本遺族会・沖縄遺族連合会の共催により沖縄戦終結十七周年戦没者慰霊祭挙行につき、天皇・皇后より生花を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

元別当住山徳太郎元侍従
武官 去る二十日死去につき、天皇・皇后より祭糒料を賜う。○賜与録

二十四日 土曜日 午後一時四十一分吹上御所を御出発、三笠宮邸に行啓される。御到着後、崇仁親王・同妃百合子、先着の故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子等のお出迎えをお受けになり、つい

で御歓談になる。四時五十分、吹上御所に還啓される。○女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

二十八日 水曜日 正仁親王の誕生日につき、午前、天皇と共に拝謁の間において、宮内庁長官始め総代、女官長等の拝賀をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

天皇と共に拝謁の間において、今般結婚する久邇英子御兄朝融の息女の拝謁をお受けになる。なお、皇后より

英子に万那料並びにお祝いの品を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

二十九日 木曜日 昨二十八日オランダ国前女王ウイルヘルミナ薨去につき、天皇・皇后より本日付にて同国女王ユリアナに弔電を發せられる。これに対し十二月十三日に答電がある。また同国大使館へ天皇・皇后の弔問使として侍従入江相政を差し遣わされる。十二月七日の同国デルフトにおける棺前祭には、天皇・皇后より同国駐劄特命全權大使を通じて花環をお供えになる。○侍従日誌、侍従職日誌、

外交慶弔録、外交贈答録、宮内庁庁報、官報、儀礼軌範

三十日 金曜日 午前、拝謁の間において、近く赴任のスウェーデン国駐劄特命全權大使鶴岡千伋及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録

講堂において開催中の宮内庁職員総合美術展に天皇と共にお出ましになり、皇后の御作品を含む展示作品を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、文化

午後八時十五分より天皇及び皇太子・同妃と共に謁見の間において、オランダ国王嗣ベアトリックス王女と御会見になる。なお、王嗣は東南アジア諸国を歴訪し、この日より国賓として来日予定のところ、前女王ウイルヘルミナの薨去により急遽、取りやめとなった。ただし、香港より帰国の途中、飛行機の乗り換えのため東京国際空港に立ち寄ることから、王嗣の希望により非公式に御会見が行われ

た。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓參内録、典式録、重要雜録、宮殿行事録、宮内庁庁報

この月 高齡のお悦びとして、梨本伊都子^{八十}・元侍従長百武三郎^{九十}・松平信子^{八十}・元侍医頭八田善之

進^{七十}・宮内庁御用掛高木多都雄^{七十}にそれぞれ賜物がある。○贈賜録

十二月

一日 土曜日 午前、拝謁の間において、今般欧州より帰国の内閣総理大臣池田勇人夫人満枝の拝謁をお受けになる。○女官日誌、内舍人日誌、贈賜録

午後、吹上御所において、皇太子妃の御使として参殿の東宮女官長牧野純子の拝謁をお受けになり、フィリピンの花で作られた花輪の贈呈をお受けになる。○女官日誌

英国王女アレキサンドラより、婚約成立の旨を報じる電報が寄せられ、天皇・皇后より同王女に祝電を發せられる。○外交慶弔録、宮内庁庁報、官報、儀礼軌範

四日 火曜日 午後、吹上御所において東宮女官長牧野純子・東宮女官佐久間玲子より、皇太子・同妃の海外訪問時の話をお聞きになる。○女官日誌

五日 水曜日 午前、拝謁の間において、御機嫌奉伺のため参内した京都在住の旧堂上会総代日野西資忠の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

七日 金曜日 久邇朝融^{御兄}の三年式年祭につき、吹上御所においてお慎みになる。また、女官長保科武子に久邇邸の靈殿及び豊島岡墓地への御代拝を仰せ付けられる。○女官日誌、侍従日誌

十日 月曜日 午前、拝謁の間において、結婚後初めて参内の木下英子^{旧姓久邇}夫妻の拝謁をお受けになる。兩人にそれぞれ賜物がある。○女官日誌、内舍人日誌、贈賜録

午後、天皇と共に旧北御車寄門内において、藍綬褒章又は黄綬褒章を授与された文部省関係功労者等に御会釈を賜う。藍綬褒章受章者大浜信泉^{早稲田大 学総長}より挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

十一日 火曜日 午前、拝謁の間において、中華民国から帰国した特命全権大使井口貞夫及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録

十二日 水曜日 天皇と共に西の間において、この度離任のカナダ国特命全権大使ウィリアム・フレデリック・ブル及び同夫人、コロンビア国特命全権大使ラファエル・ナヴァス・パルド及び同夫人、新任のソビエト連邦特命全権大使ウラジミール・ミハイロヴィチ・ヴィノグラードフ及び同夫人、メキシコ国特命全権大使ラファエル・デ・ラ・コリーナ及び同夫人のため午餐を催される。なお、メキシコ国特命全権大使夫人は今般来日につき、皇后は午餐に先立ち、表二の間において同大使夫妻を御引見になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に拝謁の間において、今般韓国を訪問する李方子の拝謁をお受けになる。なお李方子の韓国訪問に際して、天皇・皇后より万那料を、皇后よりお品料を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

十三日 木曜日 午後、吹上御所において、山口玉糸の指導により日光男体山の絵画を描かれる。○女官日誌、内舍人日誌

十四日 金曜日 天皇と共に表一の間において、菊栄親睦会会員の皇族・元皇族等をお招きになり、午餐の御陪食を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宣召録、菊栄親睦会録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十五日 土曜日 夕刻、賢所御神楽につき、御拝礼になる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

十六日 日曜日 午前、天皇及び皇太子・同妃・徳仁親王と御一緒に、吹上御所内庭を御散策になる。その際、吹上御苑内の鳥類を調査中の正仁親王と御対面になり、同親王より同伴の日本鳥学会理事徳見泰の紹介をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午後三時五分御出門になり、四時三十五分同邸に御到着になる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

十七日 月曜日 この日より五日間にわたり、都下の社会事業団体等の協力を得て歳末無料健康相談を実施する東京都に金一封を賜う。さらに、事業御奨励のため財団法人結核予防会に金一封を賜う。

これとは別に天皇・皇后より日本赤十字社に医療及び児童福祉事業の御補助のために金一封を、同じく事業御奨励のため金一封を賜う。二十五日には皇后より向陽会に恒例の賜金がある。またこの月、皇后より日本赤十字社病院救助収容患者・恩賜財団済生会病院救助収容患者合計八千七百人に手拭い一筋ずつを賜う。○賜与録、贈賜録、宮内庁庁報

二十一日 金曜日 午前十時十五分、天皇と共に葉山御用邸を御出門になり、十一時四十五分皇居に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

財団法人結核予防会主催の特別招待試写会に御臨席のため、午後五時五十五分御出門になり、天皇と共に帝国劇場に行啓される。米国映画「戦艦バウンティ」を御覧になり、九時三十三分還啓される。

この度の行幸啓に際し、天皇・皇后より財団法人結核予防会に金一封を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、複十字

二十二日 土曜日 午後、吹上御所において、故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子と共に前田青邨より絵画の指導をお受けになる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十三日 日曜日 皇太子の誕生日につき、午前、天皇と共に拝謁の間において、皇太子と御対面になり、お礼言上をお受けになる。ついで同所において、宮内庁長官始め総代、女官長始め女官、元皇后宮女官・元女官等の拝賀をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報

午後、天皇と共に吹上御所において、先般韓国より日本に戻った李方子の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十四日 月曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、柳原博光^{柳原家当主}の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

元侍従武官長奈良武次去る二十一日死去につき、天皇・皇后より菓子及び切り花を賜う。○贈賜録、恩賜録

二十五日 火曜日 午前、大正天皇祭皇霊殿の儀につき、女官長保科武子に御代拝を仰せ付けられる。夕刻、同御神楽の儀につき、同女官長に御代拝を仰せ付けられる。○女官日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式

録、宮内庁庁報

二十六日 水曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた宣仁親王妃喜久子と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

二十九日 土曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、故雍仁親王妃勢津子始め皇族・元皇族・元王族・御縁故者より歳末の祝詞言上をお受けになる。ついで同所において宮内庁長官始め総代及び女官長始め女官等より祝詞の言上をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

昭和三十八年一月

昭和三十八年（西曆一九六三年）

六十歳

一月

一日 火曜日 午前九時四十五分より天皇と共に新年祝賀の儀に臨まれる。拝謁の間において皇太子始め皇族の祝賀をお受けになった後、北の間において、内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長等並びに以上の者の配偶者の祝賀をお受けになる。午後は北の間において最高裁判所長官・各国大使等並びに以上の者の配偶者の祝賀をお受けになる。なお、新年祝賀の儀に先立ち、あるいは各祝賀の間に、元皇族・元王族等、宮内庁長官始め各部署長及び側近奉仕者等の拝賀を天皇と共にお受けになる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

二日 水曜日 新年一般参賀につき、天皇及び皇太子・同妃・正仁親王と共に、午前三回と午後六回の計九回、皇居広庭にお出ましになる。それに先立ち、皇太子・同妃に伴われ参内した徳仁親王に御対面になる。また一回目の一般参賀お出ましの後、表三の間において元側近奉仕者・元部署長の拝賀を天皇と共にお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、宮殿行事録、

宮内庁庁報

三日 木曜日 午前、元始祭につき、賢所・皇霊殿・神殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日

誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、恒例祭祀録、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に拝謁の間において、寛仁親王始め未成年の皇族・元皇族等の拝賀をお受けになる。○女官長

日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録

午後、吹上御所において天皇及び正仁親王と共に、この日誕生日を迎えた宣仁親王と御対面になり、

お礼言上をお受けになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録

四日 金曜日 雍仁親王十年式年祭につき、秩父宮邸^{表町御殿}の靈殿に、皇后宮使として侍従重田保夫を差

し遣わされ、玉串を供えさせられる。また豊島岡墓地の墓所に侍従松平潔を差し遣わされ、玉串を供

えさせられる。併せて天皇・皇后より靈殿に盛菓子及び榊を、墓所に榊を、写真に切り花及び果物を

それぞれお供えになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、皇親録、贈賜録

五日 土曜日 午前、吹上御所において、参殿の故雍仁親王妃勢津子と御対面になる。同妃より、昨

日の雍仁親王十年式年祭のお仕向けのお礼言上をお受けになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、内舎人

日誌

午後、天皇と共に吹上御所において、島津久永・同夫人貴子と御対面になり、拝賀をお受けになる。

○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

六日 日曜日 天皇と共に吹上御所において、参殿の皇太子・同妃・徳仁親王・正仁親王と御夕餐を

御会食になる。以後、この年はほぼ毎週、概ね日曜日に行われた定例の参殿を始め、随時、皇太子一

家と御対面・御会食になる。また、その他の皇族・御親族ともしばしば御対面・御会食になる。○女官

長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

昭和二十八年一月

七日 月曜日 午後、天皇と共に拝謁の間において、元女官等の拝賀をお受けになる。ついでお一方にて元学習院教授・御学友・御同級生の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

八日 火曜日 午前十時、天皇と共に西の間において、講書始の儀に臨まれる。早稲田大学教授宮本正尊より「中道思想について」、日本学士院会員高垣寅次郎より「インフレイションの歴史の一節について」、東京大学名誉教授落合英二より「アルカロイドについて」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、講書始録、儀式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

十日 木曜日 午前十時、天皇と共に北の間において、歌会始の儀に臨まれる。この年のお題は「草原」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

皇后宮御歌

見わたせば広野がすゑは山につづく君がめでます那須の草原

儀終了後、奥二の間において召人・選者・諸役等に、ついで天皇と共に内廷庁舎御車寄前において、預選者に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、歌会始録、儀式録、宮殿行事録、典式録、宮内庁庁報、官報、あけぼの集

午後、安藤幸^{ヴァイオリニスト}をお召しになり、ヴァイオリンの指導をお受けになる。以後、安藤が亡くなる直前の三月まで、しばしば安藤よりヴァイオリンの指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十三日 日曜日 吹上御所において、天皇及び皇太子・同妃・徳仁親王・正仁親王と御夕餐を御会食

になる。御食後、皇后はヴァイオリンを演奏され、皇太子のチェロと合奏される。また徳仁親王のウクレレ演奏をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十四日 月曜日 雍仁親王十年式年祭に当たり、午前十一時二分御出門、天皇と共に豊島岡墓地に行啓される。御着後、天皇に続き雍仁親王墓を御拝礼になり、玉串をお供えになる。ついで祐子内親王・東久邇成子の両墓所を御拝礼になり、十一時五十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁序報

十五日 火曜日 午前、成人の日に当たり、天皇と共に拝謁の間において、昨年五月五日に成年に達した竹田素子恒徳王第
一王女の拝謁をお受けになる。参内につき、素子に白羽二重等を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

十六日 水曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時五分御出門、十一時三十五分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、宮内庁序報

十七日 木曜日 午後、日本画家前田青邨をお召しになり、皇后御近作の極楽花・みかんの絵をお見せになる。また、参邸の宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子と共に前田の指導をお受けになり、絵画の練習を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録

十八日 金曜日 午後、天皇と共に、この度スイス国へ赴任の特命全權大使大江晃並びに同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、拝謁録、葉山行幸啓録、宮内庁序報

二十二日 火曜日 午前十時十五分葉山御用邸を御出門になり、十一時四十五分天皇と共に皇居に還

昭和二十八年一月

啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、宮内庁
報

二十六日 土曜日 午前、謁見の間において、新任のアラブ連合共和国特命全権大使サレ・ハリル、
続いてキューバ国特命全権大使ギリエルモ・レオン・アンティッチ及び同夫人、さらにベルギー国特
命全権大使アルベール・ユツペール及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、
内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁序報

二十九日 火曜日 天皇と共に表一の間において、この度離任のイスラエル国特命全権公使ダニエ
ル・レウイン、新任のキューバ国特命全権大使ギリエルモ・レオン・アンティッチ及び同夫人、ベル
ギー国特命全権大使アルベール・ユツペール及び同夫人のため、午餐を催される。○女官長日記、女官日
誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁行事録、宮内庁序報

午後、吹上御所に日本画家山口玉糸をお召しになり、絵画の練習を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍
従職日誌、内舍人日誌

三十日 水曜日 午前、孝明天皇例祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍
従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁序報

三十一日 木曜日 午前、拝謁の間において、フランス語通訳に奉仕する宮内庁御用掛武者小路不二
子^{昨年十二月一日付で}の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録
宮内庁御用掛となる

吹上御所において、北白川房子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二月

五日 火曜日 午前、拝謁の間において、この度ギリシヤ国へ赴任の特命全権大使土屋隼及び同夫人、並びにエクアドル国へ赴任の特命全権大使日向精蔵及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

六日 水曜日 午前、奥二の間において、外務参事官卜部敏男の東南アジアについての進講をお聴きになる。故雍仁親王妃勢津子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

午後、吹上御所において、元皇后宮職御用掛松平信子故雍仁親王妃勢津子の母の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女

官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

七日 木曜日 午前、吹上御所において、ヘンリー・N・ラ・クロア夫人より英語の進講をお聴きになる。以後、九月まで、しばしば同人より英語の指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

八日 金曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時御出門、十一時三十五分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、宮内庁庁報

九日 土曜日 午後、天皇と共に、参邸の元女官小倉満子の拝謁をお受けになる。以後、この年も随時、元奉仕者の拝謁等がある。○女官長日記、女官日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録

十二日 火曜日 午後、前田青邨の指導にて、この日参邸の故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子と共に、絵画の練習を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録

昭和二十八年二月

十三日 水曜日 天皇と共に、元内大臣木戸幸一・元宮内庁長官田島道治・学習院長安倍能成・参与加藤武男・同小泉信三の拝謁をお受けになり、午餐を共にされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、典式録、葉山行幸啓録

十四日 木曜日 午後、参邸の聖園テレジアほか二名の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、葉山行幸啓録

お召し船「うみかぜ」にて小網代湾先までお出ましになる。同所において海洋生物御採集より戻られた天皇と合流され、警備艇「はたぐも」にお乗替えになり、さらに三崎港付近まで船を進められ、船上から城ヶ島方面の景色を御覧になる。御下船の際、はたぐも船長宗形健寿ほか乗組員に、天皇と共に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、葉山行幸啓録

十五日 金曜日 午前十時十五分葉山御用邸を御出門、十一時五十分天皇と共に皇居に還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、宮内庁庁報

十六日 土曜日 午前、吹上御所において財団法人日本ばら协会会员得能実始め四名と共に、御栽培のバラの剪定を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、贈賜録

二十日 水曜日 午前、奥二の間において厚生省社会局長大山正より福祉事業についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

夜、御自身が葉山において撮影された八ミリ映画を、天皇及び正仁親王と共に御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

二十一日 木曜日 午前、仁孝天皇例祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、

侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁序報

二十二日 金曜日 午前、奥二の間において、日本赤十字社社長島津忠承より、日本赤十字社の事業に関する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十三日 土曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、皇太子と御対面になり、この日誕生日を迎えた徳仁親王に対する贈賜のお礼言上、及び翌二十四日からの軽井沢行啓の挨拶をお受けになる。なお、徳仁親王は不例のため参殿を取りやめる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁序報

二十七日 水曜日 午後、天皇と共に花蔭亭にお出ましになり、宮内庁御用掛木俣修より、和歌についての進講をお聴きになる。これ以降、木俣による進講は三月二十日・四月三十日・六月二十五日にも行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録

二十八日 木曜日 桜友会・常磐会主催による学習院創立八十五周年記念事業協賛の能楽と古典舞踊鑑賞の会能楽の部に御臨席のため、午後一時三十五分御出門、観世会館へ行啓される。常磐会理事長伏見朝子の先導にて御休所に入られる。途中御休所脇廊下において、この日出演の観世元正・宝生九郎・梅若万三郎・梅若猶義・宝生弥一・幸円次郎・喜多長世の拝謁をお受けになる。観覧席に着かれ、伏見及び賀陽敏子の説明にて「松風」「勸進帳」「船弁慶」を御覧になる。御休所において三井銀子・学習院長安倍能成ほかの拝謁をお受けになる。再び観覧席に戻られ「道成寺」を御覧になる。途中より正仁親王が陪覧し、四時四十二分、正仁親王と共に還啓される。この行啓に際し、桜友会・常磐会に金一封を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁序報

昭和二十八年三月

三月

一日 金曜日 午後、吹上御所において、参殿の東伏見慈洽^{御弟}と御対面になる。慈洽のピアノ演奏に
合わせて、来る十日開催される皇后還暦奉祝の内宴時に大谷智子^{御妹}と共に御披露になる歌の練習を行
われる。以後、五日・七日・九日にも大谷智子・東伏見慈洽と共に御練習になる。○女官長日記、女官日

誌、侍従職日誌、内舎人日誌

この日、来る三月六日に還暦のお誕生日を迎えられるに当たり、東京都管内の生活保護法による保護
施設のうち、養老施設に収容されている高齢者に、思召しをもってバイブレーター百十二個を賜う。

○賜与録

六日 水曜日 この日、満六十歳のお誕生日を迎えられる。

午前、拝謁の間において、宮内庁長官始め各部長等、続いて側近奉仕者の祝賀をお受けになる。つ
いで西の間において、皇太子始め皇族・元皇族・元王族・御縁故者、続いて内閣総理大臣・衆議院議
長・参議院議長・最高裁判所長官等及びその配偶者の祝賀をお受けになる。その後、拝謁の間におい
て元皇太后宮女官等、続いて元宮内庁長官及び元側近奉仕者の祝賀をお受けになり、内廷西玄關前
において宮内庁職員・皇宮警察本部職員に御会釈を賜い、再び拝謁の間において元女官・元皇后宮女官
等の祝賀をお受けになる。

午後、吹上御所において、安藤幸の祝賀をお受けになる。その後、常侍官候所脇階段下において元女
孀等に御会釈を賜い、拝謁の間において元学習院女学部教授佐野正造・元女子学習院教授今井熊太
郎・同松島彝及び御学友・御同級生七名の祝賀をお受けになる。夕刻、天皇と共に吹上御所において、

正仁親王、東久邇盛厚、鷹司平通・同夫人和子、池田厚子、島津久永・同夫人貴子と御晩餐を御会食になる。

この日、還暦を迎えられた心境をお詠みになった次の御歌を、宮内記者会の要望にお応えして報道機関を通じ披露される。

還暦をむかへて

いたらざることのみ多き年月を送りぬさらにあゆみはじめむ

父よりも長き年月すごしきぬ心あらたに君につかへむ

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、典式録、天皇陛下皇后陛下御還暦奉祝会記録、宮殿行事録、宮内庁庁報、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞

八日 金曜日 祐子内親王の祥月命日につき、お出ましを控えられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、典式録

九日 土曜日 東京都中央区立久松小学校創立九十周年記念式に御臨席のため、午前九時五十四分御出門、天皇と共に同校に行啓される。御着後、全校児童・職員・父兄等約二千名が整列する校庭にお出ましになり、朝礼台において児童による奉迎歌等をお聴きになる。ついで作品展示場において児童作品を御覧になられた後、式場に臨まれる。終わって十一時八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、東京都庁所蔵資料

正午前、呉竹寮にお出ましになる。同所において鷹司和子・池田厚子・島津貴子と御対面になり、それぞれの部屋を御覧になる。終わって御一緒に吹上御所に戻られ、天皇も交えて御昼餐を御会食にな

昭和二十八年三月

る。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十日 日曜日 皇太子始めお子様方等の主催による皇后還曆奉祝の内宴に御臨席のため、午後、天皇と共に北の間にお出ましになる。皇族・元皇族・御縁故者等が出席し、ほかに側近奉仕者も招かれる。

島津貴子の司会にて、出席者による催し物があり、第一部において皇后が特別出演をされ、大谷智子と共に東伏見慈治の伴奏にて「春の歌」・「歌の翼に」を二重唱された後、アンコールとしてさらにメンデルズゾーン作曲「おゝひばり」をお歌いになる。また第二部でも再び御出演になり、謡曲「羽衣」を独吟される。催しの終わりに、天皇よりバラの花束の贈呈をお受けになる。ついで東伏見慈治作詞・鷹司平通作曲の奉祝歌を全員で合唱された後、西の間に移られ、御夕餐を御会食になる。その際、天皇・皇后御一緒にケーキの蝋燭の火をお消しになり、ナイフを入れる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮殿行事録、宮内庁序報、菊と葵のものがたり、毎日新聞

十一日 月曜日 御夕餐後、天皇と共に、昨日の皇后還曆奉祝の内宴の模様を収めた映画等を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十二日 火曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、李方子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十五日 金曜日 正午過ぎ、表二の間において、新任のユーゴスラビア国特命全権大使ウラジミル・ロロヴィッチ及び同夫人、ローマ法王庁公使マリオ・カーニャ^{大司教}を順次御引見になる。続いて天皇と共に表一の間において、ロロヴィッチ大使夫妻、カーニャ公使、並びにアラブ連合共和国特命全権大使サレ・ハリルのため、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典

式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

イラン国皇帝モハンマド・レザー・パハラヴィーの皇女誕生につき、天皇・皇后より同皇帝・皇后に祝電を發せられる。これに対し十八日答電が寄せられる。○外交慶弔録、宮内庁庁報、官報、儀礼規範

十六日 土曜日 午前、東伏見慈洽及び同夫人保子・長男韶俣参殿につき、吹上御所において御対面になる。今般大学を卒業し就職する東伏見韶俣に対し、洋服地・万那料を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

十八日 月曜日 午後一時十五分御出門、高松宮邸並びに光輪閣に行啓される。高松宮邸に御着後、故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王、同妃百合子のお出迎えをお受けになり、しばらく御団欒になる。崇仁親王辞去の後、御一緒に光輪閣に移られ、同所において北白川房子・東久邇聡子・梨本伊都子・賀陽敏子・李方子と御対面になり、元皇族等の集まりである小菊会に御臨席になる。○シルクギャラリーを御覧になり、それより竹細工講習をお受けになる。四時二十七分還啓される。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

十九日 火曜日 セイロン国特命全權大使ディーパル・スサンタ・デ・フォンセカ去る十七日死去につき、天皇・皇后の弔問使として侍従白戸厚を同国大使館に差し遣わされる。二十五日、築地本願寺において行われる告別式に、天皇・皇后より花環花生を供えられる。また皇后より来日した大使の息女に対し花束を御贈進になる。後日、大使夫人より礼状四月一日付が寄せられる。○侍従日誌、侍従職日誌、外交慶弔録、賜与録、贈賜録、外交贈答録、宮内庁庁報、儀礼軌範

二十一日 木曜日 午前、春季皇霊祭及び同神殿祭につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従

昭和二十八年三月

職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

元典侍竹屋津根子昨日死去につき、天皇・皇后より祭糝料を賜う。また天皇・皇后より菓子、皇后より果物・切り花をそれぞれ賜う。○女官長日記、恩賜録、贈賜録

二十二日 金曜日 エジプト美術五千年展東京国立博物館・朝日新聞社の共催を御覧になるため、午前九時四十七分御出門、

天皇と共に東京国立博物館に行啓される。御着後、展示資料を御巡覧になる。終わって十一時四十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、東京国立博物館百年史

崇仁親王・同妃来る四月九日よりトルコ国を訪問につき、午後、天皇と共に拝謁の間において、随員の井上孝治郎文部事務官ほか二名の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

皇太子妃がこの日の午後宮内庁病院に入院につき、夕刻、天皇と共に吹上御所において、皇太子と御対面になる。去る四日、宮内庁より皇太子妃懐妊のことが発表されたが、その後の診察により、皇太子妃はこの日宮内庁病院において流産の手術を受け、二十五日まで入院する。この度の入院につき、天皇・皇后よりお見舞いとして寄植えのキクを皇太子に託され同妃の許にお届けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、報道関係録、宮内庁庁報

二十五日 月曜日 皇后還暦奉祝のあけぼの会学習院女学部小学科御同級生の会に御出席のため、午後一時三十分御出門、

高輪プリンス会館に行啓される。御着後、幹事伏見朝子の先導により御休所に入られ、各幹事の拝謁をお受けになり、会場に御臨席になる。徳川幹子のブラジル旅行のスライド開拓民の生活等について、伏見朝子・毛

利鍬子の手品を御覧になり、さらに手芸品・絵画など会員の作品を御覧になる。それより御同級生一同と記念写真の撮影をお受けになり、四時三十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

二十六日 火曜日 午後、奥二の間において、島津忠重及び同夫人伊楚子、島津肅子忠重弟康、久の夫人、徳川為

子頼貞夫人、忠重の妹、島津久子島津貴子の義母の拝謁をお受けになり、還暦のお祝いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十七日 水曜日 桜友会・常磐会主催の学習院創立八十五周年記念事業協賛古典舞踊鑑賞の会に御

臨席のため、午後一時五十八分御出門、天皇と共に東京文化会館に行啓される。会場に臨まれ坂東三津五郎の清元「北州」ほかを御鑑賞になる。四時十二分還啓される。この日の鑑賞会への行啓に際し、天皇・皇后より桜友会・常磐会に金一封を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、学習院大学五十年史、桜友会史

二十八日 木曜日 午前、拝謁の間において、この度アルゼンチン国から帰国した特命全権大使津田

正夫の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮内庁庁報
午後、前田青邨をお召しになり、吹上御所において故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子と共に絵画の練習を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十九日 金曜日 午後、吹上御所において、久邇邦昭御兄朝融の子息・同夫人正子、久邇朝宏御兄朝融の子息・同典子御兄朝融の息女、龍田正子同、島津朝子同、永岡通子同、木下雄三・同夫人英子同の拝謁をお受けになる。○女官

昭和二十八年四月

長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

三十日 土曜日 午後、拝謁の間において恩師及び御同級生四十五名の拝謁をお受けになり、還暦の祝詞言上をお受けになり、奥二の間において御歓談になる。その際、一同の懇願を容れられ、謡曲「羽衣」の一節を独吟される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王・同妃喜久子・崇仁親王・同妃百合子の主催による還暦奉祝の内宴に御臨席のため、午後五時四十八分御出門、天皇と共に光輪閣に行啓される。内宴終了後、九時十二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

この日、学習院幼稚園建設の資として、学校法人学習院に対し天皇・皇后より金一封を賜う。○賜与録

四月

一日 月曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、この日関西方面の旅行より帰京した正仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報

二日 火曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、英国外務大臣アレクサンダー・フレデリック・ダグラス・ヒューム及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

拝謁の間において、この度米國に赴任の特命全權大使武内竜次及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に吹上御所において、この度学習院大学へ進学する甯子内親王と御対面になる。同内

親王には去月三十日、天皇・皇后よりお品料・万那料の賜りがあり、この日の御対面の際、天皇・皇后は贈賜に対するお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、贈賜録

三日 水曜日 午前、神武天皇祭皇靈殿の儀につき、御拝礼になる。夕刻、皇靈殿御神楽の儀につき、

御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

四日 木曜日 国賓として来日中のオランダ国王嗣ベアトリックス王女来訪につき、午前十時三十分より天皇と共に謁見の間において御会見になる。その際、王嗣より天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后にはアメジスト香箱オランダ王室伝来が贈られる。

オランダ国王嗣ベアトリックスをお招きになり、午後七時三十分より天皇と共に北の間において、宮中晚餐を催される。この度の来訪に際し、天皇・皇后より王嗣に色絵鴛鴦文大皿加藤土師萌作、銀鼠地八重梅

文裂地紅葉山御養蚕所製品等を御贈進になる。また、二日の王嗣入京に際し、皇后より花束を御贈進になる。後日、

王嗣より、天皇・皇后に宛てて滞在中の款待に対する謝意を表する書簡をお受けになる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、重要雑録、賜与録、宮内庁庁報、官報、贈るところ・受けとられた美

五日 金曜日 来る九日より崇仁親王・同妃百合子がトルコ国を訪問につき、午前、天皇と共に表御座所において御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

午後、天皇と共に謁見の間において、ライオンズ国際協会会長カーティス・D・ローヴィル及び同夫人を御引見になる。なお、ローヴィルは、来る七日より東京において開催されるライオンズ国際協会国際理事会に出席のため来日した。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮

昭和二十八年四月

殿行事録、宮内庁庁報

六日 土曜日 天皇と共に吹上御所において、参殿の東久邇盛厚・同信彦・同文子・同秀彦・同真彦・同優子と御夕餐を御会食になる。この度信彦が慶応義塾大学へ進学につき、天皇・皇后より信彦にお品料・万那料を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

八日 月曜日 午前、謁見の間において、ドイツ連邦共和国保健大臣エリザベト・シュヴァルツハウプトを御引見になる。シュヴァルツハウプトは労働省主唱によって十日より開催される婦人週間の特別来賓として来日し、同日より開催の全国婦人会議に出席する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

九日 火曜日 大聖寺・宝鏡寺・曇華院・光照院・林丘寺・円照寺・中宮寺・法華寺・三時知恩寺・長福寺・善光寺に、恒例により乾海苔料を賜う。○贈賜録

安藤幸^{文化功勞者、日本芸術院会員} 昨日八日死去につき、この日の通夜に当たり、同人の許に女官小川梅子を差し遣わされ菓子^を賜う。また、葬儀の行われる十八日には切り花を賜う。安藤は明治十一年東京に生まれる。

文学者幸田露伴は兄、ピアニスト・ヴァイオリニストの幸田延は姉。ヴァイオリン奏者として東京音楽学校卒業後、ドイツに留学、ヨーゼフ・ヨアヒムに師事。帰国後、東京音楽学校教授となり、昭和七年に退官。大正十三年より皇后にヴァイオリンの指導をした。○女官長日記、女官日誌、贈賜録、賜与録

十一日 木曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、大食堂に陳列された皇后の御絵数十点^{御結婚前のものも含む}を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌

十二日 金曜日 午後、新規購入の御料車ロールスロイス・ファントムを天皇と共に御覧になり、御試乗になる。○侍

従日誌、皇室車両抹消車歴簿

拝謁の間において、久邇家経済顧問高橋真男・同川北禎一・同柴木忠常、鷹司家経済顧問上山英三、島津家経済顧問伊藤謙二の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

吹上御所に前田青邨をお召しになり、御所の桜をお見せになる。さらに写生の要領をお聞きになり、大食堂に陳列された御絵数十点をお見せになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十六日 火曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、来る二十日に結婚する朝香富久子孚彦王第一王女の拝謁をお受けになる。天皇・皇后より富久子に扇子代料及び白縮緬等を、別に皇后よりお品を賜う。翌

日、天皇・皇后より父の朝香孚彦に清酒及び鮮鯛代料を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

午後、天皇と共に花蔭亭において、北海道大学教授館脇操より欧州の植物園・公園・森林の視察旅行についての進講をお聴きになり、また館脇教授が持参した欧州各国のスライドを御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録

十七日 水曜日 午前、天皇と共に表御座所において、式部官長原田健よりオランダ国王嗣ベアトリックスの関西旅行等についての報告をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌
御夕餐後、天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃と御対面になる。兩名は皇太子妃の静養のため、この日より葉山御用邸附属邸に行啓する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内

昭和二十八年四月

庁序報

十八日 木曜日 午後、吹上御所において、お招きの朝香鳩彦の拝謁をお受けになる。それより大食堂の皇后の御絵をお見せになり、さらに御一緒に義宮御殿にお出ましになる。○女官長日記、女官日記、侍従職日誌、内舎人日誌

十九日 金曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、日本政府の賓客として来日のフランス国外務大臣モーリス・クローヴ・ド・ミュルヴィル及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日記、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁序報、外交記録

英国王女アレキサンドラ故英国国王ジョージ五世の孫 来る二十四日結婚式挙行につき、この日、皇后から在英國大使を

通じ、七宝花瓶紫紺地菊文を同王女に御贈進になる。併せて同大使より天皇・皇后の祝意が伝達される。こ

れに対し、後日、同王女の謝意を伝える秘書官名の書簡四月十日付が寄せられる。なお、同王女は、来る二

十四日、エアリー伯爵の次男アングス・オギルヴィと結婚式を挙げる。○外交贈答録、外交慶弔録、賜与録、儀礼軌範

二十一日 日曜日 午後四時御出門、天皇と共に世田谷区の島津邸に行啓される。邸内で御少憩の後、御徒歩にて近接する東京急行電鉄株式会社社長五島昇邸へ向かわれる。五島邸の庭内から多摩川一帯を御眺望になる。それより五島美術館に向かわれ、「絵巻物と奈良絵本特別展」の展示などを御覧になる。再び島津邸に戻られ、島津久永・同夫人貴子・島津久子並びに久永・貴子の長男の拝謁をお受けになり、久永・貴子・久子と御夕餐を御会食になる。終わって九時三十分還啓される。○女官長日記、女官日

誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、五島美術館の三十年

二十二日 月曜日 午後、島津貴子、ついで正仁親王・鷹司和子参殿につき、御一緒に花蔭亭にお出ましになり、この度来日した元英語進講者エスター・ビドル・ローズを御引見になる。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十三日 火曜日 宮内庁の課長以上職員及び元長官・元次長等主催の皇后陛下御還曆奉祝会に御臨席のため、午後、天皇及び皇太子・正仁親王と共に楽部へお出ましになる。洋楽演奏室において宮内庁長官宇佐美毅の祝詞言上をお受けになる。それに対し、これより前に職員一同から献上したお祝いの品へのお礼と、一同が身体を大切にして益々仕事に励むようにとの旨のお言葉を賜う。続いて日本芸術院会員豊増昇によるバッハ作曲イタリア協奏曲、ベートーヴェン作曲ピアノソナタ第十四番「月光」、ショパン作曲スケルツォ第二番のピアノ演奏をお聴きになる。ついでアンコールとして、皇后の思召しにより演奏された松島彝作曲「芭蕉の俳句による小品」及び信時潔作曲「田舎囃子」をお聴きになる。演奏終了後、天皇と共に御休所において豊増に御会釈を賜う。その際、皇后よりお言葉がある。ついでお揃いにて旧呉竹寮の内庭に設けられた模擬店会場に移られ、御料テントにおいて元宮内庁長官田島道治の祝詞言上をお受けになった後、模擬店の料理をお召し上がりになりながら参会者と御歓談になる。終わって天皇と共に吹上御所に還御される。なお、豊増に皇后より白羽二重・菓子^{朝日ソノブ}の賜りがあり、豊増からは皇后に朝日ソノラマ『バッハ・インベンション全三十曲』・同『ベートーヴェン・ピアノ・ソナタ・アルバム』全三卷^{朝日ソノブ}の名演奏曲集の献上がある。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、天皇陛下皇后陛下御還曆奉祝会記録、楽事録、宮内庁庁報

昭和二十八年四月

二十四日 水曜日 午前、天皇と共に表御座所において、一昨二十二日トルコ国より帰国の崇仁親王・同妃百合子と御対面になり、帰国の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

正午前、天皇と共に旧北御車寄門内において、第十三回身体障害者福祉大会に当たり厚生大臣から表彰された、身体障害者で自立更生し他の模範となる者及び身体障害者の更生援護功労者等に御会釈を賜う。厚生政務次官渡海元三郎の挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

午後、財団法人結核予防会総裁から表彰された結核予防事業功労者等五十名に、早春亭において御会釈を賜う。結核予防会理事山口正義の挨拶をお受けになり、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

吹上御所に元皇后宮女官猪野毛ソデ始め十名をお召しになり、大食堂に陳列された皇后の御絵数十点をお見せになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

拝謁の間において、この度米國より帰国の特命全權大使朝海浩一郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮内庁庁報

二十五日 木曜日 第五回東京国際見本市を御視察のため、午前九時二十六分御出門、天皇と共に晴海埠頭の同会場に行啓される。御着後、外国政府出品会場において出品各国の特命全權大使・公使及び同夫人等と御挨拶を交わされ、各国特設館をお巡りになり、展示品を御覧になる。十一時二十一分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、東京都庁所蔵資料

崇仁親王・同妃百合子トルコ国より帰国につき、夕刻、天皇と共に吹上御所において内宴を催される。同親王・同妃のほか、皇太子・正仁親王・故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王・同妃喜久子が出席する。御食後、崇仁親王の説明によりトルコ国訪問の記録映画を御一緒に御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

二十六日 金曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、オーストラリア国ニュー・サウス・ウェールズ州首相ロバート・ジェームズ・ヘフロン及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十九日 月曜日 天皇誕生日につき、午前、皇居広庭にお出ましになり、天皇及び皇太子・正仁親王と共に天皇誕生日の一般参賀を午前三回・午後四回の計七回にわたりお受けになる。お出ましに先立ち、あるいは各お出ましの間に、拝謁の間・奥一の間において、皇太子始め皇族・元皇族・元王族・御縁故者の祝賀をお受けになる。また天皇と共に御座所において、徳仁親王と御対面になる。

正午、拝謁の間において内宴を催され、故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子と御会食になる。午後四時、天皇と共に西の間において、天皇誕生日茶会の儀に臨まれる。皇太子始め皇族が陪席し、各国大使等が出席する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

三十日 火曜日 午後、天皇と共に謁見の間において、フィリピン国副大統領エマヌエル・ペラエス及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

昭和二十八年五月

五月

一日 水曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、昨月の崇仁親王・同妃トルコ国訪問の随員井上孝治郎文部事務官ほか二名の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

この日、第八回ユニセフ協力募金を実施する財団法人日本ユニセフ協会に、御奨励のため金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

二日 木曜日 カンボジア王国秘宝展毎日新聞社主催、駐日カ
ンボジア大使館ほか後援を御覧になるため、午前九時四十分御出門、天

皇と共に上野松坂屋に行啓される。五階会場においてカンボジア国王室及びプノンペン国立博物館シ
ンコール保存局出品の美術・工芸品を順次御覧になり、十一時還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

四日 土曜日 社団法人日本助産婦会創立三十五周年記念式典に御臨席のため、午前九時五十一分御出門、九段会館に行啓される。御休所に入られ、厚生大臣西村英一・日本助産婦会会長横山フクの拝謁をお受けになる。それより式場にお出ましになり、会長式辞、厚生大臣及び日本助産婦会会長による表彰、衆参両院議長参議院は副議長代読の祝辞に続き、次のお言葉を賜う。

日本助産婦会創立三十五周年記念式典に臨み、全国の皆さんに親しく接することができてうれしく思います。

助産婦は、母子の生命をまもり、更に広くその保健衛生を指導する重要な使命を有し、苦勞も多いことと思いますが、健康に気をつけ互いに協力して、社会のため一層努力するよう希望しま

す。

会長の奉答をお聞きになった後、御退場になる。十時三十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

吹上御所において、今般退院^{怪我のため約一箇月間入院}の竹田恒和、並びに母竹田光子の拝謁をお受けになる。○女官長

日記、女官日誌、内舎人日誌、贈賜録

午後、吹上御所に楽部楽長安倍季巖をお召しになり、琴の指導をお受けになる。以後、しばしば安倍をお召しになり、琴の指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

六日 月曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。○女官長日記、女官

日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

七日 火曜日 正午前、天皇と共に奥二の間において、来る二十七日に国賓として来日されるタイ国

国王ラーマ九世^{プミポン・アドゥンヤデート}及び王妃シリキットへの御贈進品を御覧になる。○侍従日誌

八日 水曜日 スイス国において赤十字規約が制定されてから百周年に当たり、日本赤十字社が挙行する赤十字百周年記念大会に御臨席のため、午後一時三十分御出門、天皇と共に新宿区の厚生年金会館に行啓される。御休所において日本赤十字社名誉副総裁の故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子と御対面になり、同館大ホールの式場に臨まれる。式典中、日本赤十字社名誉総裁として社業功労者総代九名に表彰状を御親授になる。二時四十六分還啓される。なお記念大会に先立ち、厚生年金会館において赤十字関係物故者慰霊祭が行われるにつき、皇后より日本赤十字社に對し生花を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、恩賜録、賜与録、宮内庁庁報、官

報、日本赤十字社史稿、事業年報（日本赤十字社）

九日 木曜日 池田隆政・同夫人厚子来る十一日より米国訪問につき、夕刻より天皇と共に吹上御所において御送別の内宴を催される。池田夫妻のほか、皇太子・正仁親王・東久邇信彦・同文子・鷹司和子・島津貴子が出席する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

十日 金曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、この日内廷の医事に関する重要事項に参与するよう天皇の御沙汰を受けた沖中重雄、及び参与を退く勝沼精藏の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、恩賜録、宮内庁庁報

十二日 日曜日 午後、吹上正門前において、東京都主催「母の日」大会に参会した者約七百二十名に御会釈を賜う。東京都母子保護連盟野中幸子河田母子寮より挨拶をお受けになり、次のお言葉を賜う。

今日は皆さんに会えて嬉しく思います。

皆さんも一層教養をつんで、大切な子供たちの養育に心がけて下さい。

また母のない気の毒な子供や余儀なく親許を離れている子供たちにも親に代つて面倒をみてやつて下さい。

どうか皆さんもお元気で。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

大相撲五月場所初日を御観覧のため、午後三時五分御出門、天皇と共に台東区の蔵前国技館に行啓される。御観覧席にお着きになり、幕内力士土俵入りから横綱土俵入り・賜杯返還等の後、幕内力士取組を御覧になる。結びの一番終了後、五時四十二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

十三日 月曜日 御夕餐後、天皇及び故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子と共に科学映画等を御覧になり、引き続き皇后が吹上御所付近の野鳥を御撮影になった八ミリ映画を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十四日 火曜日 午前、謁見の間において、社会福祉事業視察のため来日のタイ国総理大臣夫人ウイチットラ・タナラット及び随員三名を御引見になる。この際、夫人より金属製花器の献上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十五日 水曜日 世界の貝類展日本貝類学会主催及び春のバラまつり財団法人日本ばら会主催を御覧になるため、午前九時四十分

五分御出門、天皇と共に日本橋白木屋に行啓される。御着後、貝類展会場において世界の貝類、真珠養殖状況、天皇御貸下の標本等を御巡覧の後、隣接する春のバラまつり会場に移られ、御自身及び皇太子妃・故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子が出品されたバラ等を順次御覧になる。終わって十一時十九分還啓される。なお、十七日及び二十日にも日本ばら会にバラの切り花の下賜がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、世界の貝類展、読売新聞

十七日 金曜日 午前、貞明皇后例祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

十八日 土曜日 青森県において行われる昭和三十八年度植樹行事に御臨場、併せて地方事情を御視察のため、天皇と共に宮城県・青森県に行啓される。午前九時十分御出門、原宿駅より宮城県に向かわれ、仙台駅に御到着になる。はじめに宮城県護国神社にお立ち寄りになり、社前において御拝礼に

昭和二十八年五月

なる。それより旧仙台城本丸跡の展望台上られ、戦災や度重なる自然災害からの復興状況を展望される。ついで東北大学理学部附属植物園を訪問され、園内を御散策になる。午後四時四十五分御泊所グランドホテル仙台に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、

幸啓録、宮城青森両県下行幸啓、宮内庁序報、官報、宮城県庁所蔵資料

十九日 日曜日 午前九時五十八分天皇と共に御泊所グランドホテル仙台を御出発になる。仙台駅より御乗車になり、青森県に向かわれる。浅虫駅を経て、午後四時三十分青森市の御泊所東奥館に御到着になる。御夕食後、二階の広間において、青森県製作の映画「両陛下十和田へお成り」

昭和三十六年
十月に行幸啓

「ふるさとの味」を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮城青森両県下行幸啓、

宮内庁序報、官報、宮城県庁所蔵資料

二十日 月曜日 午前十時十五分天皇と共に御泊所東奥館を御出発、東津軽郡平内町夜越山の植栽地に御到着になる。お手植地に進まれ、天皇に続き青森県知事竹内俊吉・国土緑化推進委員会委員長清瀬一郎・副委員長徳川宗敬の介添えによりアカマツ三本をお手植えになる。終わってお野立所において陸奥湾一帯を御展望になる。それより青森県林業試験場に移られる。敷地内の御播種地において天皇と共に御播種になる。皇后は林業功労者盛田達三の介添えをお受けになりアカマツを御播種になる。同試験場本館において各種展示品を御覧になる。御昼食の後、青森市の東北大学理学部附属臨海実験所を訪問され、別棟の水族館を御巡覧になる。ついで海岸にお出ましになり、陸奥湾一帯を展望される。終わってお一方にて御泊所東奥館にお戻りになる。なお、天皇は同臨海実験所にお残りになり研究報告をお聴きになった後、御泊所にお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓

録、宮城青森両県下行幸啓、宮内庁庁報、官報、青森県林業試験場所蔵資料、天皇皇后両陛下をお迎えして

二十一日 火曜日 午前九時三十分天皇と共に御泊所東奥館を御出発、青森市宮野球場に向かわれる。

御着後、スタンド上のお席に着かれ、日本体操祭青森大会の実技を御覧になる。ついで青森県立あすなる学園肢体不自
由児施設を御訪問になり、大病室・訓練室等を御巡覧、職員、社会福祉功労者に天皇・皇后より

励ましのお言葉を賜う。次に青森県庁に向かわれる。御着後、県物産を御覧になり、屋上から青森市内の戦災復興状況等を展望される。御昼食後、青森駅より弘前駅を経て、黒石市の青森県りんご試験場に御到着になり、園内を御視察になる。同所より青森県護国神社へ向かわれる途中、弘前市大字境関で御下車になり、田植えの状況を御視察になる。それより青森県護国神社にお立ち寄りになり、鳥居内に進まれ御拝礼になる。続いて自動車にて弘前城本丸跡を御一巡になる。午後五時二十二分御泊所弘前相互銀行クラブに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮城青森両県下行幸啓、宮内庁庁報、官報、青森県庁所蔵資料、弘前市役所所蔵資料、天皇皇后両陛下をお迎えして

二十二日 水曜日 午前九時十九分天皇と共に御泊所弘前相互銀行クラブを御出発、弘前駅より八戸市の尻内駅を経て、東北電力株式会社八戸火力発電所を御見学になり、屋上に昇られ、八戸工業地帯等を展望される。御昼食後、尻内駅・三沢駅を経て、三沢空港より東京国際空港に向かわれ、午後五時五分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮城青森両県下行幸啓、宮内庁庁報、官報、八戸市役所所蔵資料

内廷庁舎及び宮内庁第一期庁舎の部屋等の入れ替えに伴い、この日以降、「拝謁の間」を「表御座所」に、「表御座所」を「両陛下御座所」に、「奥二の間」を「拝謁の間」に変更するなど部屋名の改称が

昭和二十八年五月

行われる。○侍従日誌、例規録

二十四日 金曜日 来る二十七日のタイ国国王・王妃来日に先立ち、午前、天皇と共に拝謁の間において、タイ国駐節特命全権大使島津久大より同国についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に拝謁の間において、この度米国より一時帰国の李玖^{元王族李垠第二男子}及び同夫人ジュリアの拝謁をお受けになる。天皇・皇后より同夫妻に漆菊模様入り紋縮緬等を賜う。李玖は結婚後初めて参内する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

紅葉山御養蚕所へお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十六日 日曜日 午後、エスター・ビドル・ローズ参殿につき、吹上御所において拝謁をお受けになる。それよりローズを伴われ、バラ園を御案内になり、霜錦亭において茶菓を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

二十七日 月曜日 午前、拝謁の間において、この度サウジアラビア国へ赴任の特命全権大使前田憲作及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮内庁庁報
午後、楽部にお出ましになり、糸竹会の演奏をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

国賓として来日されるタイ国国王ラーマ九世^{フミホン・アドゥンヤデート}及び王妃シリキットをお出迎えのため、午後三時二十一分御出門、天皇と共に東京国際空港に行啓される。国王・王妃の御到着後、王妃と同乗され、白金迎賓館に御到着になる。天皇と共に御休所において、随員の謁見をお受けになる。五時十六

分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、外賓参内録、重要雑録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

二十八日 火曜日 午前十時三十分、天皇と共に謁見の間において、タイ国国王ラーマ九世及び王妃シリキットと御会見になる。その際、国王・王妃より天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后には銀製のパウダーボックスが贈られる。なお後日、マハチャクリ最高勲章大綬章及び頸飾の御贈進をお受けになる。皇后は昭和六年にすでに同勲章を御受領になっているが、戦災による焼失のため再度受領された。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、宮内庁庁報、官報

第九十九回常磐会総会に御臨席のため、午後一時三分御出門、椿山荘に行啓される。理事長伏見朝子ほかのお出迎えにて御休所に入られ、同所において皇族・元皇族と御対面になり、会長松平信子の拝謁をお受けになる。懇親会場にお出ましになり、舞台前において松平会長より還暦の祝詞言上をお受けになる。それより余興御覧の席に着かれ、仕舞、長唄、ヴァイオリンの演奏を御鑑賞になる。終わってお茶の席にて会員と御歓談になり、四時二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

タイ国国王・王妃のため、午後七時三十分より天皇と共に北の間において、宮中晚餐を催される。御食後、東の間において御歓談になる。ついで九時二十分より宮中夜会を催される。国王・王妃及び天皇と御一緒に夜会の各間において、諸員の謁見をお受けになり、ついで酒肴を供される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、重要雑録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

二十九日 水曜日 午前十時二十分御出門、日本赤十字社産院へ行啓される。御着後、社長島津忠承

昭和二十八年五月

の先導により四階の御休所に入れ、先着の宣仁親王妃喜久子と御対面になる。タイ国王妃シリキットが日赤産院に御到着につき、御休所において御対面になる。それより御一緒に贈呈室に移られ、王妃に対し金有功章並びに名誉社員章を贈呈する旨のお言葉を述べられ、王妃の左胸部に金色有功章、ついで名誉社員章をお付けになる。次に国王にも前記両章を贈呈する旨のお言葉をお述べになり、王妃に両章をお託しになる。それより王妃・宣仁親王妃を伴われ、副院長三谷茂の説明により乳児院サニタールームを御視察になる。王妃の御帰還をお見送りになり、十一時二十六分還啓される。○女官長日記、

女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、外賓参内録、重要雑録、官報、宮内庁庁報、官報

タイ国王・王妃訪日記念特別演奏会に御臨席のため、午後三時十一分御出門、天皇と共に千代田区内幸町のNHKホールに行啓される。国王ラーマ九世及び王妃シリキットと御対面の上、御一緒に会場に入られ、NHK交響楽団の演奏により、タイ国歌、「君が代」に続き、外山雄三作曲「ラプソディ」、ストラヴィンスキー作曲「春の祭典」をお聴きになる。御休憩の後、東京放送管弦楽団・同合唱団等の演奏による「どこかにきつと」「わたしは夢見ることはない」ほか全七曲^{同国王作曲}をお聴きになる。終わっ

て国王・王妃をお見送りになり、五時十八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍

人日誌、幸啓録、外賓参内録、重要雑録、宮内庁庁報、官報、NHK交響楽団四十年史

池田隆政・同夫人厚子去る二十七日米国より帰国につき、天皇と共に吹上御所において御晩餐を催される。同夫妻のほか、皇太子・正仁親王、東久邇盛厚、鷹司平通・同夫人和子、島津久永・同夫人貴子が出席する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

三十一日 金曜日 午後、天皇と共に東の間において、インドネシア国大統領スカルノと御会見にな

る。その後、お茶を共にされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、典式録、
宮殿行事録、宮内庁庁報

六月

一日 土曜日 午前、紅葉山御養蚕所へお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌
二日 日曜日 午前、紅葉山御養蚕所へお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

皇后御還曆奉祝並びに錦江会島津家関係者の親睦会創立十周年記念の会合に御出席のため、午前十一時十八分御出門、

天皇と共に白金迎賓館に行啓される。御休所において錦江会会長島津忠重御叔及び同夫人伊楚子元宮内府御用掛

の拝謁をお受けになる。ついで旧館集会室において、島津会長より皇后還曆の祝詞言上、並びにお祝品の献上をお受けになり、皇后よりお礼のお言葉を述べられる。御少憩の後、前庭テラスにおいて会員一同と記念撮影をお受けになり、前庭の模擬店会場において御会食になる。その後孔雀の間において、各種余興を御覧になる。午後四時十六分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

三日 月曜日 午前、拝謁の間において、新任の侍従山本岩雄及び前任の侍従重田保夫の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮内庁庁報、官報

午後、天皇と共に早春亭において、藍綬褒章を授与された文部省関係功労者等に御会釈を賜う。平安高等学校校長近藤亮雅の挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宣召録、宮内庁庁報

タイ国国王ラーマ九世及び王妃シリキット御主催の晩餐会に御出席のため、午後七時十八分御出門、天皇と共に光輪閣に行啓される。十時十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、外賓参内録、重要雑録、宮内庁庁報、官報

四日 火曜日 午前、拜謁の間において、この度ガーナ国へ赴任の特命全権大使大城斉敏の拜謁を受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、拜謁録、宮内庁庁報

タイ国国王ラーマ九世及び王妃シリキットとの御告別のため、午後零時三十分より天皇と共に宮中午餐を催され、表一の間において御会食になる。終わって北の間において舞樂を御鑑賞になる。この度の御来訪に際し、天皇・皇后より国王に舞樂還城樂の図の綴錦壁掛及び図録『正倉院宝物』北倉・中倉・南倉各一部、王妃に金地山水蒔絵の金蒔絵手箱^{三浦明}及び薄水色地波模様裂地^{紅葉山御養}を御贈進になる。また天皇・皇后より同国の皇太子ワチラロンコーンにトランス・レシーバーを、第一王女ウボン・

ラタナに水中カメラを、第二王女シリントーンに機関車玩具及び人形を、第三王女チュラポーンにバス玩具及び人形をそれぞれ御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、宮殿行事録、重要雑録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報、官報

五日 水曜日 タイ国国王ラーマ九世及び王妃シリキットの御帰国お見送りのため、午後零時二分御出門、天皇と共に東京国際空港に行啓される。一時四十九分還啓される。なお、この日は雨天につき空港行事は雨儀にて行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、幸啓録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

七日 金曜日 午前九時五十五分御出門、天皇と共に多摩陵^{大正天皇}・多摩東陵^{貞明皇后}に行啓される。原宿

駅にて皇太子と合流され、御着後、天皇に続き両陵を御拝礼になる。御昼食を取られた後、御休所において元林業試験場長長谷川孝三ほか二名より、森林害虫防除等についての進講をお聴きになる。午後四時十六分還啓される。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舍人日記、幸啓録、臨時祭祀録、宮内庁報

九日 日曜日 午後、東京馬術大会に御臨席のため、天皇及び正仁親王と共に馬車にて元主馬寮広場にお出ましになる。競技御覧後、吹上御所に還御される。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舍人日記

十日 月曜日 午前、紅葉山御養蚕所へお出ましになり、繭搔きを行われる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、内舍人日記

十一日 火曜日 午後、拝謁の間において、この度クウェート国へ赴任の特命全権大使河野達一及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舍人日記、拝謁録、宮内庁報

十二日 水曜日 天皇と共に那須御用邸に行啓のため、午前十時十五分御出門、午後一時十分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舍人日記、内舍人供奉日記、幸啓録、那須行幸啓書類綴、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁報

附属邸の周辺を天皇と共に御散策になる。以後、那須御用邸御滞在中、しばしば御散策を兼ねて天皇の植物御調査に同行される。○女官長日記、女官日記、侍従日記、内舍人供奉日記、那須行幸啓書類綴、那須御用邸管理事務所日誌

十四日 金曜日 元宮内庁御用掛塚原伊勢松去る十一日死去につき、天皇・皇后より御使として侍従

昭和二十八年六月

永積寅彦をその邸に差し遣わされ、祭糝料を賜う。これとは別に天皇・皇后より菓子を、皇后より切り花を賜う。またこれより先、病氣入院中の塚原に天皇・皇后より果物を賜う。○侍従職日誌、恩賜録、贈録、賜与録

十五日 土曜日 御夕餐後、東京大学教授原寛がインド国保護領シッキム王国にて撮影したスライド

を、天皇及び参邸の人事院総裁佐藤達夫植物学研究者・東北大学名誉教授木村有香と御覧になる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓書類綴、那須御用邸管理事務所日誌

二十一日 金曜日 午後零時五十分天皇と共に那須御用邸を御出門、三時四十六分皇居に還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須行幸啓書類綴、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁序報

二十四日 月曜日 午前、天皇と共に旧北御車寄門内において、藍綬褒章を授与された総理府関係

功労者恩給局関係功労者・統計局関係功労者・青少年問題協議会関係功労者等に御会釈を賜う。総理府総務長官徳安実蔵の挨拶をお受けになり、

天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宣召録、宮内庁序報

拝謁の間において、新任の侍医富家崇雄、及び前任の侍医高木顕の拝謁をお受けになる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、恩賜録、贈賜録

天皇及び皇太子・同妃・徳仁親王・正仁親王と御夕餐を御会食になる。御夕餐後、天皇と共に、来年のオリンピック東京大会に関する映画等を御覧になる。なお皇太子・同妃・徳仁親王は会食後、葉山御用邸附属邸に向かい、七月二日まで滞在する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十六日 水曜日 第十九回フーレンス・ナイチンゲール記章授与式に御臨席のため、午前十時十

三分御出門、日本赤十字社へ行啓される。御休所において名誉副総裁の宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子と御対面になり、ついで参議院議長代理同院副議長重政庸徳、日本赤十字社社長島津忠承、日本赤十字社副社長田辺繁雄の拜謁をお受けになる。それより式場にお出ましになる。式中、社長挨拶に続いて受章者の横浜赤十字病院看護部長阿部八重、山田赤十字病院看護部長吉野みつ、高知県農業協同組合連合会香長病院総婦長川島清に章記、ついでナイチンゲール記章を御親授になり、次の言葉を賜う。

このたび、阿部八重、吉野みつ、川島清の三人の方が、看護婦の最高の名誉であるフローレンス・ナイチンゲール記章を赤十字国際委員会から贈られましたことは、長い間の献身的奉仕の賜で、本人の榮譽はもとより、わが国としても、まことに喜ばしいことであります。特に、本年は赤十字創設百周年を記念する年でもあり、その意義は一層深いと思えます。

受章の方々は、今後もさらにこの道に尽し、後進の指導に当たるとともに、他の看護婦の皆さんは、これを模範として、崇高な奉仕の精神に徹し、その使命達成につとめるよう切に望みます。その後、祝辞、受章者答辞をお聞きになり、御退場になる。それより御休所隣室において赤十字国際委員会名誉駐日代表ハリー・C・アングストほか赤十字関係外国人参列者に御会釈を賜い、十一時三十二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、事業年報（日本赤十字社）

二十七日 木曜日 午後、鷹司和子を伴われ、楽部へお出ましになり、洋楽演奏をお聴きになる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

昭和二十八年七月

二十八日 金曜日 天皇と共に表一の間において、新任のベトナム共和国特命全権大使グエン・フィ・ニア、カナダ国特命全権大使リチャード・プラント・バウアー及び同夫人、スウェーデン国特命全権大使カール・フレドリク・アルムクウイスト及び同夫人のため、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

七月

一日 月曜日 午前、吹上御所において島津忠重の拝謁をお受けになり、去る六月二日の錦江会創立十周年記念の会合の際の写真を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

午後、吹上御所に前田青邨をお召しになり、参殿の故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子と共に絵画の練習をされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二日 火曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

天皇と共に表一の間において、この度離任のアフガニスタン国特命全権大使アブドル・マシット、新任のコロンビア国特命全権大使エンリケ・モラーノ・カンプサーノ及び同夫人、ブルガリア国特命全権公使フリスト・ズドウラフチェフ及び同夫人のため、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

三日 水曜日 午前、天皇と共に花蔭亭東側において、紅葉山御養蚕所主任宮崎清及び同助手四名に御会釈を賜う。○女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

九日 火曜日 午前、皇后陛下御進講室において、新任の正倉院事務所長土井弘・前任の正倉院事務所長和田軍一ほか一名の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

十日 水曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時御出門、十一時三十五分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、宮内庁庁報

十五日 月曜日 午後、国際連合日本政府代表部特命全權大使岡崎勝男の拝謁をお受けになる。○女官日誌、葉山行幸啓録

十八日 木曜日 午前、故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子参邸につき、御対面になり、両妃に伴われた陶芸家加藤土師萌の拝謁をお受けになる。御昼餐を挟み、加藤の指導により三方にて陶芸を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、葉山行幸啓録

十九日 金曜日 午前、天皇と共にお召し船「はたぐも」にて笠島までお出ましになり、天皇の生物御採集に同行される。午後、天皇に先立ち御用邸に還御される。翌日以降もしばしば天皇の御採集に同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録

二十三日 火曜日 東久邇成子の祥月命日につき、終日お出ましを控えられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、典式録、葉山行幸啓録

夕刻、天皇と共に、この日参邸の正仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録

二十四日 水曜日 午前、ヘンリー・N・ラ・クロア夫人より英語の進講をお聴きになる。終わって立石の茶屋までお出ましになり、この日が最後の進講のため同人と御昼餐を共にされる。○女官長日記、

昭和二十八年七月

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、葉山行幸啓録

二十六日 金曜日 午後、この度イラン国へ赴任の特命全權大使安藤吉光及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、拜謁録、葉山行幸啓録、宮内庁庁報

二十九日 月曜日 午前十時十五分天皇及び正仁親王と共に葉山御用邸を御出門、十一時五十分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、宮内庁庁報

三十日 火曜日 午前、明治天皇例祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

三十一日 水曜日 午前、天皇と共に内廷庁舎三階の侍医室において、新宮殿建設に伴う元大膳庁舎などの撤去状況を御覧になる。ついで同階南側廊下に移られ、旧北御車寄門の塀の撤去状況を御覧になる。○侍従日誌

正午前、天皇と共に吹上御所において、この日宮崎県への旅行に出発する正仁親王と御対面になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、那須行幸啓録、宮内庁庁報

天皇と共に吹上正門外において、新任の皇宮護衛官等に御会釈を賜う。皇宮警察本部長曾我部久の挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。なお、新任皇宮護衛官への御会釈は今回をもって嚆矢とし、以後恒例となる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、濟寧

八月

一日 木曜日 天皇と共に那須御用邸に行啓のため、午前十時十五分御出門、午後一時十分同邸に御到着になる。一時御帰京を挟み、この日より九月十三日まで御用邸に滞在される。○女官長日記、女官日記、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

二日 金曜日 午後、鷹司和子参邸につき御対面になる。御昼餐後、和子を伴われ附属邸にお出ましになる。以後、御用邸御滞在中、天皇並びに参邸の皇族・御親族等と共にしばしば御散策を兼ねて、天皇の植物御調査に同行される。○女官長日記、女官日記、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸管理事務所日誌

五日 月曜日 午前、鷹司和子と那須養魚場にお出ましになり、釣りを行われる。和子はこの日帰京する。○女官長日記、女官日記、侍従日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

六日 火曜日 午後、天皇と共に、参議院議長重宗雄三及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日記、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

八日 木曜日 午前、天皇と共に東久邇文子・同秀彦・同真彦・同優子いづれも六日に参邸及び東京大学名誉教授本田正次・京都大学教授北村四郎・東京大学教授原寛・東北大学名誉教授木村有香を伴われ、御用邸敷地外の八幡から敷地内の澄空亭方面へお出ましになる。澄空亭において御昼食の後、天皇及び本田名誉教授等とお別れになり、東久邇文子・同秀彦・同真彦・同優子と御一緒に御帰邸になる。○女官長日記、女官日記、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、入江相政日記

九日 金曜日 御夕餐後、天皇と共に、京都大学教授北村四郎の説明により、同人撮影のキクのカラー

昭和二十八年八月

スライドを御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、那須行幸啓録、入江相政日記

東京都南多摩郡多摩村において満洲開拓殉難碑建設除幕式並びに慰霊祭が翌十日に挙行されるにつき、この日天皇・皇后より満洲開拓殉難碑建設実行委員会に生花を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

十一日 日曜日 御夕餐後、天皇及び東久邇文子・同秀彦・同真彦・同優子と共に、去る三月十日の皇后還暦奉祝内宴のカラー映画等を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録

十四日 水曜日 午前、天皇と共に、新任の皇宮警察本部長本多武雄、及び前任の皇宮警察本部長曾我部久の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、那須行幸啓録

午前九時四十五分天皇と共に那須御用邸を御出門、午後零時四十一分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報
これより先、那須においてお描きになった「ダリア」「とうもろこし」等の御絵九枚を侍従入江相政に託され、御使として日本画家前田青邨の許へ遣わされる。この日夕刻、入江の復命をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌

十五日 木曜日 政府主催の全国戦没者追悼式に御臨席のため、午前十一時四十四分天皇と共に御出門、日比谷公会堂に行啓される。式典中、式壇中央にお進みになり、全国戦没者追悼の標に向かい、正午の時報に合わせて天皇と共に一分間の黙禱をされる。午後零時九分還啓される。全国戦没者追悼式挙行に当たり、天皇・皇后より厚生大臣に生花を賜う。この年以降、毎年八月十五日に政府主催にて全国戦没者追悼式が挙行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、那須行幸啓

録、賜与録、宮内庁庁報、官報

十六日 金曜日 天皇と共に那須御用邸に再び行啓のため、午前十時十五分御出門、午後一時十分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須行幸啓録、

那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

十八日 日曜日 徳川正子御母、子の妹 昨十七日死去につき、七日服喪される。また霊前に切り花・野菜をお

供えになり、葬儀執行の二十一日には盛菓子を供えられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、皇親録

十九日 月曜日 午後、近くナイジェリア国へ赴任の特命全権大使二股一男及び同夫人の拝謁をお受

けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、那須行幸啓録、拝謁録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

二十日 火曜日 午後、天皇と共に、宇都宮大学教授越川善明より那須の火山活動についての進講を

お聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

二十二日 木曜日 去る十四日から十八日にかけての集中豪雨により甚大な被害を受けた熊本県に対

し、天皇・皇后より御救恤金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

二十三日 金曜日 赤十字創設百周年及び明年昭憲皇太后五十年式年祭を迎えるに当たり、平時救護

事業のため、国際赤十字が管理する昭憲皇太后基金に、新たに寄付金を加えるよう思召しがあり、こ

の日本赤十字社長に伝達される。なお、同基金は、明治四十五年昭憲皇太后からの寄付金と、

昭和九年に貞明皇后及び皇后が追加された寄付金からなり、その収益は毎年数箇国の赤十字に分配さ

れている。○賜与録、日本赤十字社史稿

二十六日 月曜日 午前より夕刻にかけて、山口玉糸をお召しになり、絵画の練習を行われる。これ

昭和二十八年九月

より二十八日まで連日、山口の指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、那須行幸啓録

二十九日 木曜日 午前、参殿者休所に参集した宮内記者会会員に天皇と共に御会釈を賜い、宮内記者会幹事安達啓三朝日新聞社より皇后還暦の祝詞言上と挨拶をお受けになる。ついで記者よりの質問に天皇

と共にお答えになる。その際、記者より病氣入院中の池田厚子敗血症により去る十三日に岡山大学医学部附属病院に入院へのお見舞いをお

受けになる。全国戦没者追悼式に出席された御感想を問われた際には、天皇より感慨無量である旨のお答えがあり、皇后も同様である旨をお答えになる。また、オリンピック東京大会についての質問には、事情が許す限り多くの競技を見られるよう希望する旨をお答えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、天皇記者会見、那須御用邸管理事務所日誌、入江相政日記

九月

一日 日曜日 関東大震災の日につき、お出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、那須行

幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

二日 月曜日 午前、天皇及び正仁親王八月三十日参邸・東北大学名誉教授木村有香と共に、御用邸敷地外の

一ツ樞方面を御散策になる。なお、御出発の際、御車寄において那須町長笹沼賢弥・同町議会議長渡辺民寿に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌
午後、前田青邨をお召しになり、御絵をお見せになる。○女官長日記、女官日誌、那須行幸啓録

四日 水曜日 午前、御散策に先立ち、天皇と共に御車寄において、前橋営林局長岡崎三郎ほかに御

会釈を賜う。○侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録

九日 月曜日 久邇侁子^御祥月命日につき、お出ましを控えられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、那須

行幸啓録

十日 火曜日 正午過ぎ、天皇と共に、参邸の皇太子と御対面になり、来る十三日より山口・岡山両県へ行啓につき挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、

那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

十三日 金曜日 午後零時五十分天皇と共に那須御用邸を御出門、三時四十六分皇居に還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、那須行幸啓録、宮内庁庁報

十五日 日曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、故雍仁親王妃勢津子と御対面になる。同妃は、先般岡山県を訪問の際に入院中の池田厚子を見舞い、この日の朝に帰京した。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報

十六日 月曜日 午前、皇族たる皇室会議の議員及びその予備議員の互選のため宮内庁庁舎にお出ましになり、西の間において投票を行われる。その結果、宣仁親王・崇仁親王が議員に、皇太子・崇仁親王妃百合子が予備議員に選出される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、皇室会議皇族議員互選録、

宮内庁庁報

敗血症で入院中の池田厚子のお見舞いのため、天皇と共に岡山県に行啓される。午前十時四十分御出門、東京国際空港を御出発になり、大阪国際空港より大阪駅・岡山駅を経て、午後四時七分岡山市の御泊所延養亭に御到着になる。それより岡山大学医学部附属病院に向かわれる。御着後、御休所にお

昭和二十八年九月

いて池田隆政・同宣政隆政の父の挨拶をお受けになり、病院長赤木五郎ほかから病状説明をお聞きになった後、病室の厚子を見舞われる。五時五十分御泊所にお戻りになる。御夕餐後、お礼に参上した池田隆政の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、岡山大学医学部附属病院所蔵資料

十七日 火曜日 午前九時五十分御泊所延養亭を天皇と共に御出発、岡山大学医学部附属病院にお着きになる。御休所において主治医岡山大学教授平木潔・同大学助教授大藤真より再び容体の説明をお聞きになり、池田隆政を伴われ、病室の厚子を見舞われる。十一時二十分御泊所延養亭にお戻りになる。正午前、天皇と共に後楽園を御散策になり、白鳥などの写生を行われる。途中、池田隆政よりお見舞いのお礼言上をお受けになる。午後一時三分御泊所延養亭を御出発になり、岡山駅より大阪駅に向かわれる。ついで大阪国際空港より東京国際空港を経て、六時二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報

二十日 金曜日 午前、天皇と共に内廷庁舎御車寄前において、第十五回保健文化賞第一生命保険相互会主催、厚生省・朝日新聞厚を受賞した者等に御会釈を賜う。厚生政務次官砂原格厚生大臣代理の挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

二十四日 火曜日 午前、秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

二十五日 水曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、ペルー国特派大使マヌエル・ムヒカ・ガ―

リヨ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁序報

二十六日 木曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、米国ハワイ州最高裁判所長官ウィルフレッド・築山長松及び同夫人を御引見になる。同夫妻は、東京西ロータリー・クラブ主催によるハワイ移民九十五周年記念事業の一環として招待され、去る一日に来日した。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁序報

二十七日 金曜日 第十回日本伝統工芸展^{文化財保護委員会、日本工芸会等共催}を御覧になるため、午前九時四十一分御出門、天皇と共に日本橋三越本店に行啓される。御着後、陶芸、漆芸及び木竹工、金工、人形、染織の各作品を順次御覧になる。十一時十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁序報、官報

三十日 月曜日 天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた鷹司和子と御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録
来る十月一日から昭和三十八年度国民たすけあい共同募金運動を実施する社会福祉法人中央共同募金会に対し、天皇・皇后より金一封を賜う。○賜与録、宮内庁序報

十月

一日 火曜日 天皇と共に西の間において、この度離任の英国特命全権大使オスカー・チャールズ・モーランド及び同夫人、イラン国特命全権大使ジャワード・サドル及び同夫人、エクアドル国特命全

昭和二十八年十月

権大使グスターボ・ラレア・コルドバ及び同夫人、ニカラグア国特命全権公使ウンベルト・アルグエーリヨ・テフェル及び同夫人のため、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二日 水曜日 午前、吹上御所において、ハワード・B・ヘインズ夫人より初めての英語の進講を聴きになる。以後、しばしば同人をお召しになり、英語の進講をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

午後、天皇と共に内廷庁舎御車寄前において、藍綬褒章を授与された調停委員・司法委員等に御会釈を賜う。大阪地方裁判所調停委員中務平吉の挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録

三日 木曜日 午後、吹上御所において、服部豊子よりヴァイオリンの指導をお受けになる。加藤貞がお相手をする。以後、しばしば服部よりヴァイオリンの指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

四日 金曜日 去る二日に誕生日を迎え七十七歳となった朝香鳩彦に、天皇・皇后より万那料・菓子・洋服地を下賜される。○女官長日記、贈賜録

七日 月曜日 午前、天皇と共に東の間において、ニカラグア国前大統領ルイス・ソモサ・デバイレ及び同夫人、同国副大統領グスタボ・ラスコスキ、同国下院議長ホアン・ホセ・モラーレス・マレンコ及び同夫人を御引見になる。その際、前大統領レネ・シック・グティエレスより皇后にルベン・ダリオ大十字章金章が贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、

八日 火曜日 日本絹業協会主催のシルク・フェアに御臨場のため、午前九時四十分御出門、会場の日本橋三越本店に行啓される。御到着後、中央ホール第一会場に入られ、宣仁親王・同妃喜久子のお出迎えをお受けになる。日本絹業協会会長代理安田義一の説明により、カクテル・ドレス、タウン・ウェアなどのファッションショーを御一緒に御覧になり、会場を一巡される。それより七階第二会場に移られ、再び安田会長代理の説明により、日本蚕糸業の歴史、古代の衣装、皇室における養蚕の状況、自動糸繰機の実演、絹製品など、蚕糸・絹業に関する展示を御巡覧になる。十時三十五分還啓される。なお、このシルク・フェアは、国際絹業協会理事会が初めて東京において開催されることを機に開催された。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁序報

九日 水曜日 午前、天皇と共に表三の間において、松栄会会員の拝謁をお受けになる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

十日 木曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、国際絹業協会会長モレル・ジュールネル及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁序報

赤十字百周年記念日本赤十字社関東東山静支部連合社員大会並びに親授式に御臨席のため、午後零時二十五分御出門、歌舞伎座へ行啓される。御到着後、御休所において名誉副総裁皇太子妃・同故雍仁親王妃勢津子と御対面になる。また日本赤十字社社長島津忠承・同副社長田辺繁雄・東京都支部長東竜太郎^{大会代表}の拝謁をお受けになる。ついで各支部長より情況報告をお受けになった後、式場へお出ましに

昭和二十八年十月

なり、開会の言葉、平和宣言、東大会代表の式辞に続き、金色有功章受章者、章銀有功章受章者、特別社員章受章者の総代九名に各章並びに章記を御親授になる。社長特別表彰に続き、次のお言葉を賜う。

赤十字百周年を記念して開かれた日本赤十字社関東及び山梨・静岡の支部連合社員大会に臨み、日頃から赤十字の事業に熱心に尽力されている皆さんに、親しく接することができましたことを、まことにうれしく思います。

今年、赤十字規約が制定されてから百年になりますが、この地方の赤十字事業も、皆さんの熱心な尽力によりその活動がいよいよ力強く続けられていることを聞き喜びに耐えませぬ。

赤十字の重要な使命を果たすためには、各地方の人々の一層の深い理解と支援とを得て、更に社の基礎を固め、事業を伸ばしてゆかなければならないと思います。

この際、関係者の一段の工夫と努力とを希望します。

大会代表の奉答をお受けになる。閉式後、歌舞伎「寺子屋」「保名」「白拍子花の宴」「大原女奴」を御鑑賞になり、四時五十三分還啓

される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

十二日 土曜日 午後、義宮御殿にお出ましになり、黄心樹歌会の神無月十八番歌合に御臨席になる。

夕刻より天皇も御臨席になる。会終了後、参会者一同との直会に臨まれ、出席者のコーラスなどをお聴きになる。皇后は余興として謡曲「紅葉狩」を唱われる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内

舎人日誌

十三日 日曜日 還暦祝賀のための菊栄親睦会の会合に御臨席のため、午前十時三十五分御出門、天

皇と共に綱町三井倶楽部に行啓される。一階ホールにお出ましになり、会員代表梨本伊都子の祝辞言上をお受けになり、皇后よりお言葉を賜う。続いて宝生九郎^{十七世}ほか三名による仕舞「西王母」、大蔵弥太郎^{二十世}ほか三名による狂言「蝸牛」を御覧になり、鷹司平通及び平井康三郎指揮の響友会合唱団による合唱七曲をお聴きの後、ベランダにおいて記念撮影をお受けになる。ついで一階食堂及びバルコニーに設けられた模擬店において御会食になる。午後二時四十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

十四日 月曜日 午前、拝謁の間において、今般スペイン国へ赴任の特命全権大使関守三郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮内庁庁報

午前十時三十分御出門、光輪閣へ行啓される。小菊会会員と御昼餐を御会食になり、終わってハンガーを御製作になる。午後三時十二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に東の間において、ダホメ国大統領ユベール・マガ及び同夫人と御会見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十五日 火曜日 午後、天皇と共に東の間において、第二回日米知事会議に出席のため来日した、米国知事会会長カンサス州知事ジョン・アンダーソン・ジュニア及び同夫人、ワシントン州知事アルバート・D・ロゼリーニ及び同夫人、デラウェア州知事エルバート・N・カーベル、フロリダ州知事ファリス・ブライアント及び同夫人、アイダホ州知事ロバート・E・スマイリー及び同夫人、ミズーリ州知事ジョン・M・ドールトン及び同夫人、テネシー州知事フランク・G・クレメント及び同夫人、

昭和二十八年十月

ユタ州知事ジョージ・D・クライド及び同夫人、ウイスコンシン州知事ジョン・W・レイノルズ、米
国知事会事務局長ブレヴァード・クリフィールド及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍
従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

御夕餐後、天皇と共に吹上御所において、池田厚子へのお見舞いを終えてこの日岡山県から帰京した
正仁親王と御対面になり、厚子の様子をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人
日誌

十七日 木曜日 午前、神嘗祭につき、吹上御所より神宮を御遙拝になる。ついで賢所において御拝
礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

十八日 金曜日 学習院創立八十五周年私学十五周年記念式に御臨席のため、午前九時三十分御出門、
天皇と共に目白の学習院に行啓される。御着後、式典に臨まれる。ついで図書館内の院史展会場にお
いて、学習院の歴史についての写真や文書等の資料を御巡覧になる。十一時十八分還啓される。○女官
長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、学習院大学五十年史

午後、天皇と共に内廷庁舎御車寄前において、大蔵大臣及び日本銀行総裁から表彰され、更に文部大
臣の表彰を加授された優良「こども銀行」受賞行代表者等に御会釈を賜う。大蔵事務次官石野信一の
挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

参与加藤武男昨十七日死去につき、天皇・皇后の賜物使として侍従徳川義寛を加藤邸に差し遣わされ、
祭糝料及び生花を賜う。また別に天皇・皇后より御紋付銀花瓶並びに菓子を賜う。なお、これより先、
加藤の病気に際し、天皇・皇后より果物を賜う。○侍従職日誌、恩賜録、贈賜録、賜与録、宮内庁庁報

十九日 土曜日 午前、天皇と共に内廷庁舎御車寄前において、靖国神社靈璽奉安祭に参列の各都道府県代表沖繩を含むの遺族等に御会釈を賜う。靖国神社禰宜坂本定夫の挨拶をお受けになり、天皇に続きお

言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

二十日 日曜日 皇太子妃の誕生日につき、午前、天皇と共に拝謁の間において、同妃と御対面になる。ついで宮内庁長官始め総代の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報

二十一日 月曜日 午後、楽部における秋季洋楽演奏会に御臨席になる。終わって御休所にて演奏者四名に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十二日 火曜日 午後、天皇と共に赤坂御苑において、園遊会を催される。午後二時三十分天皇と共に御出門、赤坂御苑に行啓される。御退場後、東宮御所にお立ち寄りになり、四時八分還啓される。以後、園遊会は、昭和四十四年の秋を除き、赤坂御苑での開催が恒例となる。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、園遊会録、謁見録、典式録、宮内庁庁報、官報

二十四日 木曜日 山口県において開催される第十八回国民体育大会秋季大会に御臨場、併せて地方事情を御視察等のため、天皇と共に同県及び兵庫県・岡山県に行啓される。午前八時三十五分御出門、原宿駅より神戸駅を経て、午後五時二十五分神戸市の御泊所オリエンタルホテルに御到着になる。御夕餐後、五階映写室において兵庫県知事金井元彦の説明により、県勢に関する映画「立杭」「海きらめく」を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、山口県下行

幸啓書類、宮内庁庁報、官報

昭和二十八年十月

ポルトガル国特命全権大使エドワード・アルベルト・バセラル・マツシヤード一昨二十二日死去につき、この日、天皇・皇后の弔問使として侍従永積寅彦を同国大使公邸に差し遣わされる。二十五日には聖イグナチオ教会において葬儀執行につき、皇后の御名代として崇仁親王妃百合子を差し遣わされる。また天皇・皇后より花環をお供えになる。○侍従職日誌、外交慶弔録、外交贈答録、賜与録、典式録、官報

二十五日 金曜日 午前九時三十分御泊所オリエンタルホテルを天皇と共に御出發、神戸駅より岡山駅に御着車、同駅において池田隆政・同宣政ほかのお出迎えをお受けになり、十一時五十五分岡山市の御泊所延養亭に御到着になる。御昼食後、御泊所を御發、岡山大学医学部附属病院に向かわれる。

御着後、主治医の岡山大学教授平木潔より厚子の病状経過をお聞きになる。その後病室において池田厚子を見舞われる。午後三時四十五分御泊所にお戻りになる。御少憩後、同所において池田隆政よりお札の言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、山口県下行幸啓書類、宮内庁

序報、官報、岡山大学医学部百年史

二十六日 土曜日 御朝餐後、後楽園にお出ましになり、天皇と共に園内に展示された菊花を御覧になる。その際、皇后は庭園において鶴を写生される。午前十時十五分御泊所延養亭を天皇と共に御出發になり、岡山大学医学部附属病院において池田厚子を見舞われる。この度のお見舞いにつき、次の御歌がある。

いまひといき心づよくとさとしつつ針のあと多き腕さすりやる

ひとときは涙にぬれしあこの顔やがて笑顔にかはりゆくかな

また、この度の行啓に際し、お手描きの「はげ」と「すすき」の御絵を厚子に賜う。十一時四十五分

岡山駅を御出発、山口県に向かわれる。小郡駅を経て、午後五時五十五分山口市の御泊所山水園に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、山口県下行幸啓書類、宮内庁庁報、官報

この日、常磐会にて恒例のバザー開催につき、切り花を下賜される。○贈賜録

二十七日 日曜日 午後零時二十四分御泊所山水園を天皇と共に御出発、第十八回国民体育大会秋季大会開会式場の山口県陸上競技場に御到着になり、開会式に臨まれる。三時四十五分御泊所山水園にお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、山口県下行幸啓書類、宮内庁庁報、官報

二十八日 月曜日 午前九時御泊所山水園を天皇と共に御出発、山口県庁にお立ち寄りの後、秋吉台に向かわれ、国民宿舍若竹荘に御到着になる。二階展望所に進まれ、公開競技の国体山岳競技を御覧になる。御少憩後、秋芳洞に移られ、洞内を御巡覧になる。一旦若竹荘に戻られ、御昼食の後、萩市民球場に向かわれる。同所において国体ソフトボール競技を御覧になる。それより同市越ヶ浜の笠山に移動され、御展望所より見島ほかの島々等を御展望になる。明神池に立ち寄られた後、午後四時五十分御泊所常茂恵旅館に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、山口県下行幸啓書類、宮内庁庁報、官報、秋芳町役場所蔵資料

二十九日 火曜日 午前十時、御泊所常茂恵旅館を天皇と共に御出発、長門市宮相撲場において国体相撲競技の青年団体予選を御覧になる。それより長門市駅より下関駅を経て、下関市の林兼産業株式会社下関食品工場を、ついで下関漁港を御視察になる。次に下関市宮庭球場に向かわれる。同所において国体軟式庭球の高校生男女の決勝戦を御覧になる。ついで県立光林園^{視覚障害児施設}を御訪問になり、生徒による器楽演奏をお聴きになる。この御視察につき、次の御歌がある。

昭和二十八年十月

めしひたる子らのかなづる楽の音に心うたれてしばしきいる

午後五時十六分御泊所春帆楼に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、山口県下行幸啓書類、宮内庁庁報、官報、山口県庁所蔵資料

三十日 水曜日 午前八時五十五分御泊所春帆楼を天皇と共に御出発、下関駅より徳山駅を経て、徳山市体育館に御到着になる。同所において国体柔道競技一般の部を御覧になる。次に下松市民体育館に移動され、国体ハンドボール競技を御覧になる。ついで下松市役所において御昼食の後、田布施中学校に向かわれる。御着後、同校体育館において高校生の国体レスリング競技を御覧になる。終わって午後五時五十分山口市の御泊所山水園に御到着になる。天皇と共に同所において、毛利元道旧長州藩主毛利家当主及び同夫人誠子の拝謁を、続いて古谷元佑・同夫人淳子貞明皇后の甥九条道秀の息女及び同家族の拝謁をお受けになり、

また国体に臨場のため来県の崇仁親王妃百合子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、山口県下行幸啓書類、宮内庁庁報、官報

この日午前、天皇・皇后より侍従入江相政を安徳天皇陵及び赤間神宮に差し遣わされ、御代拝を仰せ付けられる。○侍従日誌、内舎人供奉日誌、山口県下行幸啓書類、入江相政日記

三十一日 木曜日 午前九時五分御泊所山水園を天皇と共に御出発、南陽町の日新製鋼株式会社周南工場を、次に徳山市の出光興産株式会社徳山製油所を、それぞれ御視察になる。徳山製油所において御昼食の後、岩国市の麻里布中学校体育館に御到着になり、国体ボクシング競技一般の部準決勝を御覧になる。午後三時十五分岩国空港を御出発、東京国際空港を経て、五時三分還啓される。○女官長日

記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、山口県下行幸啓書類、宮内庁庁報、官報

十一月

一日 金曜日 午後、天皇と共に賢所通用門脇において、昭和三十八年度校長研究協議会に参会の国・公・私立学校長代表等に御会釈を賜う。文部省初等中等教育局長福田繁の挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

元侍従長百武三郎昨日三十日死去につき、天皇・皇后より侍従入江相政を百武邸に差し遣わされ、祭料を賜う。これとは別に、天皇・皇后より菓子及び野菜を、皇后より切り花を賜う。これより先、百武の病気に際し、天皇・皇后より果物を賜う。○女官長日記、侍従日誌、侍従職日誌、恩賜録、贈賜録、賜与録、宮内庁庁報

翌昭和三十九年十月に第十八回オリンピック東京大会を開催するに当たり、その資として天皇・皇后より財団法人東京オリムピック資金財団に金一封を賜う。○賜与録

三日 日曜日 午後、天皇と共に内廷庁舎御車寄前において、全日本健康優良学校児童表彰会朝日新聞社主催、文部省・厚生省後援で特選児童に選ばれた健康優良児童及び全日本健康優良学校の表彰校代表等に御会釈を賜う。

同会長村山長挙朝日新聞社社長の挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

四日 月曜日 午前、天皇と共に内廷庁舎御車寄前において、第七回日本学生科学賞全日本科学教育振興委員会主催、読売新聞社後援を受賞した中学生・高校生等に御会釈を賜う。読売新聞社副社長高橋雄豹の挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

昭和二十八年十一月

来る六日ドイツ連邦共和国大統領ハインリッヒ・リュプケ及び同夫人が国賓として来日するに先立ち、天皇と共に拝謁の間において、同国駐劔特命全權大使成田勝四郎より同国についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、宮内庁庁報

赤十字国際協力活動資金造成のための赤十字百周年記念イタリア歌劇団特別演奏会日本赤十字社主催に御臨席の

ため、午後六時十四分御出門、東京文化会館に行啓される。二階のお席にお着きになり、皇太子・同妃、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王妃百合子と共に、第一部のロッシーニ作曲歌劇「アルジェのイタリア女」序曲ほか七曲をお聴きになる。それより四階拝謁室に移動され、日本赤十字社社長島津忠承、同副社長田辺繁雄、イタリア国特命全權大使マウリリオ・コッピニ及び同夫人の拝謁をお受けになる。さらに隣室にて日本放送協会会長阿部真之助、同副会長前田義親並びに出演歌手等に御会釈を賜う。その後、二階のお席に戻られ、第二部の歌曲八曲、ならびにアンコールの六曲をお聴きになる。終わって九時三十二分還啓される。なお、この度の行啓に当たり、日本赤十字社に金一封を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

五日 火曜日 午後、天皇と共に内廷庁舎御車寄前において、藍綬褒章又は黄綬褒章を授与された教育事業関係功労者等に御会釈を賜う。藍綬褒章受章者の学校法人北星学園理事長有馬英二より挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

六日 水曜日 午前、天皇と共に表御座所において、参与冲中重雄より池田厚子の容体についての説明をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

国賓として来日するドイツ連邦共和国大統領ハインリッヒ・リュプケ及び同夫人ヴィルヘルミーネをお

出迎のため、午後零時五十一分御出門、天皇と共に東京国際空港に行啓される。空港行事に臨まれた後、大統領夫人と御同乗になり、二時二十五分皇居に御到着になる。続いて同三十分、天皇と共に謁見の間において大統領夫妻と御会見になる。その際、相互儀礼叙勲があり、皇后には大統領より功績大十字特別章が贈られる。また、大統領より天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后には陶製飾りニンフエンブルグ製が贈られる。

午後七時三十分、ドイツ連邦共和国大統領夫妻をお招きになり、天皇と共に北の間において宮中晩餐を催される。引き続き九時二十分より宮中夜会を催される。この度の来訪に際し、天皇・皇后より大統領に紫紺地菊文七宝花瓶、同夫人に蝶鳥文蒔絵広蓋輪島塗、周縁牡丹唐草及び青海波に紅葉文裂地紅葉山御養蚕所製品を御贈

進になる。なお十八日の離日に際し、皇后より大統領夫人に花束を贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、幸啓録、重要雑録、宮殿行事録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報、官報、外交記録

八日 金曜日 午後、天皇と共に内廷庁舎御車寄前において、文部大臣から表彰された教育事業功勞者等に御会釈を賜う。愛知県立旭丘高等学校校長栗山卓士の挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

ドイツ連邦共和国大統領ハインリッヒ・リュプケ及び同夫人主催の晩餐に御出席のため、午後七時十五分御出門、天皇と共に同国大使公邸に行啓される。十時五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、外賓参内録、重要雑録、宮内庁庁報、官報、外交記録

九日 土曜日 ドイツ連邦共和国大統領ハインリッヒ・リュプケ及び同夫人主催のベルリン・ドイ

ツ・オペラ特別公演及びレセプションに御出席のため、午後六時二十一分御出門、天皇と共に日生劇場に行啓される。ベートーヴェン作曲歌劇「フィデリオ」全二幕を御覧になり、終わって十時十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、外賓参内録、宮内庁庁報、官報、外交記録

十一日 月曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、朴賛珠^{故李錫公妃}の拝謁をお受けになる。天皇・皇

后より同人に七宝花瓶を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

従来、宮内庁において、褒章受章者その他の皇居特別参観者に対し天皇又は皇后が特に謁を賜うことを「御会釈」と称してきたが、勤労奉仕団体、及び母の日大会の参会者を除き、今後は「賜謁」と称することなどの改定が行われ、この日より実施される。○例規録

十二日 火曜日 夕刻、島津貴子参殿につき、御一緒に内廷庁舎にお出ましになり、皇后陛下御進講室において三宅喜久子及び門下生によるこぎん刺しの作品を御覧になる。翌日もお一方で御覧になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

元参与勝沼精蔵去る十日死去につき、天皇・皇后より祭葬料及び生花を賜う。これとは別に天皇・皇后より菓子を賜う。なお、同人の病気に際しては、天皇・皇后よりお見舞いとして果物を賜う。○侍従職日誌、恩賜録、贈賜録、賜与録、宮内庁庁報

十四日 木曜日 午後、藍綬褒章又は黄綬褒章を授与された厚生省関係功労者等の謁があり、天皇と共に北の間にお出ましになる。厚生大臣小林武治の挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

楽部にお出ましになり、宮内庁職員総合美術展を御覧になる。二曲屏風「とうもろこし」のほか、御

額絵「うなぎ」「うめばち草」、御書「雪月花」を御出品になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、香淳皇后のご生涯と作品

十五日 金曜日 インド古代美術展東京国立博物館・日本経済新聞社共催を御覧になるため、午前九時十六分御出門、天皇と

共に東京国立博物館に行啓される。各展示室を廻られ、インドの歴史的美術品を御巡覧になる。十一時八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、東京国立博物館百年史

十六日 土曜日 去る九日の東海道本線鶴見・横浜間の列車事故において多数の犠牲者発生につき、この日天皇・皇后より運輸省に御救恤金を賜う。また、同じく九日の三井鉱山株式会社三池炭鉱三川坑爆発事故においても多数の犠牲者発生につき、この日天皇・皇后より通商産業省に御救恤金を賜う。

○賜与録

十九日 火曜日 来る二十二日李方子及び同子息玖が大韓民国へ帰国につき、夕刻、天皇と共に吹上御所において、兩名の暇乞いをお受けになる。ついで天皇及び皇太子・同妃・正仁親王・李方子・李玖と御夕餐を御会食になる。なお、李垠は入院中につき、参殿を取りやめる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

二十日 水曜日 天皇と共に表一の間において、この度離任のタイ国特命全権大使チツチャノック・クリダコーン及び同夫人、サウジアラビア国特命全権大使シェイク・アハメッド・アブドル・ジャツパール、ブラジル国特命全権大使デシオ・オノラート・デ・モーラのため、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十二日 金曜日 李垠・同夫人方子・同子息玖がこの日午後大韓民国へ帰国につき、天皇・皇后の御使として侍従入江相政を非公式に東京国際空港に差し遣わされ、方子と玖への口上を伝達させられる。○侍従日誌、侍従職日誌、入江相政日記

二十四日 日曜日 米国大統領ジョン・F・ケネディ一昨日死去につき、この日天皇・皇后より弔問使として侍従長三谷隆信を米国大使館に差し遣わされる。ついで二十六日、千代田区の聖イグナチオ教会において故ケネディ大統領の弔祭式執行につき、皇后の御名代として皇太子妃を差し遣わされる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、幸啓録、外交慶弔録、賜与録、宮内庁庁報、官報

二十五日 月曜日 午前、この度ベルギー国へ赴任の特命全権大使湯川盛夫及び同夫人、レバノン国へ赴任の特命全権大使黒田音四郎及び同夫人、ベトナム共和国へ赴任の特命全権大使高橋覚及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮内庁庁報

吹上御所において、参殿の山川正子厚子内親王付の元皇子傳育官の拝謁をお受けになる。山川より、過日岡山へ赴き、

池田厚子を見舞った時の様子をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

二十七日 水曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、来日中の国際ロータリー会長カール・P・ミラー及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十八日 木曜日 正仁親王の誕生日につき、午前、天皇と共に拝謁の間において、宮内庁長官始め総代、女官長始め女官等の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十九日 金曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、埼玉大学教授加藤光次郎よりベネズエラ国

の動植物等について、スライドを使用した進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録

三十日 土曜日 午後、吹上御所に寺原トクをお召しになり、造花の進講をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

十二月

二日 月曜日 午後、楽部にお出ましになり、糸竹会の旧会員・新会員の合奏をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

三日 火曜日 午前、拝謁の間において、御機嫌奉伺のため参内した京都在住の堂上会総代梅園篤彦の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

午後、吹上御所に田中親美^{古筆家・画家}及びその女孀をお召しになり、金銀砂子及び箔についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

四日 水曜日 来る昭和三十九年一月四日の雍仁親王命日の祭式を前に、式年祭以外の年は、前年の十二月四日に例祭を行われることとされ、この日雍仁親王例祭が行われる。よって御代拝のため天皇・皇后より女官小川梅子を豊島岡墓地の墓所に差し遣わされる。また天皇・皇后より秩父宮邸^{表町御殿}の霊舎及び豊島岡墓地の墓所へ菓子と果物を、写真に切り花と菓子をそれぞれお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、典式録

五日 木曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、故雍仁親王妃勢津子と御対面になり、昨日の女

昭和二十八年十二月

官御差遣へのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

六日 金曜日 文化勲章受章者佐佐木信綱日本学士院会員、日本芸術院会員 去る二日死去につき、天皇・皇后より菓子及び

切り花を賜う。○贈賜録、賜与録

十一日 水曜日 午後、天皇と共に謁見の間において、来日中の米国ハワイ州知事ジョン・A・バー

ンズ及び同夫人、同州上院議長ネルソン・K・土井を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

吹上御所において、天皇及び皇太子・同妃と御夕餐を御会食になる。御食後、皇太子が持参した皇后

還曆お祝いの記録映画を御一緒に御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十三日 金曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、昨日来日のデンマーク国王嗣マルグレーテ王

女と御会見になる。その後、西の間における宮中午餐に臨まれる。この度の来日に際し、天皇・皇后

にデンマーク国王・王妃より銀製盆の御贈進が、王嗣より陶器製鉢等の御贈進がある。また天皇・皇

后より王嗣に清水焼の陶額清香、及び撫子模様裂地紅葉山御養蚕所製品を御贈進になる。入京の際には皇后より王嗣

に花束をお贈りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、重要雑録、外交贈答

録、賜与録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十四日 土曜日 午後、吹上御所に寺原トクをお召しになり、造花の指導をお受けになる。○女官長日

記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十六日 月曜日 賢所御神楽につき、女官原田リツに御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、

侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

この日より五日間にわたり、都下の社会事業団体等の協力を得て歳末無料健康相談を実施する東京都に金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

十七日 火曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、元ベルギー国駐節特命全権大使下田武三より、ベルギー国の王室事情を中心とする進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、宮内庁庁報

十八日 水曜日 天皇と共に表一の間において、菊栄親睦会会員をお招きになり、午餐の御陪食を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、菊栄親睦会録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十九日 木曜日 午後、吹上御所において、東園佐和子^{成久王第二王女}及び長女岩瀬陽子の拝謁をお受けになり、この度の陽子結婚につき賜品・賜金のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

午後五時御出門になり、天皇と共に渋谷区常磐松町の義宮御殿に行啓される。天皇及び皇太子・同妃、正仁親王、故雍仁親王妃勢津子、崇仁親王・同妃百合子、東久邇盛厚、鷹司平通・同夫人和子、島津久永・同夫人貴子と御夕餐を御会食になり、九時九分還啓される。なお、正仁親王が昨月二十日、皇居内の義宮御殿から常盤松御用邸内の御殿に移転したことに伴い、同日以降、同御殿は義宮御殿と称される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、例規録、宮内庁庁報、官報、東京都庁所蔵資料
事業御奨励のため、天皇・皇后より日本赤十字社に金一封を賜う。また、皇后より財団法人結核予防会の事業御奨励のため、金一封を賜う。このほか、歌道御奨励の思召しにより、向陽会に金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

二十日 金曜日 天皇と共に表一の間において、新任のセイロン国特命全権大使モハマッド・モハムード・マハローフ及び同夫人、トルコ国特命全権大使メリフ・エセンベル及び同夫人、イスラエル国特命全権大使モルデハイ・シュネエルソン及び同夫人のため、午餐を催される。○女官長日記、女官日記、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

歳末につき、日本赤十字病院救助収容患者及び恩賜財団済生会病院救助収容患者合計八千七百三十七名に対し、手拭い一筋ずつを下賜される。○贈賜録、賜与録、日本赤十字社社史稿

二十一日 土曜日 午前、吹上御所に山口玉糸をお召しになり、絵画の指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十三日 月曜日 皇太子の誕生日につき、午前、天皇と共に拝謁の間において、皇太子と御対面になる。ついで天皇と共に、宮内庁長官始め総代、続いて女官長始め女官、元女官等の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

午後、天皇と共に謁見の間において、元米国極東軍及び国連軍総司令官マシュー・バンカー・リッジウェイ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

夕刻、天皇と共に吹上御所において、曝涼中の皇后の御作品^{御絵・御書}を拝見するため参殿の故雍仁親王妃勢津子と御対面になる。御作品の拝見に際しては、皇后が御自ら御説明になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十四日 火曜日 午前、この度イタリア国より帰国の特命全権大使門脇季光、ソビエト連邦より帰

国の特命全権大使山田久就及び同夫人、アフガニスタン国より帰国の特命全権大使広瀬節男、ベネズエラ国より帰国の特命全権大使徳永太郎及び同夫人、またソビエト連邦へ赴任の特命全権大使下田武三及び同夫人、マレーシア国へ赴任の特命全権大使甲斐文比古及び同夫人の拝謁をお受けになる。○

女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮内庁庁報

二十五日 水曜日 大正天皇祭皇霊殿の儀につき、女官長保科武子に御代拝を仰せ付けられる。夕刻、

同御神楽の儀につき、同女官長に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、

恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

二十六日 木曜日 午後、吹上御所において、この日誕生日を迎えた宣仁親王妃喜久子と御対面になり、お礼言上をお受けになる。なお、同妃は、御所内に展示された皇后の御作品^{御絵・御書等}を拝見する。○

女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

二十七日 金曜日 午後、天皇と共に宮内庁庁舎一階控室において、宮内庁長官宇佐美毅・臨時皇居造営部長高尾亮一ほかの説明により、新宮殿の百分の一の模型を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮殿造営記録、稲田周一関係資料

二十九日 日曜日 歳末につき、午前、天皇と共に拝謁の間において、故雍仁親王妃勢津子及び元皇族・御親族より祝詞言上をお受けになる。引き続き宮内庁長官始め総代、女官長始め女官等による祝詞言上をお受けになる。それより故雍仁親王妃・梨本伊都子・東久邇聡子・伏見朝子・北白川祥子が吹上御所に参殿し、曝涼中の皇后の御作品^{御絵・御書等}を拝見する。その後、北白川房子参殿につき、天皇と共に御対面になり、歳末の祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日

昭和三十八年十二月

誌、典式録

三十日 月曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、葉山御用邸から還啓の皇太子・同妃・徳仁親王と御対面になり、歳末の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁序報